

世論調査結果報告書  
令和元年9月調査

# 食生活と食育に関する世論調査

令和2年1月

 東京都生活文化局

## ま え が き

健全な食生活を実践することができる人間を育てる「食育」の必要性の増加を背景に、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、豊かで活力のある社会の実現に寄与することを目的として、食育基本法（平成17年6月）が成立しました。

東京都においても「東京都食育推進計画」（平成18年9月）を策定し、東京の食をめぐる課題に対処すべく、生涯にわたり健全な食生活を実践するための食育の推進や、食育体験と地産地消の拡大に向けた環境整備、食育の推進に必要な人材育成と情報発信などの施策を行ってきました。現在の計画（平成23年・28年一部改正）では、令和2年度（2020年度）までに、食育の認知度、地元や東京産の食材を購入したい人の割合を、ともに80%にする等の目標を掲げています。

また、近年、まだ食べることのできる食品が日常的に廃棄され、大量の食品ロスが発生していることが大きな問題となっています。これを踏まえて、食品ロス削減推進法が施行（令和元年10月1日）され、東京都においても、食品ロスの削減に向けて様々な取組を実施しています。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催を契機として、国や都では、持続可能性に注目した事業を多数展開します。特に、農業分野においては、大会の食材調達基準を満たすGAP（農業生産の工程管理）に取り組む農業経営者の普及拡大を行っています。

こうした状況を踏まえ、食生活及び食育に関する都民の意識、学校・地域の取組や行政への意見・要望を把握し、今後の食育推進施策の参考とするため、本調査を実施しました。

この調査結果が、行政関係者のみならず、学校、地域などの関係者の方々、また、広く都民の方々の健全な食生活のお役に立てれば幸いです。

最後に、この世論調査にご協力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

令和2年1月

東京都生活文化局広報広聴部



## 目 次

※印は過去の調査との比較がある質問項目

調査実施の概要	①～④
調査結果の詳細	1
1 食生活と食育（家庭を中心に）	3
※1-1 朝食の摂取状況	3
※1-2 朝食の内容	7
※1-3 朝食を食べない理由	11
※1-4 家族人数	14
※1-5 家族との食事の頻度	16
※1-6 夕食時に家族で同じものを食べているか	23
※1-7 夕食時の会話の状況	27
※1-8 家族と一緒に食事が楽しいか	31
※1-9 家族での外食の利用頻度	35
※1-10 調理の頻度	39
※1-11 調理済み食品の利用頻度	43
※1-12 調理済み食品を利用する理由	47
※1-13 栄養成分表示の活用	50
※1-14 食品を選ぶときに重視すること	55
※1-15 地元や東京の産物の購入意向	60
1-16 東京産の食材の優先的な購入有無	64
1-17 東京産の食材を購入していない理由	67
※1-18 栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度	69
※1-19 食事のとり方で気をつけていること	73
※1-20 「食事バランスガイド」をみた経験	78
※1-21 「食事バランスガイド」の活用	82
※1-22 食事のマナー	86
※1-23 季節ごとの行事食の摂取	90
※1-24 食生活の満足度	94
※1-25 不満の理由	99
※1-26 食生活の改善意欲	102
※1-27 健全で豊かな食生活のための取組意向	106
1-28 食品ロス削減につながる行動	110
1-29 「GAP」の認知度	114
1-30 GAPを普及していくために重要と思うこと	118
※1-31 「食育」の認知度	121
※1-32 食育活動への参加経験	125
2 学校、地域での食育	131
※2-1 保育園・幼稚園・小学校及び地域に望む取組	131
2-2 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組	135
※2-3 外食産業に望むこと	142
3 行政への要望	146
※3-1 都や区市町村が重点的に推進すべき取組	146
集計表（調査結果の一覧表）	151
調査票及び単純集計結果	193



# 調査実施の概要

## 1 調査目的

東京都食育推進計画に掲げた目標の達成度を確認するとともに、食生活と食育をめぐる都民の意識、食育に関する学校・地域の取組や行政への意見・要望を把握し、今後の東京都における食育推進施策の参考とする。

## 2 調査項目

- (1) 食生活と食育（家庭を中心に）
- (2) 学校、地域での食育
- (3) 行政への要望

## 3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数：3,000標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- (5) 調査期間：令和元年9月6日～9月22日
- (6) 調査実施機関：株式会社 エスピー研

## 4 回収結果

- (1) 有効回収標本数（率） 1,812標本（60.4%）
- (2) 未完了標本数（率） 1,188標本（39.6%）

未完了標本内訳

	転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否	その他
1,188標本	121	57	622	22	349	17
比率(%)	10.2	4.8	52.4	1.9	29.4	1.4

### (3) 性・年齢別回収結果

	男性			女性			合計		
	標本数	回収数	回収率(%)	標本数	回収数	回収率(%)	標本数	回収数	回収率(%)
18・19歳	37	11	29.7	30	11	36.7	67	22	32.8
20代	192	72	37.5	185	76	41.1	377	148	39.3
30代	294	135	45.9	251	143	57.0	545	278	51.0
40代	317	172	54.3	308	209	67.9	625	381	61.0
50代	256	150	58.6	226	164	72.6	482	314	65.1
60代	220	159	72.3	199	156	78.4	419	315	75.2
70歳以上	217	164	75.6	268	190	70.9	485	354	73.0
合計	1,533	863	56.3	1,467	949	64.7	3,000	1,812	60.4

(注) 平成28年度より、選挙年齢の引下げに伴い、18・19歳を調査対象者に加えた。

5 標本構成 (n=1,812)

〔 上段：実数  
下段：(%) 〕

(1) 性別

男	女	計
863	949	1,812
47.6	52.4	100.0

(2) 年齢

	18・19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
男	11	72	135	172	150	159	164	863
	0.6	4.0	7.5	9.5	8.3	8.8	9.1	47.6
女	11	76	143	209	164	156	190	949
	0.6	4.2	7.9	11.5	9.1	8.6	10.5	52.4
計	22	148	278	381	314	315	354	1,812
	1.2	8.2	15.3	21.0	17.3	17.4	19.5	100.0

(3) 職業 ※ 年齢別職業分布はP③参照

自営・家族従業 (計)	勤め(計)						無職			無回答	計	
	経営・管理職	専門・技術職	事務職	労務・技能職	販売・サービス職	無回答	無職の主婦・主夫	学生	その他の無職			
222	974	70	90	502	135	144	33	406	49	137	24	1,812
12.3	53.8	3.9	5.0	27.7	7.5	7.9	1.8	22.4	2.7	7.6	1.3	100.0

(4) 住居形態

一戸建て	集合住宅	その他	計
924	888	-	1,812
51.0	49.0	-	100.0

(5) 未・既婚

未婚 (計)	既婚 (計)		無回答	計					
	男	女							
390	219	171	1,408	576	628	59	145	14	1,812
21.5	12.1	9.4	77.7	31.8	34.7	3.3	8.0	0.8	100.0

(6) 共働き状況 (既婚・有配偶のみ n=1,204)

共働きである(計)			共働きでない(計)			無回答	計
男	女	計	男	女	計		
637	294	343	553	275	278	14	1,204
52.9	24.4	28.5	45.9	22.8	23.1	1.2	100.0

(7) 子供の数

いない	いる						無回答	計
		1人	2人	3人	4人	5人以上		
594	1,171	341	618	179	25	8	47	1,812
32.8	64.6	18.8	34.1	9.9	1.4	0.4	2.6	100.0

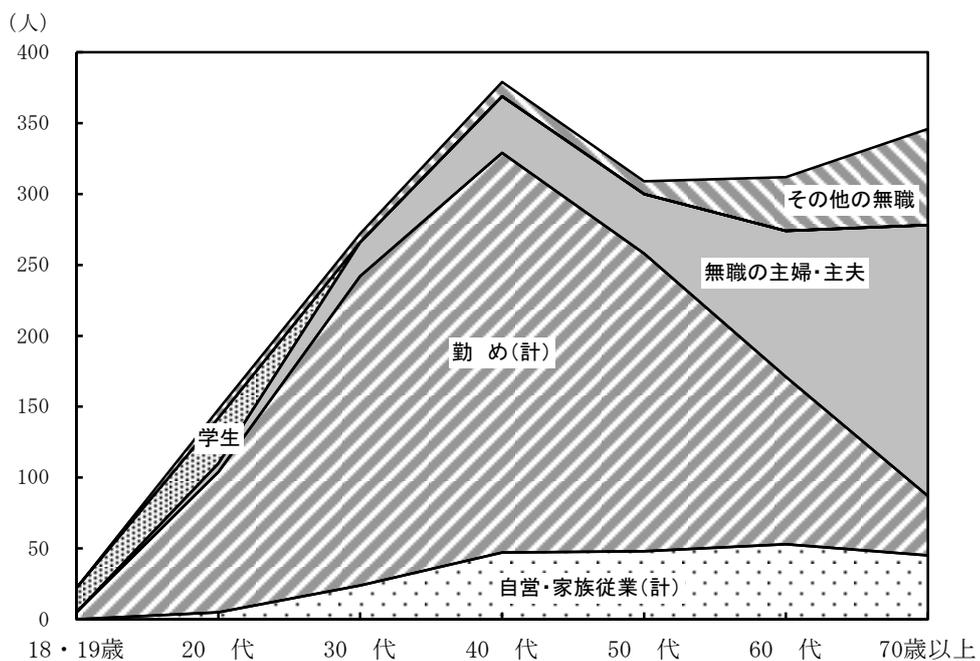
(8) 地域居住年数

1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30年以上	わからない	計
61	134	112	271	215	157	255	586	21	1,812
3.4	7.4	6.2	15.0	11.9	8.7	14.1	32.3	1.2	100.0

(9) 居住エリア ※各エリアの範囲はP④参照

区部(計)	区部			市町村部(計)	多摩				計
	センター・コア	区部東部・北部	区部西部・南部		多摩東部	多摩中央部北	多摩中央部南	多摩西部・島しょ	
1,162	310	337	515	650	225	103	272	50	1,812
64.1	17.1	18.6	28.4	35.9	12.4	5.7	15.0	2.8	100.0

※ 年齢別職業分布



	18・19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
自営・家族従業(計)	-	5	24	47	48	53	45	222
勤め(計)	5	99	218	282	210	118	42	974
無職の主婦・主夫	-	6	24	40	42	103	191	406
学生	17	32	-	-	-	-	-	49
その他の無職	-	6	6	10	9	38	68	137
計	22	148	272	379	309	312	346	1,788

(注) 無回答を除く

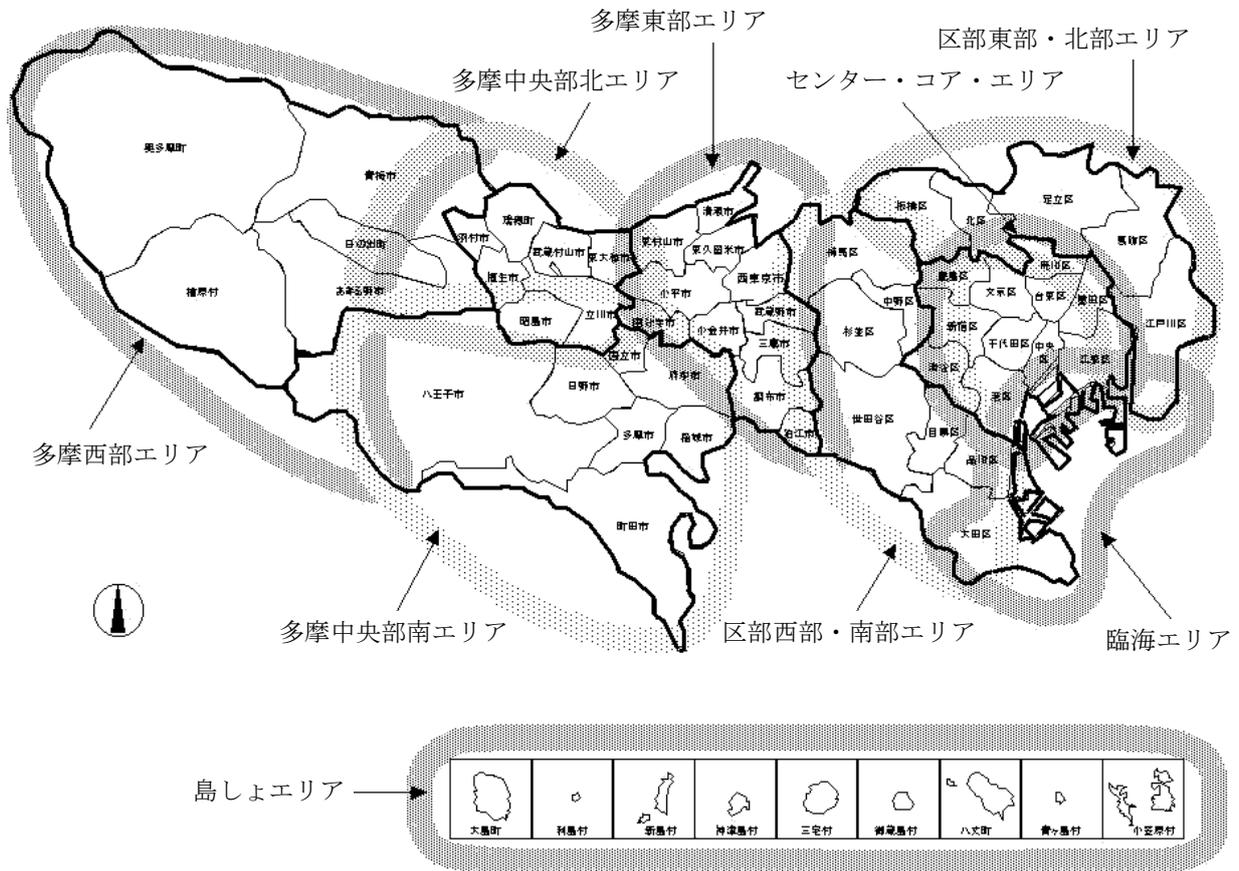
※ 層（エリア）

〔区 部〕

- センター・コア・エリア ----- 千代田・中央・港・新宿・文京・台東・墨田・江東・渋谷・豊島・荒川区
- 区部東部・北部エリア ----- 北・板橋・足立・葛飾・江戸川区
- 区部西部・南部エリア ----- 品川・目黒・大田・世田谷・中野・杉並・練馬区

〔市町村部〕

- 多摩東部エリア ----- 武蔵野・三鷹・調布・小金井・小平・東村山・国分寺・狛江・清瀬・東久留米・西東京市
- 多摩中央部北エリア ----- 立川・昭島・福生・東大和・武蔵村山・羽村市、瑞穂町
- 多摩中央部南エリア ----- 八王子・府中・町田・日野・国立・多摩・稲城市
- 多摩西部・島しょエリア ----- 青梅・あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩・大島町、利島・新島・神津島・三宅・御蔵島村、八丈町、青ヶ島・小笠原村



(注) 上記、世論調査における7つのエリアは、東京構想2000の9つのエリアを基に、従前の世論調査との継続性を考慮して、行政区域単位に便宜上、区分した。

# 調査結果の詳細

## 【報告書を読む際の注意】

### 注1) 用語・符号等

- n ——— Number of case の略  
質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- S Q ——— Sub-Question の略  
前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問
- M. A. ——— Multiple Answers の略  
回答者に2つ以上の回答を認める質問
- M. T. ——— Multiple Total の略  
M. A. の場合に、回答の合計を回答者数 (n) で割った比率で、通常100%を超える。
- 図中「0」 }  
表中「-」 } ——— 皆無の結果を示す。
- 図中「0.0」 }  
表中「0.0」 } ——— 0.05%未満の結果を示す。

注2) 結果数値 (%) ——— 数値は、各実数を基に比率表示し、小数第2位を四捨五入している。  
したがって、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。  
また、結果の説明においては、小数第1位を四捨五入している。

注3) 調査結果には、統計上多少誤差 (標本誤差) が生じることがある。なお、層化二段無作為抽出法による標本誤差は次の式で算出される。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(100-P)}{n}}$$

Nは母集団数 (人)、nは回答者数 (人)、Pは回答率 (%) を表す。

注4) 調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおりとなる。 (信頼度: 95%)

回答の比率 (P) 基礎 (n)	10%又は 90%	20%又は 80%	30%又は 70%	40%又は 60%	50%
1,812	±2.0%	±2.7%	±3.0%	±3.3%	±3.3%
1,500	±2.2%	±2.9%	±3.3%	±3.6%	±3.7%
1,000	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
500	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.3%
300	±4.9%	±6.5%	±7.5%	±8.0%	±8.2%
100	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

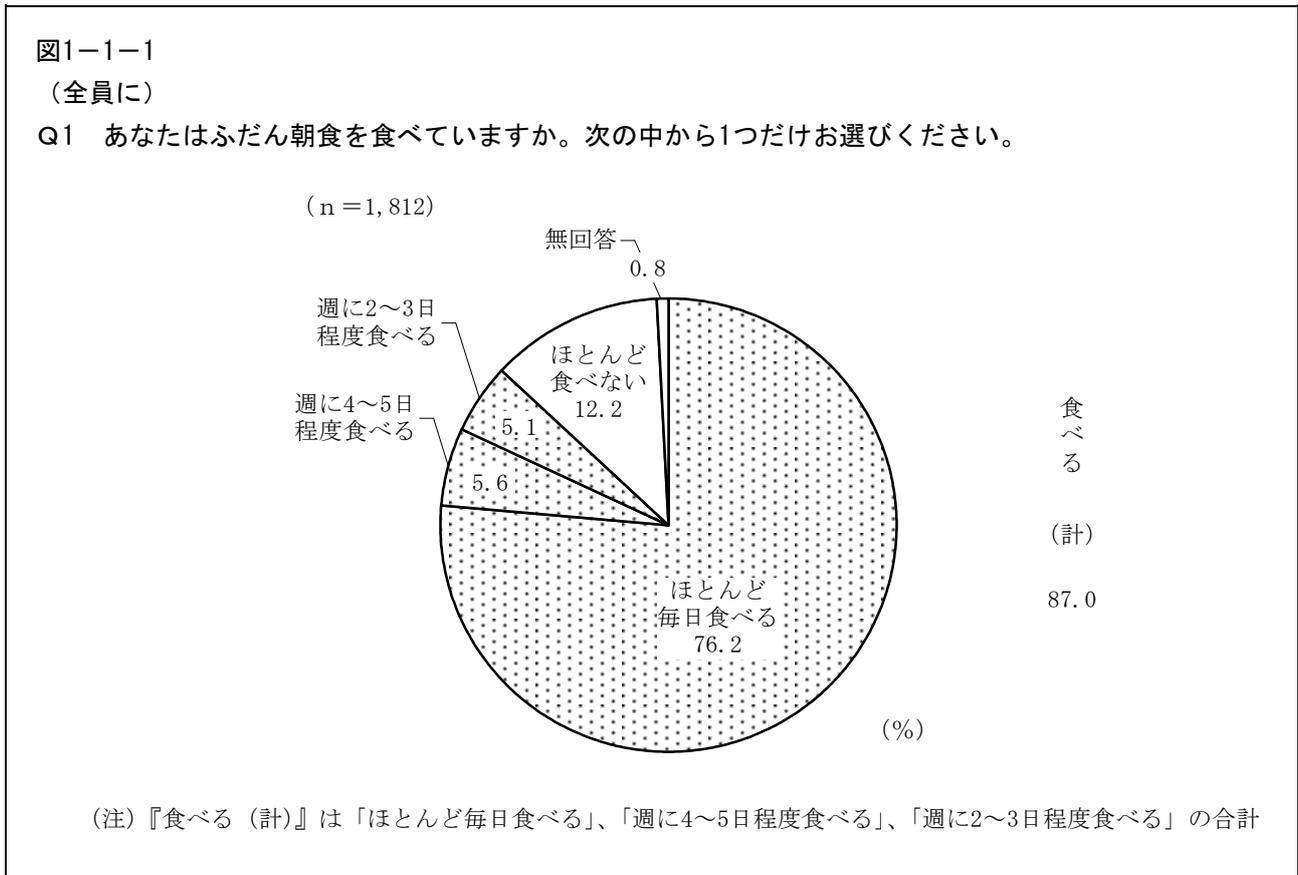
注5) 調査結果の分析においては、全体平均と比べ、統計的に有意差のあるものを中心にふれている。  
なお、誤差を考慮し、nが50未満のものについてはふれていない場合が多い。

注6) 一部の図表では、対比を明確にするために選択肢の順序を入れ替えている。



# 1 食生活と食育（家庭を中心に）

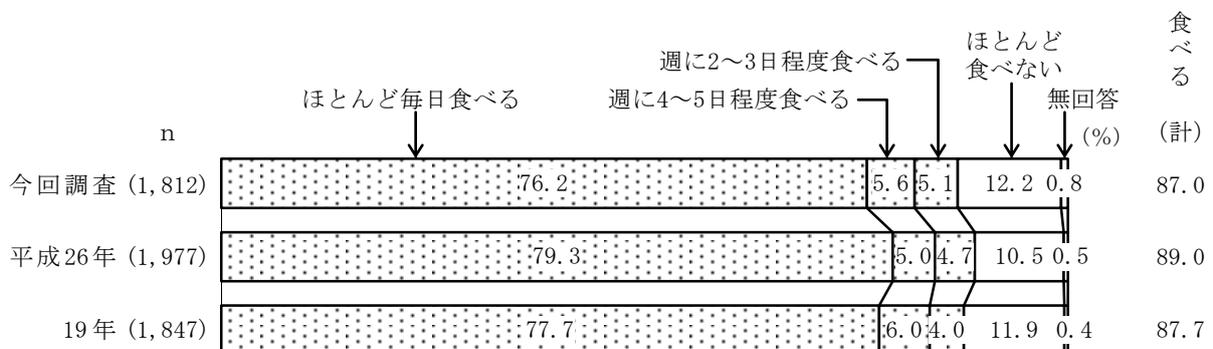
## ※1-1 朝食の摂取状況



ふだん朝食を食べているかを聞いたところ、『食べる (計)』は87%、「ほとんど食べない」は12%となっている。(図1-1-1)

朝食の摂取状況を過去との比較で見ると、『食べる (計)』は前回平成26年調査より2ポイント減少している。(図1-1-2)

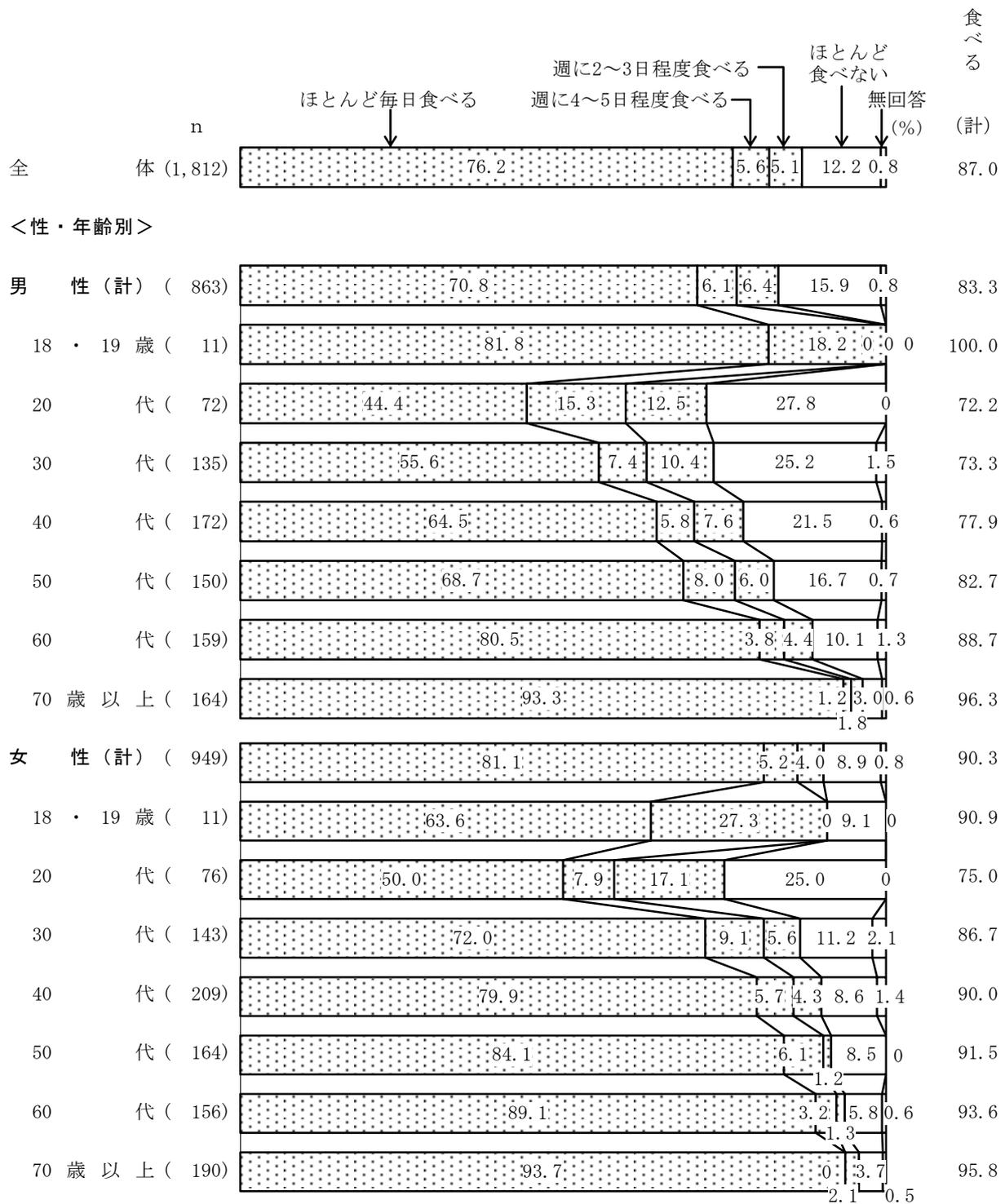
図1-1-2 朝食の摂取状況—過去との比較



(注) 『食べる (計)』は「ほとんど毎日食べる」、「週に4~5日程度食べる」、「週に2~3日程度食べる」の合計

性・年齢別にみると、『食べる（計）』は女性が男性より7ポイント高くなっており、男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が高く、男女ともに70歳以上で9割半ばとなっている。一方、「ほとんど食べない」は男性の20代から40代と女性20代で2割台となっている。（図1-1-3）

図1-1-3 朝食の摂取状況－性・年齢別

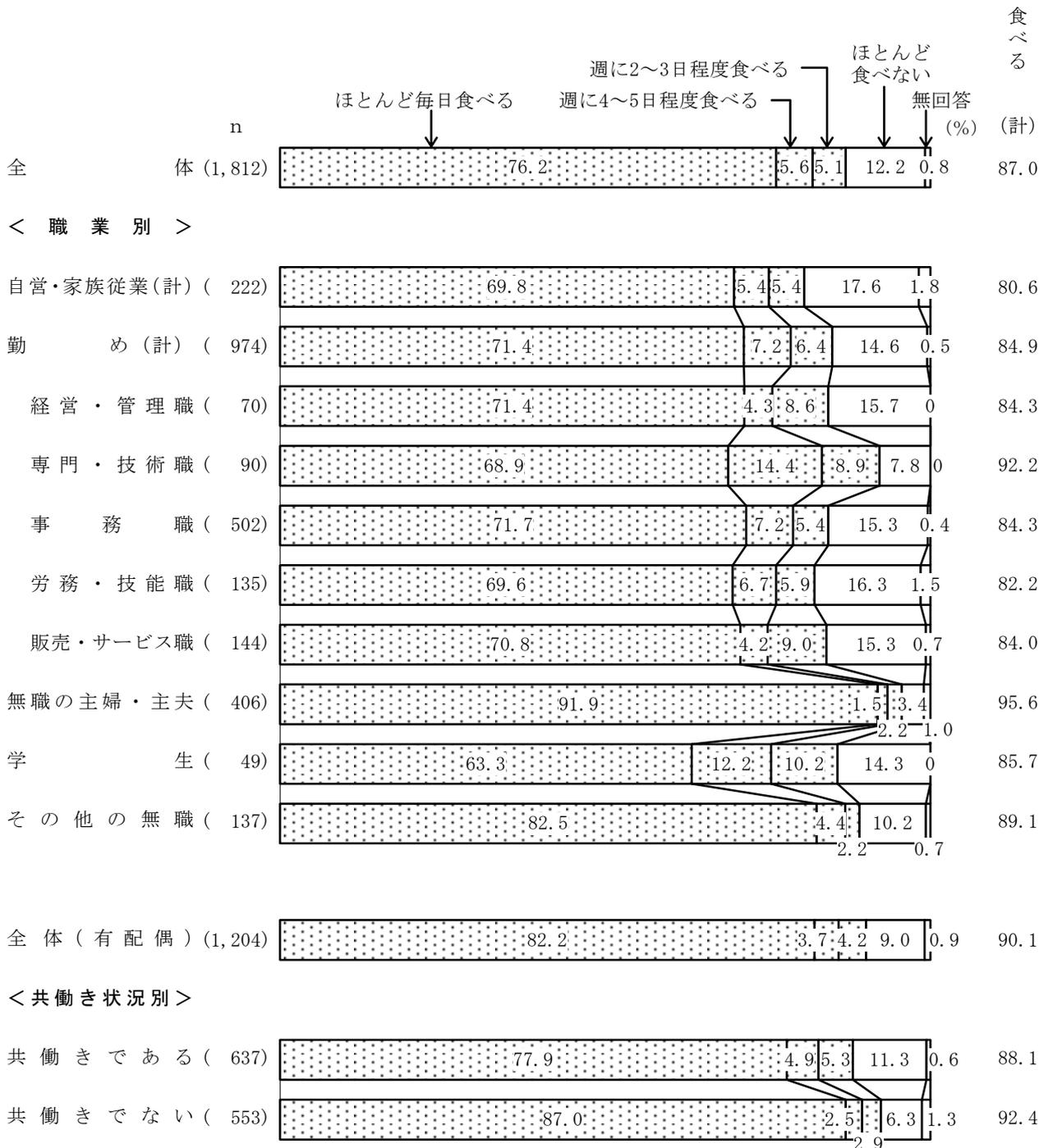


(注)『食べる（計）』は「ほとんど毎日食べる」、「週に4~5日程度食べる」、「週に2~3日程度食べる」の合計

職業別にみると、『食べる（計）』は無職の主婦・主夫で9割半ばと多くなっている。  
共働き状況別にみると、「ほとんど毎日食べる」は“共働きでない”で9割近くと多くなっている。

(図1-1-4)

図1-1-4 朝食の摂取状況－職業別、共働き状況別

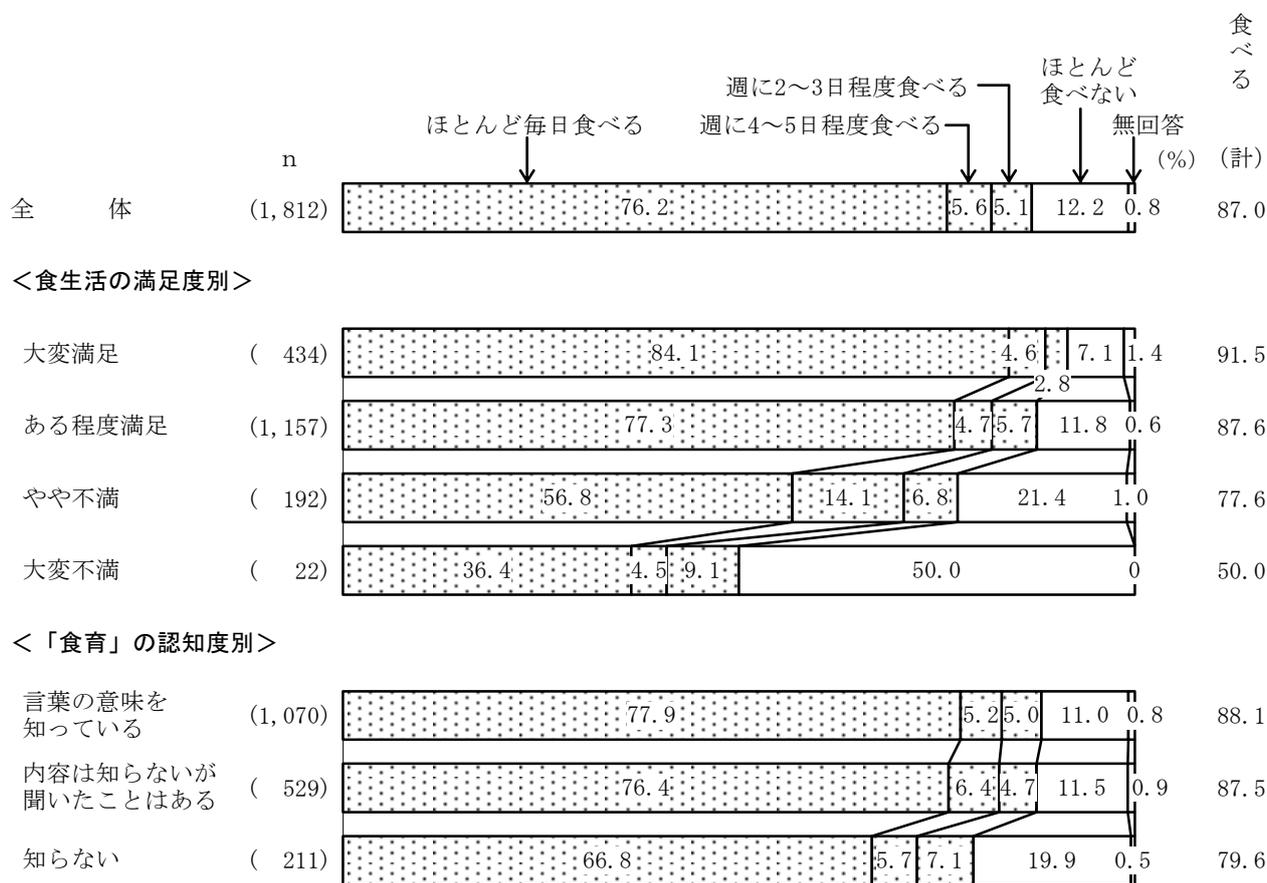


(注) 『食べる（計）』は「ほとんど毎日食べる」、「週に4~5日程度食べる」、「週に2~3日程度食べる」の合計

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、『食べる（計）』は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で9割を超えている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「ほとんど食べない」は“知らない”で約2割となっている。（図1-1-5）

図1-1-5 朝食の摂取状況－食生活の満足度別、「食育」の認知度別



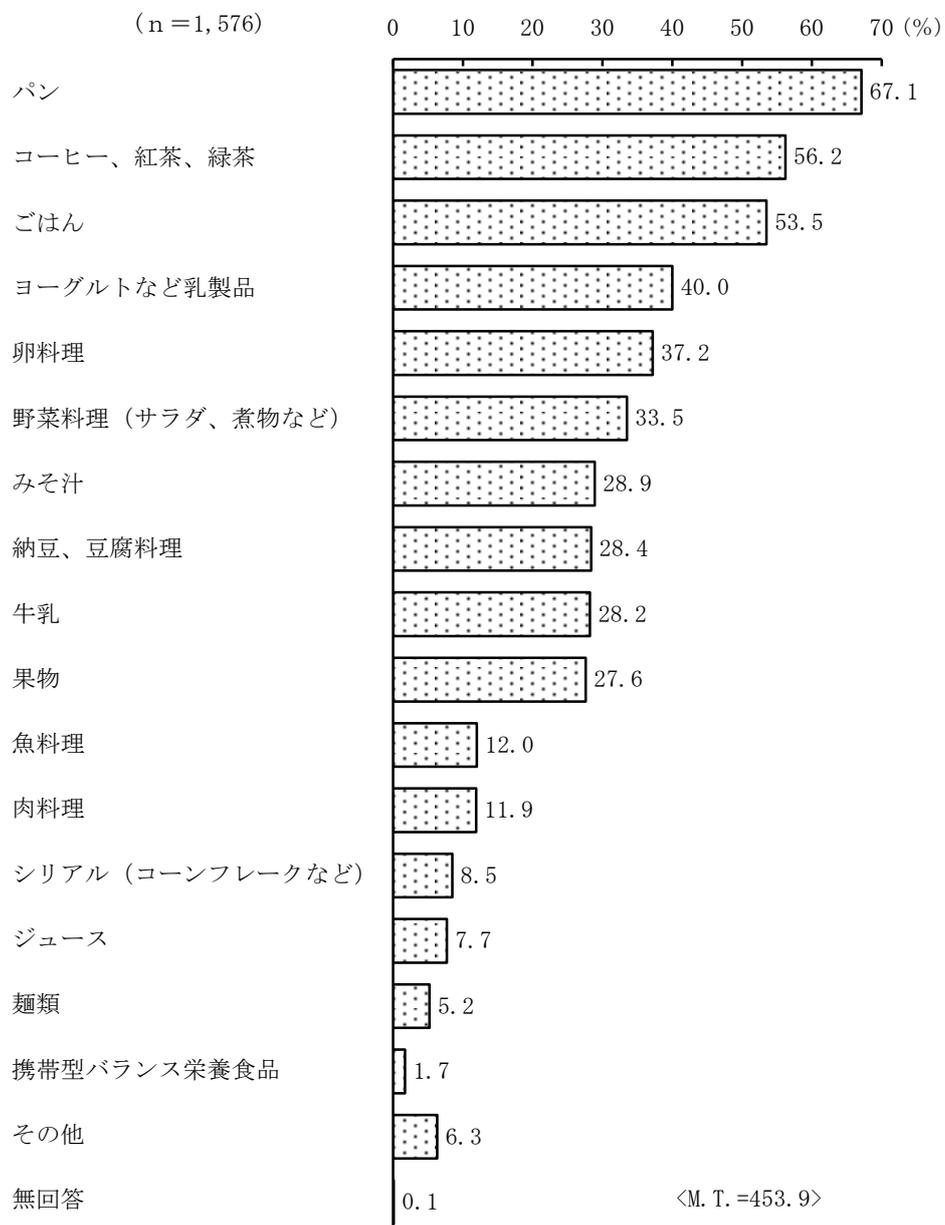
（注）『食べる（計）』は「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5日程度食べる」、「週に2～3日程度食べる」の合計

※1-2 朝食の内容

図1-2-1

(Q1で「ほとんど毎日食べる」「週に4~5日程度食べる」「週に2~3日程度食べる」と答えた方に)

S Q1 ふだん朝食で何を食えることが多いですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(M. A.)

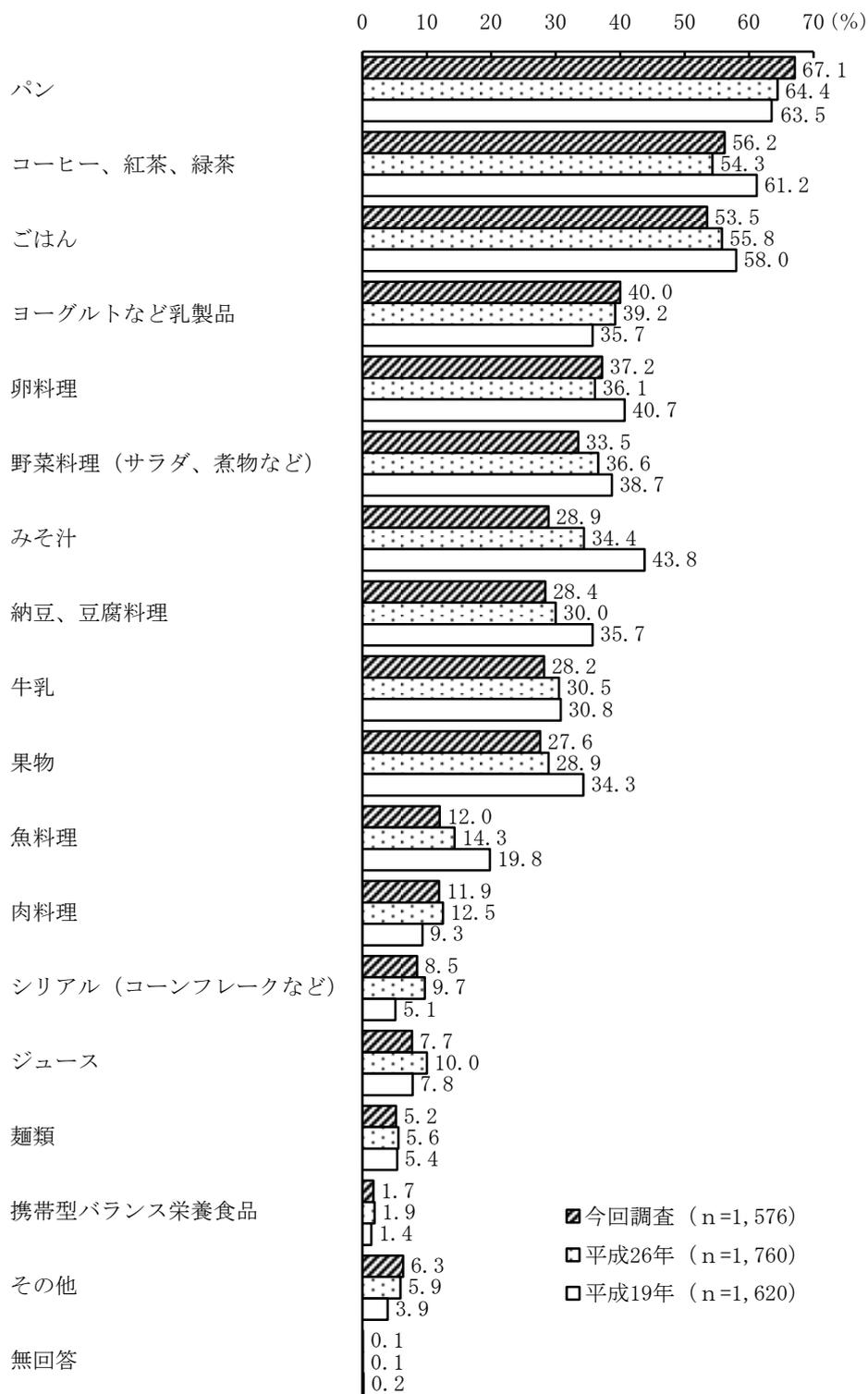


ふだん朝食を『食べる (計)』と答えた人 (1,576人) に、何を食えることが多いか聞いたところ、「パン」が67%で最も多く、次いで「コーヒー、紅茶、緑茶」56%、「ごはん」54%、「ヨーグルトなど乳製品」40%などの順となっている。(図1-2-1)

朝食の内容を過去との比較で見ると、「パン」は平成26年より3ポイント増加している。一方、「みそ汁」は6ポイント、「野菜料理（サラダ、煮物など）」は3ポイント、それぞれ平成26年より減少している。

(図1-2-2)

図1-2-2 朝食の内容—過去との比較



性・年齢別にみると、「コーヒー、紅茶、緑茶」は女性60代で約7割と多くなっている。「ごはん」は男性の50代と70歳以上で7割近くと多くなっている。また、女性が男性より「果物」で16ポイント、「ヨーグルトなど乳製品」で15ポイント、「野菜料理（サラダ、煮物など）」で11ポイントそれぞれ高くなっている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、大きな違いはみられない。（表1-2-1）

表1-2-1 朝食の内容－性・年齢別、食生活の満足度別

		(%)																		
		n	パン	コーヒー、 紅茶、 緑茶	ごはん	ヨーグルトなど 乳製品	卵料理	野菜料理（ サラダ、 煮物 など）	みそ汁	納豆、 豆腐料理	牛乳	果物	魚料理	肉料理	シリアル （コーン フレーク など）	ジュース	麺類	携帯型 バランス 栄養食品	その他	無回答
全	体	1,576	67.1	56.2	53.5	40.0	37.2	33.5	28.9	28.4	28.2	27.6	12.0	11.9	8.5	7.7	5.2	1.7	6.3	0.1
<性・年齢別>																				
男	性（計）	719	62.9	52.7	57.4	31.7	35.6	27.7	31.6	29.5	23.8	18.8	12.5	12.2	6.5	7.9	7.1	1.8	5.3	0.1
	18・19歳	11	45.5	18.2	54.5	9.1	18.2	27.3	36.4	45.5	36.4	18.2	18.2	18.2	9.1	-	-	9.1	-	-
	20代	52	69.2	28.8	53.8	17.3	23.1	11.5	17.3	15.4	15.4	13.5	9.6	11.5	13.5	7.7	5.8	5.8	-	-
	30代	99	72.7	48.5	57.6	29.3	29.3	16.2	22.2	22.2	19.2	9.1	9.1	6.1	9.1	5.1	8.1	3.0	4.0	-
	40代	134	66.4	61.2	50.0	32.8	27.6	20.1	24.6	28.4	23.9	17.2	6.7	10.4	9.7	5.2	6.0	3.0	4.5	-
	50代	124	59.7	50.8	66.9	31.5	40.3	27.4	37.1	25.8	21.0	18.5	10.5	12.1	5.6	8.9	9.7	0.8	6.5	-
	60代	141	71.6	61.7	46.8	36.9	40.4	29.1	24.8	30.5	25.5	17.0	12.8	14.2	2.8	12.1	6.4	-	4.3	0.7
	70歳以上	158	47.5	51.9	67.1	34.2	43.7	45.6	49.4	40.5	29.1	29.7	21.5	15.8	3.8	8.2	7.0	0.6	8.9	-
女	性（計）	857	70.6	59.0	50.2	46.9	38.6	38.4	26.7	27.4	32.0	35.0	11.6	11.6	10.2	7.5	3.6	1.6	7.2	-
	18・19歳	10	60.0	40.0	50.0	30.0	30.0	20.0	10.0	10.0	20.0	30.0	10.0	20.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	-
	20代	57	64.9	35.1	50.9	36.8	22.8	22.8	21.1	17.5	29.8	21.1	7.0	5.3	19.3	10.5	1.8	3.5	5.3	-
	30代	124	72.6	47.6	55.6	48.4	24.2	21.0	19.4	21.0	33.9	32.3	7.3	8.9	12.1	6.5	3.2	4.0	2.4	-
	40代	188	71.3	61.2	59.0	41.0	43.1	29.3	29.8	32.4	31.4	31.9	8.5	13.8	13.8	5.3	4.3	1.1	4.8	-
	50代	150	68.7	66.0	50.0	50.0	41.3	42.7	25.3	30.7	26.0	31.3	11.3	8.7	10.0	6.7	2.7	1.3	8.7	-
	60代	146	73.3	69.9	42.5	48.6	41.1	40.4	24.7	24.7	30.1	35.6	15.8	15.1	6.8	7.5	4.8	1.4	10.3	-
	70歳以上	182	70.3	58.8	43.4	52.2	45.1	60.4	34.1	30.2	39.0	47.3	15.9	12.1	3.8	9.9	3.3	0.5	9.9	-
<食生活の満足度別>																				
	大変満足	397	66.0	55.4	52.9	40.1	39.0	37.8	27.0	27.5	30.0	28.2	12.8	14.6	8.3	6.5	5.3	1.5	6.5	-
	ある程度満足	1,014	66.8	57.2	54.4	40.6	37.6	33.4	31.1	29.1	28.0	28.6	12.7	10.6	8.3	7.8	5.0	1.4	6.1	0.1
	やや不満	149	69.8	51.0	47.7	34.9	31.5	22.8	20.8	26.2	24.8	19.5	5.4	12.8	10.7	9.4	6.7	4.0	6.7	-
	大変不満	11	81.8	45.5	63.6	36.4	9.1	9.1	9.1	36.4	18.2	9.1	-	18.2	9.1	18.2	-	9.1	-	-

主食及び野菜料理について、それぞれの組み合わせをみると、“「ごはん」を食べる人”は、「みそ汁」や「納豆、豆腐料理」との組み合わせが特に多く、それ以外では「卵料理」、「野菜料理」が多くなっている。

“「パン」を食べる人”は、「コーヒー、紅茶、緑茶」や「ヨーグルトなど乳製品」との組み合わせが特に多く、それ以外では「牛乳」、「果物」が多くなっている。

“「ごはん」と「パン」を両方食べる人”は、「コーヒー、紅茶、緑茶」や「卵料理」との組み合わせが特に多く、それ以外では「みそ汁」、「納豆、豆腐料理」、「ヨーグルトなど乳製品」が多くなっている。

“主食のみを食べる人”は、「パン」が特に多くなっている。

“「野菜料理」を食べる人”は、「コーヒー、紅茶、緑茶」、「パン」又は「ごはん」、「卵料理」との組み合わせが特に多く、それ以外では「ヨーグルトなど乳製品」、「みそ汁」が多くなっている。

(表1-2-2)

表1-2-2 朝食の内容－主食及び野菜料理との組み合わせ

(上段：人 下段：%)

	n	パン	コーヒー、 紅茶、 緑茶	ごはん	ヨーグルトなど 乳製品	卵料理	野菜料理 (サラダ、 煮物 など)	みそ汁	納豆、 豆腐料理	牛乳	果物	魚料理	肉料理	シリアル (コーンフ レー クなど)	ジュース	麺類	携 帯 型 バ ラ ン ス 栄 養 食 品	その他	無 回 答
全 体	1,576 100.0	1,057 67.1	885 56.2	843 53.5	630 40.0	587 37.2	528 33.5	456 28.9	447 28.4	445 28.2	435 27.6	189 12.0	187 11.9	134 8.5	121 7.7	82 5.2	27 1.7	100 6.3	1 0.1
「ごはん」を 食べる人	413 100.0	-	151 36.6	/	85 20.6	186 45.0	155 37.5	232 56.2	225 54.5	61 14.8	60 14.5	99 24.0	57 13.8	8 1.9	12 2.9	18 4.4	3 0.7	23 5.6	-
「パン」を 食べる人	627 100.0	/	417 66.5	-	296 47.2	164 26.2	185 29.5	21 3.3	15 2.4	209 33.3	198 31.6	4 0.6	44 7.0	55 8.8	57 9.1	5 0.8	6 1.0	39 6.2	-
「ごはん」と 「パン」を両方 食べる人	430 100.0	/	272 63.3	/	194 45.1	225 52.3	168 39.1	196 45.6	195 45.3	151 35.1	133 30.9	82 19.1	80 18.6	49 11.4	47 10.9	51 11.9	12 2.8	22 5.1	-
主食のみを 食べる人	198 100.0	157 79.3	113 57.1	71 35.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7 3.5	-	-	-
「野菜料理」を 食べる人	528 100.0	353 66.9	336 63.6	323 61.2	249 47.2	320 60.6	/	214 40.5	208 39.4	178 33.7	196 37.1	128 24.2	137 25.9	32 6.1	57 10.8	37 7.0	8 1.5	32 6.1	-

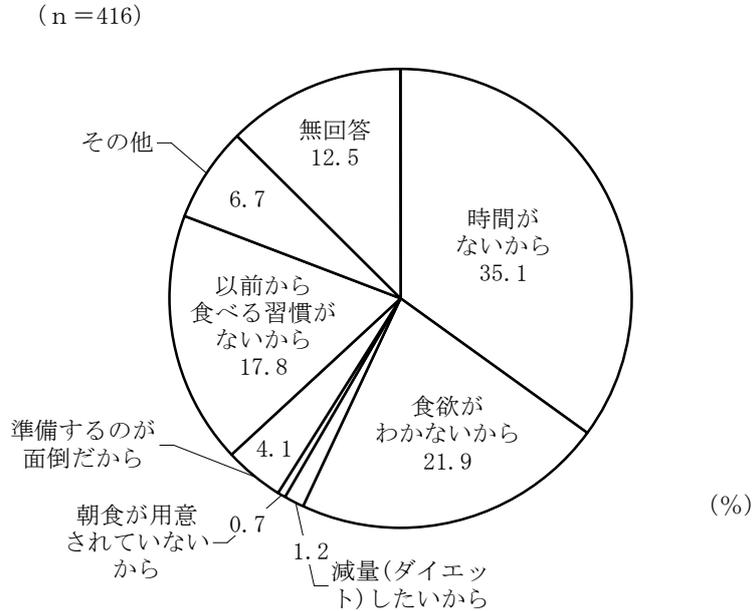
(注) 組み合わせ分類について

- ・“「ごはん」を食べる人”：「ごはん」を選んだ人のうち、「ごはん」と「パン」を両方選んだ人を除いたもの
- ・“「パン」を食べる人”：「パン」を選んだ人のうち、「ごはん」と「パン」を両方選んだ人を除いたもの
- ・“主食のみを食べる人”：主食（「ごはん」、「パン」、「麺類」）とともに「コーヒー、紅茶、緑茶」を選んだ人を含む

※1-3 朝食を食べない理由

図1-3-1

(Q1で「週に4~5日程度食べる」「週に2~3日程度食べる」「ほとんど食べない」と答えた方に)  
 S Q2 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。次の中から1つだけお選びください。



ふだん朝食を「ほとんど毎日食べる」と答えた人以外(「週に4~5日程度食べる」「週に2~3日程度食べる」「ほとんど食べない」と答えた人、416人)に、朝食を食べない理由を聞いたところ、「時間がないから」が35%で最も多く、次いで「食欲がわからないから」22%、「以前から食べる習慣がないから」18%、「準備するのが面倒だから」4%などの順となっている。(図1-3-1)

朝食を食べない理由を過去との比較で見ると、「以前から食べる習慣がないから」は平成26年より3ポイント増加している。一方、「時間がないから」は平成26年より7ポイント減少している。(図1-3-2)

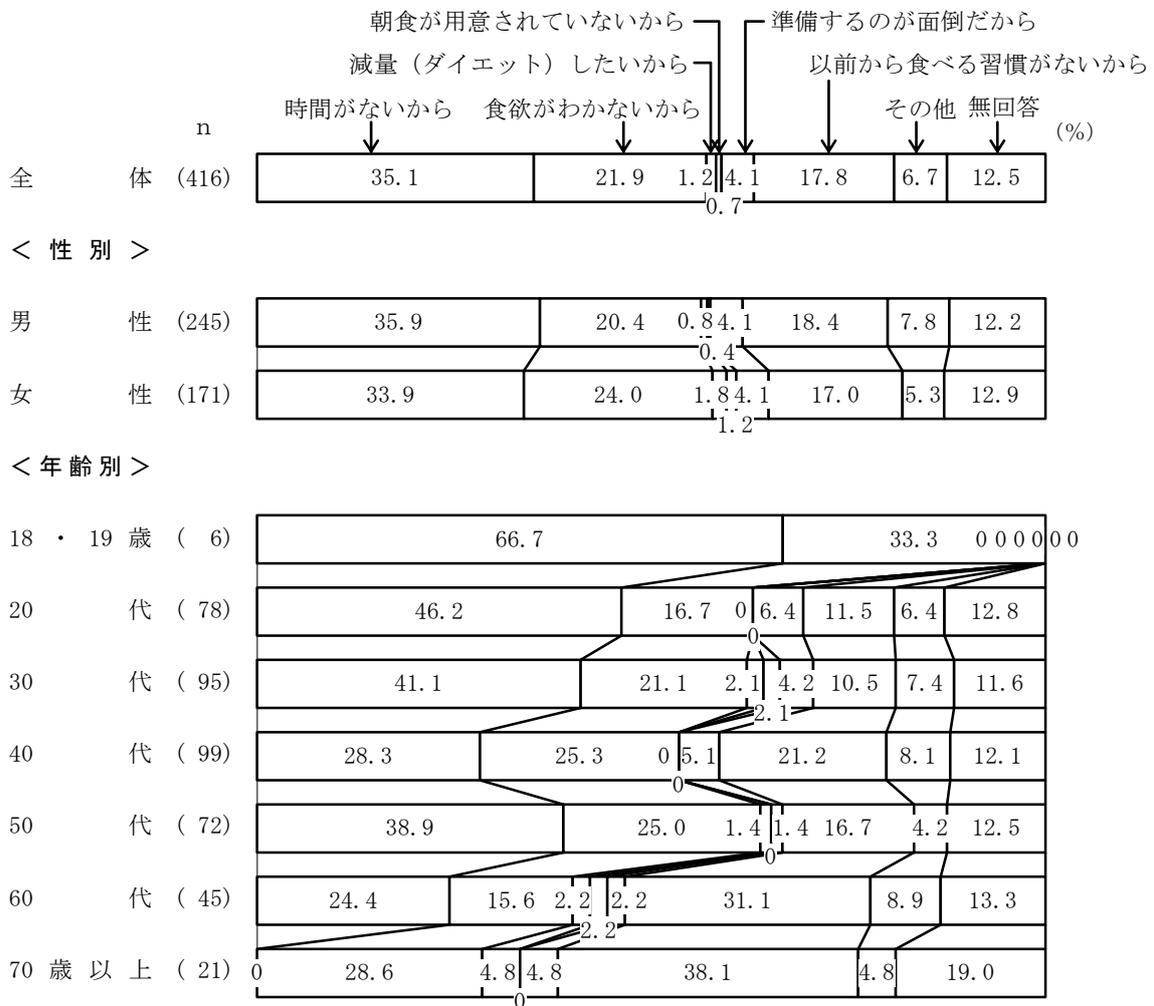
図1-3-2 朝食を食べない理由-過去との比較

n	理由 (%)						
	時間がないから	食欲がわからないから	減量(ダイエット)したいから	朝食が用意されていないから	準備するのが面倒だから	以前から食べる習慣がないから	その他 無回答
今回調査 (416)	35.1	21.9	1.2	0.7	4.1	17.8	6.7 12.5
平成26年 (399)	41.9	20.1	2.5	1.7	1.8	6.5	14.8 5.0 7.5
19年 (403)	42.4	20.8	1.0	1.7	3.5	13.9	6.2 10.4

性別にみると、大きな差はみられない。

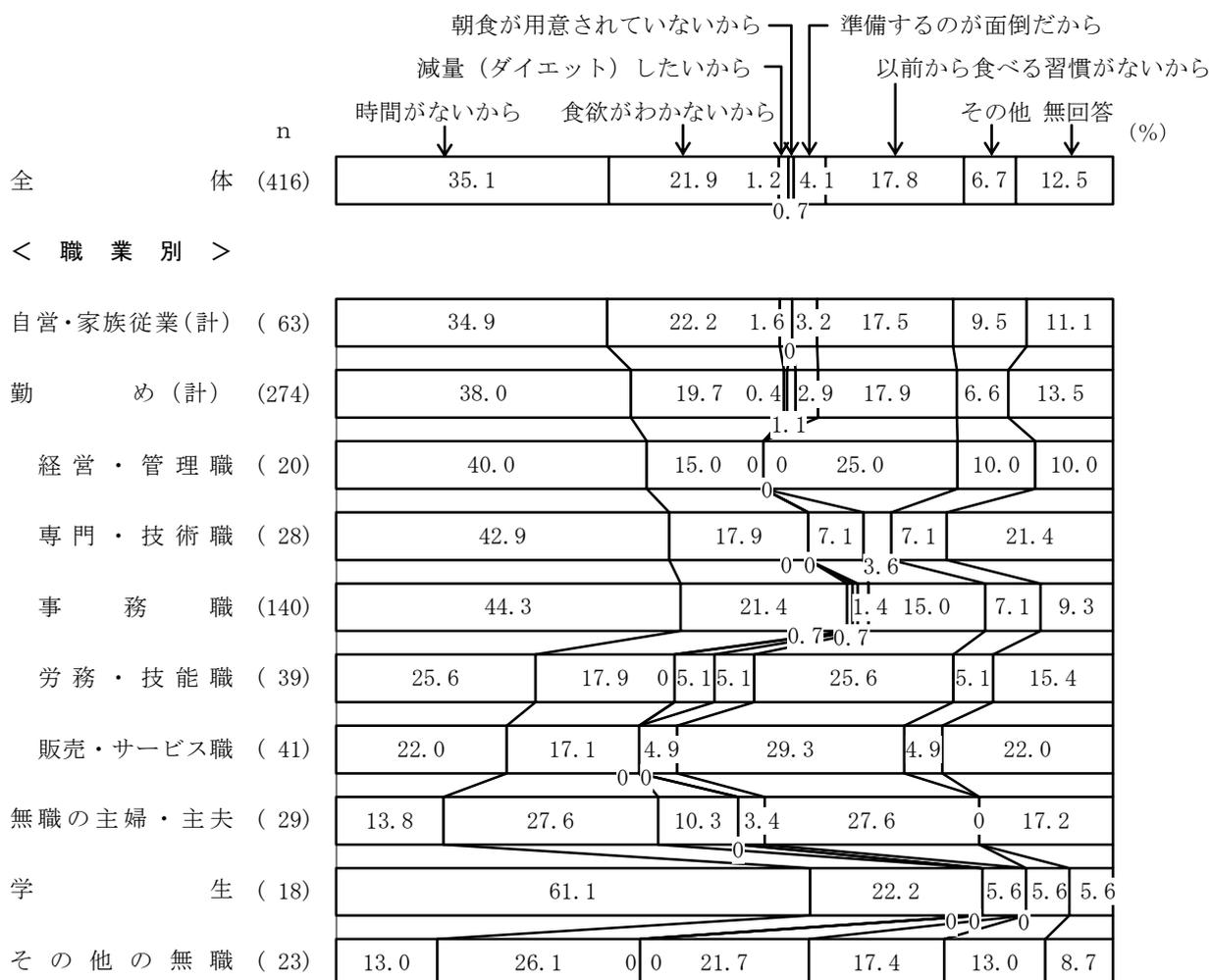
年齢別にみると、「時間がないから」は20代で4割半ば、「以前から食べる習慣がないから」は60代以上で3割台と多くなっている。(図1-3-3)

図1-3-3 朝食を食べない理由—性別、年齢別



職業別にみると、「時間がないから」は事務職で4割半ばと多くなっている。(図1-3-4)

図1-3-4 朝食を食べない理由—職業別

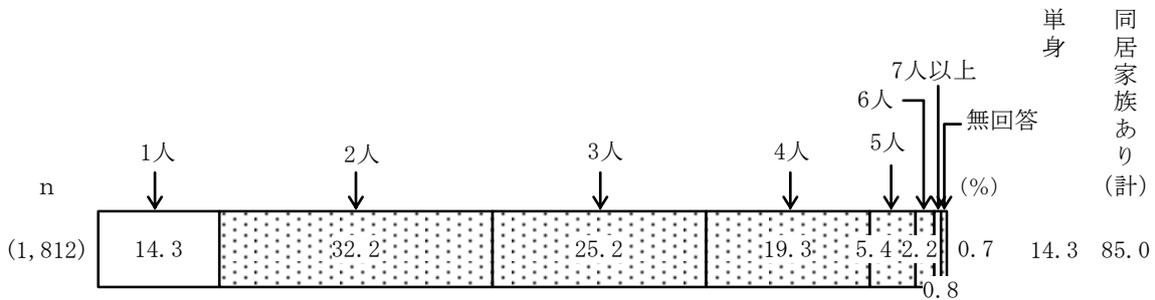


※1-4 家族人数

図1-4-1

(全員に)

Q2 ところで、今一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。



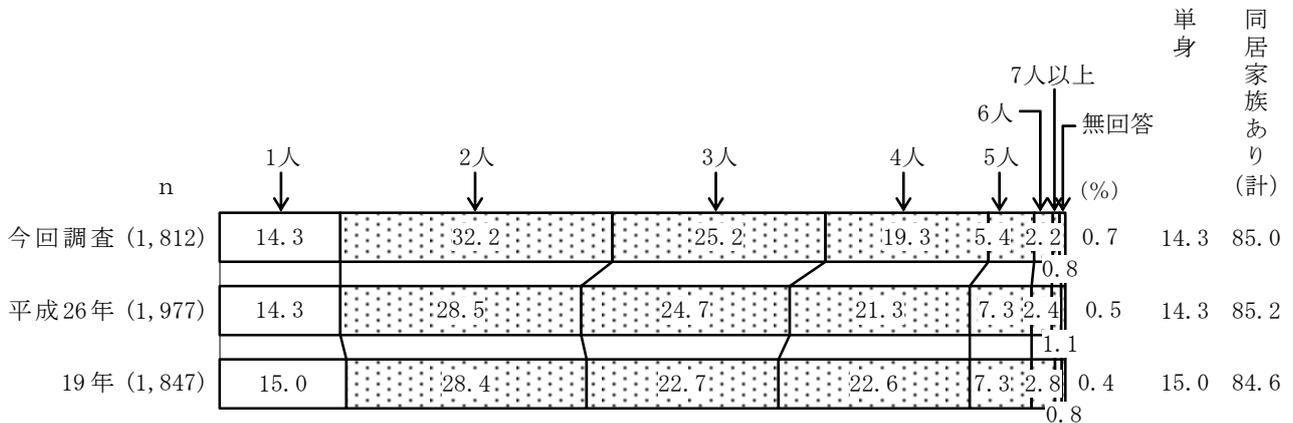
(注) 『単身』は「1人」の値

『同居家族あり (計)』は「2人」、「3人」、「4人」、「5人」、「6人」、「7人以上」の合計

本人を含めて一緒に暮らしている家族の人数を聞いたところ、『単身』は14%、『同居家族あり (計)』は85%となっている。(図1-4-1)

家族人数を過去との比較でみると、「2人」は平成26年より4ポイント増加している。(図1-4-2)

図1-4-2 家族人数—過去との比較

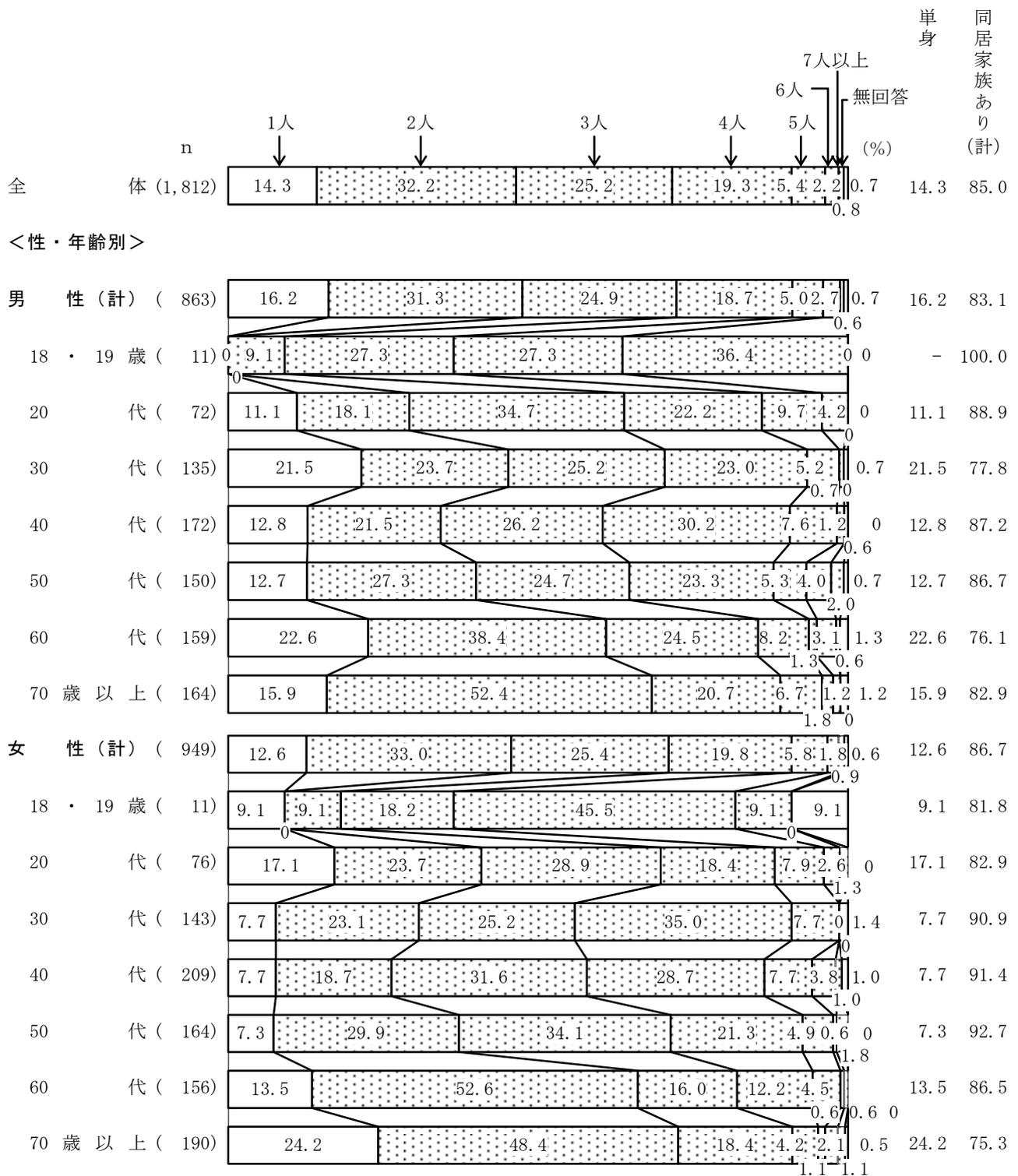


(注) 『単身』は「1人」の値

『同居家族あり (計)』は「2人」、「3人」、「4人」、「5人」、「6人」、「7人以上」の合計

性・年齢別にみると、『単身』は女性70歳以上、男性の30代と60代で2割台となっている。一方、『同居家族あり（計）』は女性の30代から50代で9割台と多くなっている。（図1-4-3）

図1-4-3 家族人数－性・年齢別



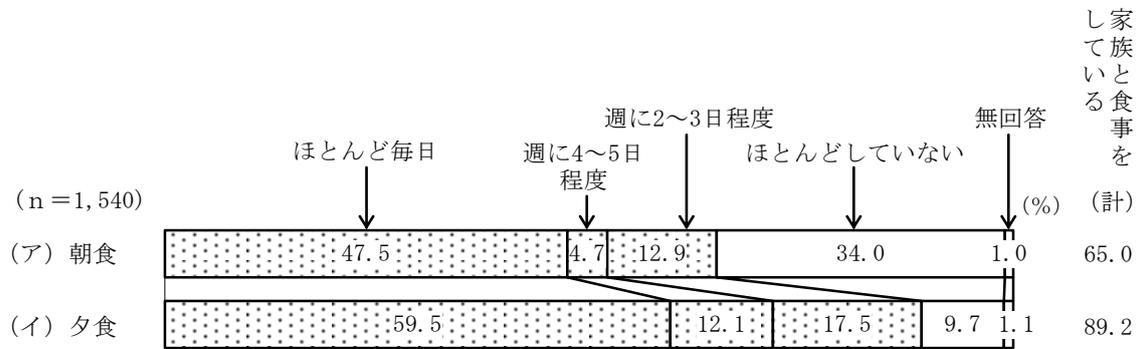
(注) 『単身』は「1人」の値  
『同居家族あり（計）』は「2人」、「3人」、「4人」、「5人」、「6人」、「7人以上」の合計

※1-5 家族との食事の頻度

図1-5-1

(Q2で「2人」～「7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

SQ1 あなたは、1週間のうち、どのくらい家族と一緒に食事をしていますか。次の中からそれぞれ1つだけお選びください。

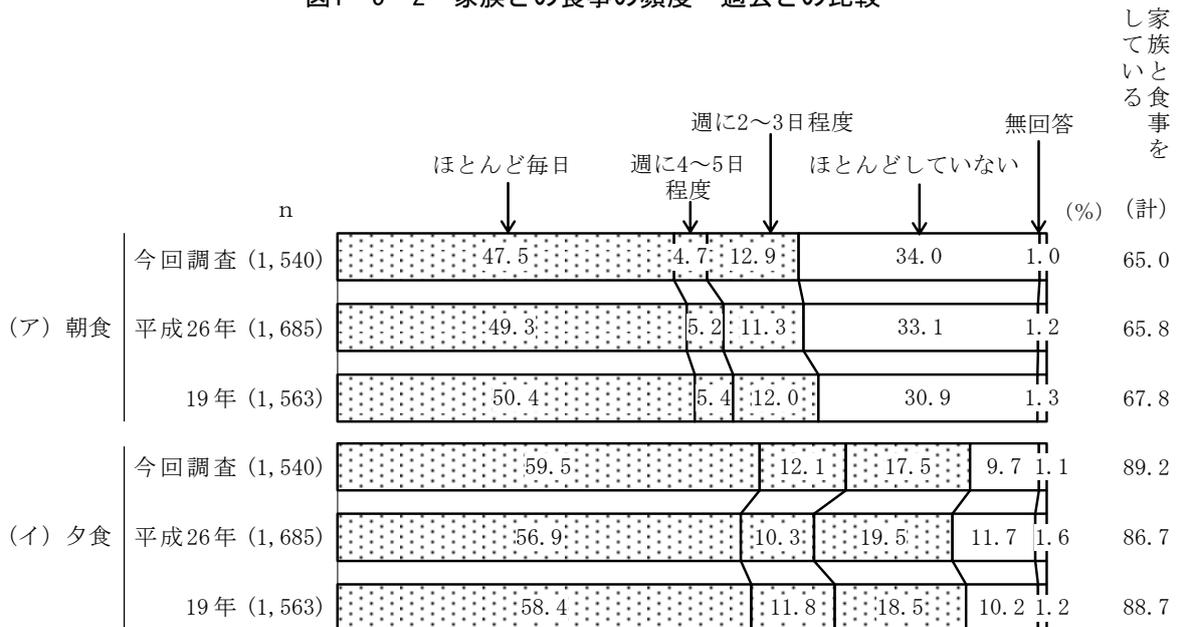


(注)『家族と食事をしている (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

同居家族のある人(1,540人)に、1週間のうち、どのくらい家族と一緒に食事をしているか聞いたところ、『家族と食事をしている (計)』は“朝食”で65%、“夕食”で89%となっている。一方、「ほとんどしていない」は“朝食”で34%、“夕食”で10%となっている。(図1-5-1)

家族との食事の頻度を過去との比較で見ると、『家族と食事をしている (計)』は平成26年より“朝食”で1ポイント減少し、“夕食”で3ポイント増加している。(図1-5-2)

図1-5-2 家族との食事の頻度－過去との比較



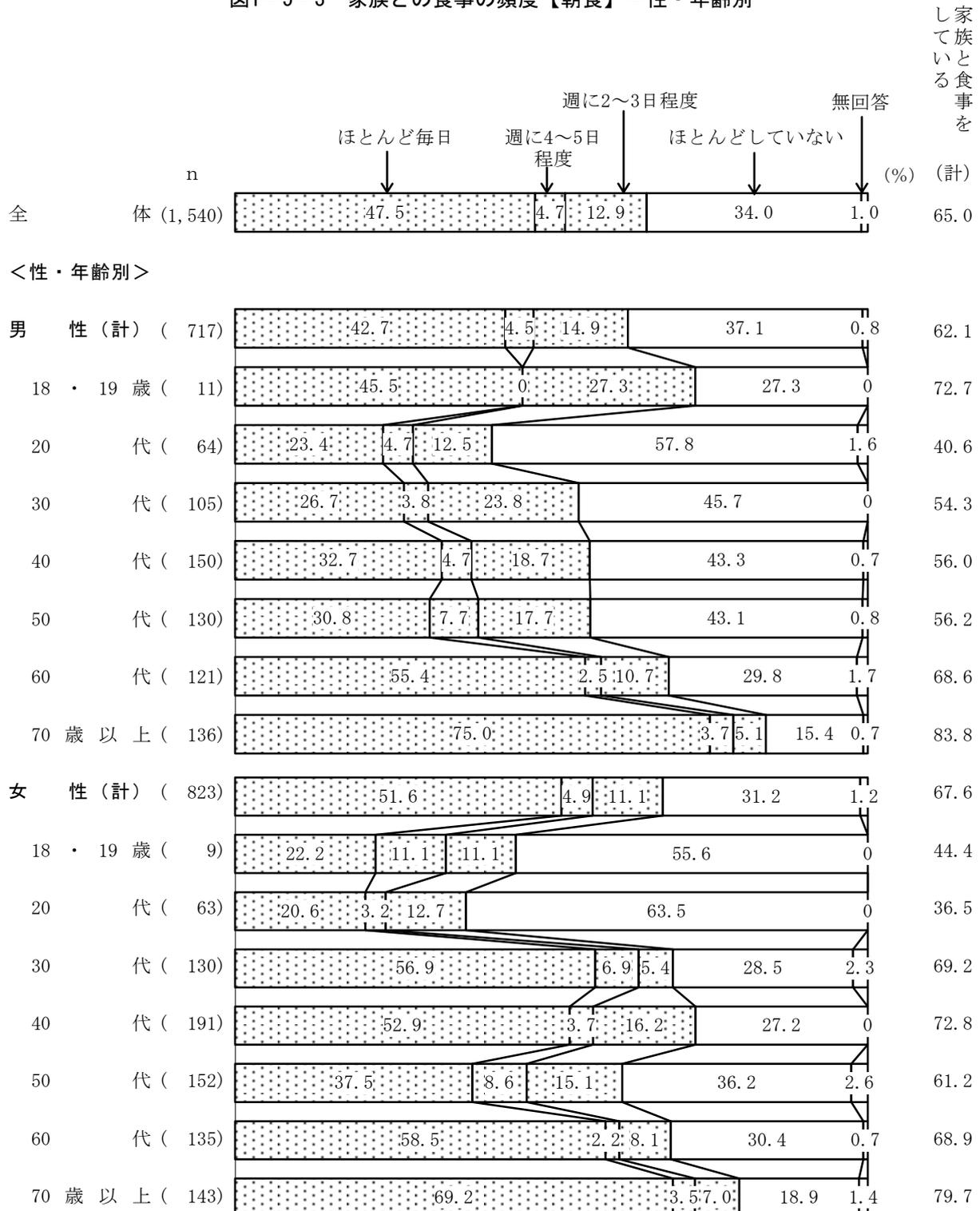
(注)『家族と食事をしている (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

(ア) 朝食

【朝食】について性・年齢別にみると、「ほとんど毎日」は女性が男性より9ポイント高くなっている。『家族と食事をしている(計)』は男性70歳以上で8割半ば、女性の40代と70歳以上で7割台と多くなっている。一方、「ほとんどしていない」は女性20代で6割半ば、男性20代で6割近くと多くなっている。

(図1-5-3)

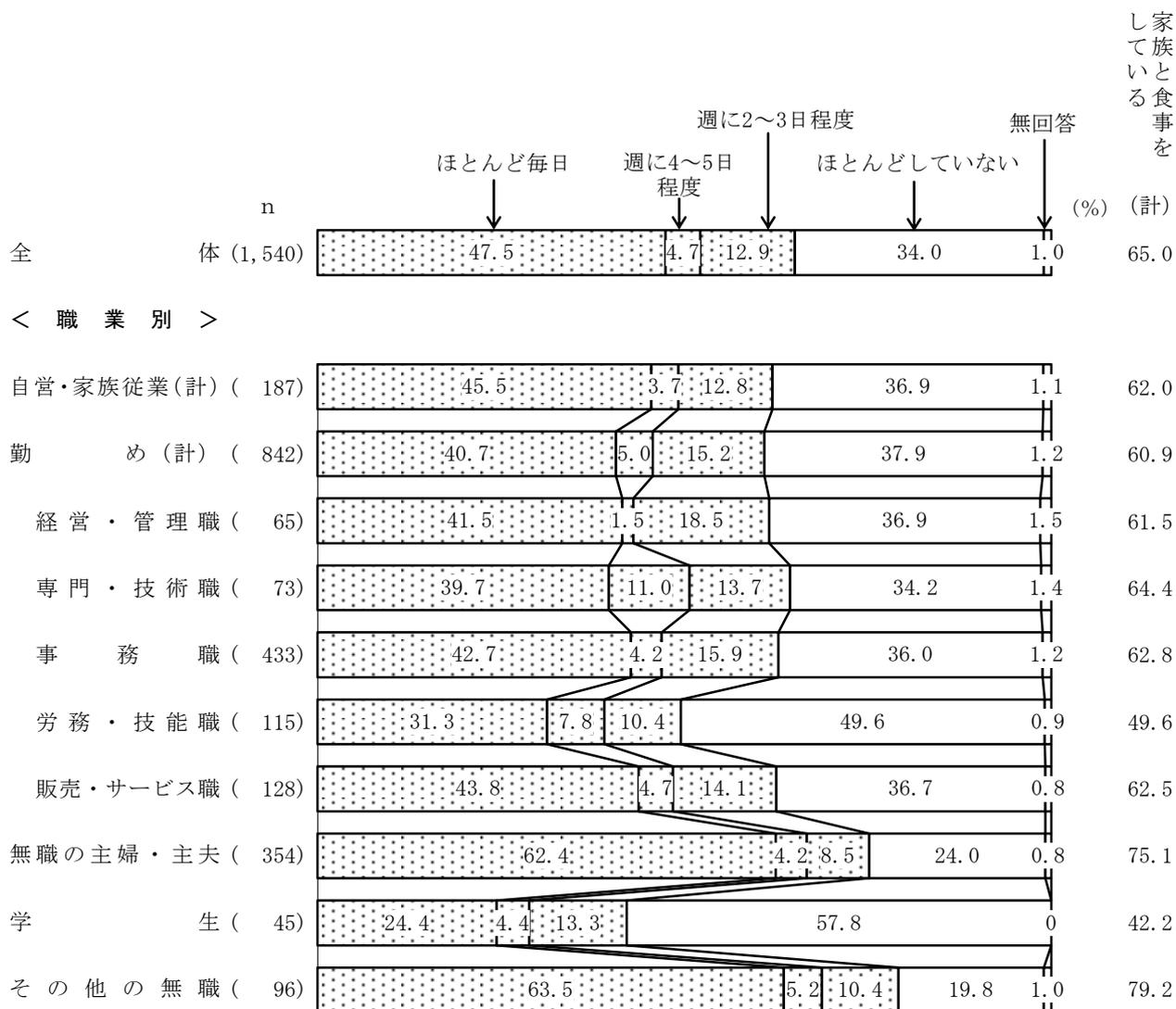
図1-5-3 家族との食事の頻度【朝食】-性・年齢別



(注) 『家族と食事をしている(計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

職業別にみると、『家族と食事をしている（計）』はその他の無職と無職の主婦・主夫で7割台と多くなっている。一方、「ほとんどしていない」は学生で6割近く、労務・技能職で約5割と多くなっている。  
 (図1-5-4)

図1-5-4 家族との食事の頻度【朝食】-職業別

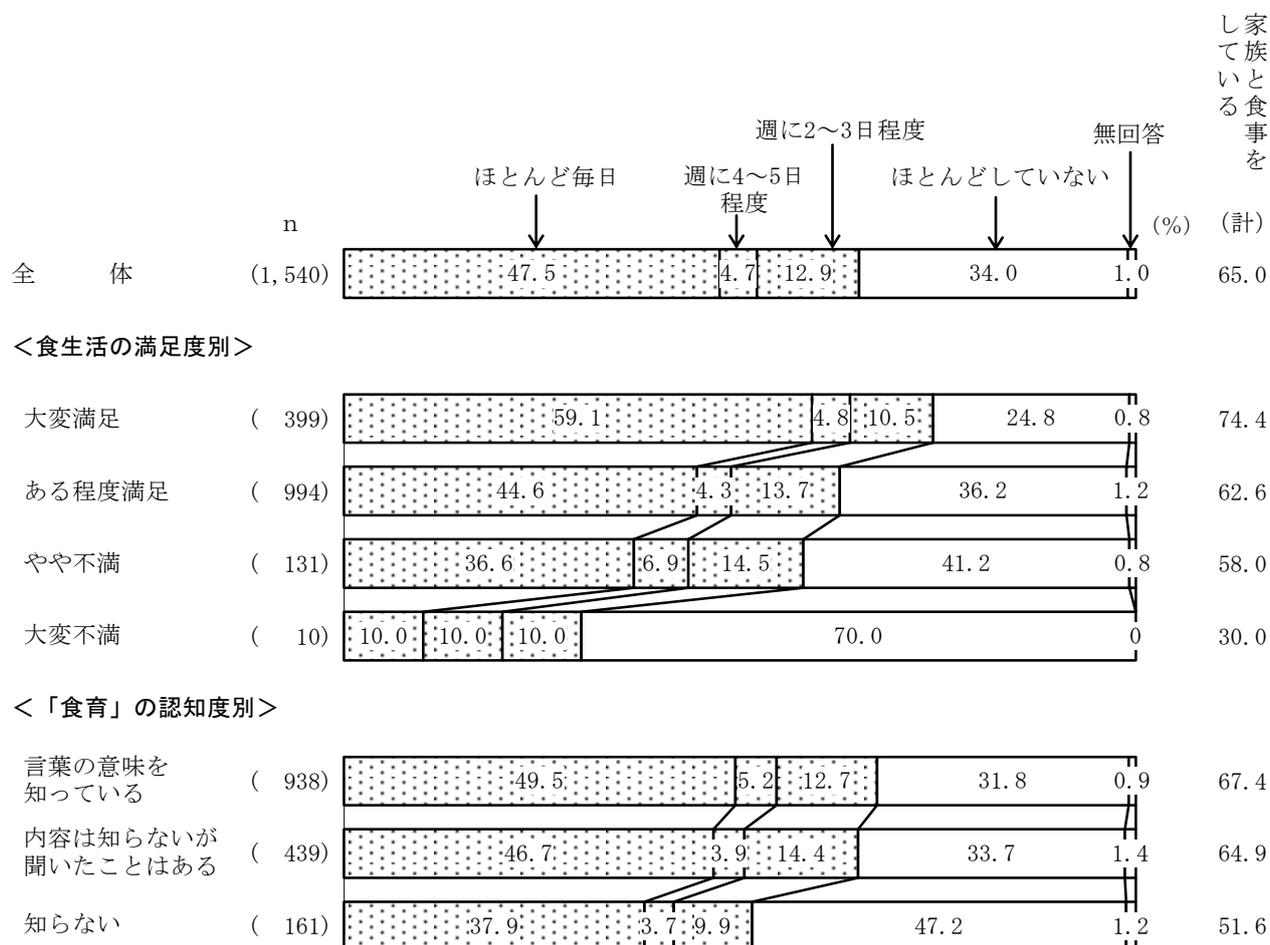


(注)『家族と食事をしている（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、『家族と食事をしている（計）』は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で7割半ばとなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「ほとんどしていない」は「食育」の認知度が低くなるほど割合が高く、“知らない”で5割近くとなっている。（図1-5-5）

図1-5-5 家族との食事の頻度【朝食】－食生活の満足度別、「食育」の認知度別

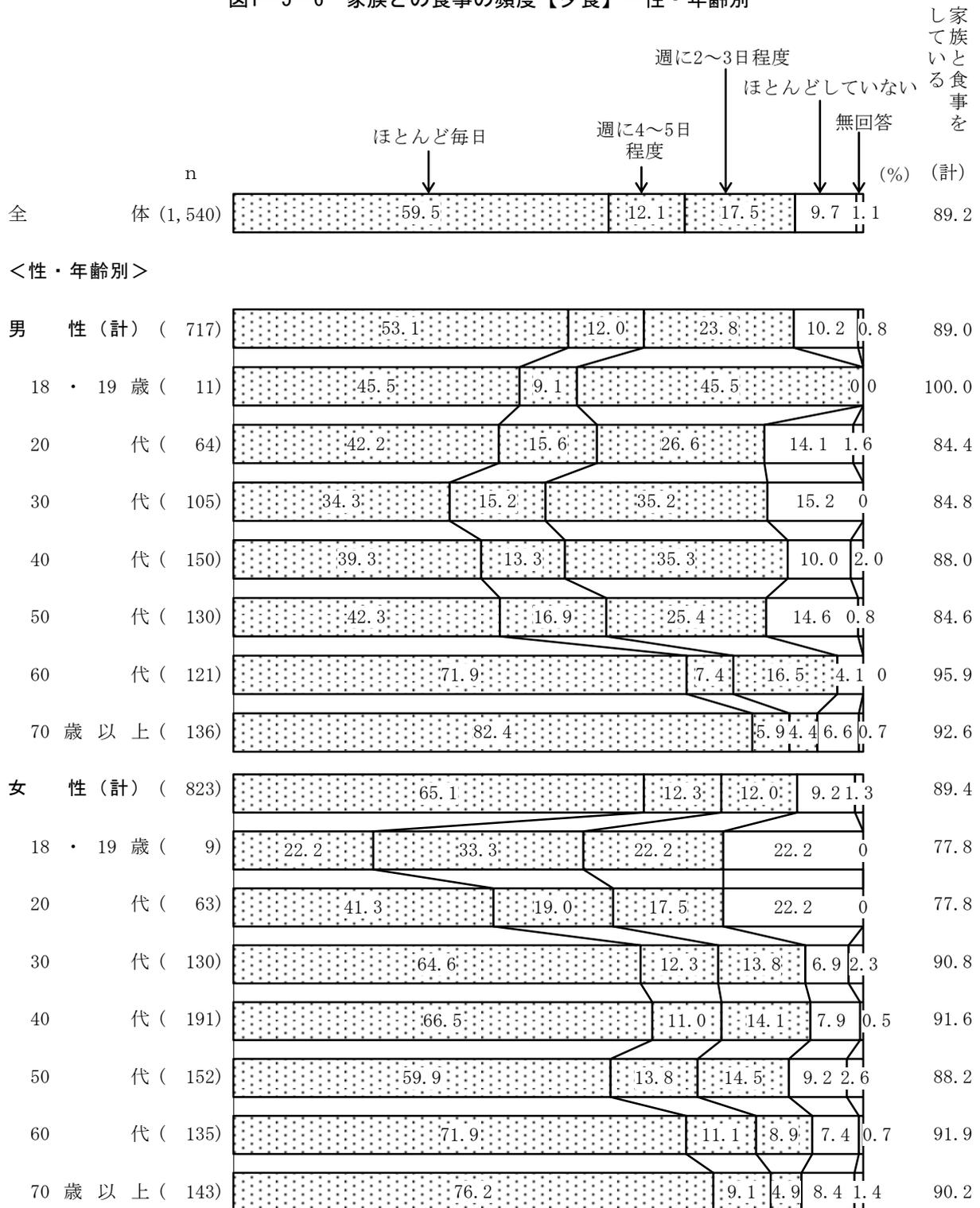


（注）『家族と食事をしている（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

(イ) 夕食

【夕食】について性・年齢別にみると、「ほとんど毎日」は女性が男性より12ポイント高く、また、男女とも60代以上で7割を超えて多くなっている。一方、「ほとんどしていない」は女性20代で2割を超えている。(図1-5-6)

図1-5-6 家族との食事の頻度【夕食】 - 性・年齢別

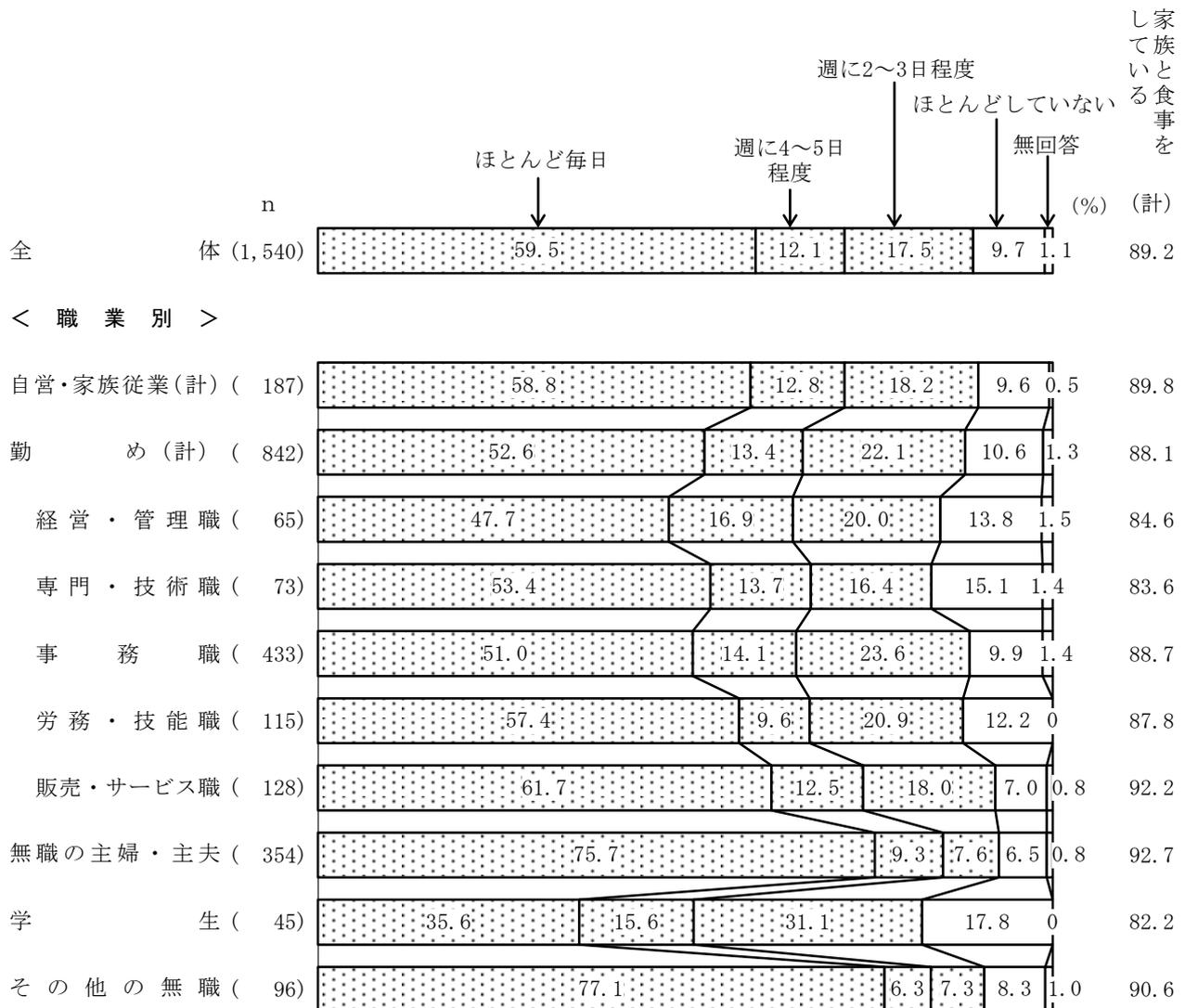


(注) 『家族と食事をする (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

職業別にみると、「ほとんど毎日」はその他の無職と無職の主婦・主夫で7割台と多くなっている。

(図1-5-7)

図1-5-7 家族との食事の頻度【夕食】-職業別

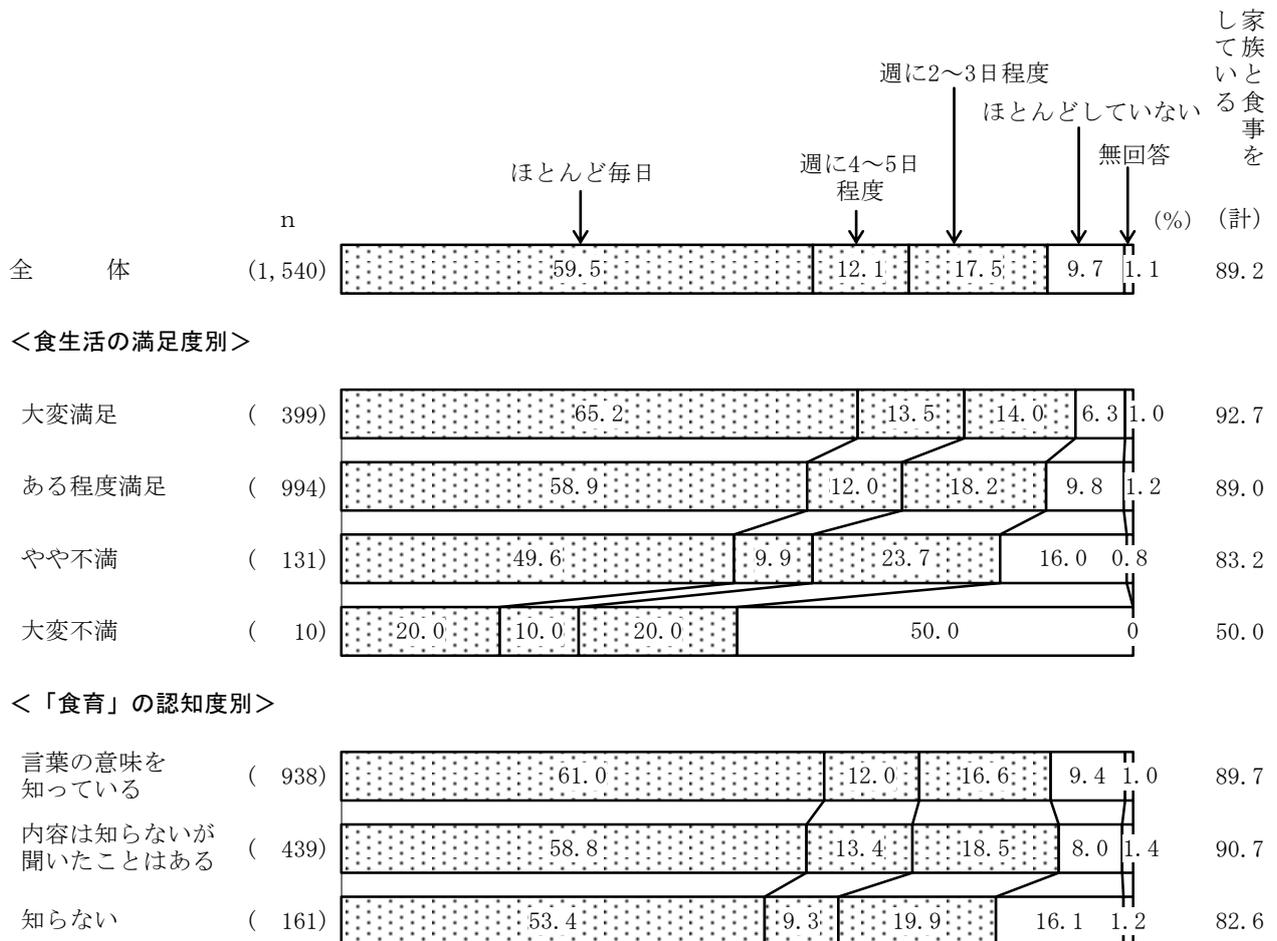


(注)『家族と食事をしている(計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、『家族と食事をしている（計）』は食生活の満足度が高くなるほど割合が高くなる傾向があり、特に「ほとんど毎日」は“大変満足”で6割半ばと多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「ほとんどしていない」は“知らない”で1割半ばとなっている。（図1-5-8）

図1-5-8 家族との食事の頻度【夕食】－食生活の満足度別、「食育」の認知度別



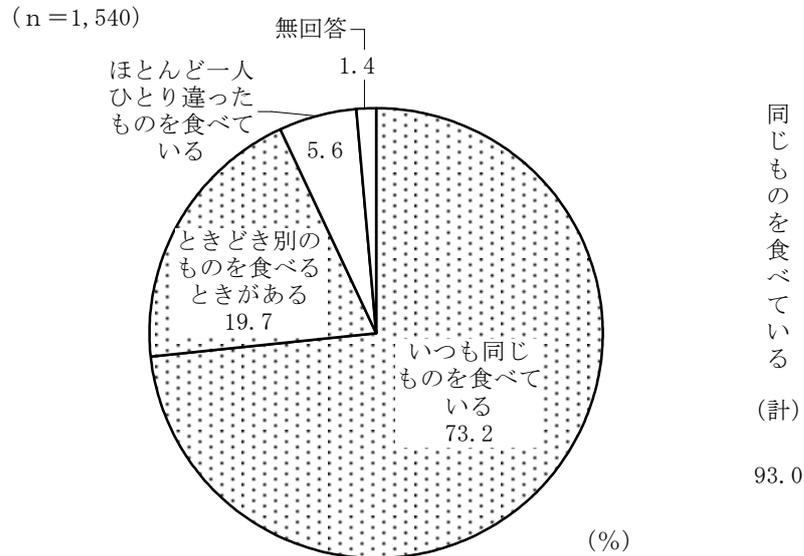
(注) 『家族と食事をしている（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

※1-6 夕食時に家族で同じものを食べているか

図1-6-1

(Q2で「2人」～「7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

S Q2 あなたは、ふだん夕食などの食事の際に、家族と同じものを食べていますか。次の中から1つだけお選びください。

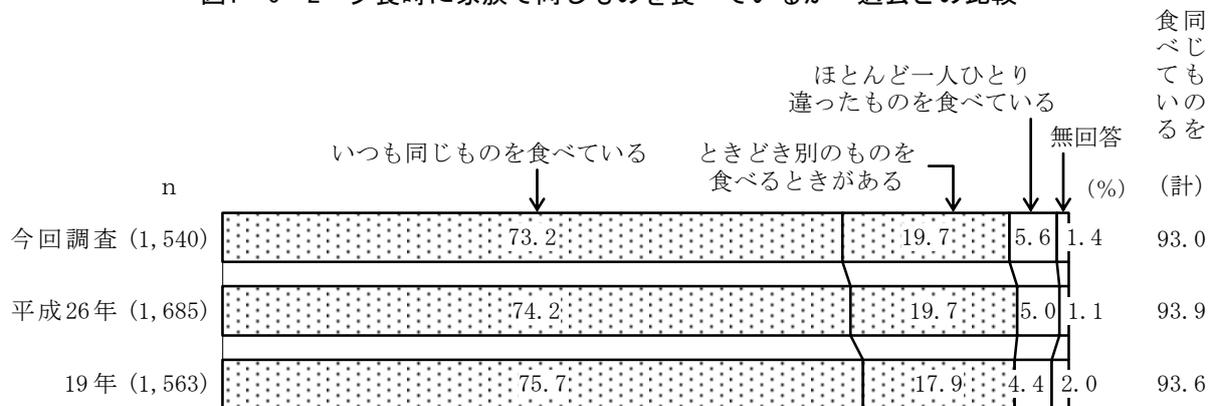


(注) 『同じものを食べている (計)』は「いつも同じものを食べている」と「ときどき別のものを食べる 때가ある」との合計

同居家族のある人 (1,540人) に、食事の際に、家族と同じものを食べているか聞いたところ、『同じものを食べている (計)』は93%、「ほとんど一人ひとり違ったものを食べている」は6%となっている。(図1-6-1)

夕食時に家族で同じものを食べているかを過去との比較で見ると、『同じものを食べている (計)』は平成26年より1ポイント減少している。(図1-6-2)

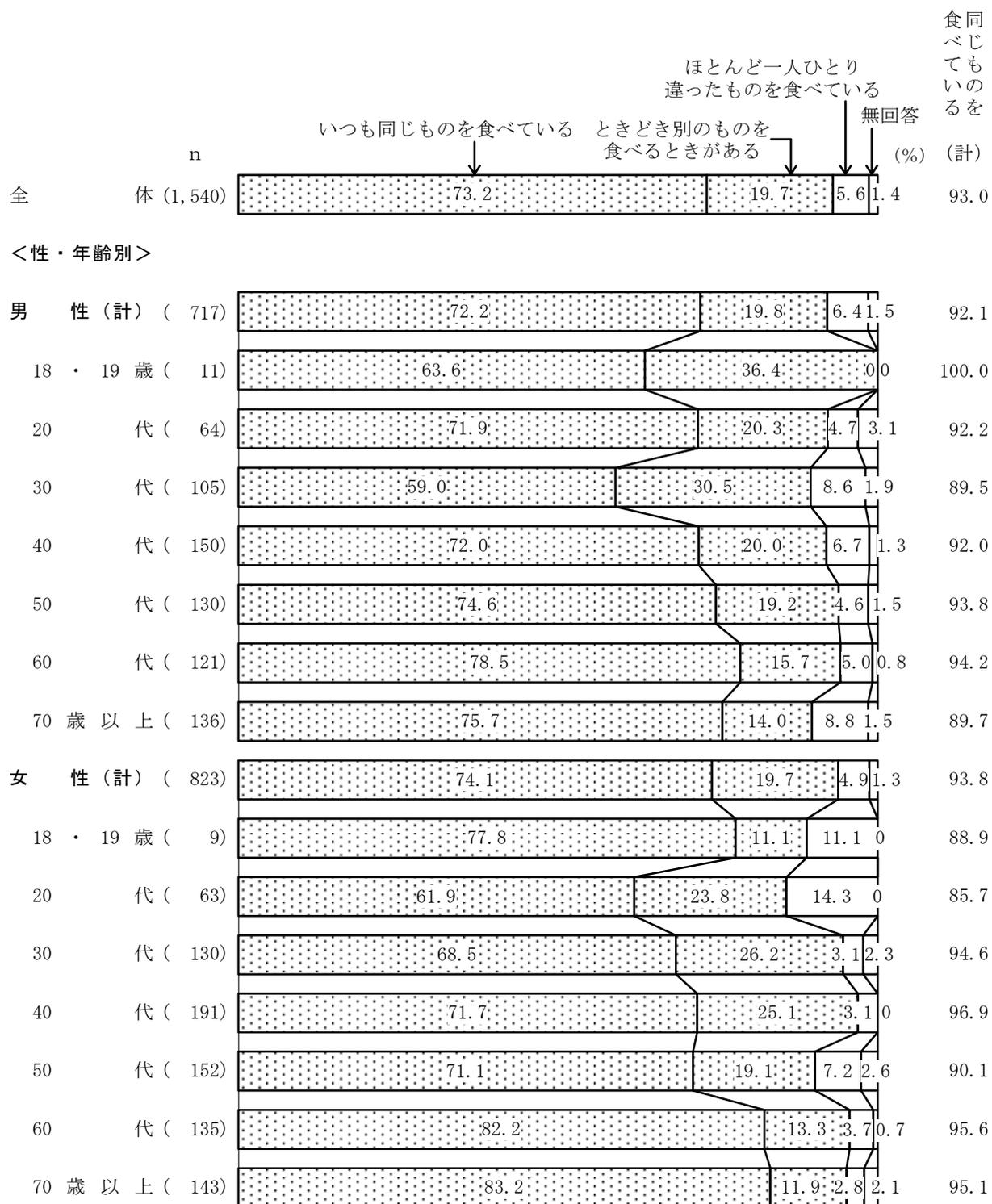
図1-6-2 夕食時に家族で同じものを食べているか—過去との比較



(注) 『同じものを食べている (計)』は「いつも同じものを食べている」と「ときどき別のものを食べる 때가ある」との合計

性・年齢別にみると、『同じものを食べている（計）』は女性40代で10割近くと多くなっている。「いつも同じものを食べている」は女性の60代と70歳以上で8割を超えて多くなっている。一方、「ほとんど一人ひとり違ったものを食べている」は女性20代で1割半ばとなっている。（図1-6-3）

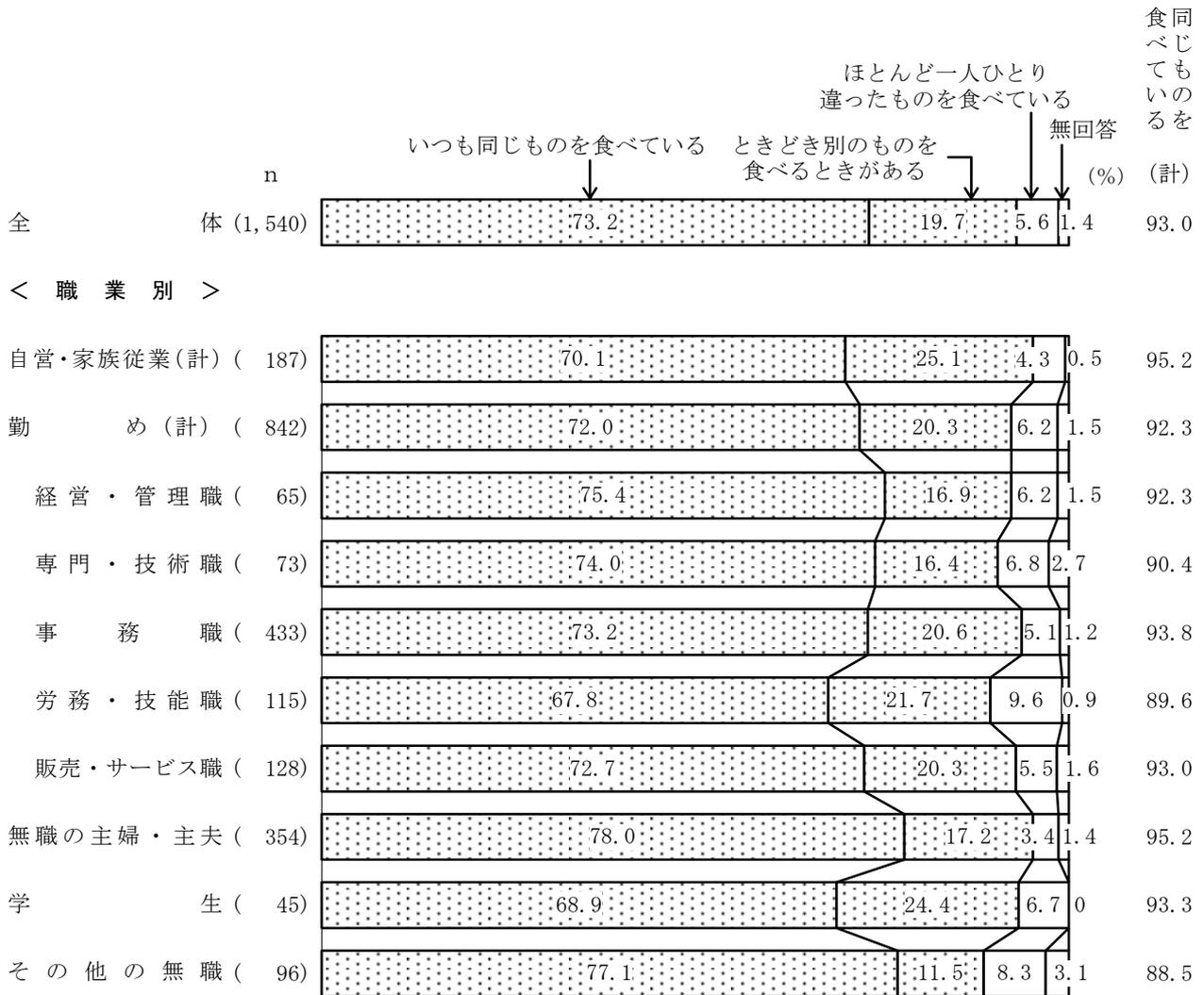
図1-6-3 夕食時に家族で同じものを食べているか—性・年齢別



(注)『同じものを食べている（計）』は「いつも同じものを食べている」と「ときどき別のものを食べるときがある」との合計

職業別にみると、「いつも同じものを食べている」は無職の主婦・主夫で8割近くと多くなっている。  
 (図1-6-4)

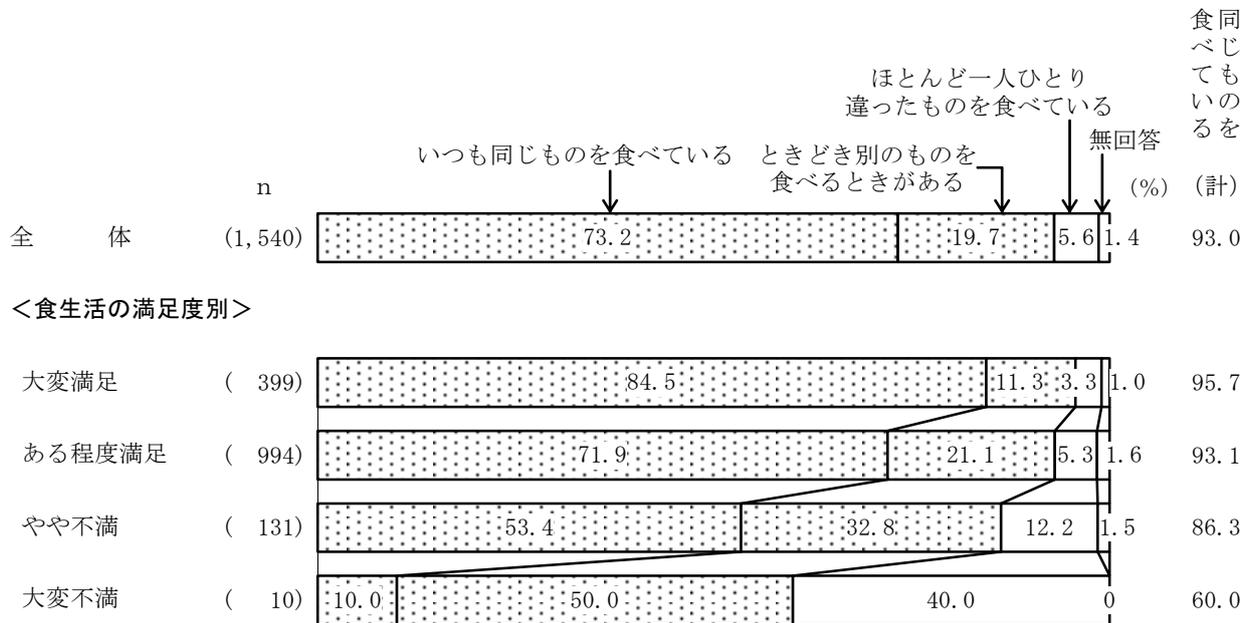
図1-6-4 夕食時に家族で同じものを食べているか—職業別



(注)『同じものを食べている(計)』は「いつも同じものを食べている」と「ときどき別のものを食べる時がある」との合計

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、『同じものを食べている（計）』は食生活の満足度が高くなるほど割合が高くなる傾向があり、特に「いつも同じものを食べている」は“大変満足”で8割半ばとなっている。（図1-6-5）

図1-6-5 夕食時に家族で同じものを食べているか—食生活の満足度別



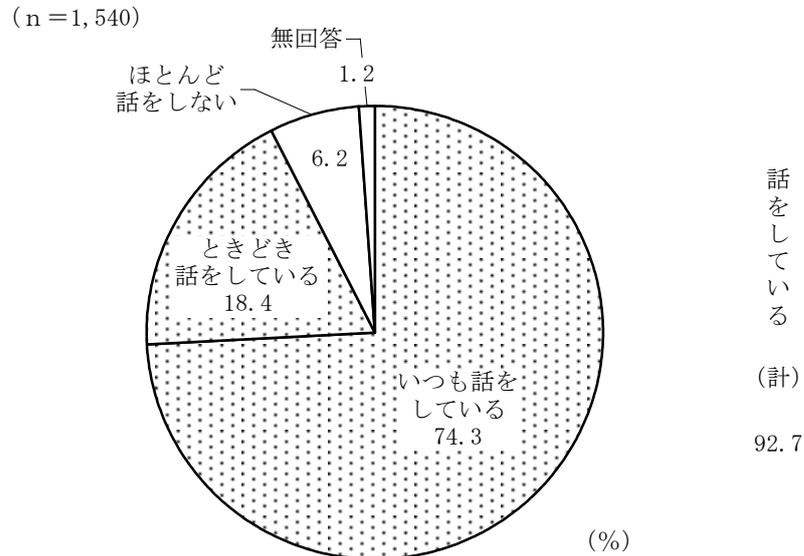
(注) 『同じものを食べている（計）』は「いつも同じものを食べている」と「ときどき別のものを食べる時がある」との合計

※1-7 夕食時の会話の状況

図1-7-1

(Q2で「2人」～「7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

S Q3 あなたは、ふだん夕食などの食事の際に、家族と会話をしていますか。次の中から1つだけお選びください。



(注)『話をしている (計)』は「いつも話している」と「ときどき話している」との合計

同居家族のある人 (1,540人) に、食事の際に、家族と会話をしているか聞いたところ、『話をしている (計)』は93%、「ほとんど話をしない」は6%となっている。(図1-7-1)

夕食時の会話の状況を過去との比較で見ると、平成26年と比べて大きな違いはみられない。

(図1-7-2)

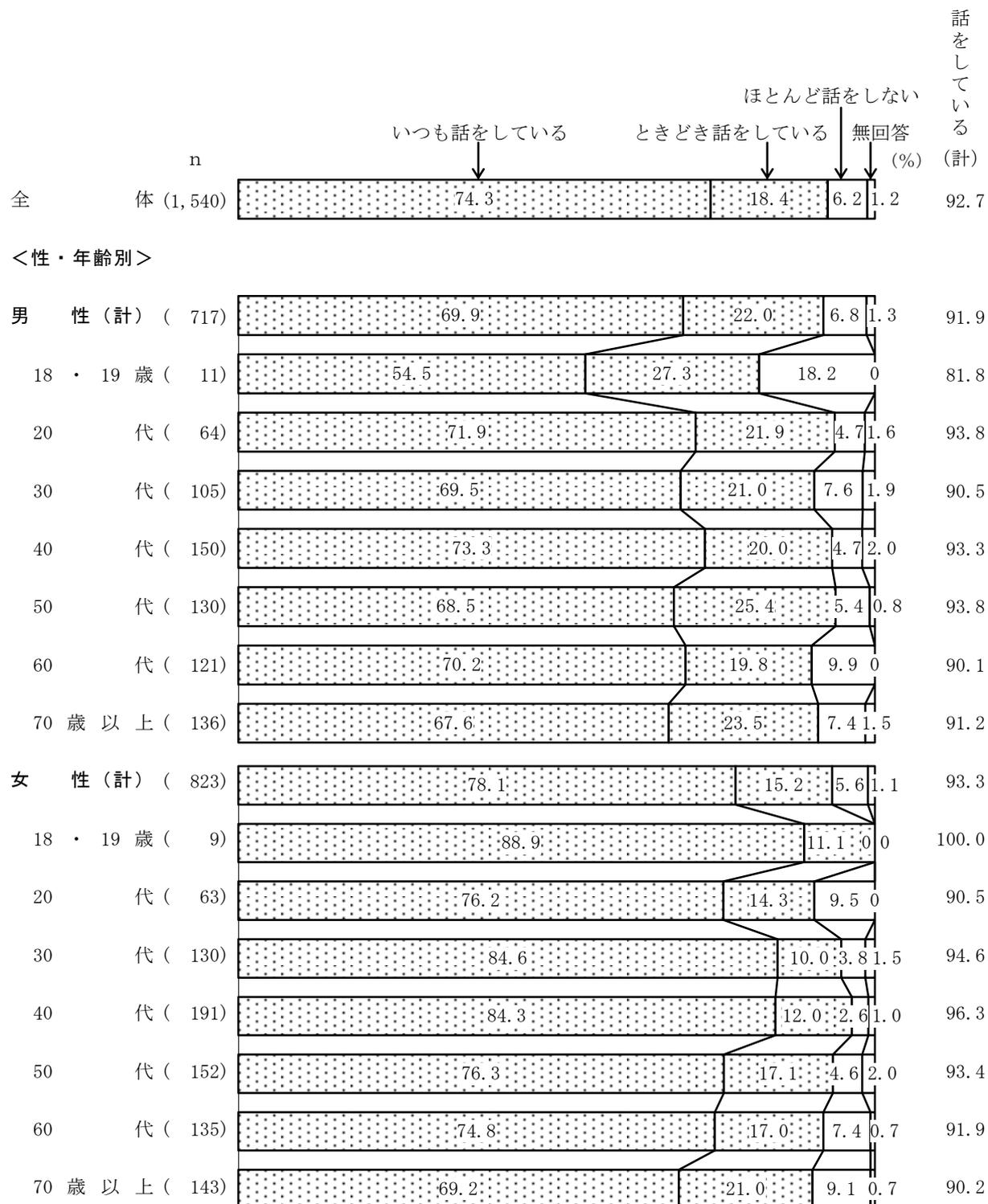
図1-7-2 夕食時の会話の状況—過去との比較



(注)『話をしている (計)』は「いつも話している」と「ときどき話している」との合計

性・年齢別にみると、「いつも話をしている」は女性が男性より8ポイント高くなっており、女性の30代と40代で8割半ばと多くなっている。(図1-7-3)

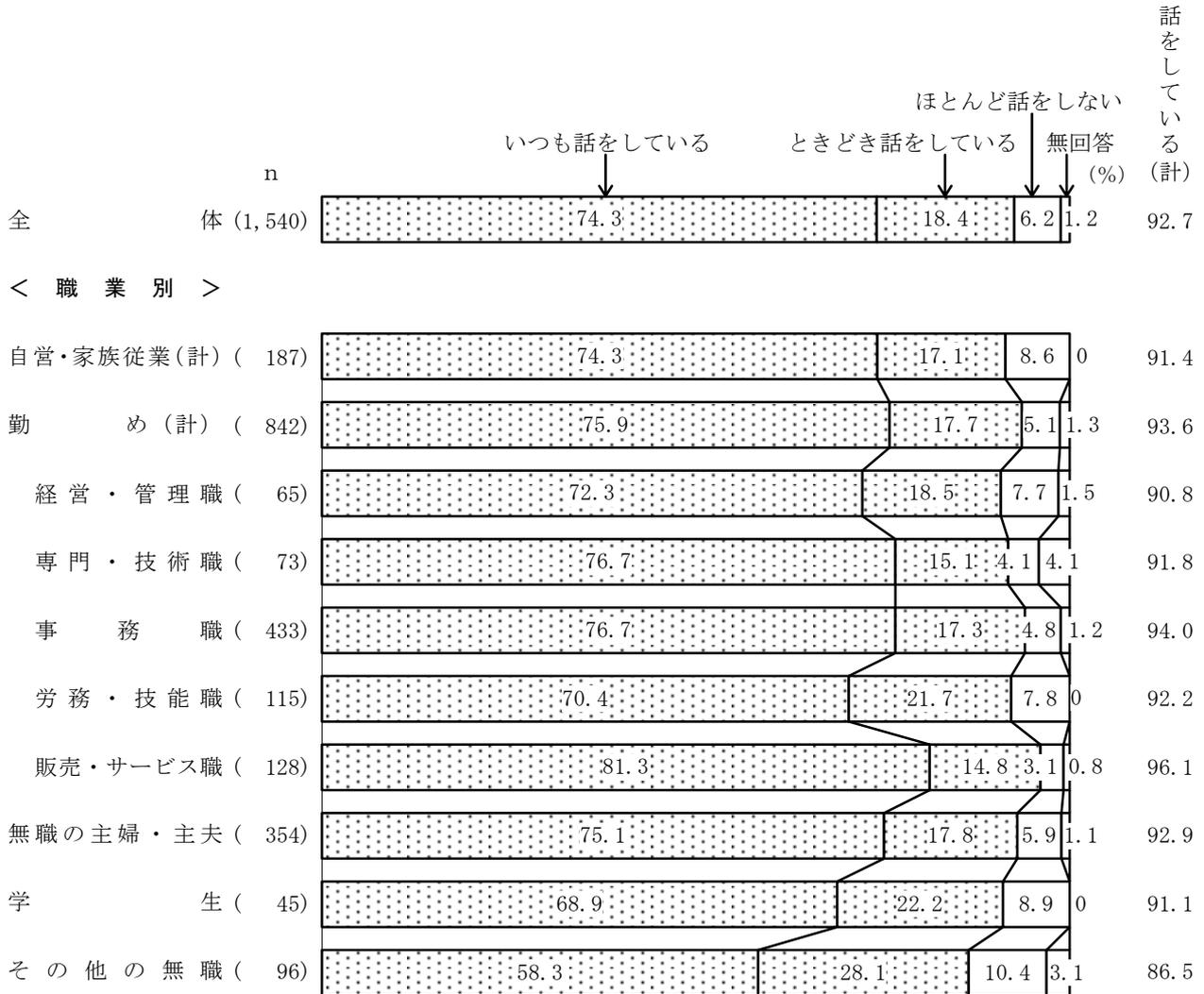
図1-7-3 夕食時の会話の状況－性・年齢別



(注)『話をしている (計)』は「いつも話をしている」と「ときどき話をしている」との合計

職業別にみると、「いつも話をしている」はその他の無職で6割未満となっている。(図1-7-4)

図1-7-4 夕食時の会話の状況－職業別

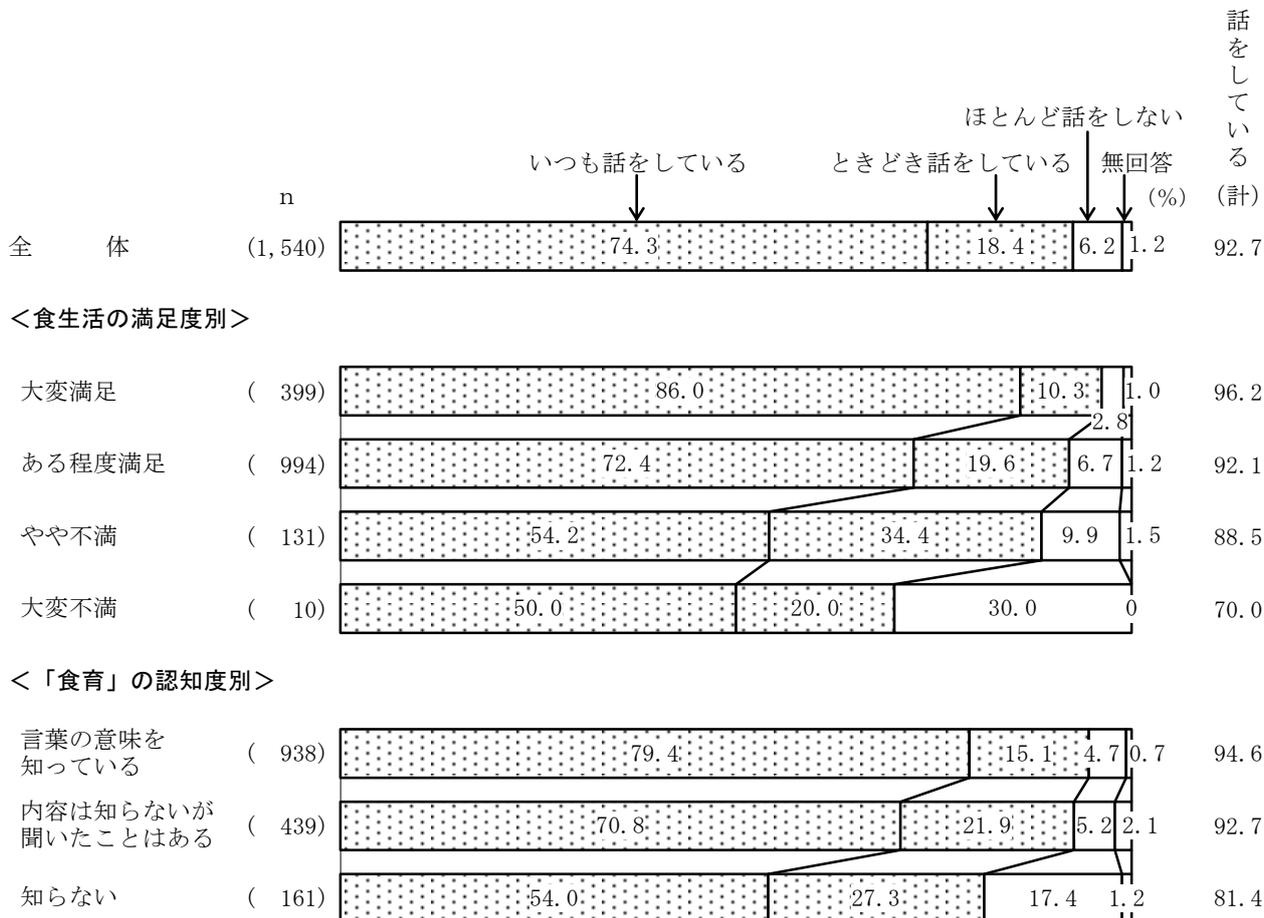


(注)『話をしている(計)』は「いつも話をしている」と「ときどき話をしている」との合計

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、『話をしている（計）』は食生活の満足度が高くなるほど割合が高くなる傾向があり、特に「いつも話をしている」は“大変満足”で8割半ばとなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『話をしている（計）』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高くなる傾向があり、特に「いつも話をしている」は“言葉の意味を知っている”で約8割となっている。（図1-7-5）

図1-7-5 夕食時の会話の状況－食生活の満足度別、「食育」の認知度別



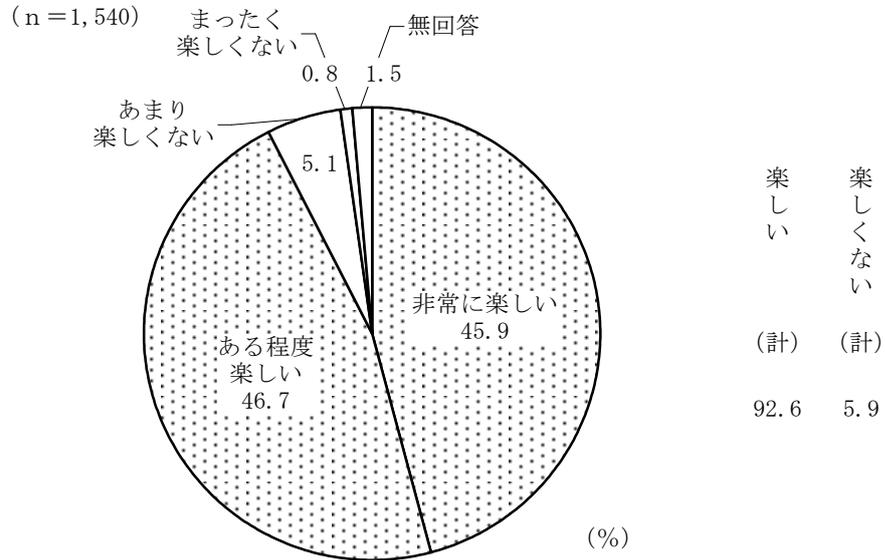
(注)『話をしている（計）』は「いつも話をしている」と「ときどき話をしている」との合計

※1-8 家族と一緒に食事が楽しいか

図1-8-1

(Q2で「2人」～「7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

S Q4 あなたは、家族と一緒に食事をすることが楽しいですか。次の中から1つだけお選びください。

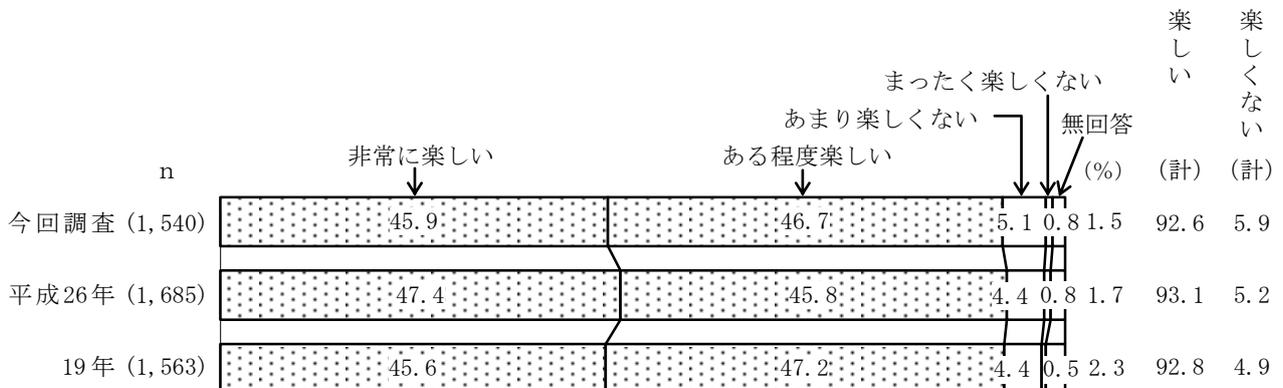


(注) 『楽しい (計)』は「非常に楽しい」と「ある程度楽しい」との合計  
『楽しくない (計)』は「あまり楽しくない」と「まったく楽しくない」との合計

同居家族のある人(1,540人)に、家族と一緒に食事をすることが楽しいか聞いたところ、『楽しい(計)』は93%、『楽しくない(計)』は6%となっている。(図1-8-1)

家族と一緒に食事が楽しいかを過去との比較でみると、『楽しい(計)』は平成26年より1ポイント減少している。(図1-8-2)

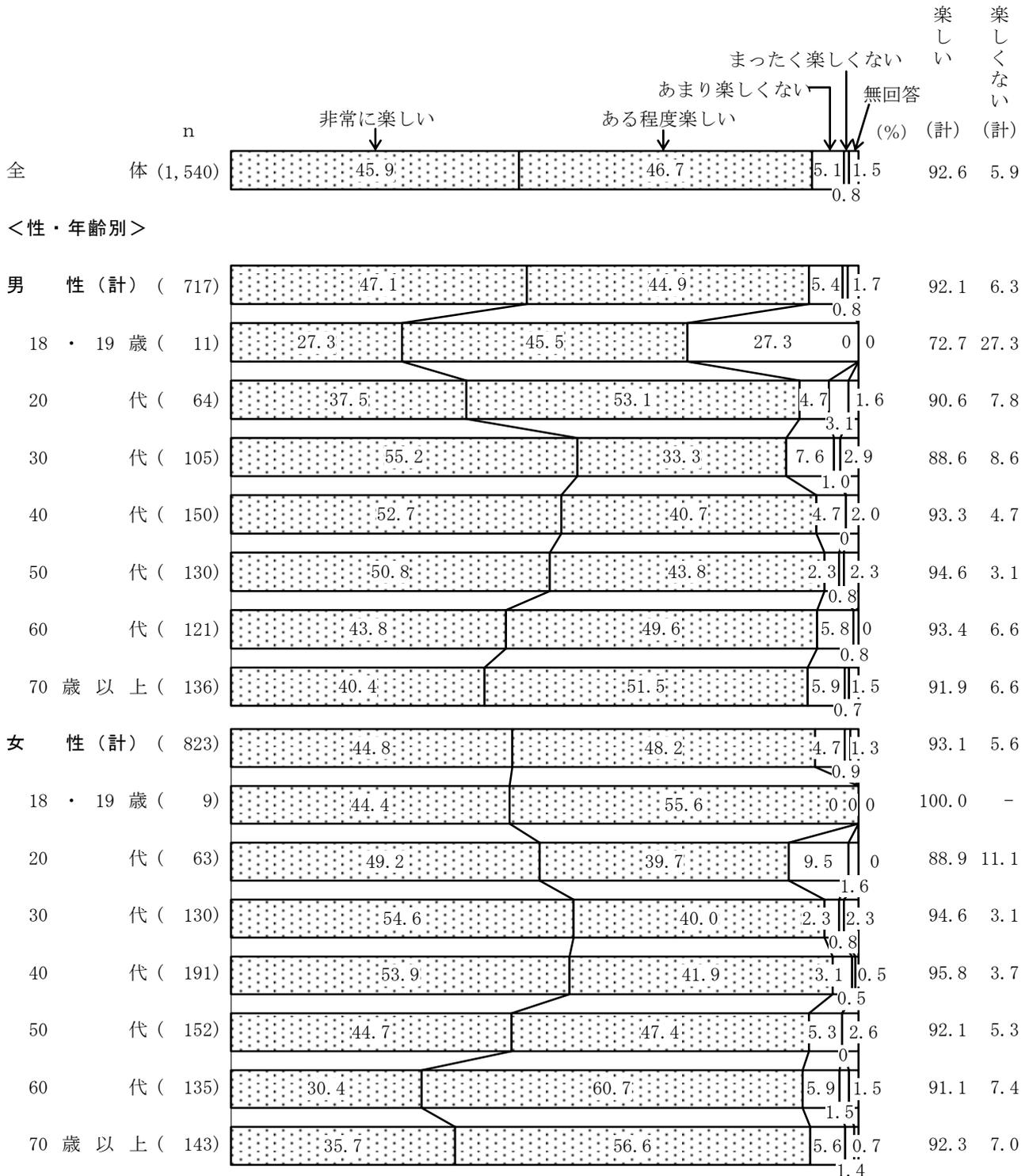
図1-8-2 家族と一緒に食事が楽しいかー過去との比較



(注) 『楽しい (計)』は「非常に楽しい」と「ある程度楽しい」との合計  
『楽しくない (計)』は「あまり楽しくない」と「まったく楽しくない」との合計

性・年齢別にみると、「非常に楽しい」は女性の30代と40代で5割半ばと多くなっている一方で、女性の60代と70歳以上では3割台と少なくなっている。(図1-8-3)

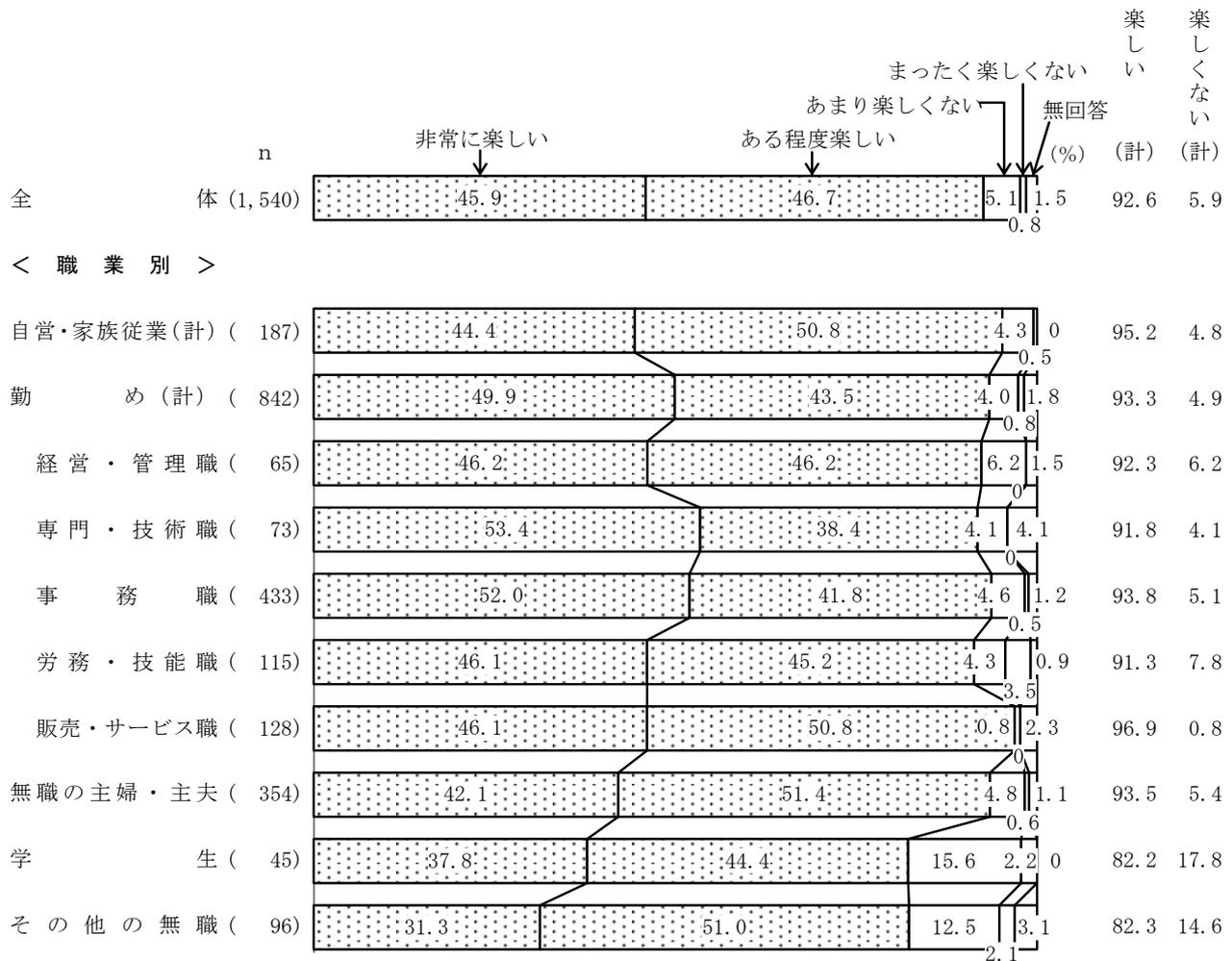
図1-8-3 家族と一緒に食事が楽しいかー性・年齢別



(注)『楽しい (計)』は「非常に楽しい」と「ある程度楽しい」との合計  
『楽しくない (計)』は「あまり楽しくない」と「まったく楽しくない」との合計

職業別にみると、「非常に楽しい」は事務職で5割を超えて多くなっている。一方、『楽しくない(計)』は学生で2割近く、その他の無職で1割半ばとなっている。(図1-8-4)

図1-8-4 家族と一緒に食事が楽しいか—職業別



(注)『楽しい(計)』は「非常に楽しい」と「ある程度楽しい」との合計

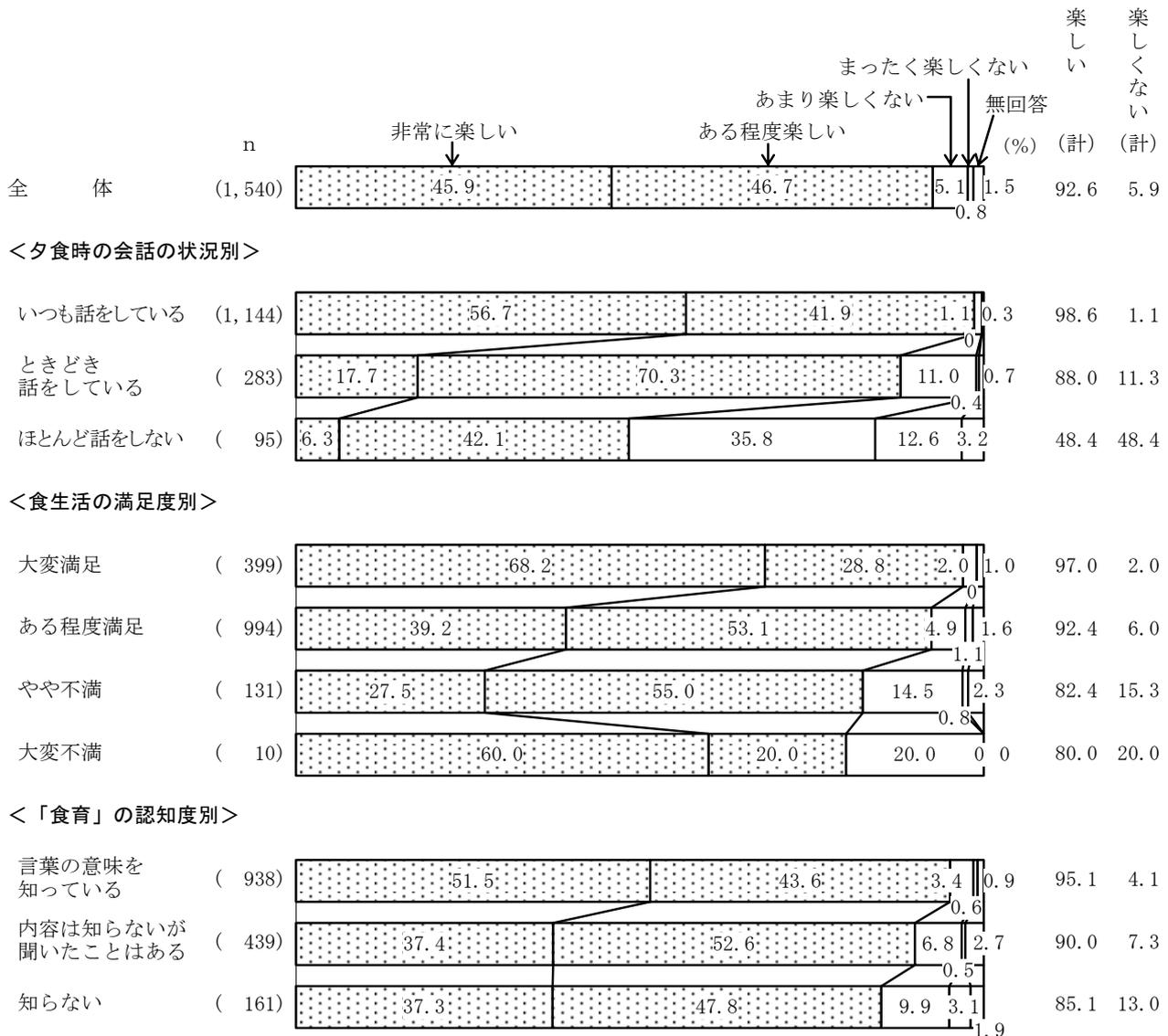
『楽しくない(計)』は「あまり楽しくない」と「まったく楽しくない」との合計

夕食時の会話の状況別 (Q2 SQ3 P27) にみると、『楽しい (計)』は会話をする頻度が高くなるほど割合が高く、“いつも話をしている”で10割近くとなっている。一方、『楽しくない (計)』は会話をする頻度が低くなるほど割合が高く、“ほとんど話をしない”で5割近くとなっている。

食生活の満足度別 (Q13 P94) にみると、『楽しい (計)』は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で10割近くとなっている。

「食育」の認知度別 (Q19 P121) にみると、『楽しい (計)』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で9割半ばとなっている。(図1-8-5)

図1-8-5 家族と一緒に食事が楽しいかー夕食時の会話の状況別、食生活の満足度別、「食育」の認知度別



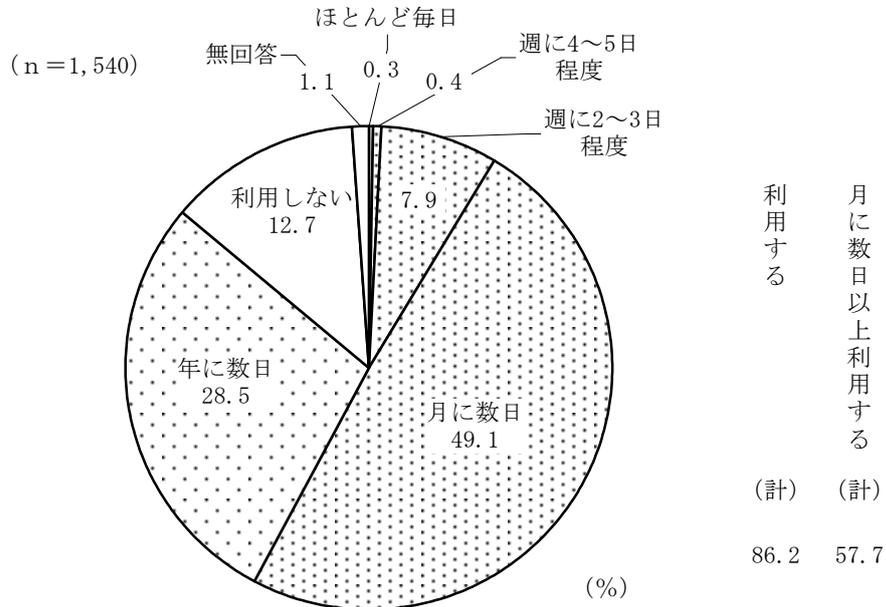
(注) 『楽しい (計)』は「非常に楽しい」と「ある程度楽しい」との合計  
『楽しくない (計)』は「あまり楽しくない」と「まったく楽しくない」との合計

※1-9 家族での外食の利用頻度

図1-9-1

(Q2で「2人」～「7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

S Q5 あなたは、家族と一緒に夕食の際に、どのくらいの頻度でレストランや食堂など外で食事をしていますか。次の中から1つだけお選びください。

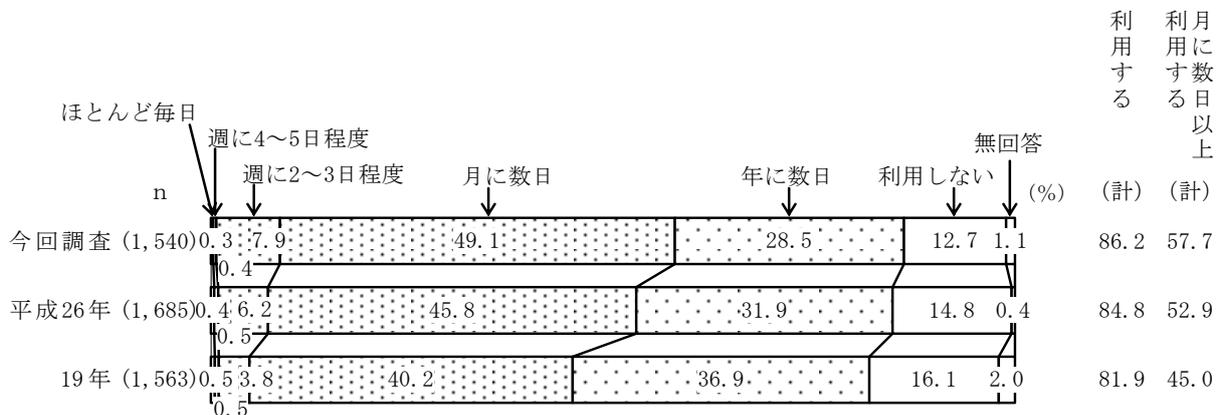


(注) 『利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」、「年に数日」の合計  
『月に数日以上利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」の合計

同居家族のある人 (1,540人) に、家族と一緒に夕食の際に、どのくらいの頻度で外食をしているか聞いたところ、『月に数日以上利用する (計)』は58%、『利用する (計)』は86%となっている。一方、「利用しない」は13%となっている。(図1-9-1)

家族での外食の利用頻度を過去との比較でみると、『月に数日以上利用する (計)』は平成26年より5ポイント増加している。一方、「利用しない」は平成26年より2ポイント減少している。(図1-9-2)

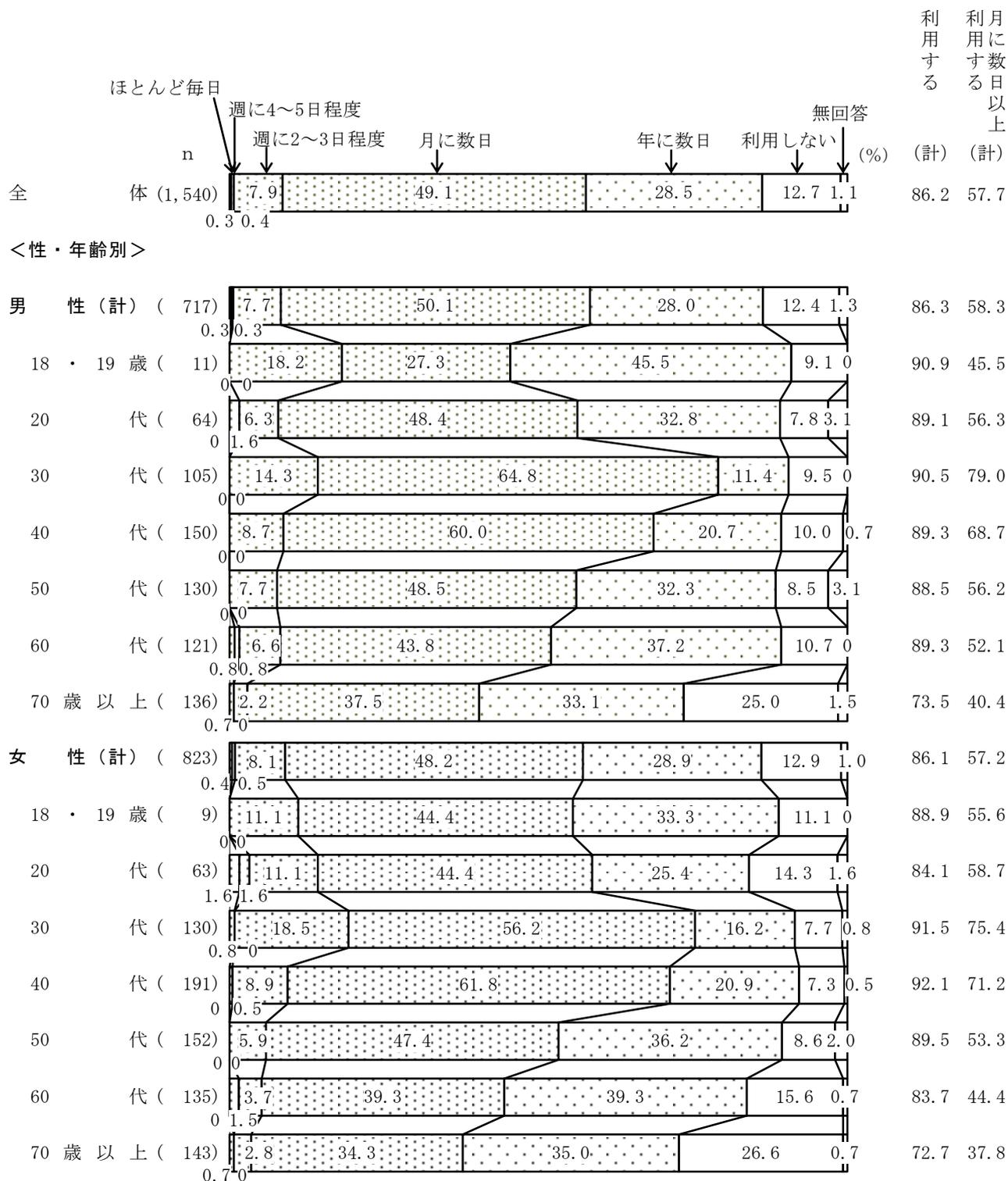
図1-9-2 家族での外食の利用頻度—過去との比較



(注) 『利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」、「年に数日」の合計  
『月に数日以上利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」の合計

性・年齢別にみると、『月に数日以上利用する（計）』は男性30代、女性の30代と40代で7割台、男性40代で7割近くと多くなっている。一方、「利用しない」は男女ともに70歳以上で2割台半ばとなっている。（図1-9-3）

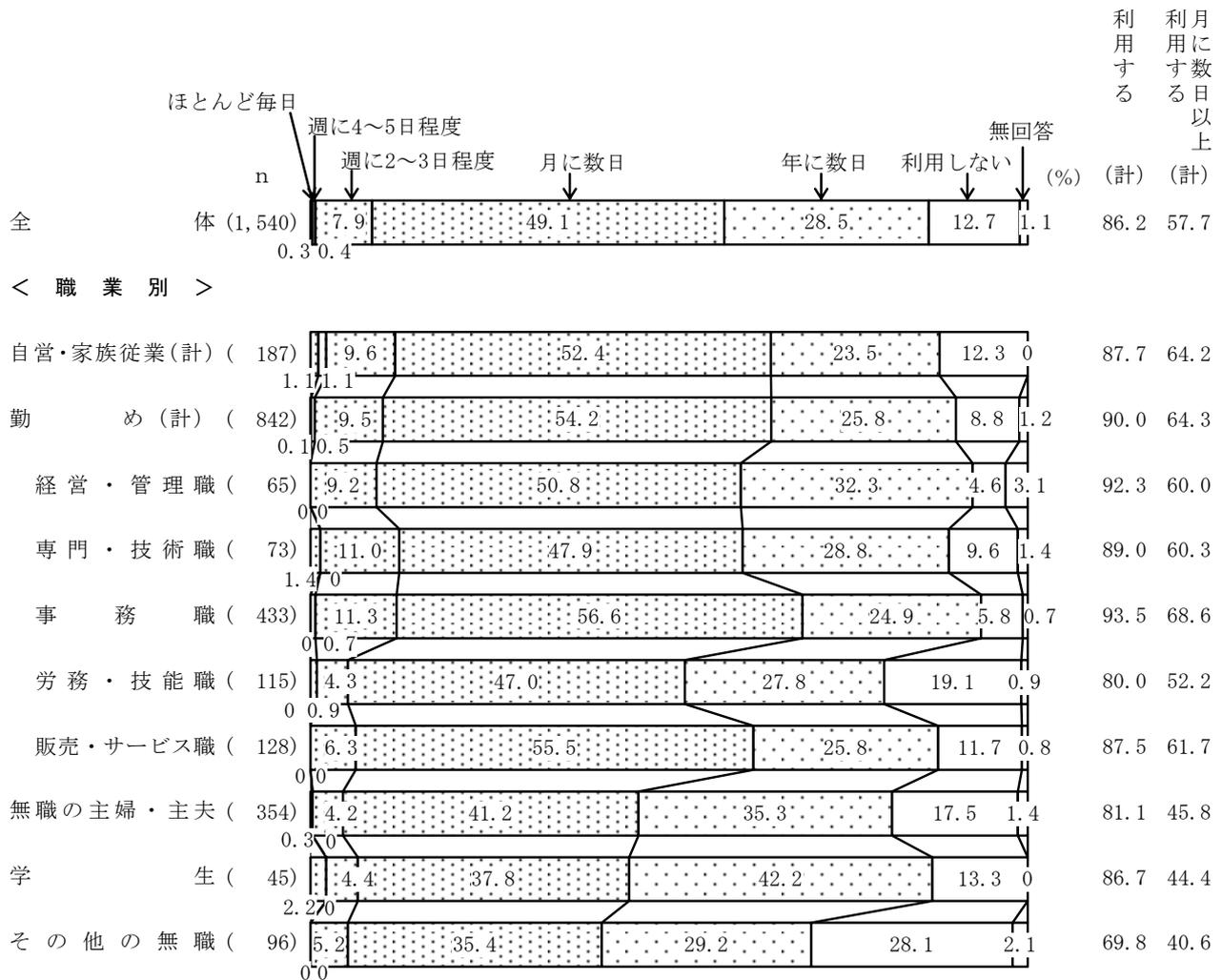
図1-9-3 家族での外食の利用頻度－性・年齢別



(注) 『利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」、「年に数日」の合計  
『月に数日以上利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」の合計

職業別にみると、『利用する（計）』は事務職で9割台半ばと多くなっている。一方、「利用しない」はその他の無職で3割近くと多くなっている。（図1-9-4）

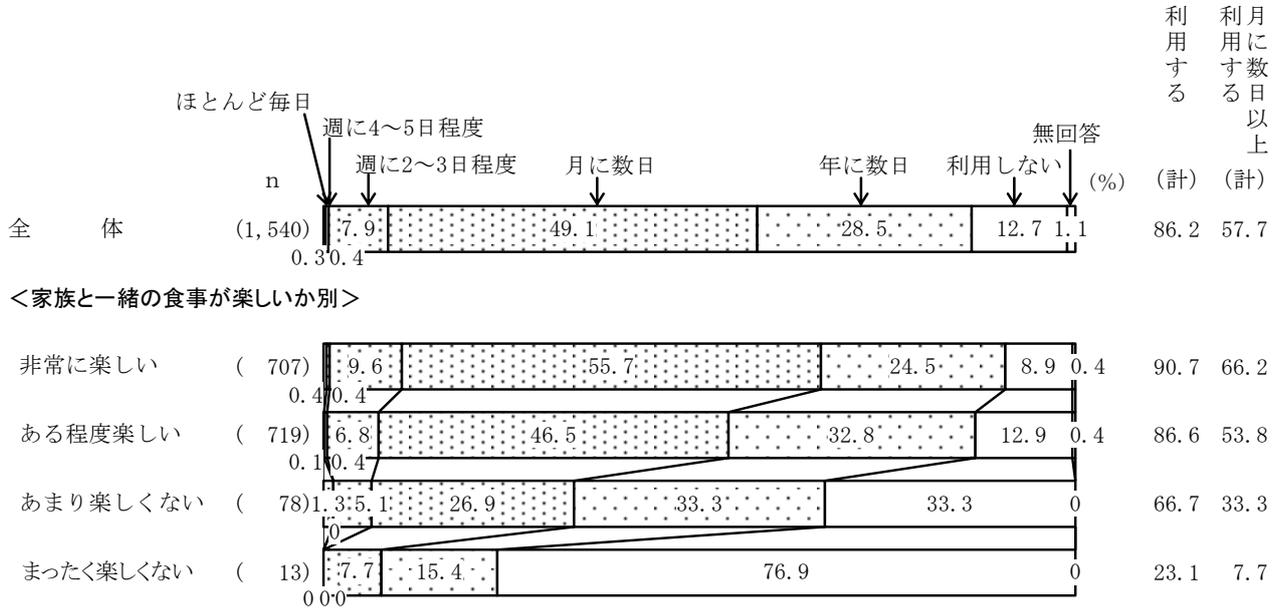
図1-9-4 家族での外食の利用頻度－職業別



(注) 『利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」、「年に数日」の合計  
『月に数日以上利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」の合計

家族と一緒に食事が楽しいか別（Q2 SQ4 P31）にみると、『利用する（計）』は楽しく感じるほど割合が高く、“非常に楽しい”で9割を超えている。一方、「利用しない」は楽しく感じないほど割合が高くなっている。（図1-9-5）

図1-9-5 家族での外食の利用頻度－家族と一緒に食事が楽しいか別



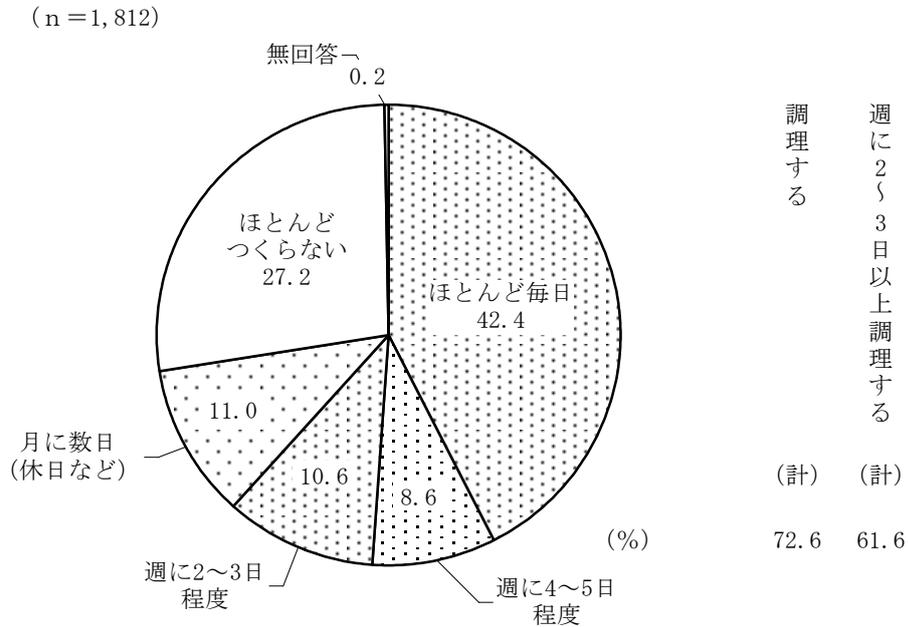
(注) 『利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」、「年に数日」の合計  
『月に数日以上利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」の合計

※1-10 調理の頻度

図1-10-1

(全員に)

Q3 あなたは、ふだん、どのくらい自分で料理をつくりませんか。目玉焼きなどの簡単な料理を含めて、次の中から1つだけお答えください。



(注) 『調理する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日(休日など)」の合計  
『週に2~3日以上調理する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

調理の頻度を聞いたところ、『週に2~3日以上調理する (計)』は62%、『調理する (計)』は73%となっている。一方、「ほとんどつくらない」は27%となっている。(図1-10-1)

調理の頻度を過去との比較でみると、『週に2~3日以上調理する (計)』は平成26年より2ポイント減少している。(図1-10-2)

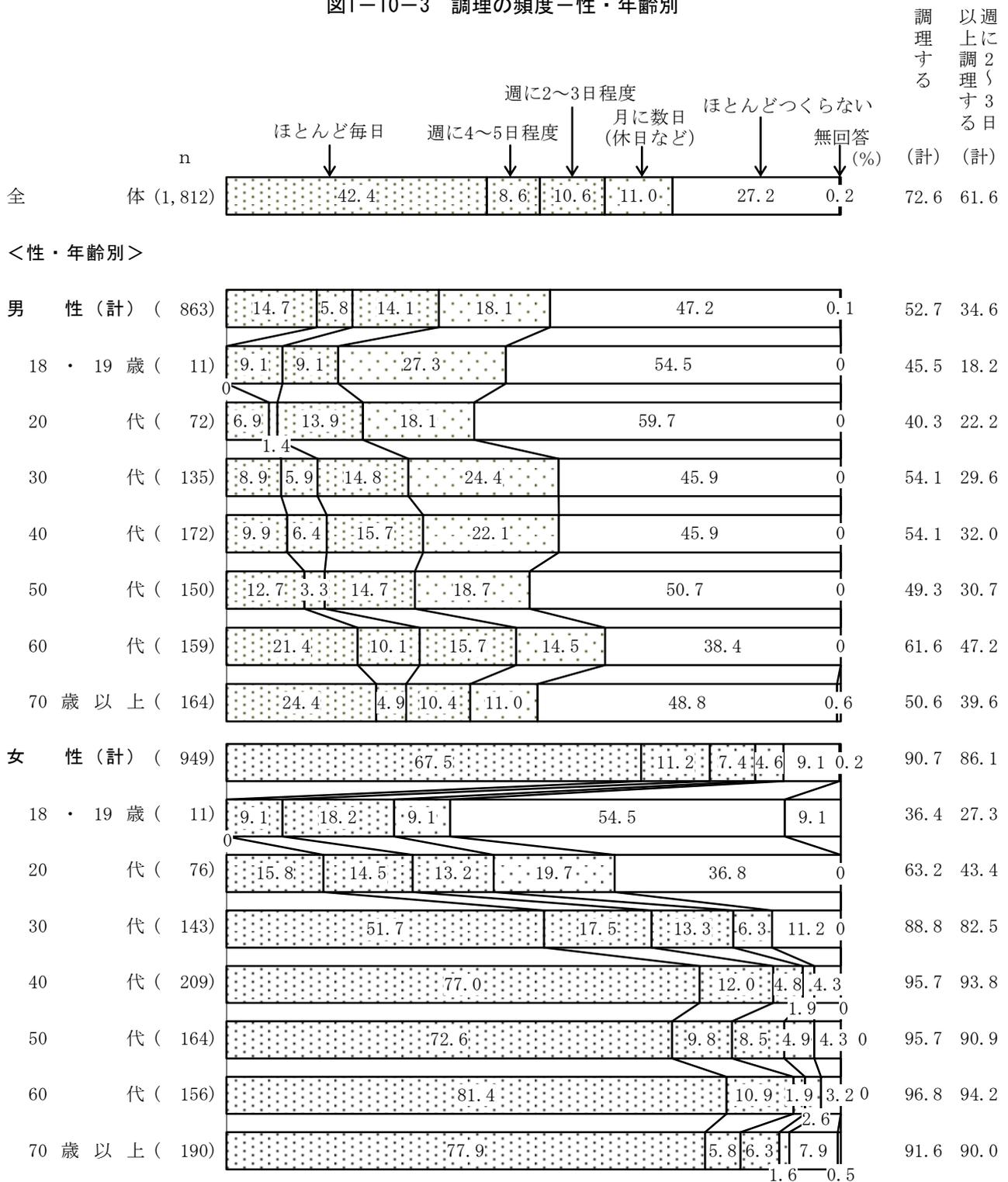
図1-10-2 調理の頻度—過去との比較



(注) 『調理する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日(休日など)」の合計  
『週に2~3日以上調理する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

性・年齢別にみると、『週に2～3日以上調理する（計）』は女性が男性より52ポイント高く、女性の40代以上の年代で9割以上と多くなっている。『調理する（計）』は女性が男性より38ポイント高く、女性の30代以上の年代で9割近くかそれ以上と多くなっている。一方、「ほとんどつくらない」は男性が女性より38ポイント高くなっており、男性20代で約6割と多くなっている。（図1-10-3）

図1-10-3 調理の頻度－性・年齢別

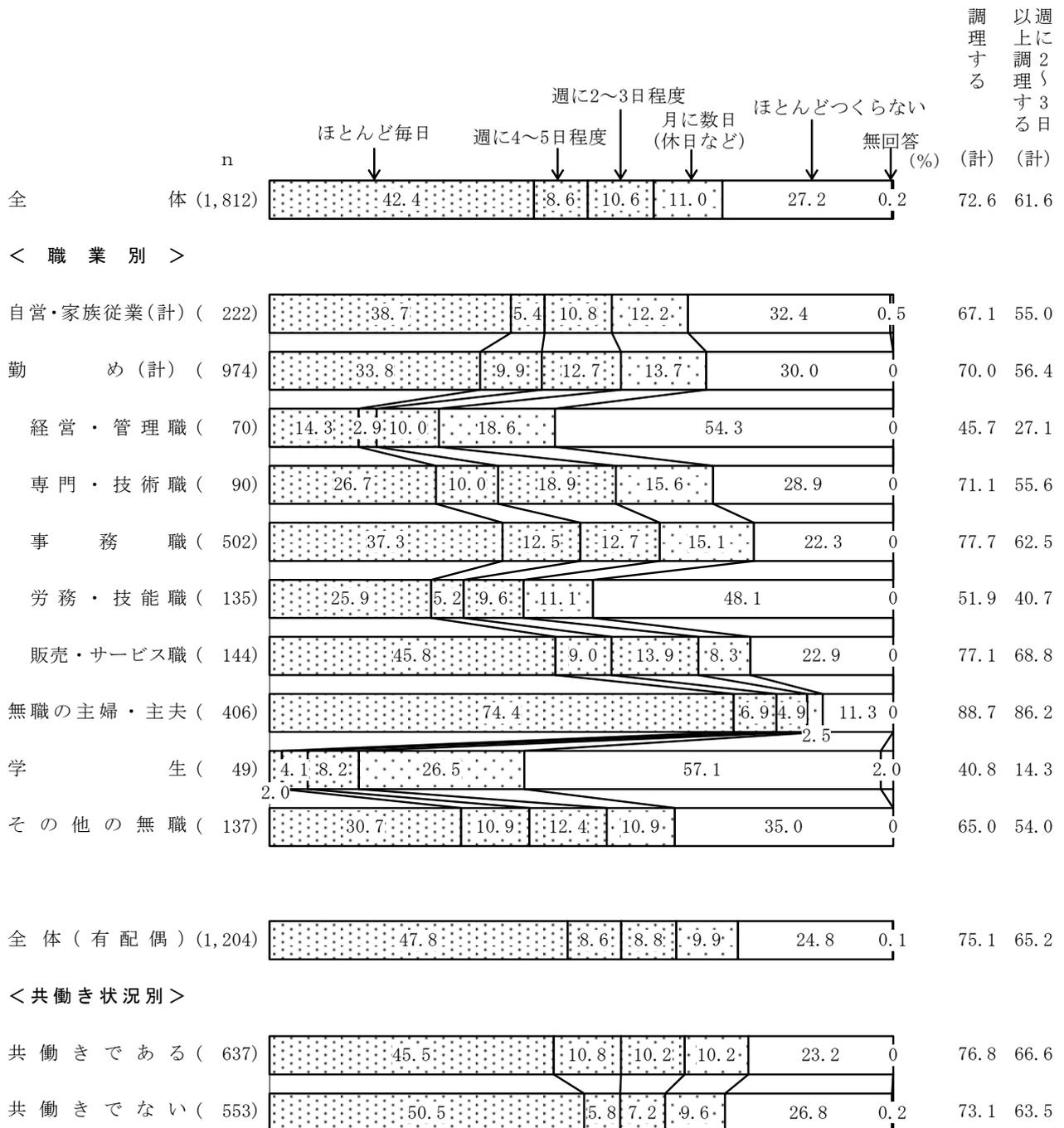


(注) 『調理する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日（休日など）」の合計  
『週に2～3日以上調理する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」の合計

職業別にみると、無職の主婦・主夫で『週に2～3日以上調理する（計）』は8割半ば、『調理する（計）』は9割近くと多くなっている。一方、「ほとんどつぐらない」は学生と経営・管理職で5割台と多くなっている。

共働き状況別にみると、大きな差はみられない。（図1-10-4）

図1-10-4 調理の頻度—職業別、共働き状況別



(注) 『調理する(計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日(休日など)」の合計  
『週に2～3日以上調理する(計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」の合計

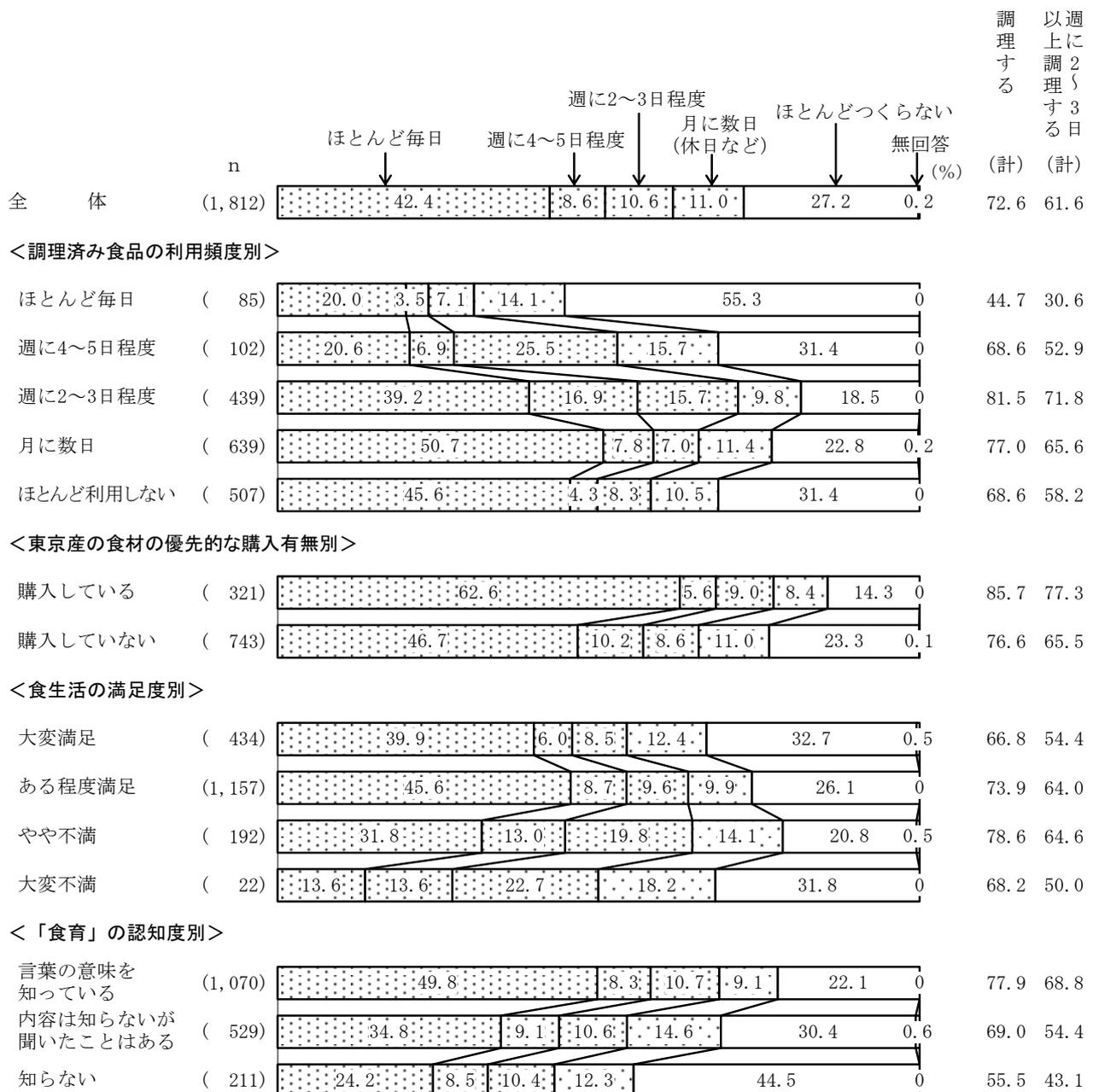
調理済み食品の利用頻度別（Q4 P43）にみると、『調理する（計）』は“週に2～3日程度”と“月に数日”で8割前後と多くなっている。

東京産の食材の優先的な購入有無別（Q7 SQ1 P64）にみると、『調理する（計）』は“購入している”で8割半ばと多くなっている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「ほとんど毎日」は“ある程度満足”で4割半ばと多くなっている。一方、「ほとんどつぐらない」は“大変満足”で3割を超えて多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『調理する（計）』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で8割近くと多くなっている。（図1-10-5）

図1-10-5 調理の頻度－調理済み食品の利用頻度別、東京産の食材の優先的な購入有無別、食生活の満足度別、「食育」の認知度別



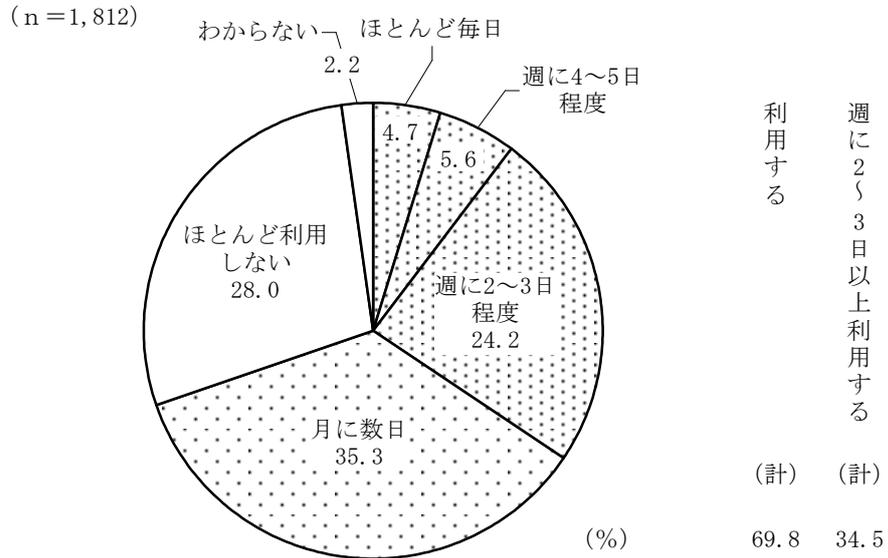
（注）『調理する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日（休日など）」の合計  
『週に2～3日以上調理する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」の合計

※1-11 調理済み食品の利用頻度

図1-11-1

(全員に)

Q4 あなたは、夕食で調理済み(できあい)の惣菜や弁当をどのくらいの頻度で利用していますか。次の中から1つだけお答えください。

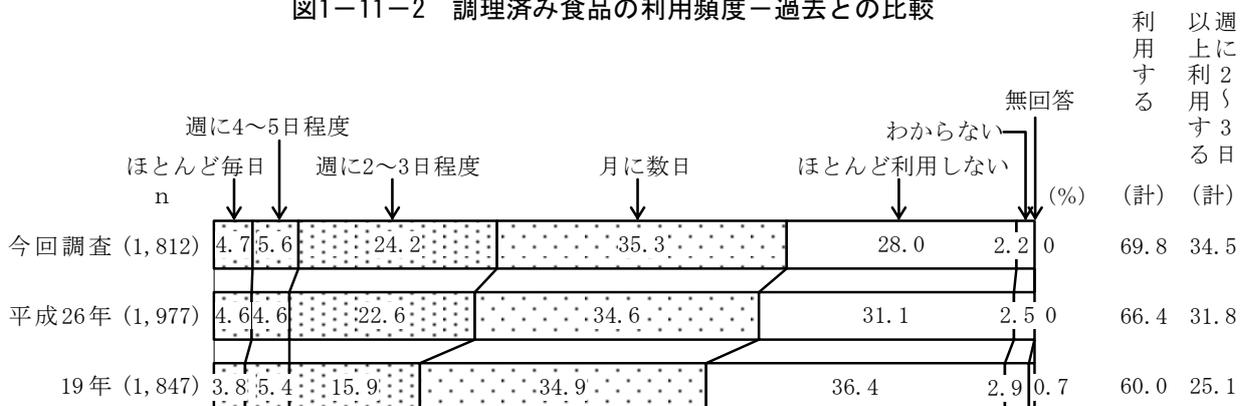


(注) 『利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」の合計  
『週に2~3日以上利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

夕食での調理済み食品の利用頻度を聞いたところ、『週に2~3日以上利用する (計)』は35%、『利用する (計)』は70%となっている。一方、「ほとんど利用しない」は28%となっている。(図1-11-1)

調理済み食品の利用頻度を過去との比較でみると、『週に2~3日以上利用する (計)』は3ポイント、『利用する (計)』は3ポイント、それぞれ平成26年より増加している。(図1-11-2)

図1-11-2 調理済み食品の利用頻度—過去との比較

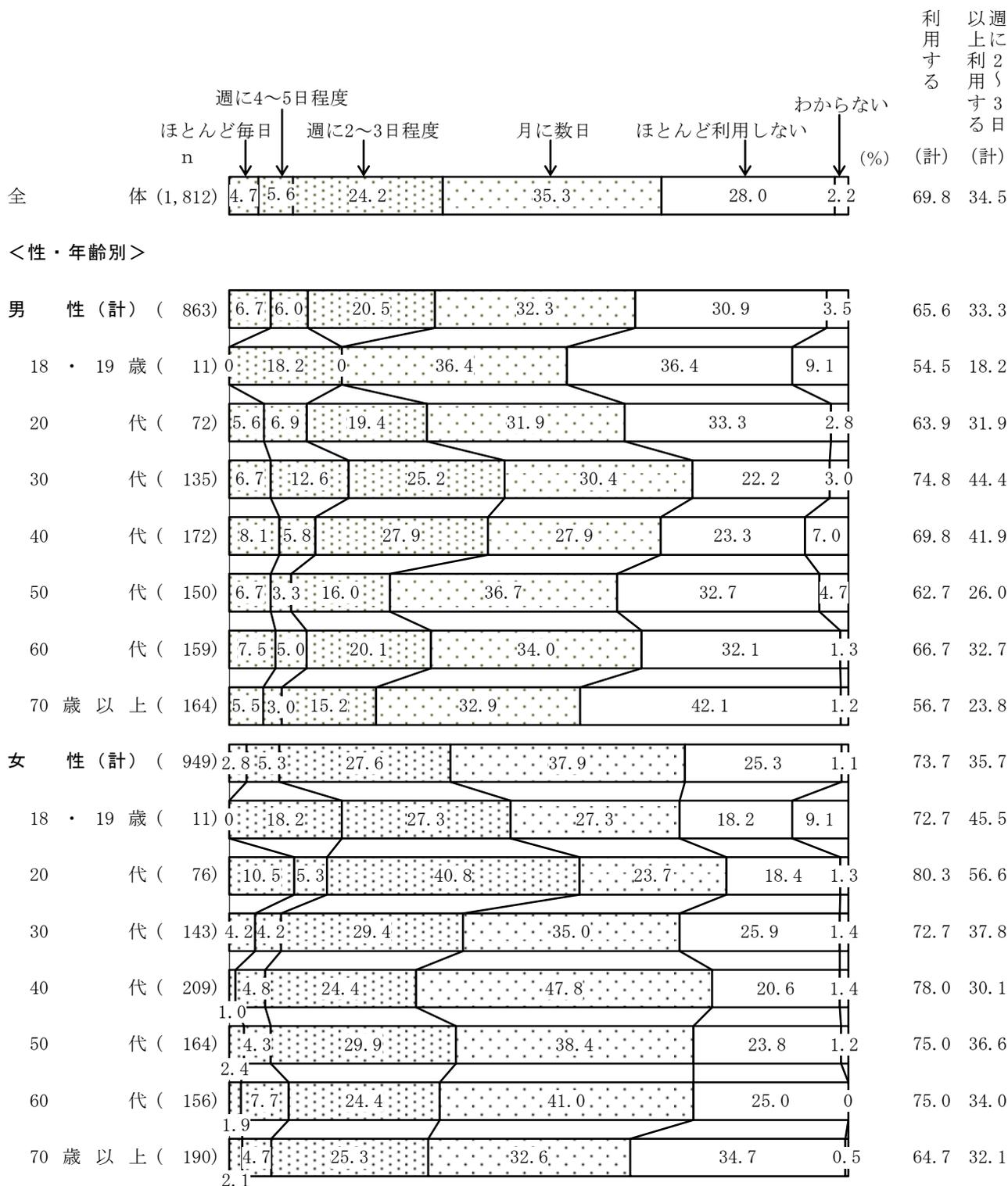


(注) 『利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」の合計  
『週に2~3日以上利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

性・年齢別にみると、『利用する（計）』は女性が男性より8ポイント高くなっており、女性の20代と40代で8割前後と多くなっている。一方、「ほとんど利用しない」は男性70歳以上で4割を超えている。

(図1-11-3)

図1-11-3 調理済み食品の利用頻度－性・年齢別



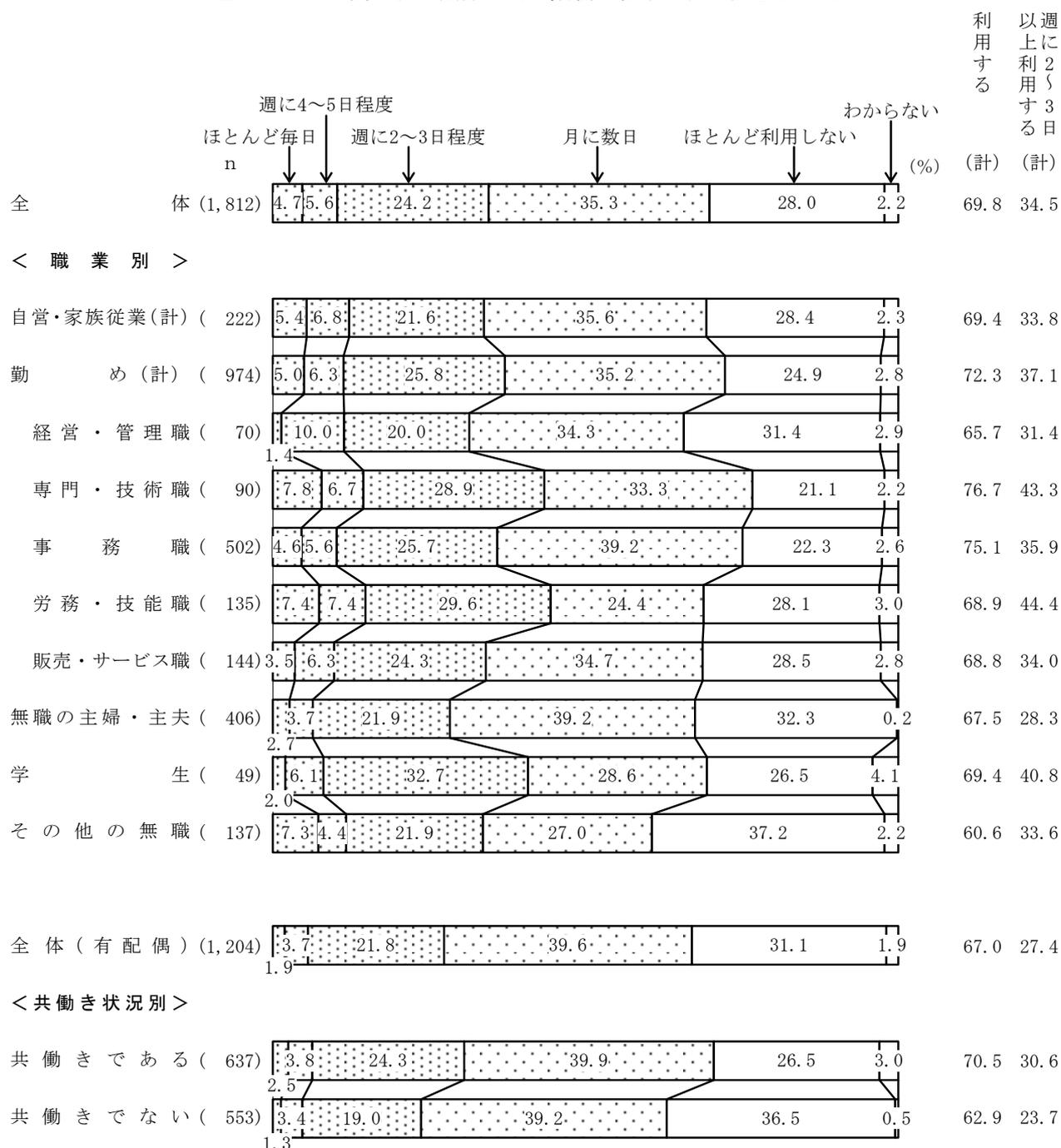
(注) 『利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」の合計  
『週に2~3日以上利用する（計）』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

職業別にみると、『利用する（計）』は事務職と専門・技術職で7割半ばと多くなっている。一方、「ほとんど利用しない」はその他の無職で4割近くと多くなっている。

共働き状況別にみると、「ほとんど利用しない」は“共働きでない”で4割近くと多くなっている。

(図1-11-4)

図1-11-4 調理済み食品の利用頻度－職業別、共働き状況別

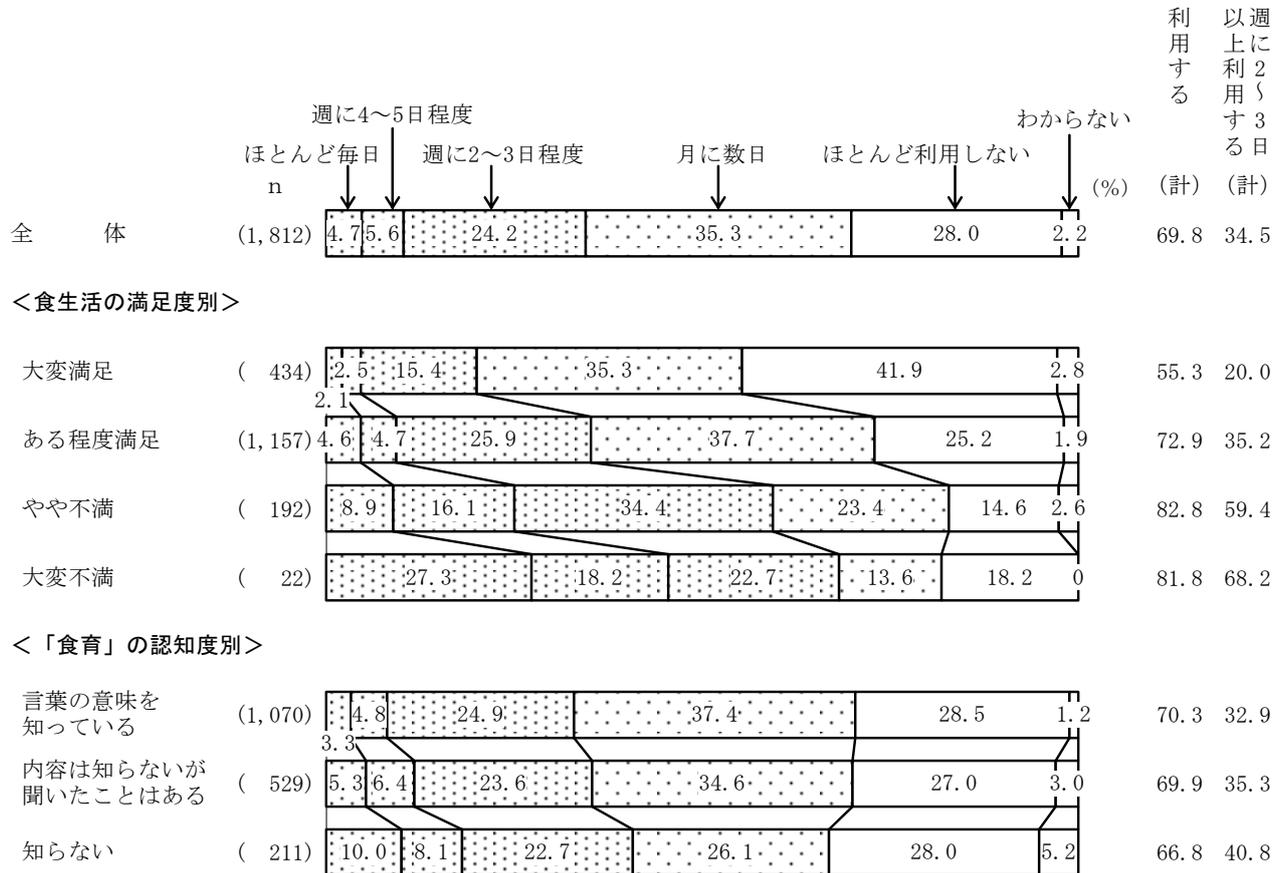


(注) 『利用する(計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」、「月に数日」の合計  
『週に2~3日以上利用する(計)』は「ほとんど毎日」、「週に4~5日程度」、「週に2~3日程度」の合計

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、『週に2～3日以上利用する（計）』は食生活の満足度が低くなるほど割合が高くなっている。一方、「ほとんど利用しない」は“大変満足”で4割を超えて多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「ほとんど毎日」は“知らない”で約1割となっている。（図1-11-5）

図1-11-5 調理済み食品の利用頻度－食生活の満足度別、「食育」の認知度別



(注) 『利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」、「月に数日」の合計  
『週に2～3日以上利用する (計)』は「ほとんど毎日」、「週に4～5日程度」、「週に2～3日程度」の合計

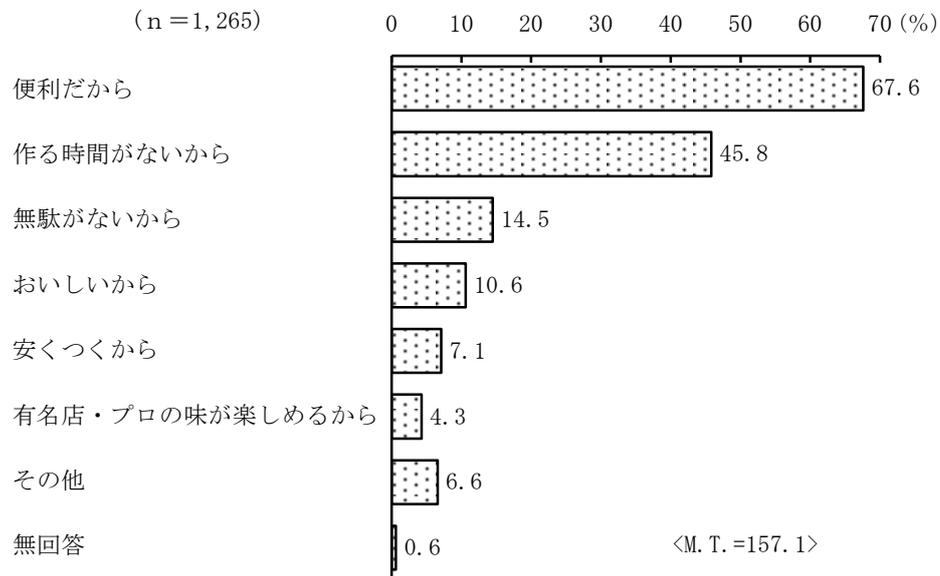
※1-12 調理済み食品を利用する理由

図1-12-1

(Q4で「ほとんど毎日」「週に4~5日程度」「週に2~3日程度」「月に数日」と答えた方に)

S Q あなたが調理済みの食品を利用する理由は何ですか。次の中から2つまでお選びください。

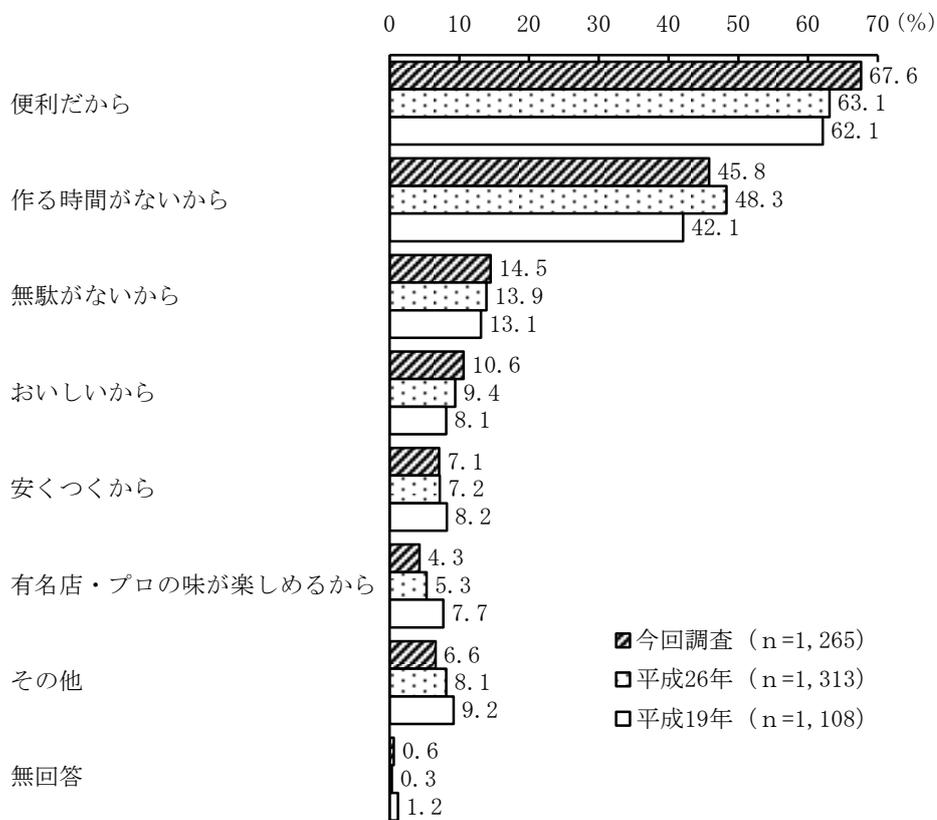
(2M. A.)



夕食で調理済み食品を利用する人(1,265人)に、利用する理由を聞いたところ、「便利だから」が68%で最も多く、次いで「作る時間がないから」46%、「無駄がないから」15%、「おいしいから」11%などの順となっている。(図1-12-1)

調理済み食品を利用する理由を過去との比較で見ると、「便利だから」は平成26年より5ポイント増加している。一方、「作る時間がないから」は平成26年より3ポイント減少している。(図1-12-2)

図1-12-2 調理済み食品を利用する理由—過去との比較



性・年齢別にみると、「便利だから」は男性30代で8割近くと多くなっている。「作る時間がないから」は女性が男性より11ポイント高くなっており、女性の30代から50代で6割前後と多くなっている。

職業別にみると、「作る時間がないから」は専門・技術職と事務職で約6割と多くなっている。

共働き状況別にみると、「作る時間がないから」は“共働きである”で6割を超えて多くなっている。

(表1-12-1)

表1-12-1 調理済み食品を利用する理由－性・年齢別、職業別、共働き状況別

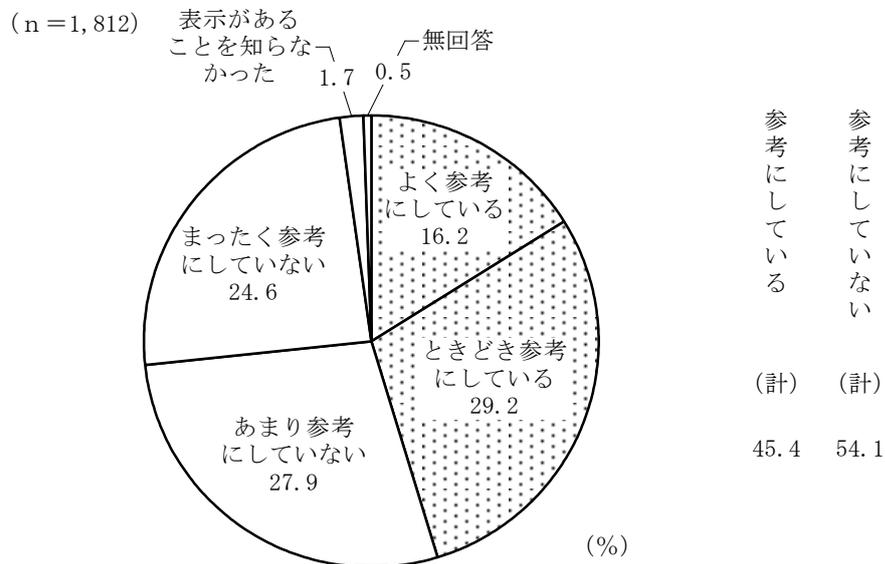
		(%)							
	n	便利だから	作る時間がないから	無駄がないから	おいしいから	安くつくから	有名店・プロの味が楽しめるから	その他	無回答
全体	1,265	67.6	45.8	14.5	10.6	7.1	4.3	6.6	0.6
<性・年齢別>									
男性(計)	566	68.4	39.8	14.1	10.2	9.5	2.5	5.7	0.5
18・19歳	6	50.0	50.0	-	16.7	16.7	-	-	-
20代	46	71.7	47.8	2.2	10.9	8.7	-	6.5	-
30代	101	78.2	41.6	10.9	7.9	11.9	-	4.0	-
40代	120	70.0	38.3	15.0	15.0	8.3	0.8	5.8	0.8
50代	94	59.6	52.1	17.0	8.5	8.5	1.1	6.4	1.1
60代	106	67.0	34.0	19.8	12.3	11.3	4.7	3.8	-
70歳以上	93	65.6	29.0	14.0	5.4	7.5	7.5	8.6	1.1
女性(計)	699	67.0	50.6	14.9	10.9	5.2	5.7	7.3	0.7
18・19歳	8	50.0	62.5	12.5	12.5	12.5	-	12.5	-
20代	61	63.9	47.5	9.8	6.6	6.6	3.3	14.8	-
30代	104	71.2	58.7	5.8	18.3	2.9	1.0	8.7	1.0
40代	163	66.9	62.6	11.0	12.9	6.1	3.1	3.1	-
50代	123	62.6	59.3	17.1	11.4	3.3	4.1	5.7	-
60代	117	65.0	45.3	18.8	7.7	6.0	10.3	7.7	-
70歳以上	123	72.4	25.2	24.4	6.5	5.7	12.2	8.9	3.3
<職業別>									
自営・家族従業(計)	154	68.2	40.9	15.6	9.1	7.8	3.9	5.2	0.6
勤め(計)	704	67.0	54.5	13.2	9.9	6.7	2.1	5.8	0.6
経営・管理職	46	60.9	54.3	23.9	8.7	2.2	8.7	2.2	-
専門・技術職	69	58.0	59.4	13.0	7.2	5.8	5.8	8.7	1.4
事務職	377	67.6	58.6	11.4	10.3	6.1	1.6	4.8	0.3
労務・技能職	93	75.3	37.6	16.1	8.6	11.8	-	6.5	1.1
販売・サービス職	99	64.6	54.5	11.1	12.1	7.1	1.0	9.1	1.0
無職の主婦・主夫	274	67.9	35.4	18.6	11.3	6.9	9.5	6.2	-
学生	34	64.7	44.1	-	14.7	11.8	5.9	8.8	-
その他の無職	83	77.1	15.7	15.7	15.7	9.6	6.0	12.0	1.2
全体(有配偶)	807	65.9	51.3	11.8	10.4	5.1	4.8	6.3	0.5
<共働き状況別>									
共働きである	449	65.7	61.2	9.8	10.7	4.7	1.3	5.8	0.7
共働きでない	348	65.2	39.4	13.8	10.1	5.7	9.2	7.2	0.3

※1-13 栄養成分表示の活用

図1-13-1

(全員に)

Q5 あなたは外食したり、食品を購入するときに、栄養成分表示を参考にしていますか。次の中から1つだけお選びください。

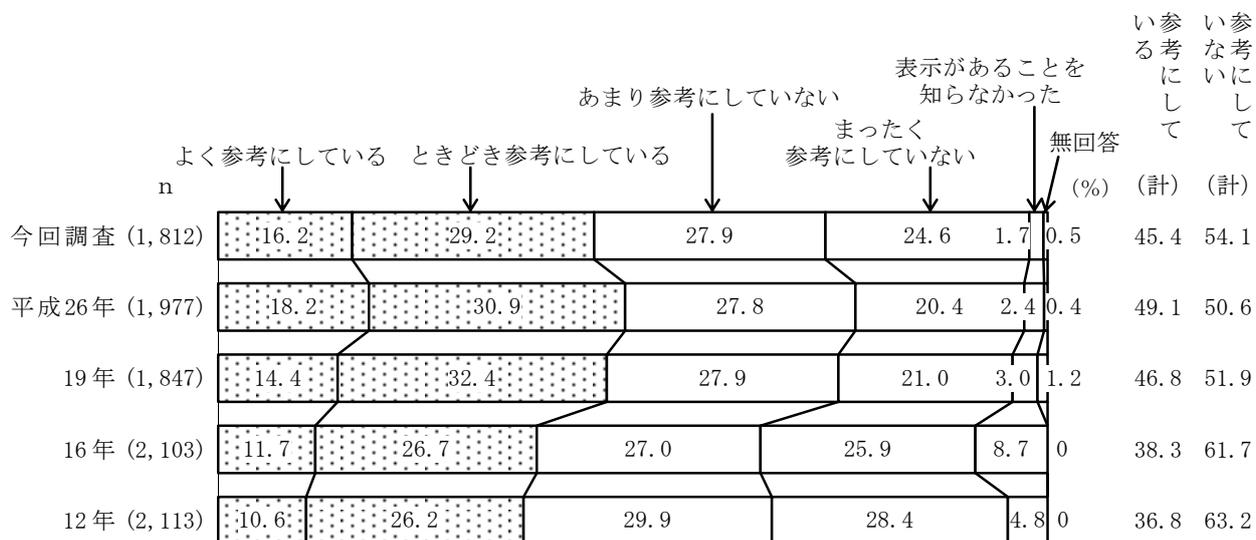


(注) 『参考にしている (計)』は「よく参考にしている」と「ときどき参考にしている」との合計  
 『参考にしていない (計)』は「あまり参考にしていない」、「まったく参考にしていない」、  
 「表示があることを知らなかった」の合計

外食や食品を購入するときに、栄養成分表示を参考にしているか聞いたところ、『参考にしている (計)』は45%、『参考にしていない (計)』は54%となっている。(図1-13-1)

栄養成分表示の活用を過去との比較でみると、『参考にしている（計）』は平成26年より4ポイント減少し、『参考にしていない（計）』は4ポイント増加している。（図1-13-2）

図1-13-2 栄養成分表示の活用—過去との比較



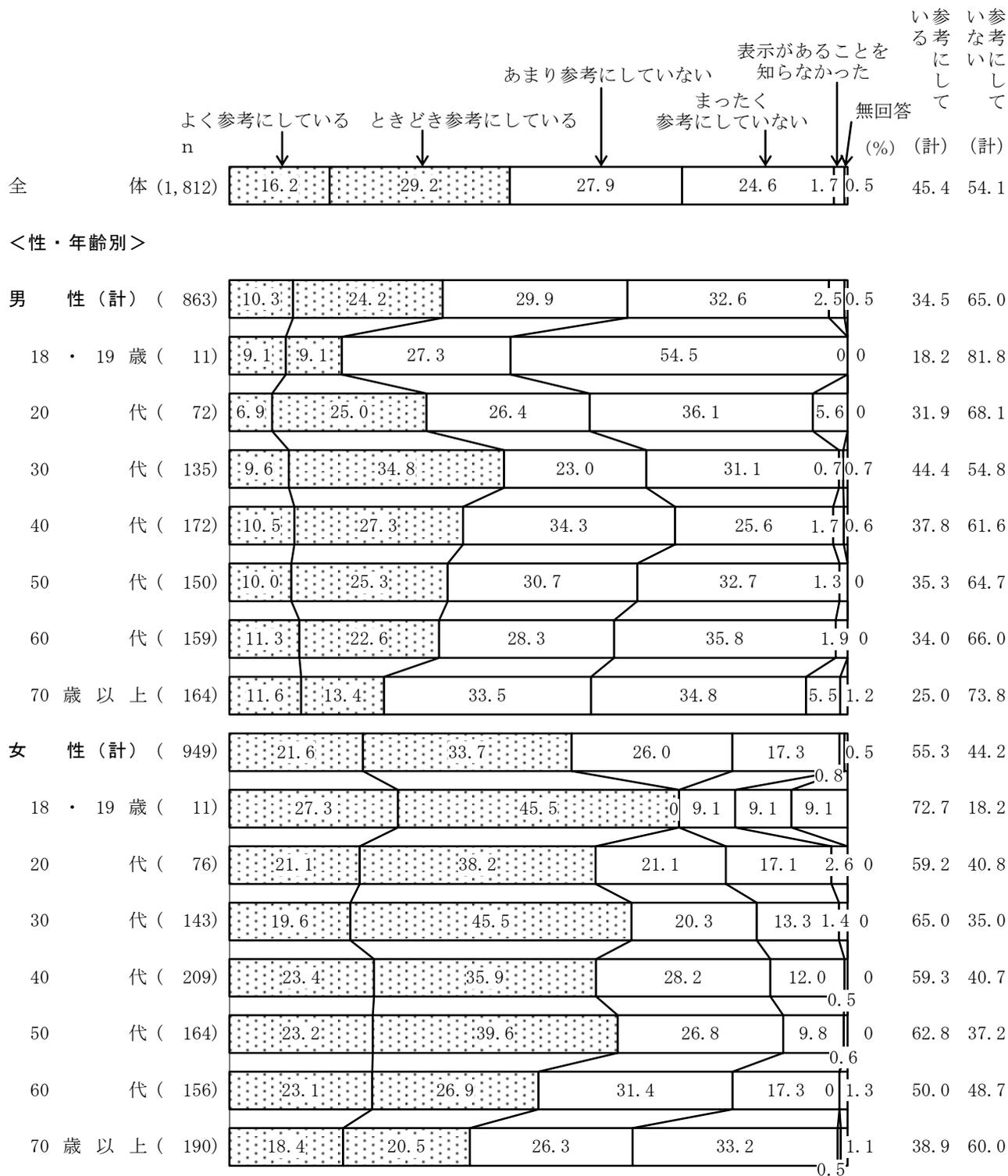
(注1) 『参考にしている（計）』は「よく参考にしている」と「ときどき参考にしている」との合計

『参考にしていない（計）』は「あまり参考にしていない」、「まったく参考にしていない」、「表示があることを知らなかった」の合計

(注2) 平成12年、16年は「健康に関する世論調査」

性・年齢別にみると、『参考にしている（計）』は女性が男性より21ポイント高くなっており、女性の20代から50代で6割前後と多くなっている。一方、『参考にしていない（計）』は男性70歳以上で7割半ば、男性の20代と50代、60代で6割半ばから7割近くと多くなっている。（図1-13-3）

図1-13-3 栄養成分表示の活用—性・年齢別

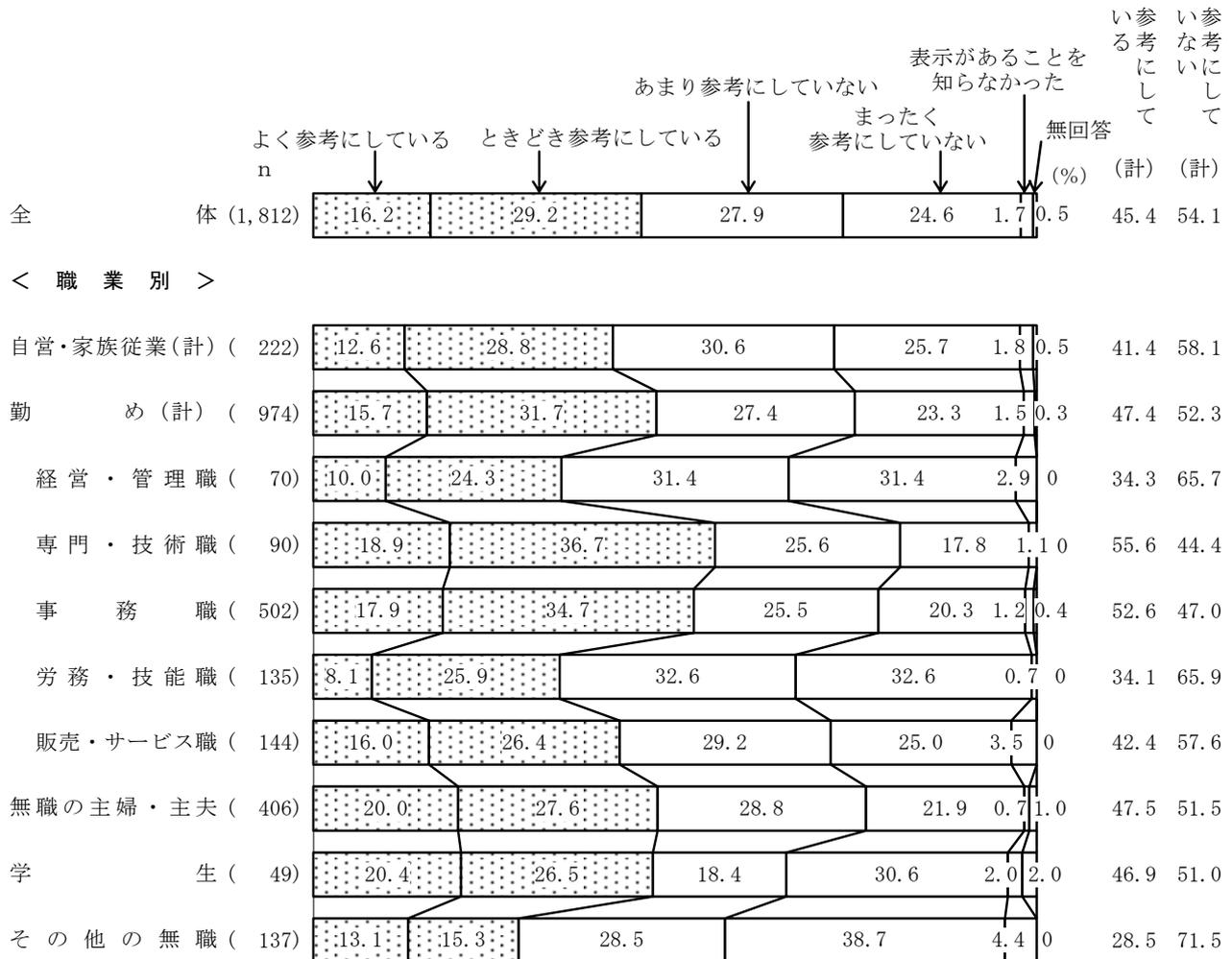


(注) 『参考にしている（計）』は「よく参考にしている」と「ときどき参考にしている」との合計  
『参考にしていない（計）』は「あまり参考にしていない」、「まったく参考にしていない」、「表示があることを知らなかった」の合計

職業別にみると、『参考にしている（計）』は事務職と専門・技術職で5割を超えている。一方、『参考にしていない（計）』はその他の無職で7割を超え、労務・技能職で6割半ばと多くなっている。

(図1-13-4)

図1-13-4 栄養成分表示の活用—職業別

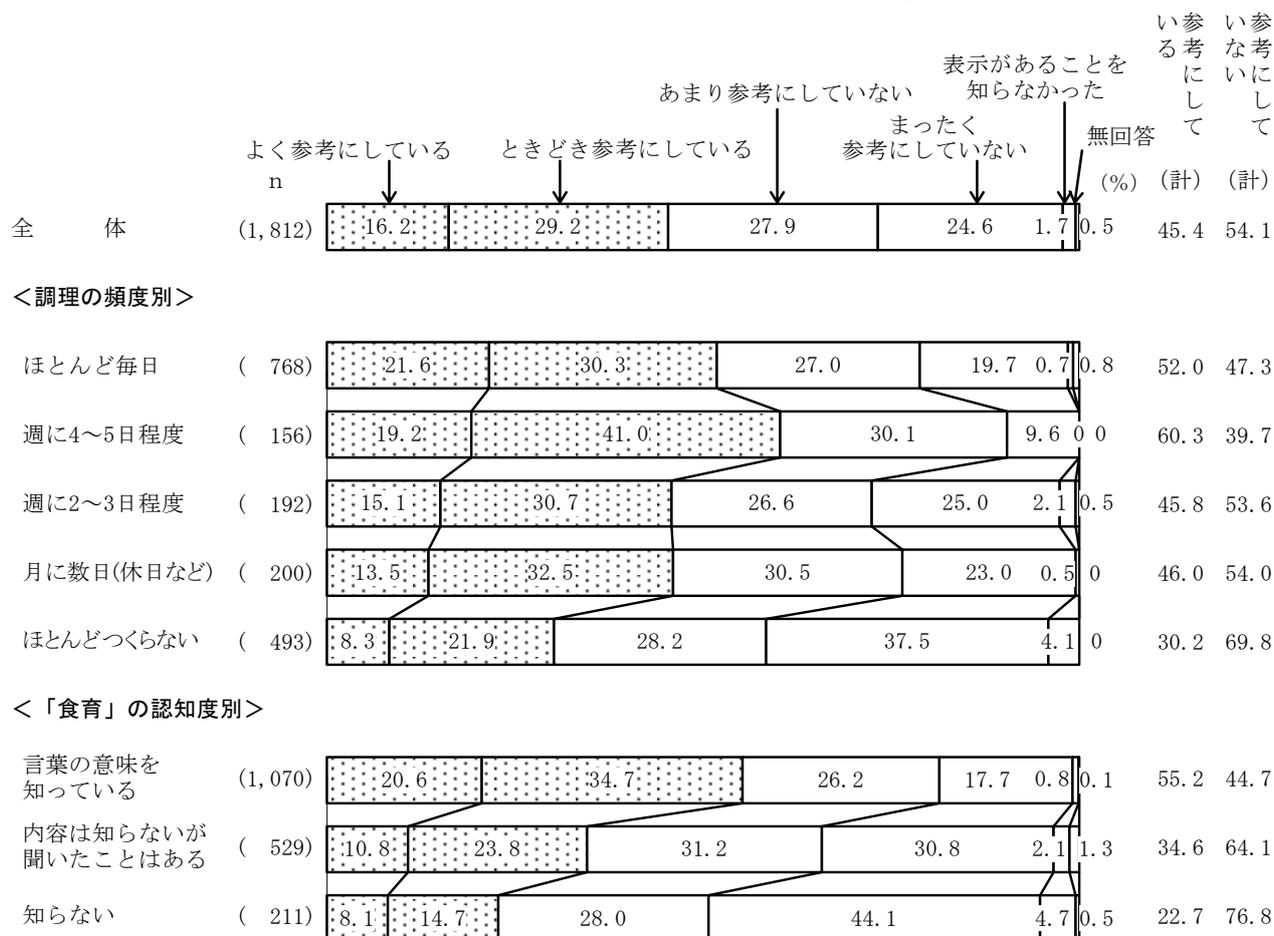


(注) 『参考にしている (計)』は「よく参考にしている」と「ときどき参考にしている」との合計  
『参考にしていない (計)』は「あまり参考にしていない」、「まったく参考にしていない」、「表示があることを知らなかった」の合計

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、『参考にしている（計）』は“週に4～5日程度”で約6割、“ほとんど毎日”で5割を超えて多くなっている。一方、『参考にしていない（計）』は“ほとんどつくらない”で約7割と多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『参考にしている（計）』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で5割半ばとなっている。一方、『参考にしていない（計）』は“知らない”で8割近くと多くなっている。（図1-13-5）

図1-13-5 栄養成分表示の活用—調理の頻度別、「食育」の認知度別



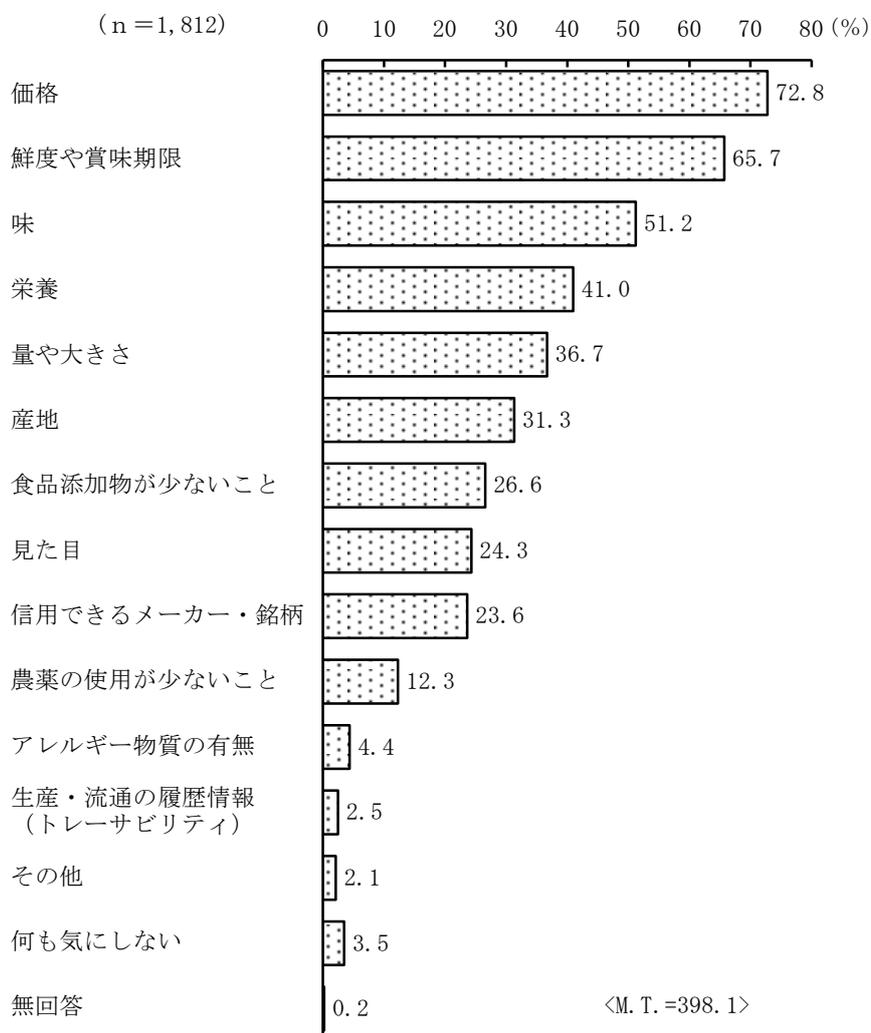
(注) 『参考にしている (計)』は「よく参考にしている」と「ときどき参考にしている」との合計  
『参考にしていない (計)』は「あまり参考にしていない」、「まったく参考にしていない」、「表示があることを知らなかった」の合計

※1-14 食品を選ぶときに重視すること

図1-14-1

(全員に)

Q6 あなたは、食品を選ぶとき、何を重視しますか。次の中から5つまでお選びください。(5M. A.)

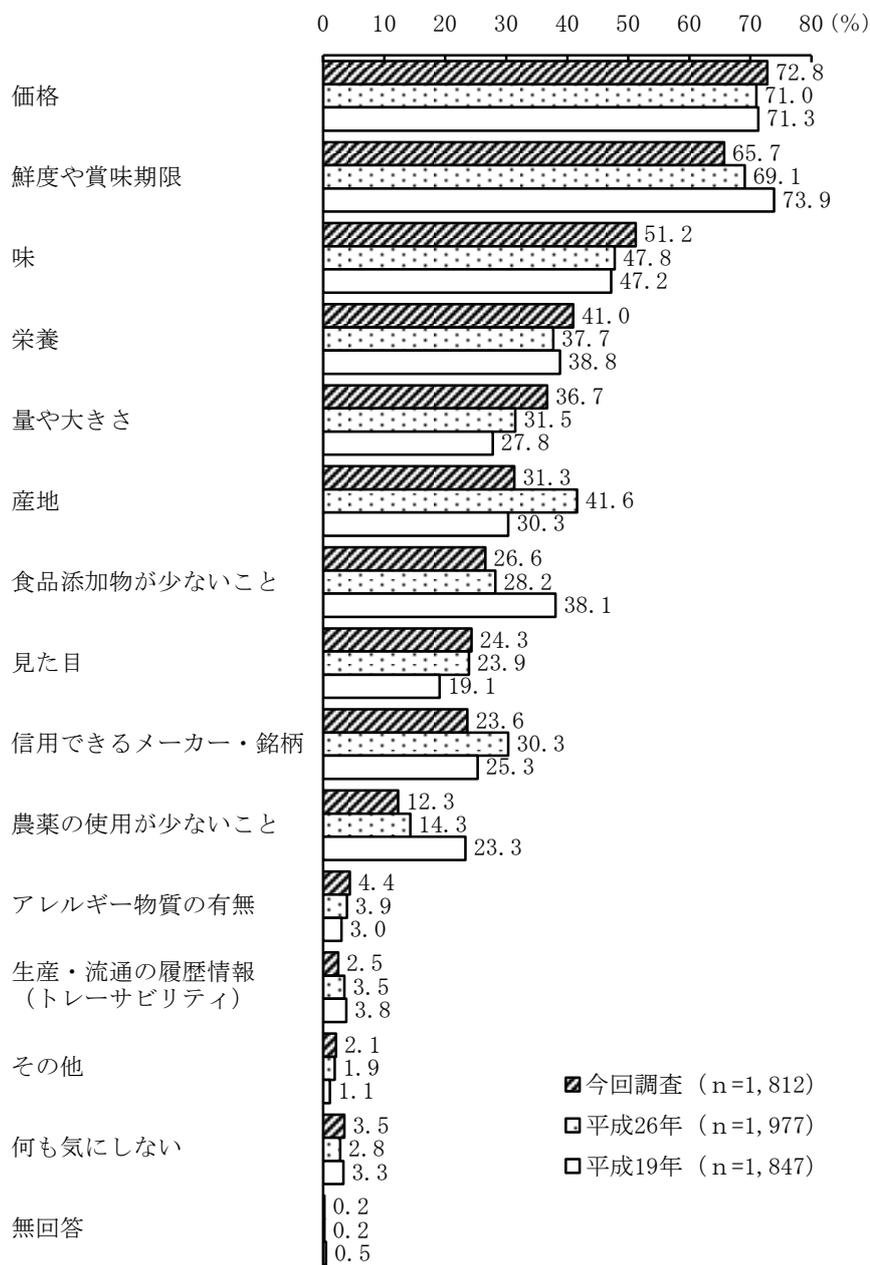


食品を選ぶときに重視することを聞いたところ、「価格」が73%で最も多く、次いで「鮮度や賞味期限」66%、「味」51%、「栄養」41%、「量や大きさ」37%などの順となっている。(図1-14-1)

食品を選ぶときに重視することを過去との比較でみると、「量や大きさ」は5ポイント、「味」と「栄養」は3ポイント、それぞれ平成26年より増加している。一方、「産地」は10ポイント、「信用できるメーカー・銘柄」は7ポイント、「鮮度や賞味期限」は3ポイント、それぞれ平成26年より減少している。

(図1-14-2)

図1-14-2 食品を選ぶときに重視すること—過去との比較



性・年齢別にみると、「価格」は女性の20代で9割近く、50代で8割半ばと多くなっている。「鮮度や賞味期限」は女性が男性より17ポイント高くなっており、女性の40代から60代で約8割と多くなっている。「味」は女性20代で7割近くと多くなっている。また、「栄養」は女性が男性より12ポイント高くなっている。

職業別にみると、「価格」は学生で約9割、事務職で約8割と多くなっている。「鮮度や賞味期限」は無職の主婦・主夫で7割を超えて多くなっている。(表1-14-1)

表1-14-1 食品を選ぶときに重視すること－性・年齢別、職業別

		(%)														
	n	価格	鮮度や賞味期限	味	栄養	量や大きさ	産地	食品添加物が少ないこと	見た目	信用できるメーカー・銘柄	農薬の使用が少ないこと	アレルギー物質の有無	(生産・流通の履歴情報) (トレーサビリティ)	その他	何も気にしない	無回答
全体	1,812	72.8	65.7	51.2	41.0	36.7	31.3	26.6	24.3	23.6	12.3	4.4	2.5	2.1	3.5	0.2
<b>&lt; 性・年齢別 &gt;</b>																
男性(計)	863	71.0	56.7	54.8	35.0	38.1	24.1	17.7	26.7	19.6	8.5	4.5	1.9	2.2	6.0	0.3
18・19歳	11	72.7	18.2	54.5	9.1	54.5	9.1	-	36.4	-	-	-	-	9.1	18.2	-
20代	72	81.9	37.5	63.9	29.2	48.6	12.5	4.2	31.9	13.9	2.8	4.2	1.4	-	8.3	-
30代	135	77.8	50.4	59.3	43.7	45.9	24.4	14.8	20.7	19.3	4.4	8.9	-	-	4.4	1.5
40代	172	82.6	54.7	55.8	35.5	52.9	25.6	16.3	34.9	15.1	5.2	3.5	1.2	1.7	2.3	-
50代	150	76.7	58.0	58.0	36.7	38.7	30.7	17.3	28.7	19.3	10.0	4.0	2.7	1.3	3.3	-
60代	159	62.9	69.2	49.7	30.8	27.7	27.7	22.6	25.2	24.5	9.4	4.4	3.8	1.9	5.7	-
70歳以上	164	51.2	61.6	48.2	34.1	20.1	18.9	24.4	19.5	23.8	15.9	3.0	1.8	6.1	12.2	0.6
女性(計)	949	74.4	74.0	47.8	46.5	35.4	37.8	34.7	22.1	27.2	15.7	4.2	3.1	2.0	1.3	0.1
18・19歳	11	90.9	27.3	54.5	54.5	36.4	18.2	9.1	36.4	9.1	-	-	-	-	9.1	-
20代	76	86.8	63.2	68.4	46.1	50.0	17.1	14.5	40.8	15.8	5.3	10.5	-	3.9	2.6	-
30代	143	79.7	65.7	55.2	51.7	42.7	35.7	31.5	32.2	20.3	9.1	3.5	2.8	2.1	2.1	-
40代	209	77.0	78.9	47.4	49.3	39.7	43.5	37.8	17.7	29.2	18.2	5.3	3.8	1.0	-	-
50代	164	84.1	78.0	49.4	46.3	36.6	44.5	33.5	18.9	25.6	15.9	3.0	3.0	0.6	0.6	-
60代	156	63.5	80.1	42.3	48.1	28.2	39.7	42.3	15.4	30.1	25.6	3.8	4.5	1.9	-	-
70歳以上	190	62.1	73.2	37.4	37.9	24.2	35.3	37.9	19.5	34.7	14.7	2.6	2.6	3.7	2.6	0.5
<b>&lt; 職業別 &gt;</b>																
自営・家族従業(計)	222	62.2	65.3	54.1	40.5	28.8	30.6	25.7	25.7	21.6	12.6	4.5	4.1	0.9	5.4	0.5
勤め(計)	974	77.5	64.7	54.1	42.1	42.0	31.0	23.2	26.2	22.8	10.8	4.9	2.2	1.3	2.7	0.2
経営・管理職	70	65.7	51.4	58.6	41.4	32.9	32.9	25.7	28.6	25.7	12.9	5.7	4.3	2.9	2.9	1.4
専門・技術職	90	74.4	61.1	50.0	46.7	34.4	24.4	21.1	30.0	22.2	15.6	4.4	3.3	-	4.4	-
事務職	502	79.9	68.5	53.4	43.2	42.0	33.9	25.3	23.3	22.9	11.6	5.0	2.2	1.6	1.6	0.2
労務・技能職	135	76.3	65.2	51.1	37.8	47.4	25.2	15.6	31.9	22.2	5.2	5.9	1.5	1.5	3.0	-
販売・サービス職	144	78.5	60.4	57.6	41.7	44.4	29.2	22.9	26.4	22.2	10.4	4.9	0.7	-	4.9	-
無職の主婦・主夫	406	69.0	72.4	42.4	41.4	29.1	36.0	37.7	19.2	29.1	17.0	3.2	2.2	3.4	2.0	0.2
学生	49	89.8	32.7	69.4	34.7	53.1	16.3	10.2	38.8	8.2	2.0	2.0	-	4.1	2.0	-
その他の無職	137	61.3	65.7	46.7	34.3	28.5	27.0	26.3	16.8	22.6	12.4	4.4	3.6	5.1	10.9	-

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、「鮮度や賞味期限」は“ほとんど毎日”と“週に4～5日程度”で7割半ばと多くなっている。「栄養」と「産地」は調理の頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「価格」は“ときどき参考にしている”で8割を超えて多くなっている。「鮮度や賞味期限」は“ときどき参考にしている”と“あまり参考にしていない”で7割を超えて多くなっている。「栄養」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で6割半ばとなっている。

東京産の食材の優先的な購入有無別（Q7 S Q1 P64）にみると、「価格」は“購入していない”で約8割と多くなっている。「食品添加物が少ないこと」は“購入している”で4割半ばと多くなっている。

（表1-14-2）

表1-14-2 食品を選ぶときに重視すること－調理の頻度別、栄養成分表示の活用別、東京産の食材の優先的な購入有無別

		(%)														
	n	価格	鮮度や賞味期限	味	栄養	量や大きさ	産地	食品添加物が少ないこと	見た目	信用できるメーカー・銘柄	農薬の使用が少ないこと	アレルギー物質の有無	生産・流通の履歴情報（トレーサビリティ）	その他	何も気にしない	無回答
全 体	1,812	72.8	65.7	51.2	41.0	36.7	31.3	26.6	24.3	23.6	12.3	4.4	2.5	2.1	3.5	0.2
<b>&lt;調理の頻度別&gt;</b>																
ほとんど毎日	768	72.8	74.2	45.2	47.8	32.9	41.4	37.4	19.0	27.5	16.9	3.8	3.1	1.7	1.7	0.1
週に4～5日程度	156	77.6	75.0	47.4	44.9	41.7	30.1	30.8	23.1	26.3	14.1	3.8	2.6	0.6	0.6	-
週に2～3日程度	192	75.5	60.9	55.7	40.1	39.1	24.5	20.8	28.1	19.8	7.8	4.7	4.2	1.6	3.6	-
月に数日（休日など）	200	75.5	57.5	58.0	34.5	41.5	25.0	16.5	32.5	21.0	9.0	4.0	0.5	2.5	2.5	0.5
ほとんどつからない	493	69.0	55.0	56.8	31.8	38.3	21.1	15.0	28.0	19.1	7.5	5.5	1.6	3.2	7.7	0.4
<b>&lt;栄養成分表示の活用別&gt;</b>																
よく参考にしている	294	69.7	67.3	44.6	66.0	31.0	40.1	51.7	13.9	22.1	26.2	6.1	4.1	3.4	-	-
ときどき参考にしている	529	81.9	71.6	54.8	52.4	35.3	34.4	30.1	21.7	24.6	12.1	4.3	3.4	1.3	0.4	0.2
あまり参考にしていない	505	75.2	70.7	53.9	33.7	43.4	31.7	22.2	27.7	28.1	10.7	4.2	2.2	1.2	2.4	-
まったく参考にしていない	445	63.4	55.3	48.8	20.0	36.0	23.1	12.4	30.3	19.1	5.8	3.4	0.9	3.4	8.3	0.4
表示があることを知らなかった	30	43.3	20.0	33.3	20.0	23.3	6.7	6.7	23.3	6.7	-	6.7	-	-	43.3	-
<b>&lt;東京産の食材の優先的な購入有無別&gt;</b>																
購入している	321	66.4	75.1	47.0	45.8	27.1	39.9	44.5	15.6	29.3	25.9	5.9	4.7	2.8	0.6	0.3
購入していない	743	79.8	71.7	51.8	45.6	37.7	42.4	31.0	23.3	26.2	11.6	4.6	2.8	1.1	0.8	0.1

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「量や大きさ」は“やや不満”で4割半ばと多くなっている。「食品添加物が少ないこと」は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で3割を超えている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「鮮度や賞味期限」、「栄養」と「産地」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高くなっている。（表1-14-3）

表1-14-3 食品を選ぶときに重視すること－食生活の満足度別、「食育」の認知度別

		(%)														
	n	価格	鮮度や賞味期限	味	栄養	量や大きさ	産地	食品添加物が少ないこと	見た目	信用できるメーカー・銘柄	農薬の使用が少ないこと	アレルギー物質の有無	生産・流通の履歴情報 (トレーサビリティ)	その他	何も気にしない	無回答
全 体	1,812	72.8	65.7	51.2	41.0	36.7	31.3	26.6	24.3	23.6	12.3	4.4	2.5	2.1	3.5	0.2
＜食生活の満足度別＞																
大変満足	434	70.0	61.8	51.6	42.4	31.3	30.6	32.0	24.7	23.5	17.5	3.5	3.2	3.7	2.5	0.2
ある程度満足	1,157	73.5	68.2	51.2	40.2	37.3	32.6	25.3	24.5	24.2	10.4	4.4	2.2	1.1	3.5	0.3
やや不満	192	75.5	61.5	52.6	42.7	45.8	25.5	22.9	22.4	19.8	10.9	6.3	2.6	4.7	5.2	-
大変不満	22	63.6	54.5	40.9	31.8	40.9	18.2	13.6	18.2	13.6	18.2	4.5	4.5	-	9.1	-
＜「食育」の認知度別＞																
言葉の意味を知っている	1,070	74.7	69.6	52.4	47.9	36.3	36.1	33.9	21.3	25.0	15.1	4.8	3.1	1.6	1.6	0.2
聞いたことはある	529	74.3	62.9	51.2	31.6	40.8	26.8	18.1	28.7	23.1	8.5	3.6	1.7	2.3	4.7	0.4
知らない	211	59.7	52.6	44.5	29.4	28.4	18.0	10.4	28.4	18.0	7.1	4.3	1.4	4.3	10.4	-

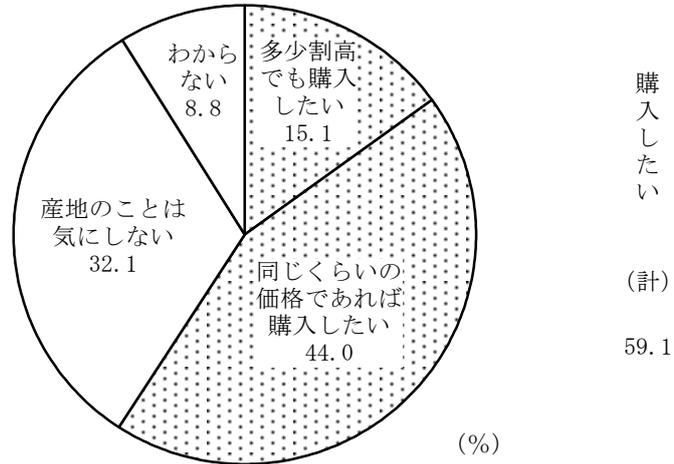
※1-15 地元や東京の産物の購入意向

図1-15-1

(全員に)

Q7 あなたは、地元や東京の産物とわかる食材であれば、購入したいと思いますか。次の中から1つだけお選びください。

(n=1,812)

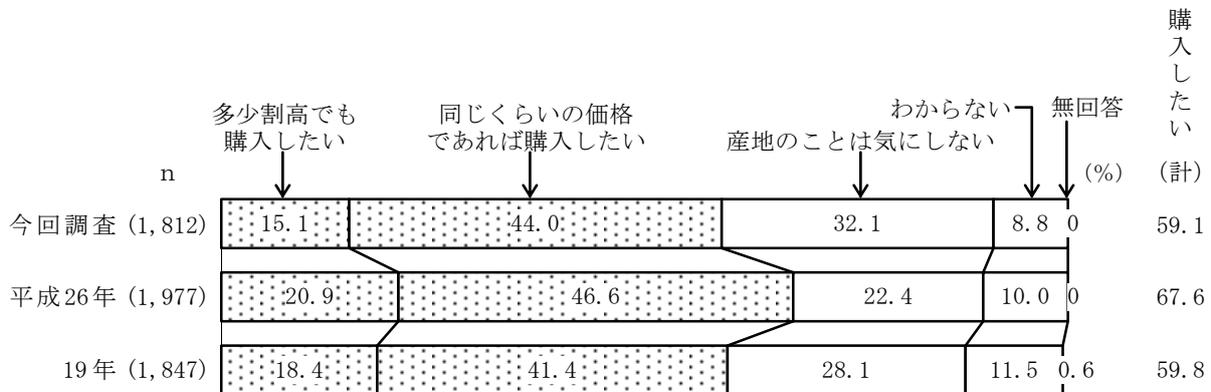


(注)『購入したい (計)』は「多少割高でも購入したい」と「同じくらいの価格であれば購入したい」との合計

地元や東京の産物の購入意向を聞いたところ、『購入したい (計)』は59%、「産地のことは気にしない」は32%、「わからない」は9%となっている。(図1-15-1)

地元や東京の産物の購入意向を過去との比較で見ると、『購入したい (計)』は平成26年より9ポイント減少し、「産地のことは気にしない」は10ポイント増加している。(図1-15-2)

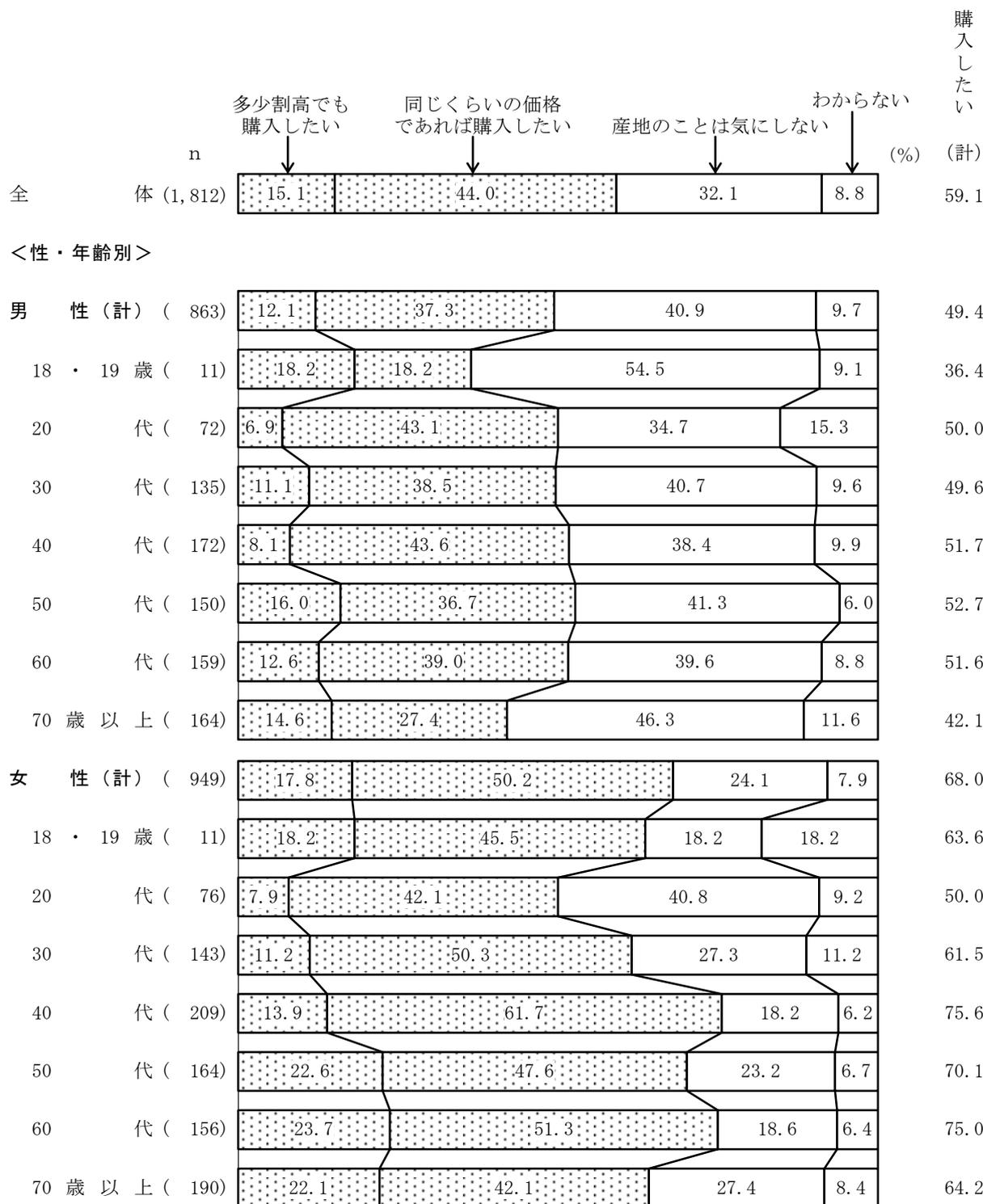
図1-15-2 地元や東京の産物の購入意向—過去との比較



(注)『購入したい (計)』は「多少割高でも購入したい」と「同じくらいの価格であれば購入したい」との合計

性・年齢別にみると、『購入したい（計）』は女性が男性より19ポイント高くなっており、女性の40代から60代で7割台と多くなっている。一方、「産地のことは気にしない」は男性が女性より17ポイント高くなっており、男性70歳以上で4割半ばと多くなっている。（図1-15-3）

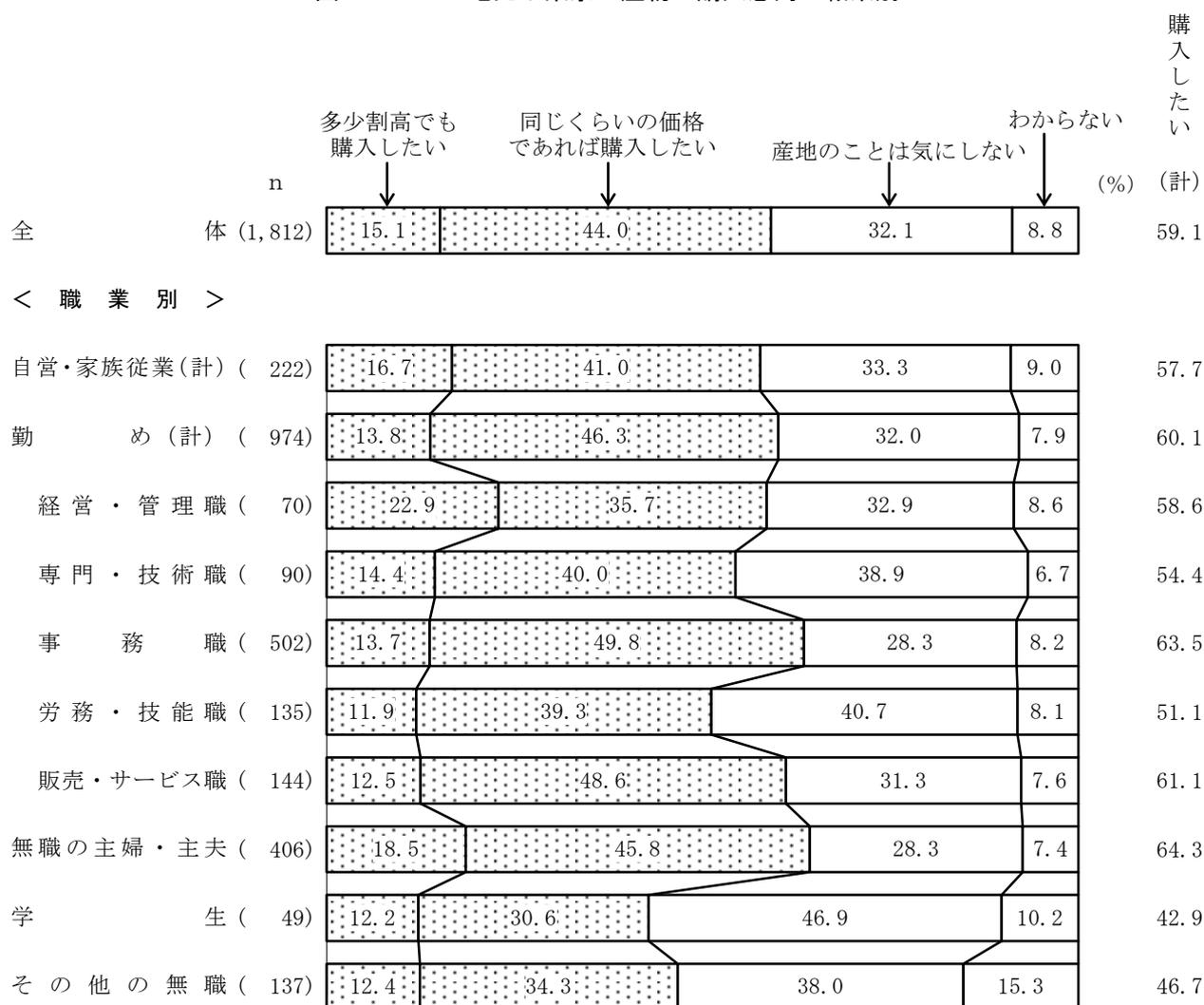
図1-15-3 地元や東京の産物の購入意向－性・年齢別



(注) 『購入したい（計）』は「多少割高でも購入したい」と「同じくらいの価格であれば購入したい」との合計

職業別にみると、『購入したい（計）』は無職の主婦・主夫と事務職で6割半ばと多くなっている。一方、「産地のことは気にしない」は学生と労務・技能職で4割台と多くなっている。（図1-15-4）

図1-15-4 地元や東京の産物の購入意向－職業別



(注)『購入したい（計）』は「多少割高でも購入したい」と「同じくらいの価格であれば購入したい」との合計

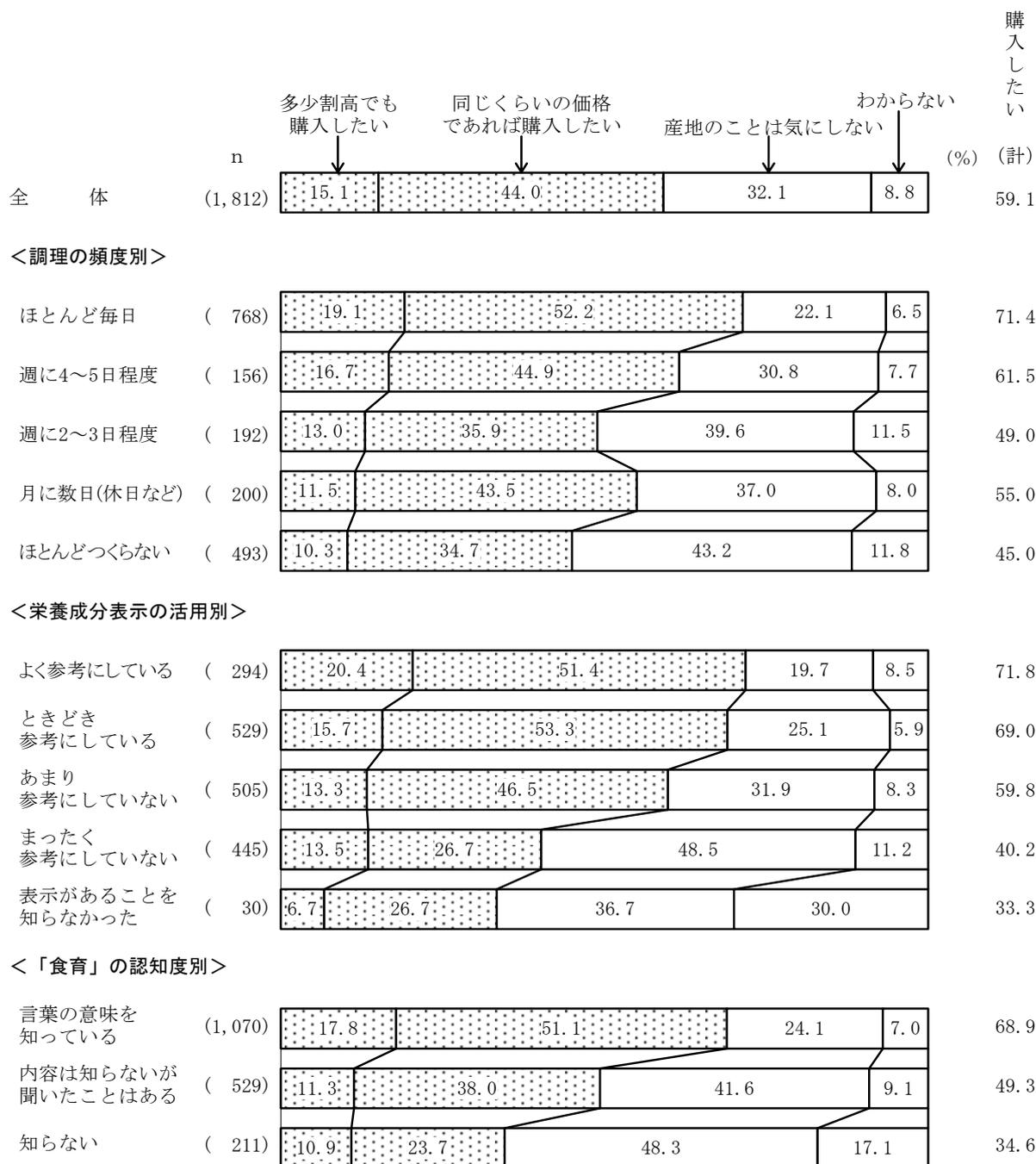
調理の頻度別（Q3 P39）にみると、『購入したい（計）』は“ほとんど毎日”で7割を超えて多くなっている。一方、「産地のことは気にしない」は“ほとんどつぐらない”で4割を超えて多くなっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、『購入したい（計）』は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で7割を超えている。一方、「産地のことは気にしない」は“まったく参考にしていない”で5割近くと多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『購入したい（計）』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で7割近くとなっている。一方、「産地のことは気にしない」は「食育」の認知度が低くなるほど割合が高く、“知らない”で5割近くとなっている。

(図1-15-5)

図1-15-5 地元や東京の産物の購入意向—調理の頻度別、栄養成分表示の活用別、「食育」の認知度別



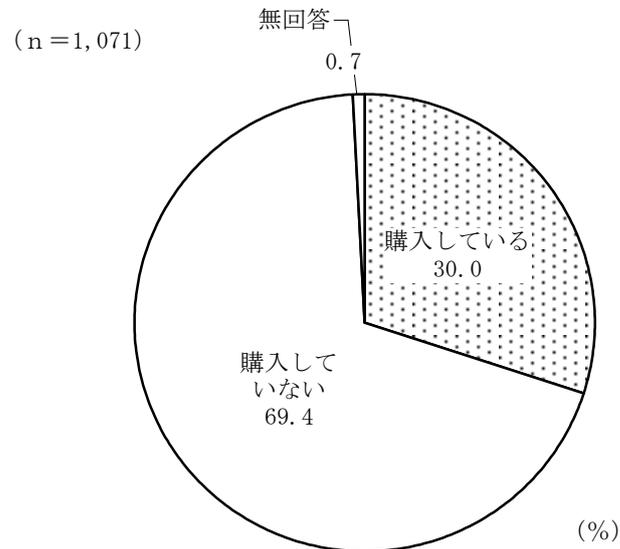
(注)『購入したい（計）』は「多少割高でも購入したい」と「同じくらいの価格であれば購入したい」との合計

## 1-16 東京産の食材の優先的な購入有無

図1-16-1

(Q7で「多少割高でも購入したい」「同じくらいの価格であれば購入したい」と答えた方に)

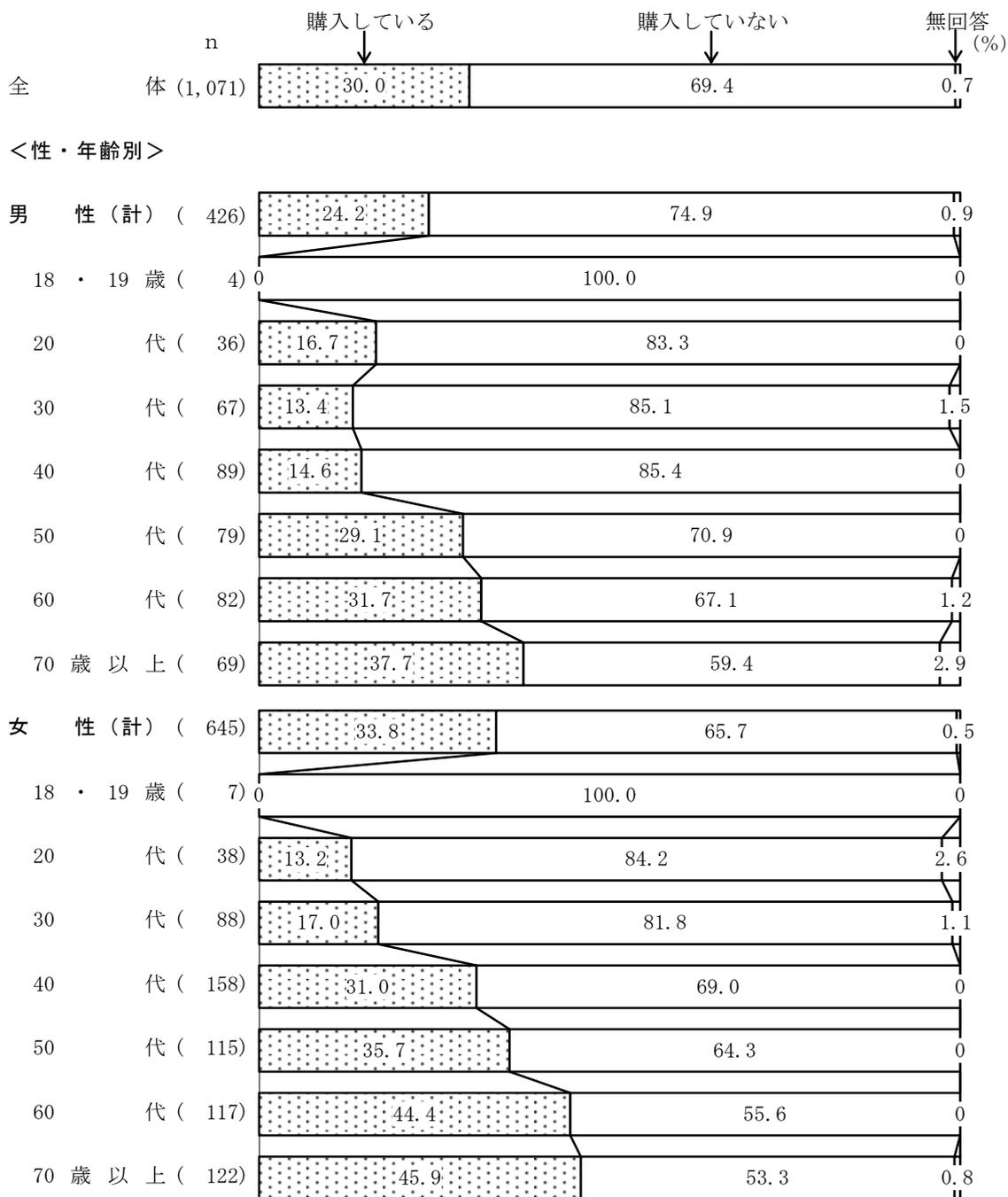
S Q1 あなたは、実際に東京産の食材を優先的に購入していますか。次の中から1つだけお選びください。



地元や東京の産物を『購入したい (計)』と答えた人 (1,071人) に、実際に東京産の食材を優先的に購入しているかを聞いたところ、「購入している」は30%、「購入していない」は69%となっている。(図1-16-1)

性・年齢別にみると、「購入している」は女性が男性より10ポイント高くなっており、女性の60代と70歳以上で4割半ばと多くなっている。一方、「購入していない」は男性が女性より9ポイント高くなっており、男性の30代と40代で8割半ばと多くなっている。(図1-16-2)

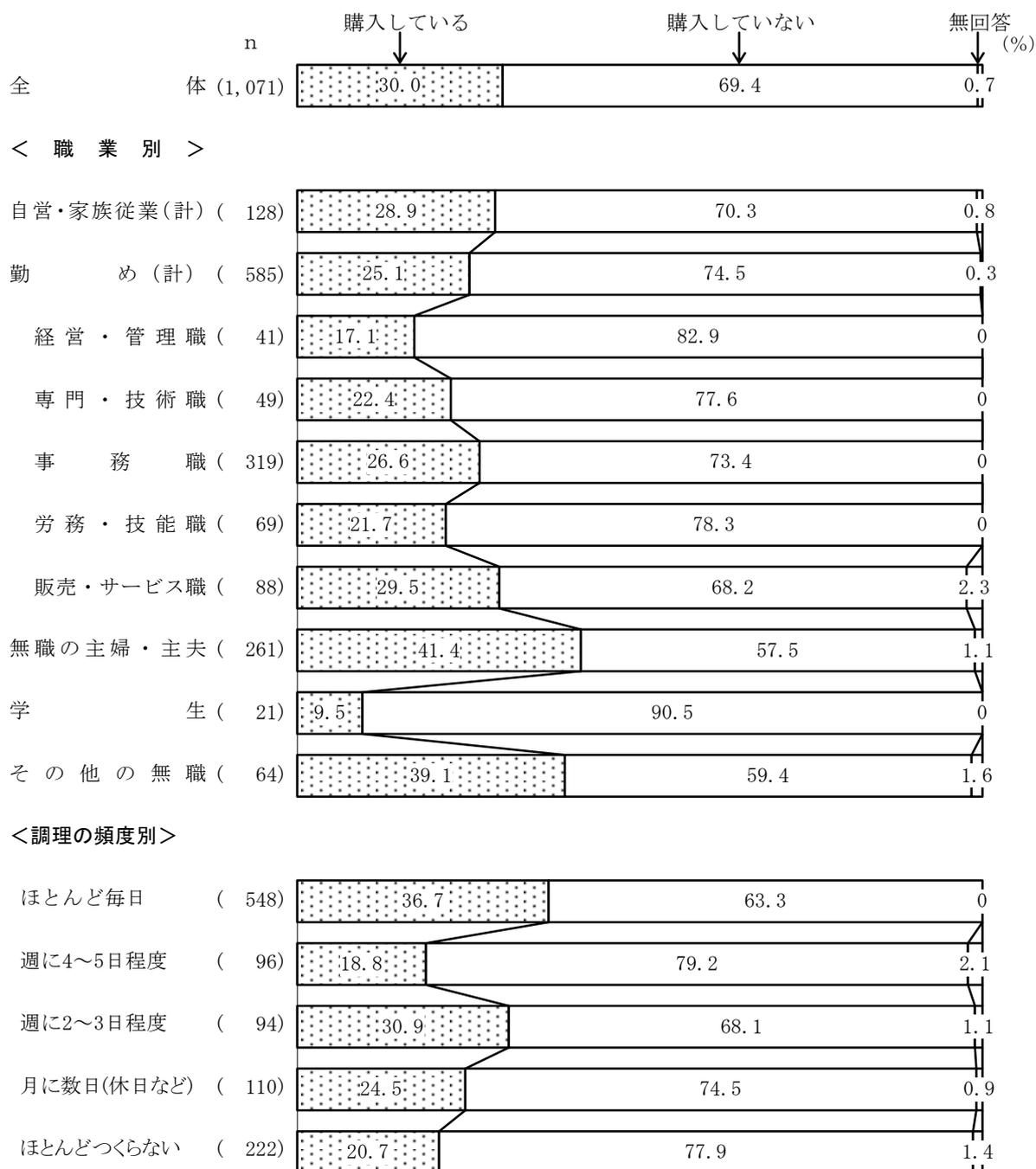
図1-16-2 東京産の食材の優先的な購入有無一性・年齢別



職業別にみると、「購入している」は無職の主婦・主夫で4割を超えて多くなっている。一方、「購入していない」は勤め（計）で7割半ばと多くなっている。

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、「購入している」は“ほとんど毎日”で4割近くと多くなっている。一方、「購入していない」は“週に4～5日程度”と“ほとんどつくらない”で8割近くと多くなっている。（図1-16-3）

図1-16-3 東京産の食材の優先的な購入有無－職業別、調理の頻度別

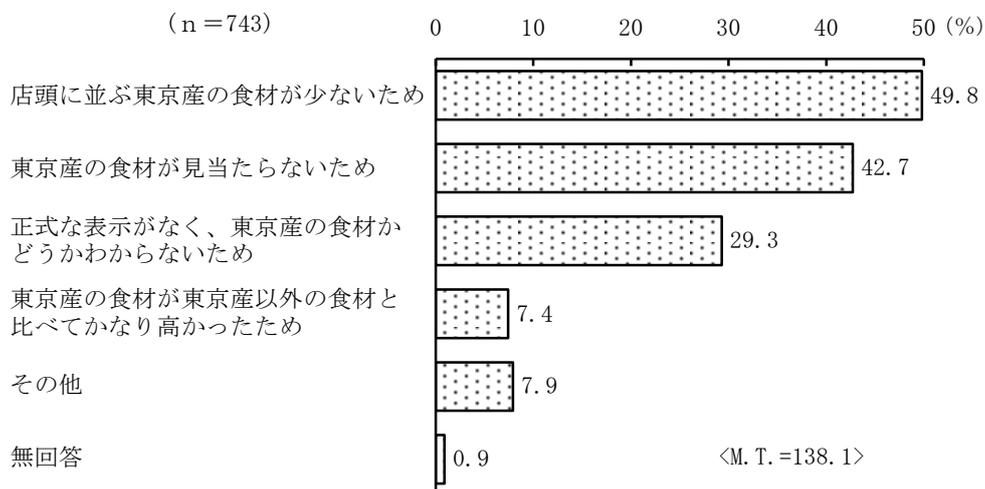


1-17 東京産の食材を購入していない理由

図1-17-1

(Q7 SQ1で「購入していない」と答えた方に)

SQ2 あなたが東京産の食材を購入していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。(M. A.)



東京産の食材を「購入していない」と答えた人(743人)に、購入していない理由を聞いたところ、「店頭に並ぶ東京産の食材が少ないため」が50%で最も多く、次いで「東京産の食材が見当たらないため」43%、「正式な表示がなく、東京産の食材かどうか分からないため」29%、「東京産の食材が東京産以外の食材と比べてかなり高かったため」7%などの順となっている。(図1-17-1)

性・年齢別にみると、「店頭に並ぶ東京産の食材が少ないため」は女性40代で約6割と多くなっている。  
職業別にみると、大きな差はみられない。(表1-17-1)

表1-17-1 東京産の食材を購入していない理由－性・年齢別、職業別

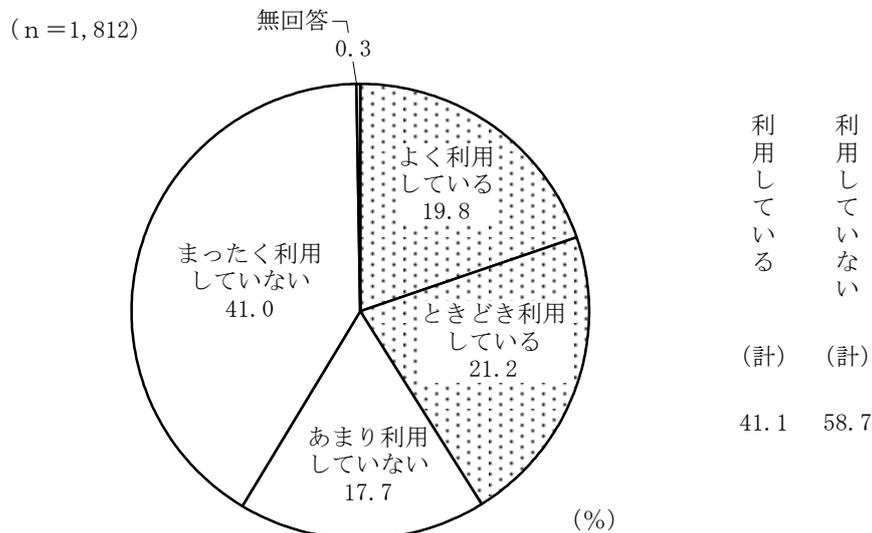
		(%)					
	n	店頭に並ぶ東京産の食材が少ないため	東京産の食材が見当たらないため	正式な表示がなく、東京産の食材かどうかわからないため	外産の食材と比べてかなり高かったため	その他	無回答
全体	743	49.8	42.7	29.3	7.4	7.9	0.9
<b>&lt; 性・年齢別 &gt;</b>							
男性(計)	319	46.7	39.8	34.2	6.9	7.5	1.3
18・19歳	4	25.0	50.0	25.0	-	25.0	-
20代	30	26.7	40.0	36.7	13.3	10.0	-
30代	57	45.6	42.1	22.8	12.3	10.5	1.8
40代	76	43.4	40.8	27.6	3.9	7.9	1.3
50代	56	53.6	30.4	37.5	7.1	3.6	-
60代	55	52.7	36.4	40.0	7.3	3.6	3.6
70歳以上	41	53.7	51.2	48.8	-	9.8	-
女性(計)	424	52.1	44.8	25.7	7.8	8.3	0.7
18・19歳	7	57.1	28.6	14.3	14.3	-	-
20代	32	31.3	56.3	18.8	15.6	3.1	3.1
30代	72	56.9	44.4	13.9	5.6	16.7	-
40代	109	59.6	45.9	22.9	10.1	5.5	-
50代	74	56.8	41.9	31.1	6.8	6.8	-
60代	65	49.2	36.9	33.8	6.2	7.7	1.5
70歳以上	65	41.5	50.8	33.8	4.6	9.2	1.5
<b>&lt; 職業別 &gt;</b>							
自営・家族従業(計)	90	43.3	42.2	37.8	6.7	6.7	-
勤め(計)	436	50.5	41.5	27.1	8.7	8.3	0.9
経営・管理職	34	55.9	35.3	47.1	2.9	2.9	-
専門・技術職	38	47.4	36.8	18.4	10.5	7.9	-
事務職	234	51.7	45.3	24.4	7.7	9.0	1.3
労務・技能職	54	46.3	35.2	33.3	11.1	3.7	-
販売・サービス職	60	48.3	38.3	30.0	10.0	11.7	1.7
無職の主婦・主夫	150	52.7	48.0	30.0	4.7	9.3	-
学生	19	42.1	47.4	26.3	10.5	-	-
その他の無職	38	44.7	36.8	36.8	-	5.3	7.9

※1-18 栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度

図1-18-1

（全員に）

Q8 あなたは、日常の食事とは別に、栄養を補うため、ビタミンやカルシウムなどの錠剤やカプセル、栄養ドリンクなどを利用していますか。次の中から1つだけお選びください。

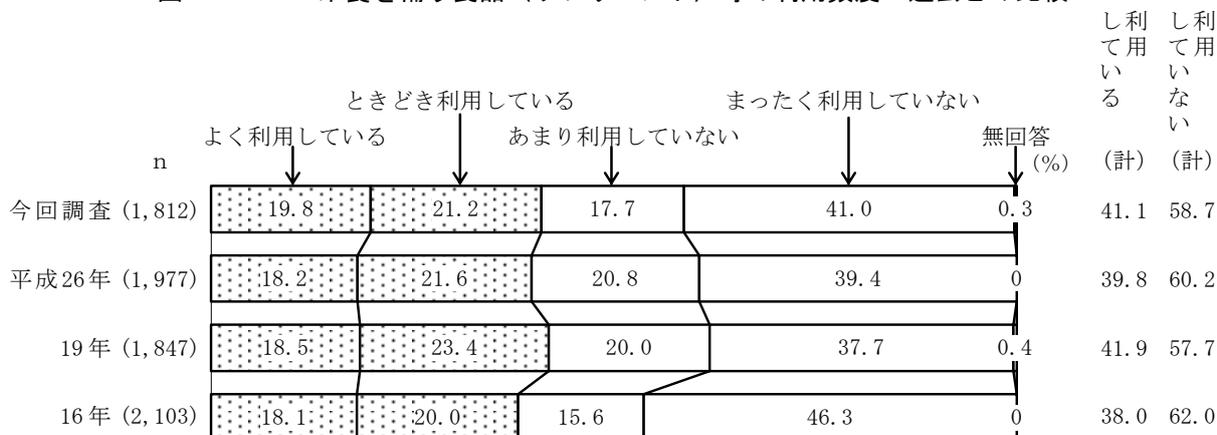


（注）『利用している（計）』は「よく利用している」と「ときどき利用している」との合計  
『利用していない（計）』は「あまり利用していない」と「まったく利用していない」との合計

栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度を聞いたところ、『利用している（計）』は41%、『利用していない（計）』は59%となっている。（図1-18-1）

栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度を過去との比較で見ると、『利用している（計）』は平成26年より1ポイント増加している。一方、『利用していない（計）』は平成26年より2ポイント減少している。（図1-18-2）

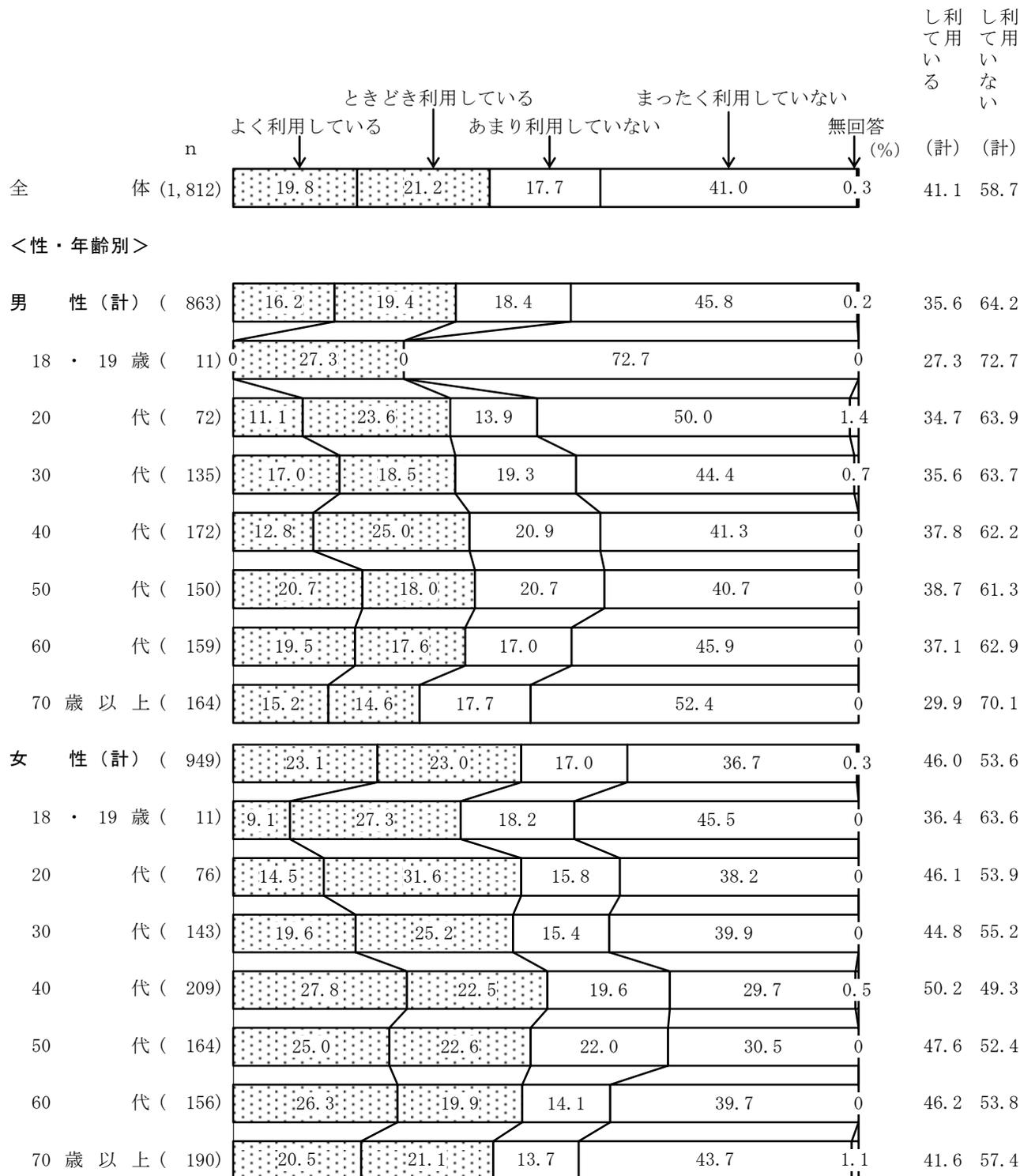
図1-18-2 栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度—過去との比較



（注1）『利用している（計）』は「よく利用している」と「ときどき利用している」との合計  
『利用していない（計）』は「あまり利用していない」と「まったく利用していない」との合計  
（注2）平成16年は「健康に関する世論調査」

性・年齢別にみると、『利用している（計）』は女性が男性より10ポイント高くなっており、女性40代で約5割と多くなっている。一方、『利用していない（計）』は男性が女性より11ポイント高くなっており、男性70歳以上で約7割と多くなっている。（図1-18-3）

図1-18-3 栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度－性・年齢別

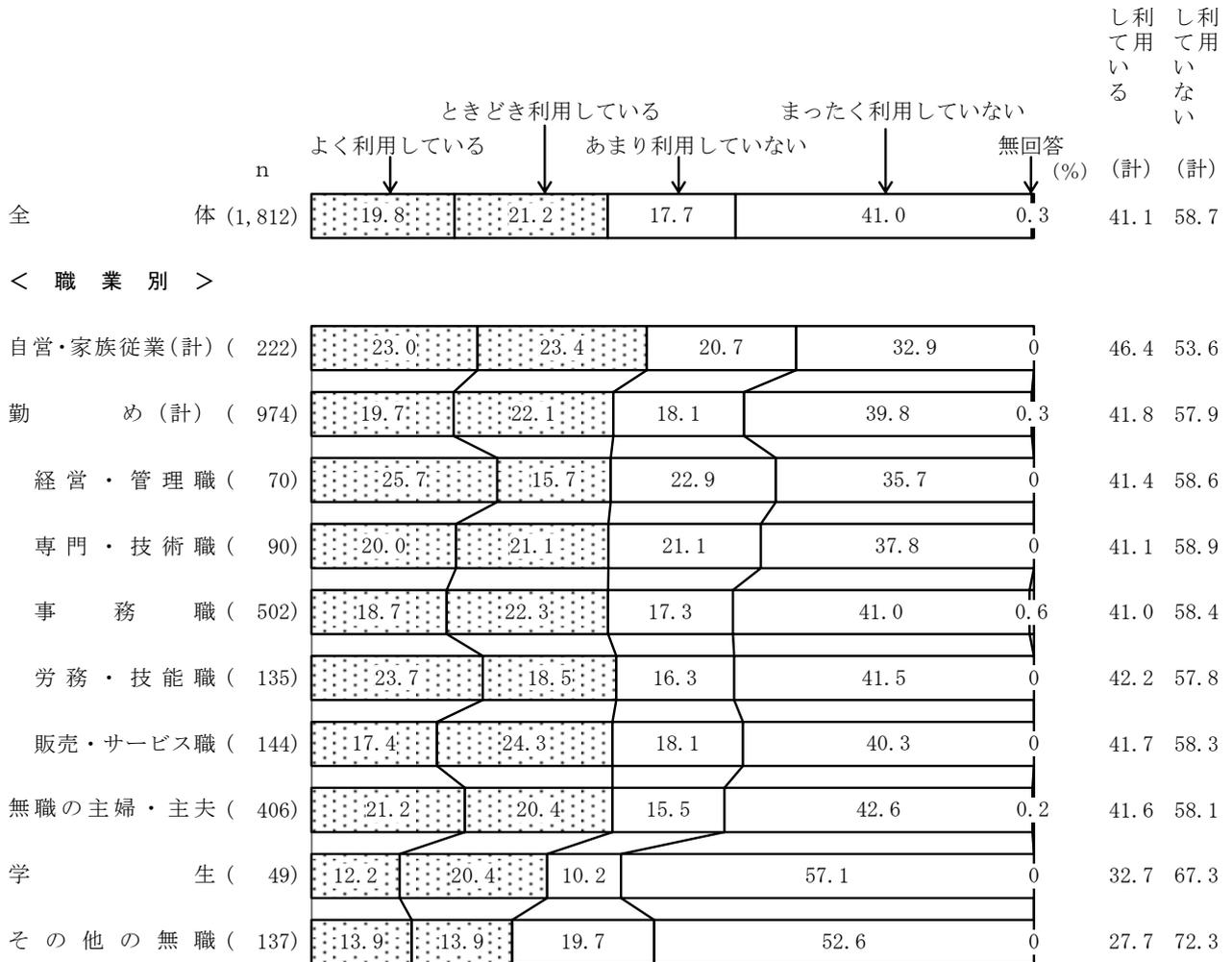


(注) 『利用している（計）』は「よく利用している」と「ときどき利用している」との合計  
『利用していない（計）』は「あまり利用していない」と「まったく利用していない」との合計

職業別にみると、『利用していない（計）』はその他の無職で7割を超えて多くなっている。

(図1-18-4)

図1-18-4 栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度－職業別

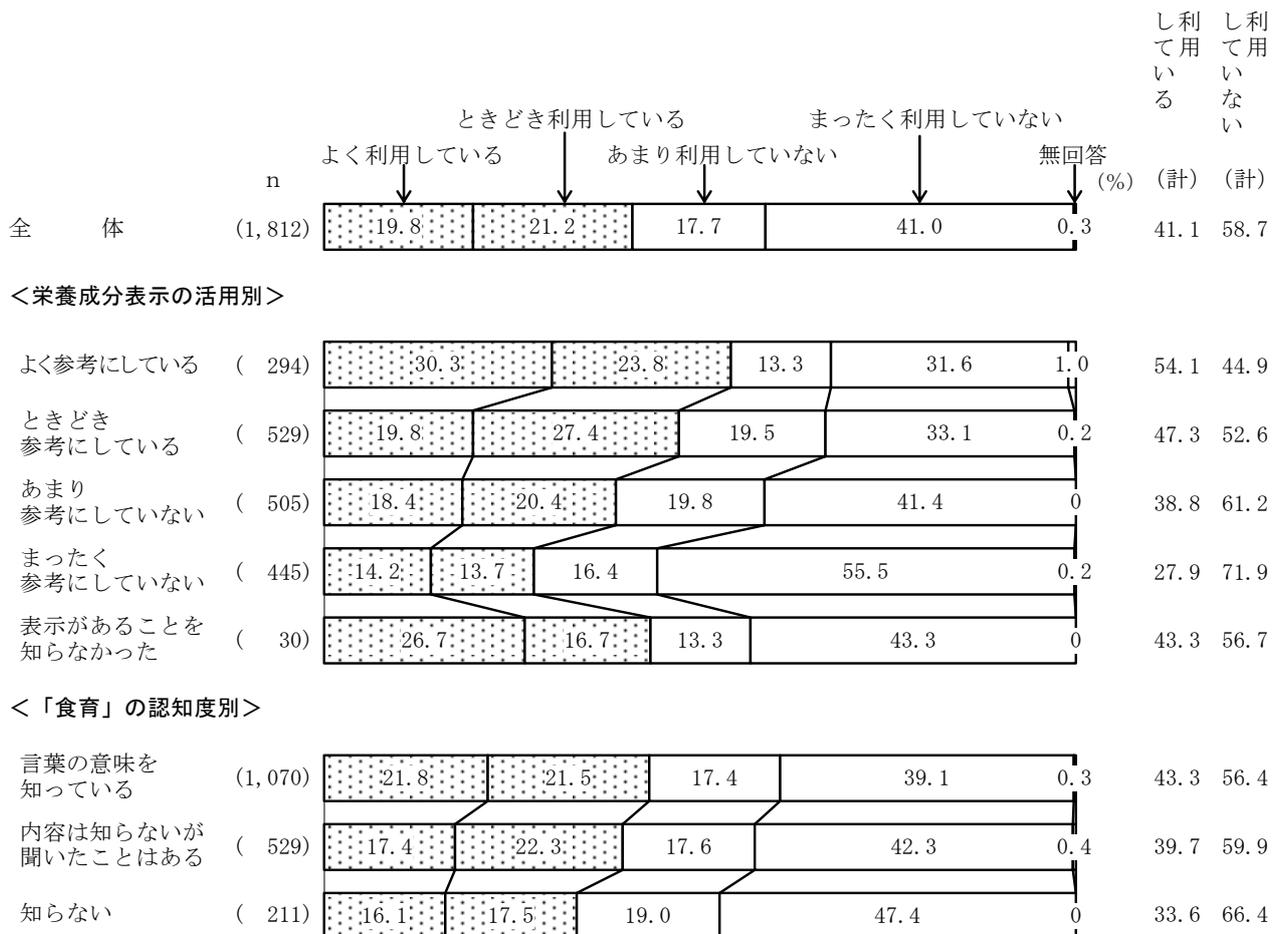


(注) 『利用している (計)』は「よく利用している」と「ときどき利用している」との合計  
『利用していない (計)』は「あまり利用していない」と「まったく利用していない」との合計

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、『利用している（計）』は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考になっている”で5割半ばとなっている。一方、『利用していない（計）』は栄養成分表示の活用頻度が低くなるほど割合が高く、“まったく参考にしていない”で7割を超えている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『利用していない（計）』は“知らない”で6割半ばとなっている。（図1-18-5）

図1-18-5 栄養を補う食品（サプリメント）等の利用頻度－栄養成分表示の活用別、「食育」の認知度別



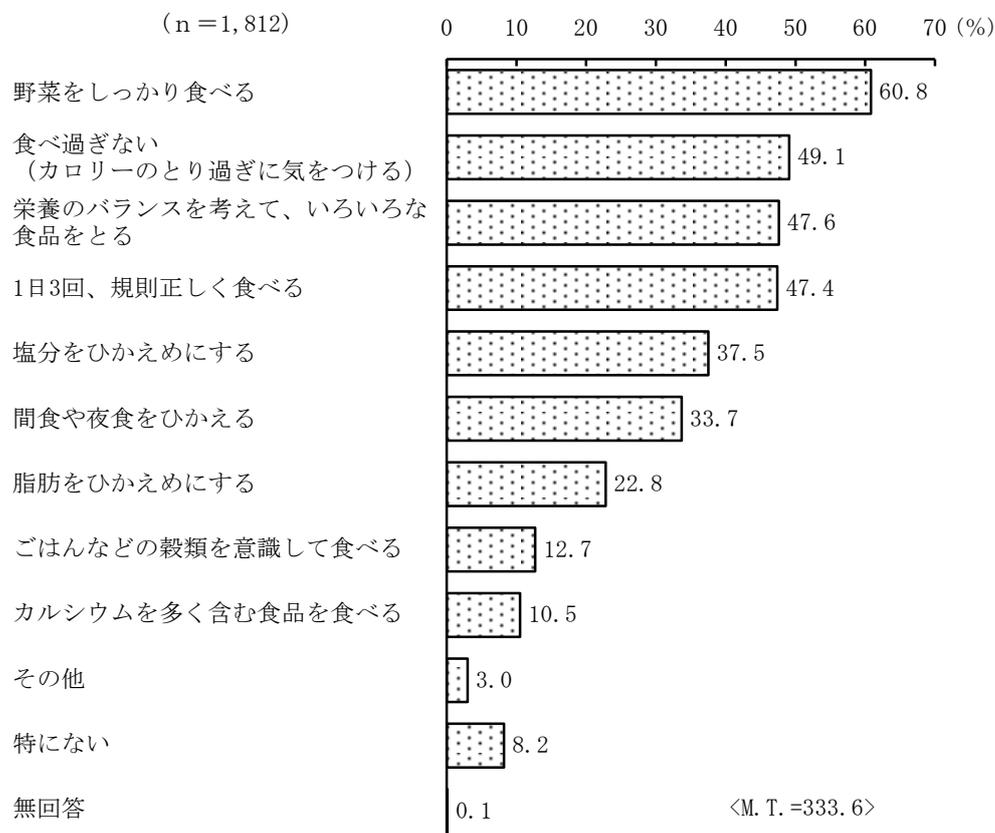
（注）『利用している（計）』は「よく利用している」と「ときどき利用している」との合計  
『利用していない（計）』は「あまり利用していない」と「まったく利用していない」との合計

※1-19 食事のとり方で気をつけていること

図1-19-1

(全員に)

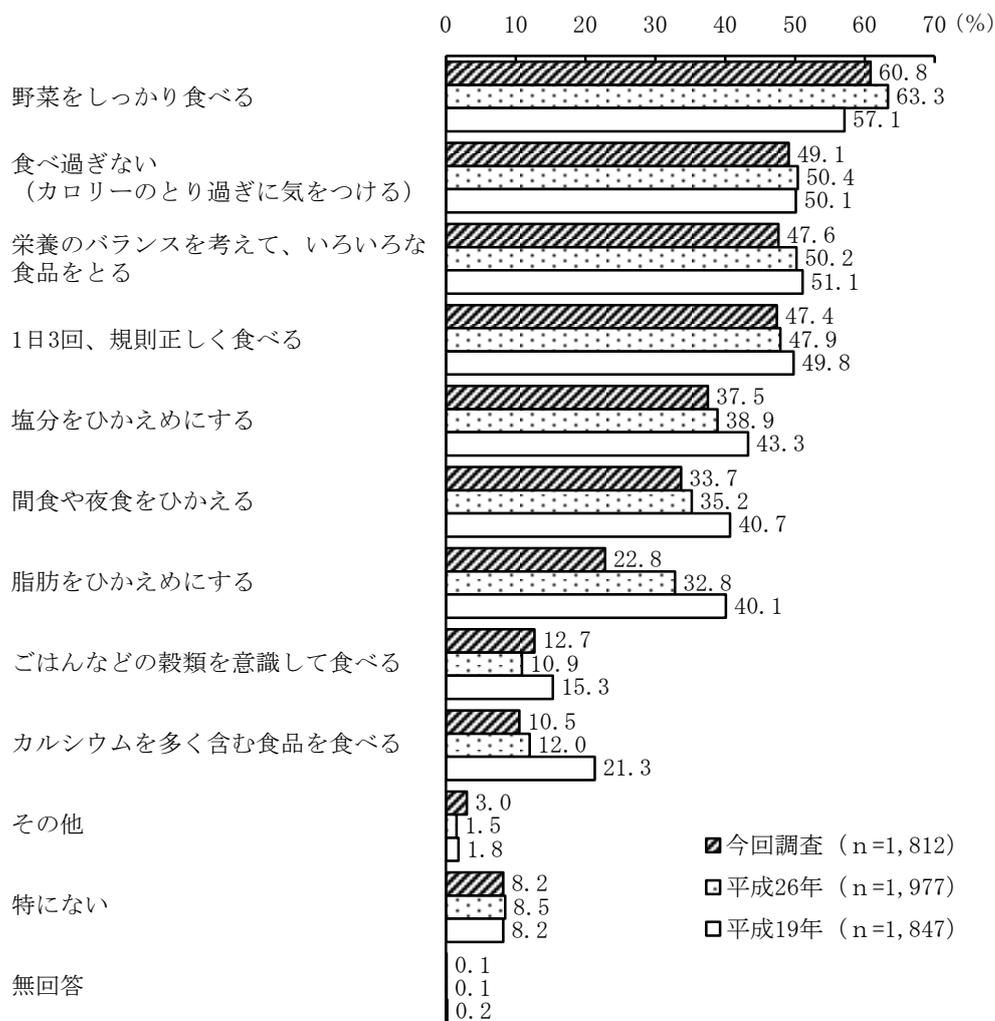
Q9 あなたは、食事のとり方でどのようなことに気をつけていますか。あてはまるものすべてお選びください。(M. A.)



食事のとり方で気をつけていることを聞いたところ、「野菜をしっかり食べる」が61%で最も多く、次いで「食べ過ぎない (カロリーのとりに過ぎに気をつける)」49%、「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」48%、「1日3回、規則正しく食べる」47%などの順となっている。(図1-19-1)

食事のとり方で気をつけていることを過去との比較で見ると、「ごはんなどの穀類を意識して食べる」は平成26年より2ポイント増加している。一方、「脂肪をひかえめにする」は10ポイント、「野菜をしっかり食べる」と「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」は3ポイント、それぞれ平成26年より減少している。(図1-19-2)

図1-19-2 食事のとり方で気をつけていることー過去との比較



性・年齢別にみると、「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」は女性が男性より25ポイント高くなっており、女性の40代以上の年代で6割台と多くなっている。「野菜をしっかり食べる」は女性が男性より12ポイント高くなっており、女性の40代と60代で7割を超えて多くなっている。また、「特にない」は20代の男性で約3割と多くなっている。

職業別にみると、無職の主婦・主夫では各項目とも多くなっており、「野菜をしっかり食べる」は7割近く、「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」は6割を超えている。(表1-19-1)

表1-19-1 食事のとり方で気をつけていることー性・年齢別、職業別

(%)

	n	野菜をしっかりと食べる	食べ過ぎない(カロリーのとり過ぎに気をつける)	栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる	1日3回、規則正しく食べる	塩分をひかえめにする	間食や夜食をひかえる	脂肪をひかえめにする	ごはんなどの穀類を意識して食べる	カルシウムを多く含む食品を食べる	その他	特にない	無回答
全 体	1,812	60.8	49.1	47.6	47.4	37.5	33.7	22.8	12.7	10.5	3.0	8.2	0.1
< 性・年齢別 >													
男 性 (計)	863	54.8	45.9	34.8	43.9	33.1	30.6	19.2	12.2	5.7	2.3	12.1	0.1
18・19 歳	11	54.5	63.6	18.2	36.4	9.1	36.4	-	27.3	-	-	9.1	-
20 代	72	30.6	27.8	19.4	27.8	15.3	12.5	9.7	6.9	4.2	4.2	29.2	-
30 代	135	45.9	40.7	36.3	35.6	20.7	22.2	13.3	13.3	5.2	3.7	16.3	0.7
40 代	172	52.3	47.1	32.6	34.9	23.3	29.1	19.2	9.3	4.1	1.7	13.4	-
50 代	150	63.3	50.7	34.7	42.7	33.3	31.3	23.3	10.7	5.3	0.7	10.7	-
60 代	159	61.6	47.8	33.3	47.2	44.7	42.1	25.8	10.1	3.8	2.5	8.2	-
70 歳以上	164	61.0	49.4	45.1	65.9	51.8	34.8	19.5	18.9	11.0	2.4	4.9	-
女 性 (計)	949	66.3	52.1	59.3	50.5	41.5	36.6	26.1	13.3	15.0	3.7	4.6	-
18・19 歳	11	45.5	45.5	54.5	45.5	18.2	27.3	9.1	-	-	-	9.1	-
20 代	76	50.0	51.3	38.2	26.3	15.8	40.8	18.4	13.2	7.9	3.9	10.5	-
30 代	143	68.5	47.6	50.3	39.9	36.4	35.0	20.3	8.4	10.5	6.3	3.5	-
40 代	209	73.2	49.3	61.2	50.2	32.1	37.8	23.0	15.8	8.6	2.4	4.8	-
50 代	164	64.6	56.1	65.2	51.2	41.5	34.8	23.8	9.1	9.1	3.0	5.5	-
60 代	156	71.2	56.4	68.6	54.5	52.6	37.8	31.4	13.5	17.9	4.5	4.5	-
70 歳以上	190	62.1	52.1	60.0	64.7	58.4	35.8	35.8	18.4	31.6	3.2	2.1	-
< 職業別 >													
自営・家族従業(計)	222	60.8	51.4	45.9	42.3	45.0	38.7	22.1	14.0	8.1	1.4	11.3	-
勤 め (計)	974	59.0	48.5	44.0	45.1	29.2	32.2	21.4	9.8	6.5	3.7	8.6	0.1
経営・管理職	70	60.0	52.9	40.0	40.0	38.6	37.1	31.4	8.6	1.4	-	10.0	-
専門・技術職	90	63.3	47.8	52.2	43.3	28.9	30.0	23.3	8.9	4.4	4.4	7.8	-
事務職	502	60.8	51.6	46.2	46.8	26.1	32.5	18.9	10.6	7.6	3.8	6.8	0.2
労務・技能職	135	50.4	42.2	34.8	45.9	31.9	32.6	22.2	7.4	5.9	3.0	14.8	-
販売・サービス職	144	60.4	43.1	41.7	41.0	32.6	31.9	22.9	10.4	7.6	4.2	7.6	-
無職の主婦・主夫	406	68.2	52.7	62.3	57.6	55.7	37.9	28.8	16.5	21.7	2.0	2.7	-
学 生	49	44.9	46.9	30.6	32.7	12.2	28.6	10.2	10.2	-	2.0	20.4	-
その他の無職	137	57.7	43.1	38.7	46.7	41.6	24.8	21.2	21.9	13.1	4.4	10.9	-

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、“ほとんど毎日”でほとんどの項目が多くなっており、「野菜をしっかりと食べる」は7割を超えている。「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」は調理の頻度が高くなるほど割合が高く、“ほとんど毎日”で6割を超えている。一方、“ほとんどつづらない”ではほとんどの項目が少なくなっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、ほとんどの項目で栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高くなっている。“よく参考にしている”では、「野菜をしっかりと食べる」は7割半ば、「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」は約7割となっている。

東京産の食材の優先的な購入有無別（Q7 SQ1 P64）にみると、“購入している”で「野菜をしっかりと食べる」は7割半ば、「1日3回、規則正しく食べる」は6割を超えて多くなっている。（表1-19-2）

表1-19-2 食事のとり方で気をつけていることー調理の頻度別、栄養成分表示の活用別、東京産の食材の優先的な購入有無別

		(%)											
	n	野菜をしっかりと食べる	食べ過ぎない（カロリーのとり過ぎに気をつける）	栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる	1日3回、規則正しく食べる	塩分をひかえめにする	間食や夜食をひかえる	脂肪をひかえめにする	ごはんなどの穀類を意識して食べる	カルシウムを多く含む食品を食べる	その他	特になし	無回答
全 体	1,812	60.8	49.1	47.6	47.4	37.5	33.7	22.8	12.7	10.5	3.0	8.2	0.1
<b>&lt;調理の頻度別&gt;</b>													
ほとんど毎日	768	71.6	50.9	63.4	58.9	46.2	37.9	27.6	15.0	17.6	3.4	2.9	-
週に4～5日程度	156	66.0	57.1	51.3	41.0	38.5	39.1	23.7	12.2	9.0	3.2	4.5	-
週に2～3日程度	192	51.0	54.2	38.5	37.5	34.9	33.9	19.3	9.4	4.7	2.6	5.2	-
月に数日（休日など）	200	51.5	51.5	37.0	34.5	25.5	31.5	20.5	12.5	6.0	3.5	15.5	0.5
ほとんどつづらない	493	49.9	41.2	29.4	40.6	29.6	26.6	17.4	11.0	4.1	2.4	15.8	-
<b>&lt;栄養成分表示の活用別&gt;</b>													
よく参考にしている	294	74.1	69.7	70.4	54.1	45.9	40.8	35.7	17.7	19.7	6.1	1.4	-
ときどき参考にしている	529	70.7	56.9	57.1	49.7	41.6	36.3	24.4	10.8	9.6	3.6	2.8	-
あまり参考にしていない	505	56.6	46.7	43.6	50.9	37.0	35.0	21.8	14.9	9.3	1.4	7.3	-
まったく参考にしていない	445	47.4	31.5	27.6	37.8	28.3	25.8	14.2	10.1	7.4	2.5	18.4	0.2
表示があることを知らなかった	30	30.0	23.3	16.7	20.0	26.7	13.3	16.7	3.3	6.7	-	30.0	-
<b>&lt;東京産の食材の優先的な購入有無別&gt;</b>													
購入している	321	74.5	53.9	60.4	61.4	47.7	37.1	28.0	18.4	19.0	2.2	3.1	-
購入していない	743	65.4	52.4	53.0	50.5	40.2	37.0	25.2	12.4	10.6	3.8	4.7	-

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「1日3回、規則正しく食べる」は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で6割近くと多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、ほとんどの項目で「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で「野菜をしっかり食べる」は6割半ば、「栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる」は5割半ばとなっている。（表1-19-3）

表1-19-3 食事のとり方で気をつけていること－食生活の満足度別、「食育」の認知度別

		(%)											
	n	野菜をしっかりと食べる	とり過ぎに気をつける（カロリーの食べ過ぎない）	栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる	1日3回、規則正しく食べる	塩分をひかえめにする	間食や夜食をひかえる	脂肪をひかえめにする	ごはんなどの穀類を意識して食べる	カルシウムを多く含む食品を食べる	その他	特にない	無回答
全 体	1,812	60.8	49.1	47.6	47.4	37.5	33.7	22.8	12.7	10.5	3.0	8.2	0.1
<食生活の満足度別>													
大変満足	434	63.6	53.0	51.6	58.8	39.6	34.8	23.5	17.1	12.9	2.5	4.8	-
ある程度満足	1,157	62.1	49.4	48.2	46.5	38.5	34.7	23.2	11.8	10.5	2.5	7.9	0.1
やや不満	192	51.0	40.6	38.0	30.2	27.6	25.5	19.8	9.4	5.7	6.3	15.1	-
大変不満	22	27.3	31.8	18.2	13.6	27.3	27.3	13.6	9.1	4.5	13.6	27.3	-
<「食育」の認知度別>													
言葉の意味を知っている	1,070	66.4	53.0	55.6	50.5	38.6	35.6	25.0	12.9	11.6	3.7	5.7	0.1
聞いたことはある	529	56.9	45.6	39.7	44.6	37.6	34.0	21.0	13.0	10.0	2.3	9.6	-
知らない	211	41.7	38.4	27.0	37.9	31.3	23.7	16.1	11.4	6.6	1.4	17.1	-

※1-20 「食事バランスガイド」をみた経験

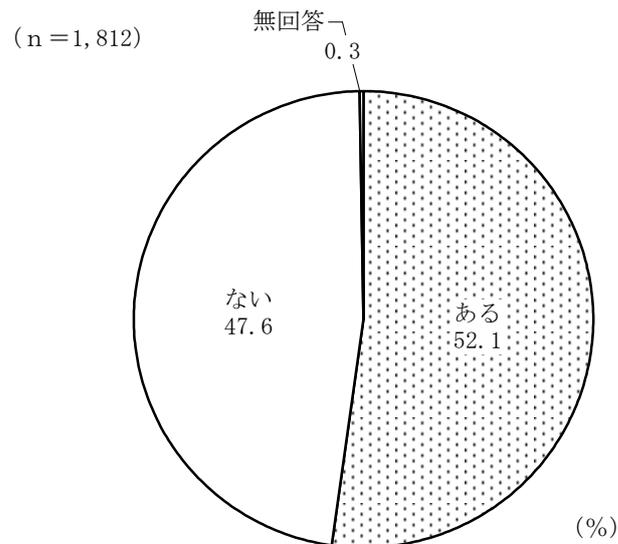
図1-20-1

(全員に)

(食事バランスガイドの図と説明\*をみせて)

\*「食事バランスガイド」とは、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかなど、「食事の基本」を身に付けるために望ましい食事のとり方(主食、主菜、副菜をバランス良く食べる)や、おおよその量をわかりやすくコマ型のイラストで示したものです。

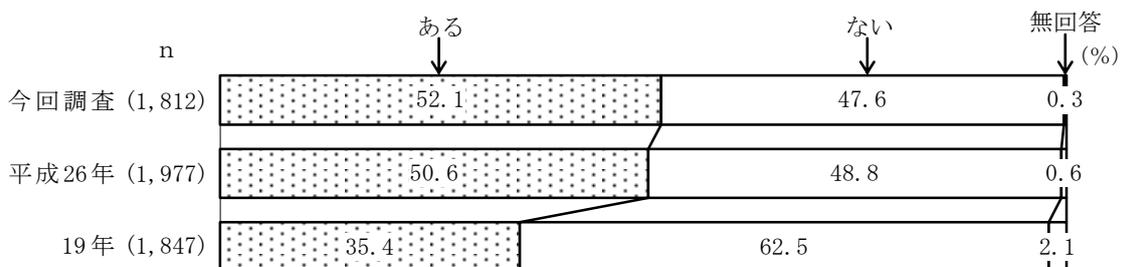
Q10 「食事バランスガイド」をみたことがありますか。次の中から1つだけお選びください。



「食事バランスガイド」をみたことがあるか聞いたところ、「ある」は52%、「ない」は48%となっている。(図1-20-1)

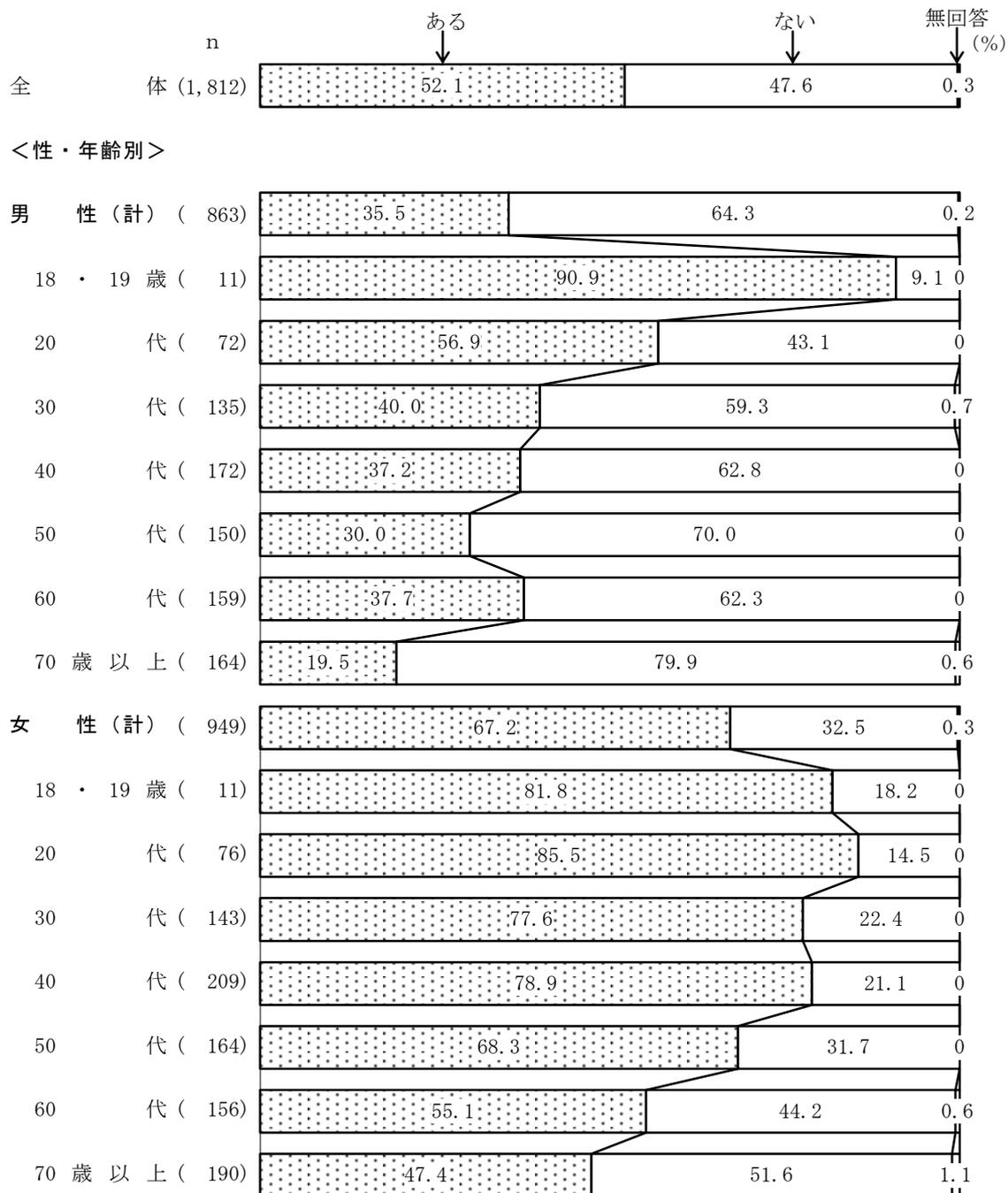
「食事バランスガイド」をみた経験を過去との比較でみると、「ある」は平成26年より2ポイント増加している。(図1-20-2)

図1-20-2 「食事バランスガイド」をみた経験—過去との比較



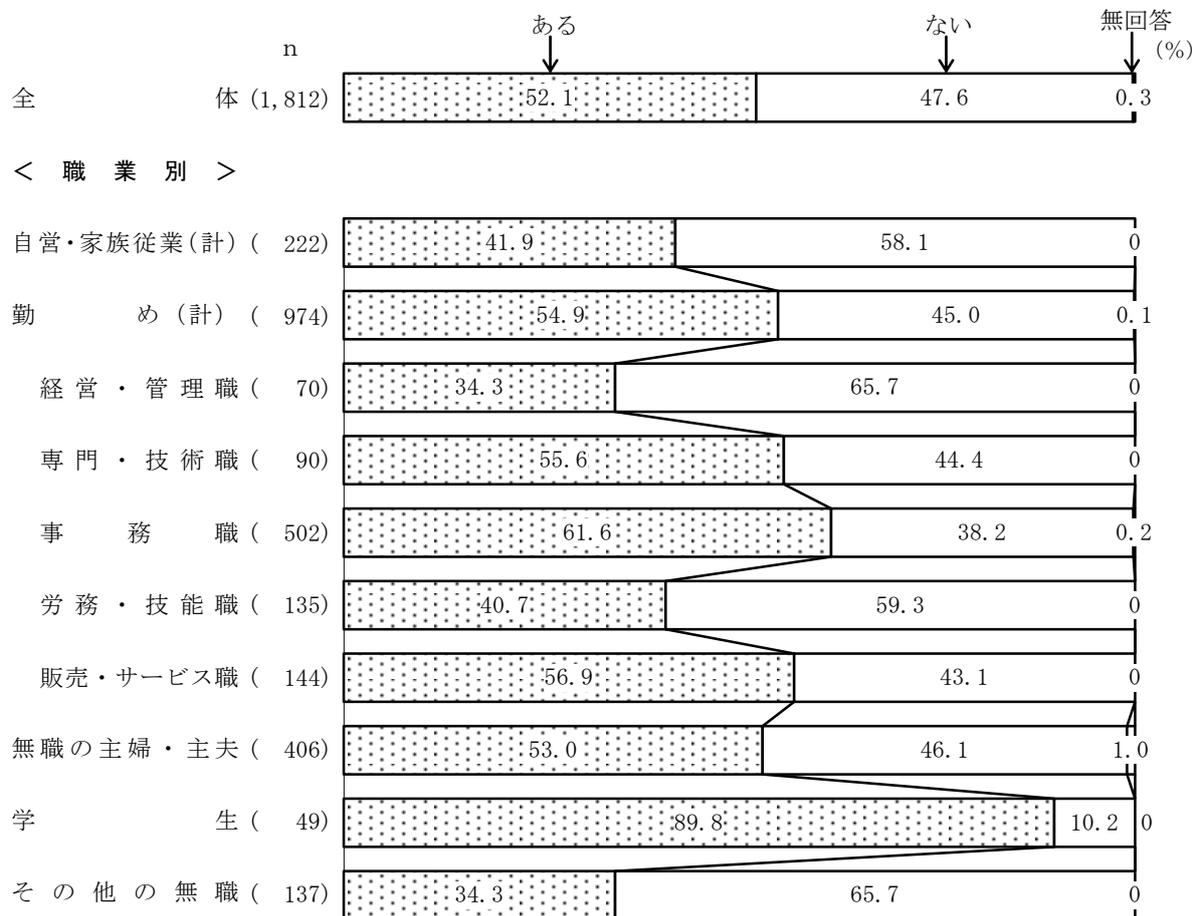
性・年齢別にみると、「ある」は女性が男性より32ポイント高くなっており、女性の50代以下の年代で約7割から8割半ばと多くなっている。一方、「ない」は男性の30代以上の年代で6割から8割と多くなっている。(図1-20-3)

図1-20-3 「食事バランスガイド」をみた経験—性・年齢別



職業別にみると、「ある」は学生で約9割、事務職で6割を超えて多くなっている。一方、「ない」は経営・管理職とその他の無職で6割半ば、労務・技能職と自営・家族従業（計）で6割近くと多くなっている。（図1-20-4）

図1-20-4 「食事バランスガイド」をみた経験—職業別

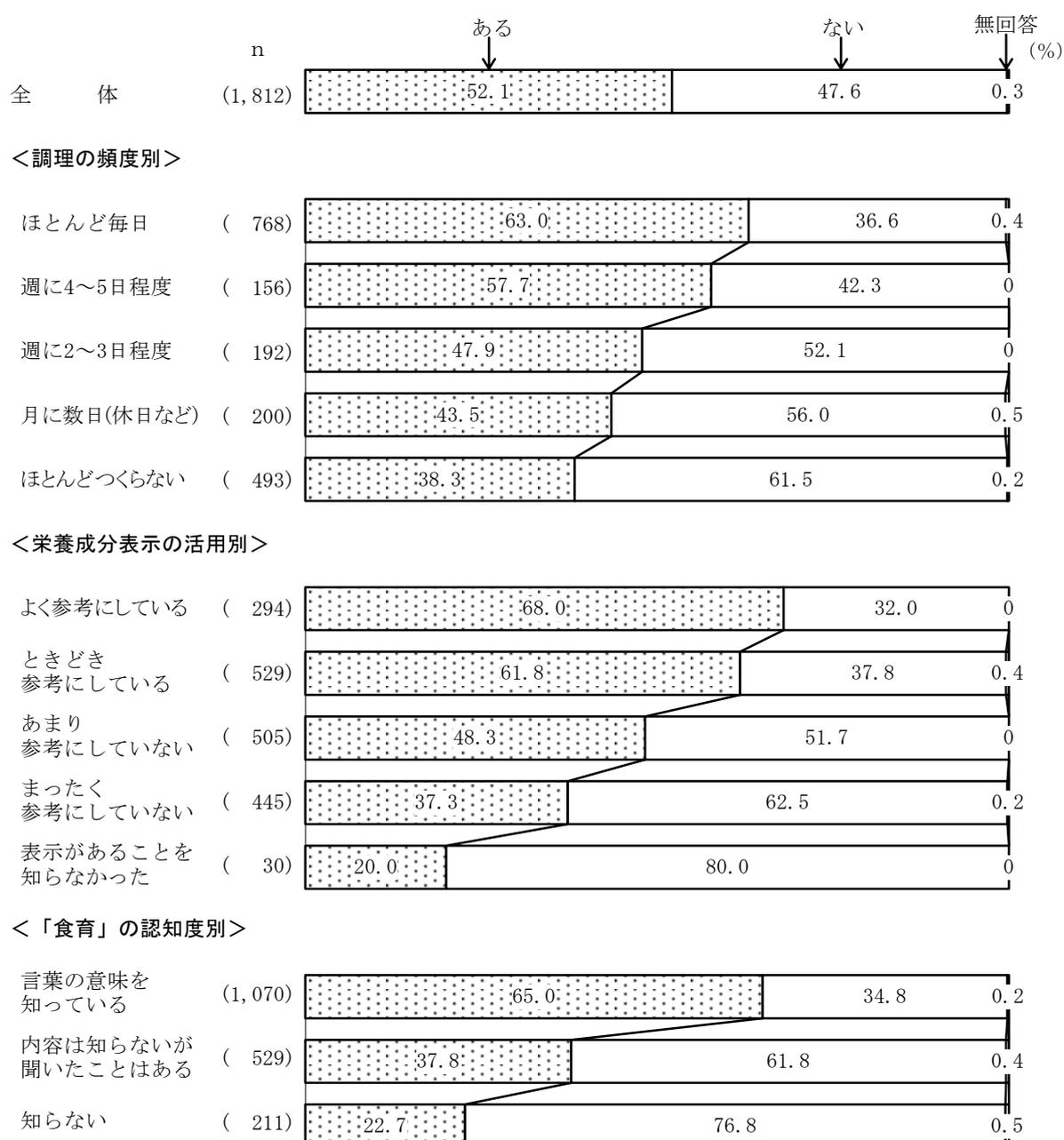


調理の頻度別（Q3 P39）にみると、「ある」は調理の頻度が高くなるほど割合が高く、「ほとんど毎日」で6割を超えている。一方、「ない」は調理の頻度が低くなるほど割合が高く、「ほとんどつづらない」で6割を超えている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「ある」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、「よく参考にしている」で7割近くとなっている。一方、「ない」は栄養成分表示の活用頻度が低くなるほど割合が高く、「まったく参考にしていない」で6割を超えている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「ある」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、「言葉の意味を知っている」で6割半ばとなっている。一方、「ない」は「食育」の認知度が低くなるほど割合が高く、「知らない」で8割近くとなっている。（図1-20-5）

図1-20-5 「食事バランスガイド」をみた経験－調理の頻度別、  
栄養成分表示の活用別、「食育」の認知度別

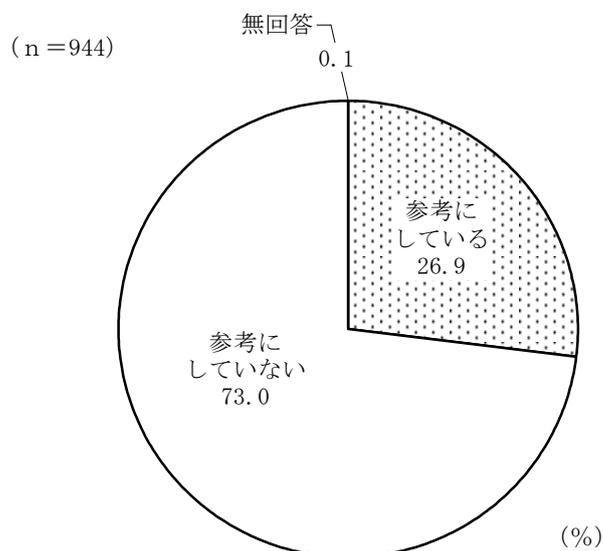


※1-21 「食事バランスガイド」の活用

図1-21-1

(Q10で「ある」と答えた方に)

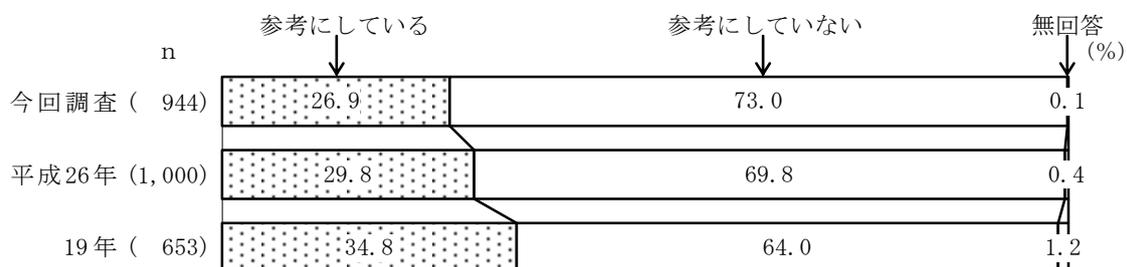
SQ 食事のメニューを考えたり、選んだりするとき、食事バランスガイドを参考にしていますか。  
次の中から1つだけお選びください。



「食事バランスガイド」をみたことが「ある」と答えた人(944人)に、「食事バランスガイド」を参考にしているか聞いたところ、「参考にしている」は27%、「参考にしていない」は73%となっている。(図1-21-1)

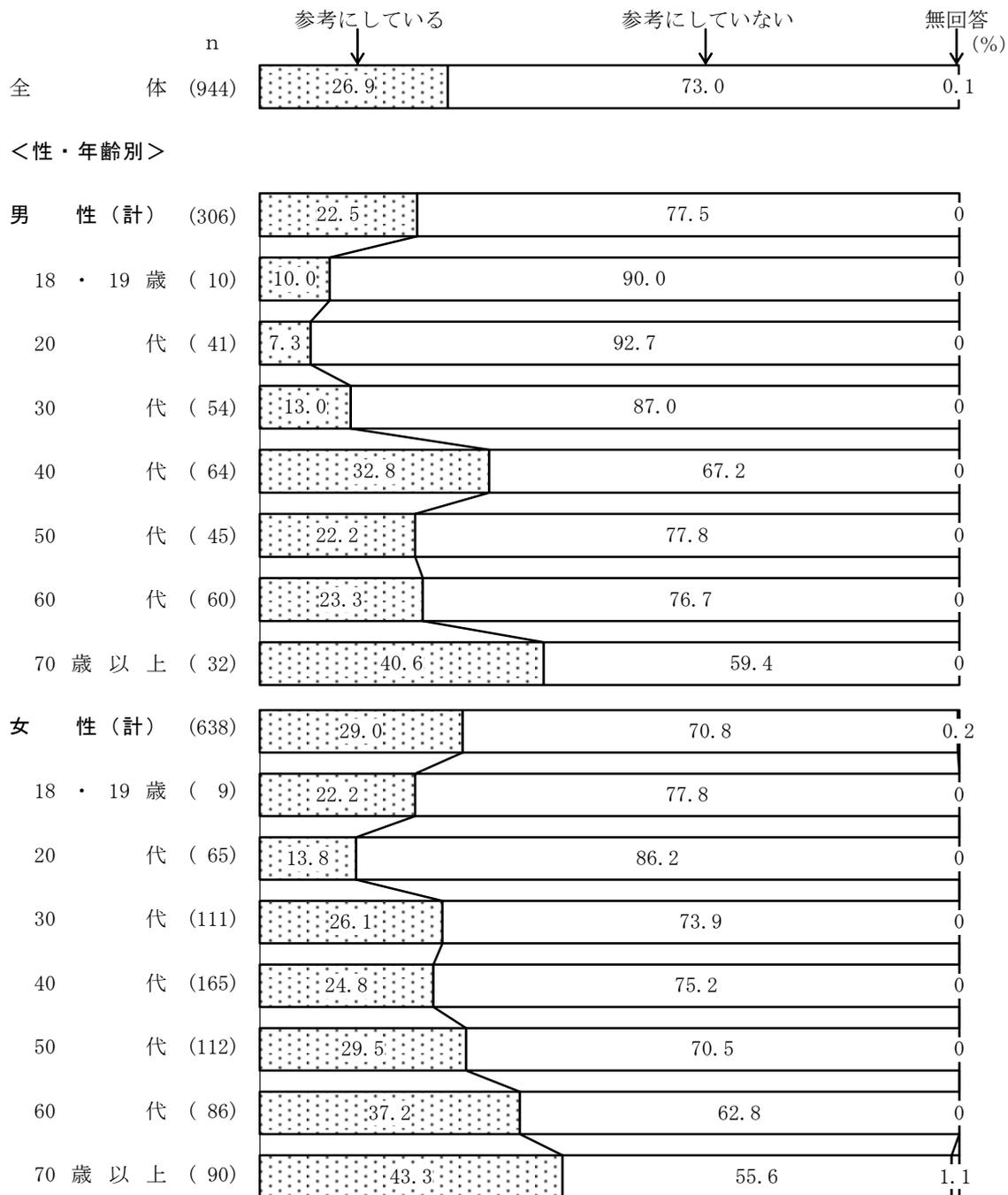
「食事バランスガイド」の活用を過去との比較で見ると、「参考にしている」は平成26年より3ポイント減少し、「参考にしていない」は3ポイント増加している。(図1-21-2)

図1-21-2 「食事バランスガイド」の活用—過去との比較



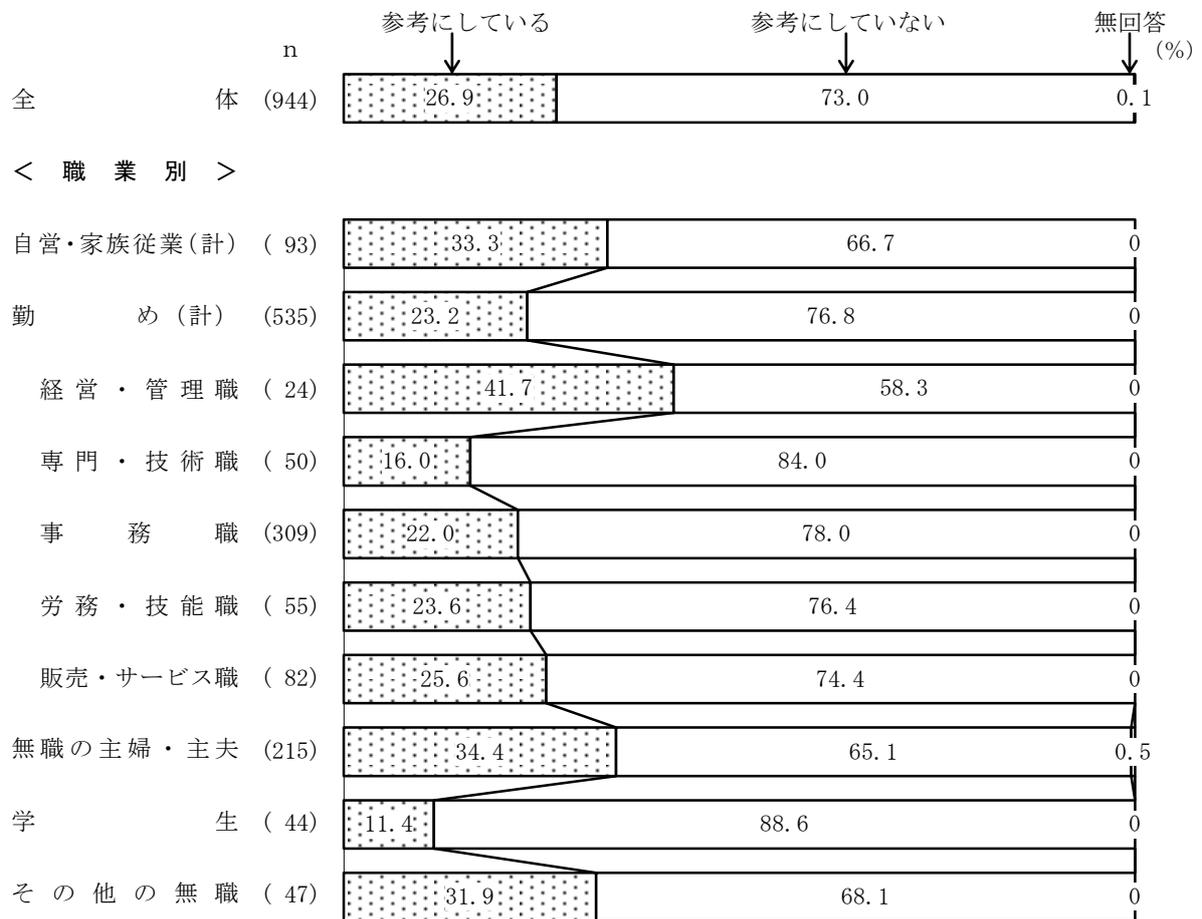
性・年齢別にみると、「参考にしている」は女性70歳以上で4割を超え、女性60代で4割近くと多くなっている。一方、「参考にしていない」は男性20代で9割を超え、男性30代で9割近く、女性20代で8割半ばと多くなっている。(図1-21-3)

図1-21-3 「食事バランスガイド」の活用—性・年齢別



職業別にみると、「参考にしている」は無職の主婦・主夫で3割半ばと多くなっている。一方、「参考にしていない」は学生で9割近く、事務職で8割近くと多くなっている。(図1-21-4)

図1-21-4 「食事バランスガイド」の活用—職業別

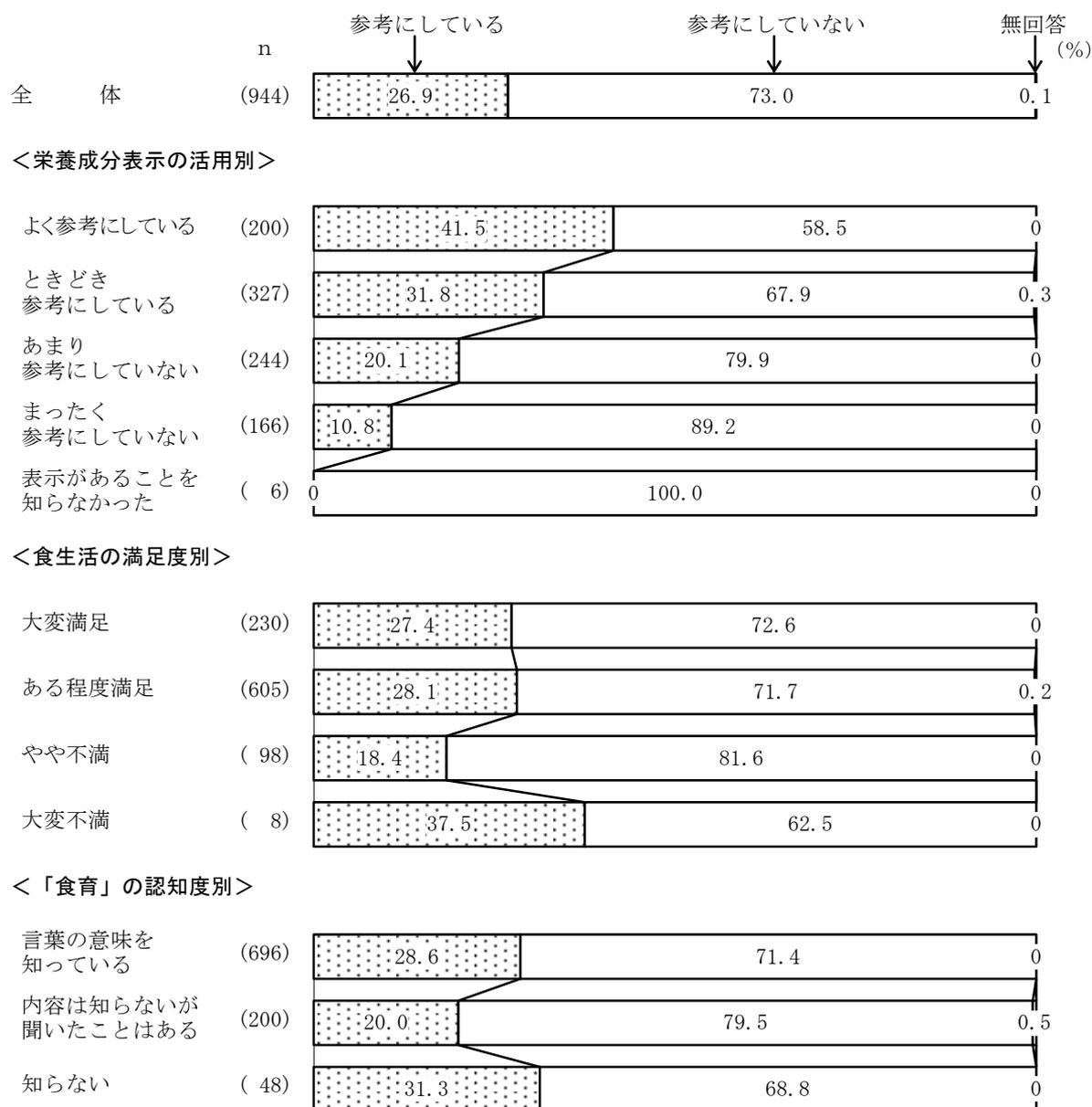


栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「参考にしている」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で4割を超えている。一方、「参考にしていない」は栄養成分表示の活用頻度が低くなるほど割合が高く、“まったく参考にしていない”で9割近くとなっている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、大きな違いはみられない。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「参考にしていない」は“内容は知らないが聞いたことはある”で約8割と多くなっている。（図1-21-5）

図1-21-5 「食事バランスガイド」の活用－栄養成分表示の活用別、食生活の満足度別、「食育」の認知度別

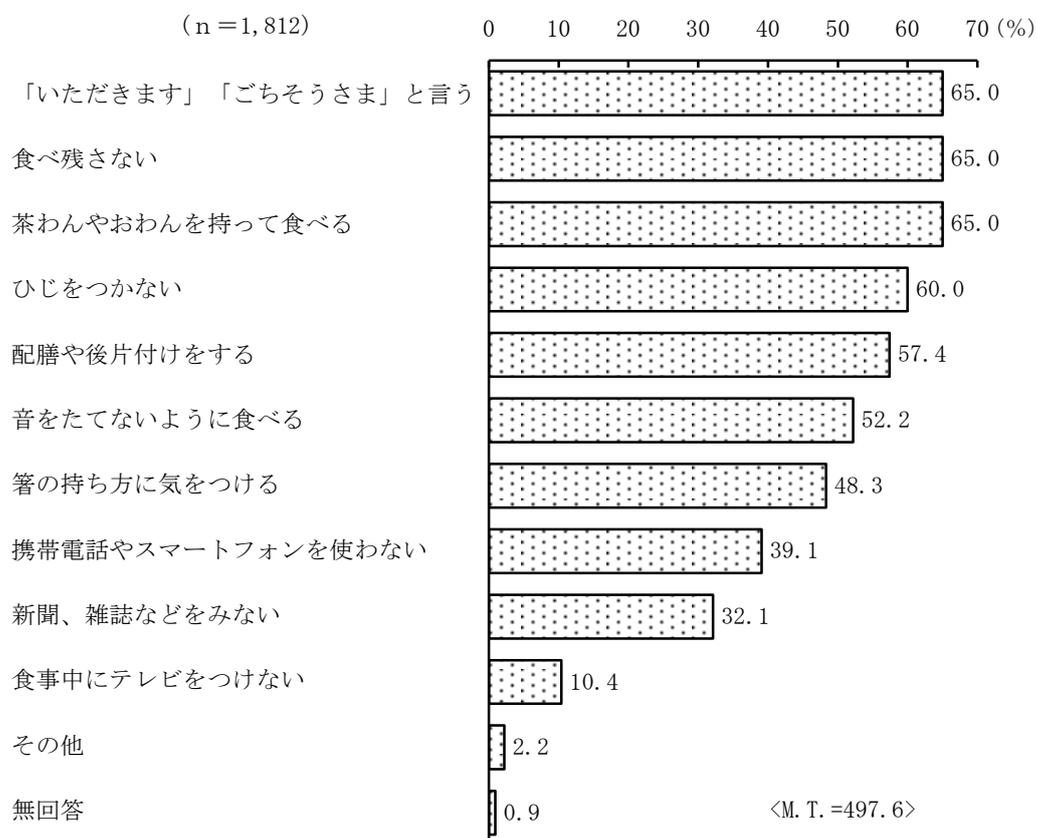


※1-22 食事のマナー

図1-22-1

(全員に)

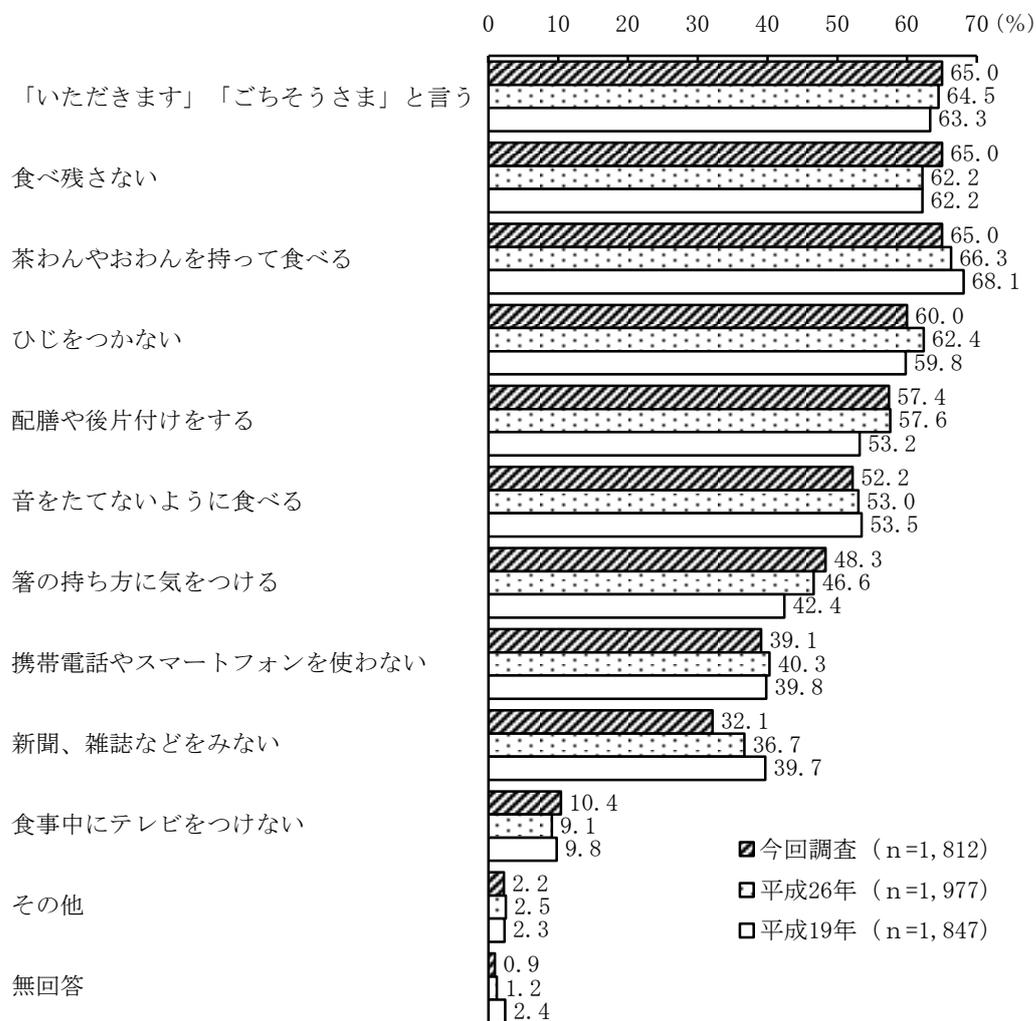
Q11 あなたは、食事の際に、守るように気をつけているマナーがありますか。あてはまるものすべてお選びください。(M. A.)



食事の際に、守るように気をつけているマナーがあるか聞いたところ、『「いただきます』『ごちそうさま』と言う』、『食べ残さない』、『茶わんやおわんを持って食べる』がいずれも65%で多く、次いで『ひじをつかない』60%、『配膳や後片付けをする』57%などの順となっている。(図1-22-1)

食事のマナーを過去との比較で見ると、「食べ残さない」は平成26年より3ポイント増加している。一方、「新聞、雑誌などをみない」は平成26年より5ポイント減少している。(図1-22-2)

図1-22-2 食事のマナー—過去との比較



(注)「携帯電話やスマートフォンを使わない」は平成26年以前では「携帯電話を使わない」

性・年齢別にみると、女性が男性よりほとんどの項目で多くなっており、『いただきます』『ごちそうさま』と言うは12ポイント、「ひじをつかない」は14ポイント高くなっている。一方、「食べ残さない」は男性が女性より11ポイント高くなっており、男性の20代と30代で7割半ばを超えている。

職業別にみると、「食べ残さない」は学生で8割半ばと多く、「茶わんやおわんを持って食べる」は無職の主婦・主夫で7割を超えて多くなっている。(表1-22-1)

表1-22-1 食事のマナー—性・年齢別、職業別

		(%)											
	n	「いただきます」「ごちそうさま」と言う	食べ残さない	茶わんやおわんを持って食べる	ひじをつかない	配膳や後片付けをする	音をたてないように食べる	箸の持ち方に気をつける	携帯電話やスマートフォンを使わない	新聞、雑誌などをみない	食事中にテレビをつけない	その他	無回答
全体	1,812	65.0	65.0	65.0	60.0	57.4	52.2	48.3	39.1	32.1	10.4	2.2	0.9
<b>&lt; 性・年齢別 &gt;</b>													
男性(計)	863	59.0	70.8	59.1	52.5	51.4	45.3	40.3	34.4	28.7	7.1	1.6	1.2
18・19歳	11	63.6	90.9	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	36.4	18.2	-	-	-
20代	72	68.1	79.2	55.6	48.6	51.4	58.3	48.6	20.8	20.8	5.6	1.4	1.4
30代	135	63.7	75.6	58.5	51.9	53.3	57.0	46.7	28.9	22.2	7.4	2.2	0.7
40代	172	63.4	71.5	55.2	52.9	50.6	44.2	45.9	33.7	22.1	8.1	1.2	1.2
50代	150	60.7	69.3	60.7	52.7	48.7	50.0	42.0	39.3	27.3	7.3	1.3	-
60代	159	46.5	68.6	53.5	50.9	53.5	34.0	25.8	33.3	28.9	6.9	1.3	1.3
70歳以上	164	56.7	64.6	69.5	55.5	51.2	37.2	37.2	42.1	46.3	6.7	2.4	2.4
女性(計)	949	70.5	59.6	70.3	66.9	62.8	58.4	55.5	43.3	35.2	13.5	2.7	0.7
18・19歳	11	72.7	90.9	72.7	63.6	63.6	63.6	63.6	27.3	-	-	-	-
20代	76	73.7	61.8	63.2	65.8	47.4	68.4	59.2	21.1	22.4	10.5	2.6	-
30代	143	75.5	58.0	59.4	62.9	53.1	61.5	52.4	34.3	23.8	19.6	2.8	2.1
40代	209	73.7	60.8	74.6	78.5	72.2	70.8	68.4	50.7	39.2	19.6	1.0	-
50代	164	74.4	58.5	71.3	68.9	63.4	56.7	56.1	51.2	36.0	8.5	1.8	1.2
60代	156	65.4	59.6	70.5	62.8	69.2	49.4	48.7	48.7	42.3	11.5	5.1	-
70歳以上	190	62.6	57.9	75.3	59.5	60.0	46.8	46.8	40.5	40.0	10.0	3.7	1.1
<b>&lt; 職業別 &gt;</b>													
自営・家族従業(計)	222	59.0	62.2	62.2	60.8	54.1	45.0	50.9	32.9	26.1	7.7	2.3	1.4
勤め(計)	974	66.2	67.5	62.7	58.7	55.4	54.9	48.2	37.6	30.0	10.4	2.0	0.7
経営・管理職	70	70.0	72.9	60.0	64.3	48.6	45.7	42.9	30.0	24.3	5.7	-	1.4
専門・技術職	90	66.7	62.2	58.9	64.4	58.9	56.7	46.7	38.9	33.3	11.1	6.7	1.1
事務職	502	68.1	67.1	63.7	58.6	59.2	60.0	52.0	39.8	30.3	12.4	1.8	0.6
労務・技能職	135	57.0	69.6	63.0	50.4	47.4	45.2	43.0	38.5	34.8	8.9	0.7	1.5
販売・サービス職	144	68.8	70.1	62.5	59.0	54.2	50.0	43.1	31.9	25.0	6.3	2.1	-
無職の主婦・主夫	406	70.0	60.3	73.4	63.3	64.3	52.2	50.0	47.5	40.4	13.1	2.7	1.2
学生	49	77.6	83.7	67.3	69.4	61.2	71.4	63.3	24.5	14.3	4.1	-	-
その他の無職	137	47.4	61.3	57.7	54.7	52.6	37.2	36.5	38.0	38.0	10.9	2.9	1.5

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、“ほとんど毎日”でほとんどの項目とも多くなっており、「茶わんやおわんを持って食べる」は7割を超えている。「配膳や後片付けをする」は調理の頻度が高くなるほど割合が高く、“ほとんど毎日”で6割半ばとなっている。一方、“ほとんどつぐらない”ではほとんどの項目で少なくなっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、“よく参考にしている”でほとんどの項目で多くなっており、「茶わんやおわんを持って食べる」と「ひじをつかない」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、“大変満足”で「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」は7割半ば、「食べ残さない」は7割を超えて多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、各項目とも「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」は“言葉の意味を知っている”で7割を超え、「茶わんやおわんを持って食べる」は約7割となっている。（表1-22-2）

表1-22-2 食事のマナー—調理の頻度別、栄養成分表示の活用別、食生活の満足度別、「食育」の認知度別

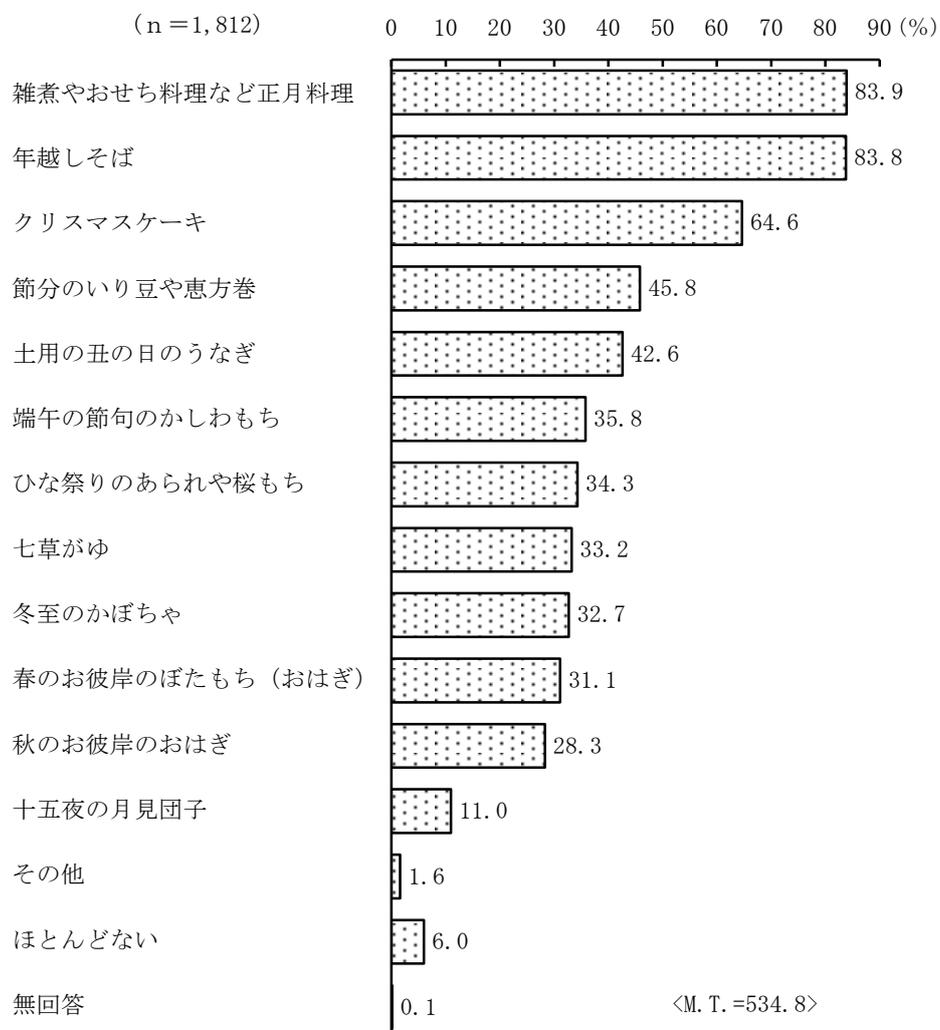
	n	「いただきます」と言う	「ごちそうさま」と言う	食べ残さない	茶わんやおわんを持って食べる	ひじをつかない	配膳や後片付けをする	音をたてないように食べる	箸の持ち方に気をつける	携帯電話やスマートフォンを使わない	新聞、雑誌などをみない	食事中にテレビをつけない	その他	無回答
全体	1,812	65.0	65.0	65.0	60.0	57.4	52.2	48.3	39.1	32.1	10.4	2.2	0.9	
＜調理の頻度別＞														
ほとんど毎日	768	69.4	61.8	71.2	65.9	66.3	54.3	53.9	46.6	37.1	15.6	2.6	0.9	
週に4～5日程度	156	64.1	64.7	59.6	57.7	62.8	59.0	47.4	38.5	27.6	7.1	1.3	0.6	
週に2～3日程度	192	55.2	66.7	59.4	59.4	55.7	52.1	40.1	28.1	27.6	6.3	2.6	-	
月に数日（休日など）	200	69.0	71.5	63.0	57.5	55.5	53.5	47.0	35.0	31.5	6.5	1.0	0.5	
ほとんどつぐらない	493	60.4	66.5	60.0	53.1	43.2	46.2	43.6	33.7	28.0	6.7	2.2	1.6	
＜栄養成分表示の活用別＞														
よく参考にしている	294	70.4	63.6	72.4	69.0	68.0	60.9	56.1	50.3	40.8	17.3	2.4	0.7	
ときどき参考にしている	529	70.1	67.1	67.9	64.5	61.2	57.1	53.7	42.2	32.1	10.0	2.1	0.4	
あまり参考にしていない	505	64.2	65.3	63.2	58.6	57.0	48.1	44.8	37.6	31.7	10.3	2.6	1.0	
まったく参考にしていない	445	56.9	63.4	60.2	51.7	49.0	45.6	41.6	30.8	28.1	7.4	2.0	1.1	
表示があることを知らなかった	30	56.7	56.7	50.0	50.0	20.0	50.0	40.0	23.3	13.3	-	-	6.7	
＜食生活の満足度別＞														
大変満足	434	74.4	71.9	70.3	63.6	62.4	54.4	52.3	45.4	39.4	13.1	1.2	0.7	
ある程度満足	1,157	63.0	63.3	63.8	59.6	56.6	51.1	47.5	38.5	31.2	10.1	2.4	1.0	
やや不満	192	55.7	58.3	60.9	54.7	50.5	53.1	44.8	27.6	20.8	4.7	2.6	1.0	
大変不満	22	63.6	77.3	59.1	54.5	68.2	59.1	45.5	45.5	36.4	22.7	4.5	-	
＜「食育」の認知度別＞														
言葉の意味を知っている	1,070	71.4	67.1	69.6	66.5	63.0	58.9	56.5	42.8	34.3	13.6	1.8	0.8	
聞いたことはある	529	59.2	61.8	59.9	53.1	52.2	45.7	39.9	35.2	29.5	6.0	3.0	0.9	
知らない	211	47.4	61.6	53.6	44.5	42.2	34.1	28.0	29.9	27.5	5.7	2.4	1.4	

※1-23 季節ごとの行事食の摂取

図1-23-1

(全員に)

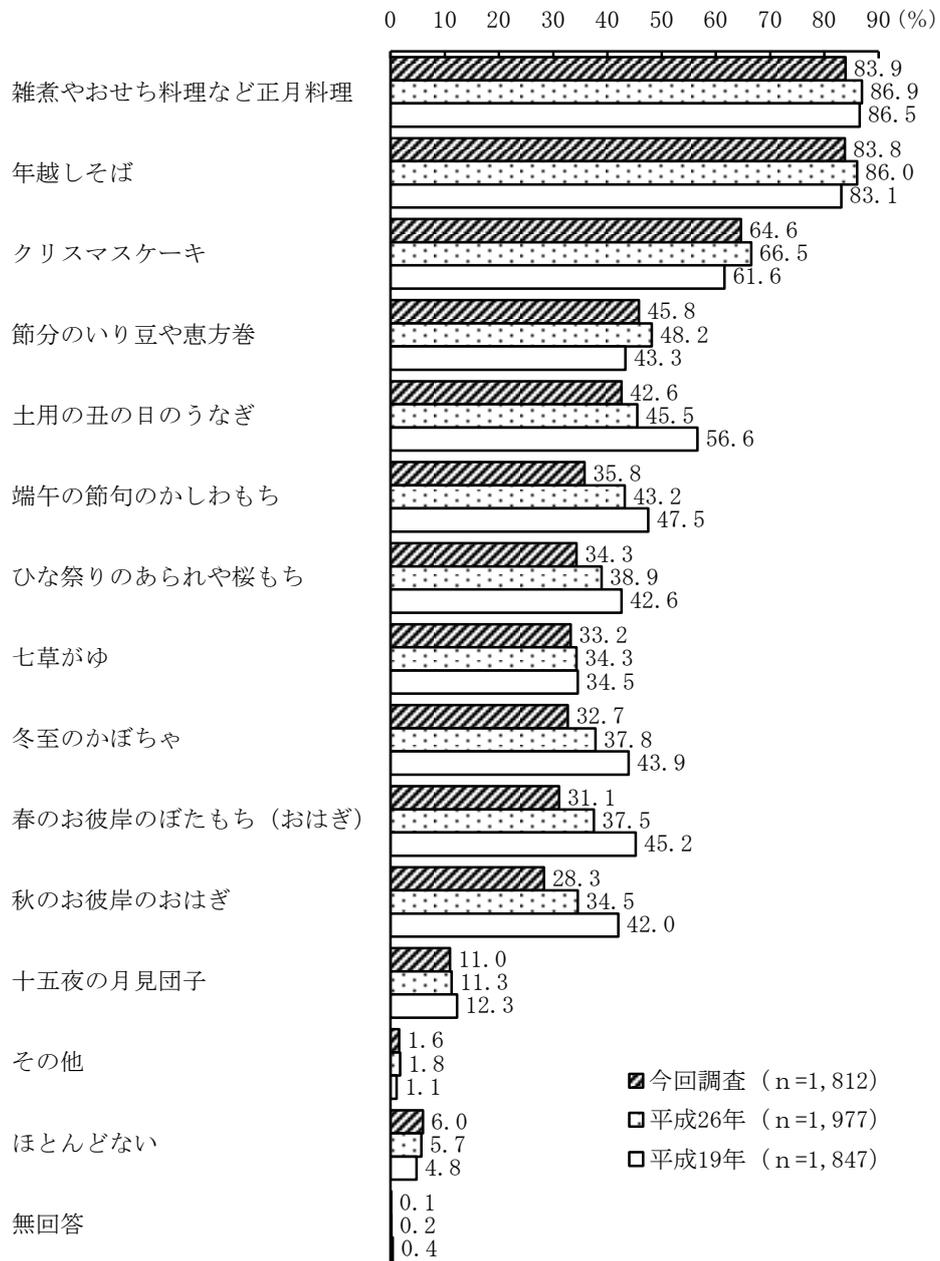
Q12 あなたは、季節ごとに、次のような行事食を食べる習慣がありますか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。(M. A.)



季節ごとに行事食を食べる習慣があるか聞いたところ、「雑煮やおせち料理など正月料理」と「年越しそば」が84%で多く、次いで「クリスマスケーキ」65%、「節分のいり豆や恵方巻」46%、「土用の丑の日のうなぎ」43%などの順となっている。(図1-23-1)

季節ごとの行事食の摂取を過去との比較でみると、「端午の節句のかしわもち」は7ポイント、「春のお彼岸のぼたもち（おはぎ）」と「秋のお彼岸のおはぎ」は6ポイント、「ひな祭りのあられや桜もち」と「冬至のかぼちゃ」は5ポイント、それぞれ平成26年より減少している。（図1-23-2）

図1-23-2 季節ごとの行事食の摂取－過去との比較



性・年齢別にみると、ほとんどの項目で女性が男性より多くなっており、「クリスマスケーキ」は13ポイント、「雑煮やおせち料理など正月料理」は8ポイント高くなっている。「クリスマスケーキ」は女性の20代から40代で8割を超え、「雑煮やおせち料理など正月料理」は女性の50代以上の年代で9割台と多くなっている。

職業別にみると、多くの項目で無職の主婦・主夫が多くなっている。「クリスマスケーキ」は販売・サービス職と事務職で7割半ばと多くなっている。

共働き状況別にみると、「クリスマスケーキ」は“共働きである”で8割近くと多くなっている。「冬至のかぼちゃ」は“共働きでない”で約4割と多くなっている。(表1-23-1)

表1-23-1 季節ごとの行事食の摂取一性・年齢別、職業別、共働き状況別

		(%)															
	n	正月料理	雑煮やおせち料理など	年越しそば	クリスマスケーキ	節分のいり豆や恵方巻	土用の丑の日のうなぎ	端午の節句のかしわもち	ひな祭りのあられや桜もち	七草がゆ	冬至のかぼちゃ	春のお彼岸のおはぎ(おはぎ)	秋のお彼岸のおはぎ	十五夜の月見団子	その他	ほとんどない	無回答
全体	1,812	83.9	83.8	64.6	45.8	42.6	35.8	34.3	33.2	32.7	31.1	28.3	11.0	1.6	6.0	0.1	
<b>&lt;性・年齢別&gt;</b>																	
男性(計)	863	79.7	82.3	57.6	36.0	43.0	26.8	21.9	26.8	22.6	23.1	20.2	6.7	1.2	7.9	-	
18・19歳	11	90.9	72.7	81.8	45.5	54.5	27.3	27.3	27.3	36.4	9.1	9.1	27.3	9.1	-	-	
20代	72	75.0	81.9	75.0	41.7	40.3	22.2	13.9	25.0	20.8	13.9	12.5	6.9	-	5.6	-	
30代	135	71.1	78.5	67.4	41.5	35.6	19.3	22.2	19.3	12.6	10.4	7.4	5.2	-	11.9	-	
40代	172	80.2	83.7	68.6	36.0	42.4	22.7	22.1	22.1	17.4	10.5	12.2	8.7	0.6	4.7	-	
50代	150	85.3	87.3	60.0	37.3	46.7	26.7	24.0	33.3	22.0	23.3	18.7	4.7	1.3	5.3	-	
60代	159	78.6	84.9	44.7	29.6	47.2	29.6	20.1	25.2	25.2	27.0	25.2	6.9	1.9	8.2	-	
70歳以上	164	83.5	77.4	39.0	33.5	42.7	36.6	24.4	34.1	34.1	47.6	39.6	6.1	1.8	11.6	-	
女性(計)	949	87.7	85.2	71.0	54.7	42.3	44.0	45.5	39.1	41.8	38.5	35.7	14.9	2.0	4.2	0.1	
18・19歳	11	81.8	72.7	81.8	45.5	36.4	18.2	36.4	9.1	54.5	9.1	18.2	18.2	-	-	-	
20代	76	85.5	81.6	80.3	57.9	34.2	19.7	31.6	32.9	32.9	18.4	15.8	10.5	-	5.3	-	
30代	143	74.8	81.1	80.4	51.0	36.4	33.6	40.6	25.9	22.4	15.4	15.4	14.7	0.7	5.6	-	
40代	209	88.0	88.0	84.2	63.6	38.3	42.1	48.8	35.9	39.7	26.8	24.4	17.7	1.9	3.8	-	
50代	164	94.5	89.0	73.2	57.3	52.4	53.7	50.6	46.3	45.7	43.9	43.3	14.6	3.0	1.8	-	
60代	156	90.4	89.7	62.8	55.1	45.5	54.5	50.0	48.7	46.8	54.5	52.6	12.8	3.2	3.8	-	
70歳以上	190	90.0	80.5	50.0	44.2	43.2	48.4	43.7	42.6	54.2	60.5	52.1	15.3	2.1	5.8	0.5	
<b>&lt;職業別&gt;</b>																	
自営・家族従業(計)	222	85.1	82.4	63.1	40.1	48.6	32.9	26.1	35.1	29.3	29.3	24.3	6.8	0.9	5.9	-	
勤め(計)	974	83.5	85.7	69.7	47.8	40.7	32.1	33.7	29.7	26.6	23.1	21.7	10.9	1.8	5.2	-	
経営・管理職	70	87.1	87.1	58.6	35.7	45.7	34.3	30.0	24.3	15.7	24.3	20.0	5.7	2.9	4.3	-	
専門・技術職	90	82.2	85.6	64.4	48.9	33.3	30.0	30.0	22.2	24.4	22.2	20.0	8.9	1.1	4.4	-	
事務職	502	85.5	86.1	73.5	52.2	41.0	34.3	36.9	33.5	28.3	22.5	21.1	12.5	2.0	4.6	-	
労務・技能職	135	75.6	81.5	59.3	33.3	40.7	23.0	26.7	21.5	23.7	23.7	24.4	8.1	1.5	9.6	-	
販売・サービス職	144	83.3	87.5	75.0	51.4	41.0	34.0	36.1	31.3	32.6	26.4	24.3	11.1	2.1	4.9	-	
無職の主婦・主夫	406	87.2	85.0	62.1	49.0	48.0	49.0	44.8	41.6	48.8	50.7	45.3	15.5	1.0	5.7	0.2	
学生	49	83.7	75.5	75.5	53.1	38.8	20.4	30.6	36.7	36.7	16.3	16.3	8.2	2.0	2.0	-	
その他の無職	137	77.4	73.0	38.0	32.1	35.0	35.8	24.8	29.9	33.6	40.1	36.5	7.3	2.2	13.9	-	

全体(有配偶)	1,204	88.1	87.5	71.9	50.9	46.0	40.0	39.1	36.2	34.5	33.3	29.4	12.1	1.7	3.2	0.1	
<b>&lt;共働き状況別&gt;</b>																	
共働きである	637	87.3	87.0	77.2	51.6	42.4	36.4	38.1	34.4	29.5	27.2	23.7	12.4	1.6	3.6	-	
共働きでない	553	89.0	88.2	66.2	49.7	49.9	44.1	40.0	38.2	40.1	40.1	36.0	11.8	2.0	2.7	0.2	

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、“ほとんど毎日”でほとんどの項目とも多くなっており、「雑煮やおせち料理など正月料理」は9割近く、「クリスマスケーキ」は7割近くと多くなっている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、ほとんどの項目で食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、「雑煮やおせち料理など正月料理」は“大変満足”で9割近く、「クリスマスケーキ」は7割を超えている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、ほとんどの項目で「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で「雑煮やおせち料理など正月料理」と「年越しそば」は9割近くとなっている。（表1-23-2）

表1-23-2 季節ごとの行事食の摂取－調理の頻度別、食生活の満足度別、「食育」の認知度別

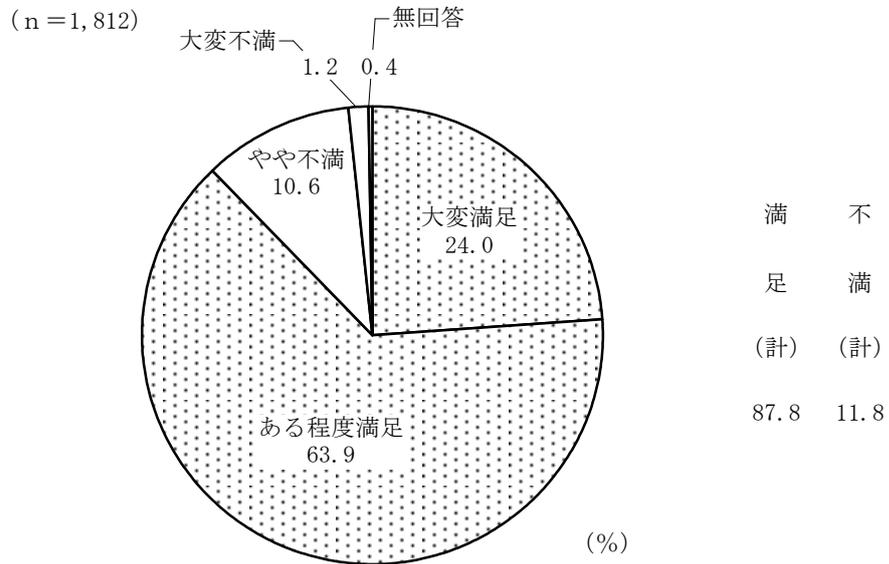
		(%)														
	n	正月料理 雑煮やおせち料理など	年越しそば	クリスマスケーキ	節分のいり豆や恵方巻	土用の丑の日のうなぎ	端午の節句のかしわもち	ひな祭りのあられや桜もち	七草がゆ	冬至のかぼちゃ	春のお彼岸のぼたもち (おはぎ)	秋のお彼岸のおはぎ	十五夜の月見団子	その他	ほとんどない	無回答
全 体	1,812	83.9	83.8	64.6	45.8	42.6	35.8	34.3	33.2	32.7	31.1	28.3	11.0	1.6	6.0	0.1
<b>&lt;調理の頻度別&gt;</b>																
ほとんど毎日	768	88.4	85.5	69.1	54.8	44.9	45.6	46.1	40.0	44.8	40.5	37.6	15.9	2.2	4.3	0.1
週に4～5日程度	156	83.3	85.3	62.8	35.9	39.1	32.1	29.5	27.6	22.4	26.3	23.1	9.6	0.6	4.5	-
週に2～3日程度	192	69.3	79.7	55.7	37.0	35.4	22.9	21.4	27.1	18.2	20.3	15.6	3.6	1.6	10.9	-
月に数日（休日など）	200	85.5	86.0	67.5	49.5	45.0	31.5	32.5	29.0	28.0	25.0	23.0	9.5	1.5	5.0	-
ほとんどつくらない	493	82.2	81.7	60.6	36.9	41.6	28.6	22.9	28.6	24.7	24.7	22.7	7.1	1.0	7.5	-
<b>&lt;食生活の満足度別&gt;</b>																
大変満足	434	89.2	87.8	72.6	57.4	52.1	43.1	42.9	45.2	38.5	37.1	33.6	16.6	1.8	3.9	-
ある程度満足	1,157	84.3	83.8	63.8	43.4	41.7	35.4	32.5	30.6	32.8	31.4	28.1	9.6	1.6	5.5	-
やや不満	192	72.9	77.1	55.2	36.5	30.2	23.4	26.0	24.0	19.8	17.7	18.2	7.8	1.0	10.9	-
大変不満	22	54.5	68.2	27.3	18.2	13.6	13.6	18.2	13.6	18.2	13.6	22.7	4.5	4.5	27.3	-
<b>&lt;「食育」の認知度別&gt;</b>																
言葉の意味を知っている	1,070	87.4	87.6	72.3	53.1	45.4	42.8	42.0	38.6	38.0	33.0	30.6	14.9	2.1	4.0	0.1
聞いたことはある	529	82.2	81.9	56.1	39.3	40.6	27.8	25.9	26.8	27.0	29.3	27.2	5.7	0.8	6.4	-
知らない	211	70.6	70.1	46.9	25.6	33.2	20.9	16.6	22.3	19.4	26.5	19.9	4.7	1.4	14.2	-

※1-24 食生活の満足度

図1-24-1

(全員に)

Q13 あなたは、日頃の食生活に満足していますか。次の中から1つだけお選びください。

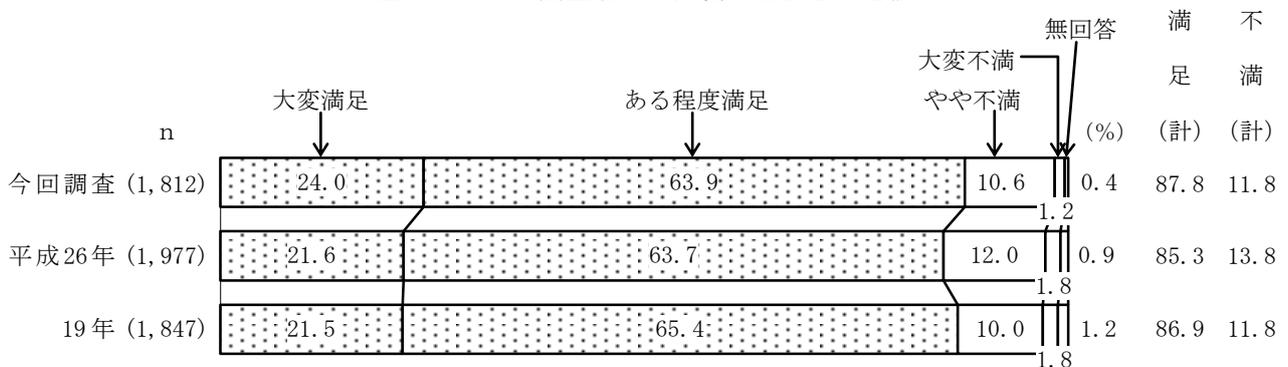


(注) 『満足 (計)』は「大変満足」と「ある程度満足」との合計  
『不満 (計)』は「やや不満」と「大変不満」との合計

日頃の食生活に満足しているか聞いたところ、『満足 (計)』は88%、『不満 (計)』は12%となっている。(図1-24-1)

食生活の満足度を過去との比較でみると、『満足 (計)』は平成26年より3ポイント増加している。一方、『不満 (計)』は平成26年より2ポイント減少している。(図1-24-2)

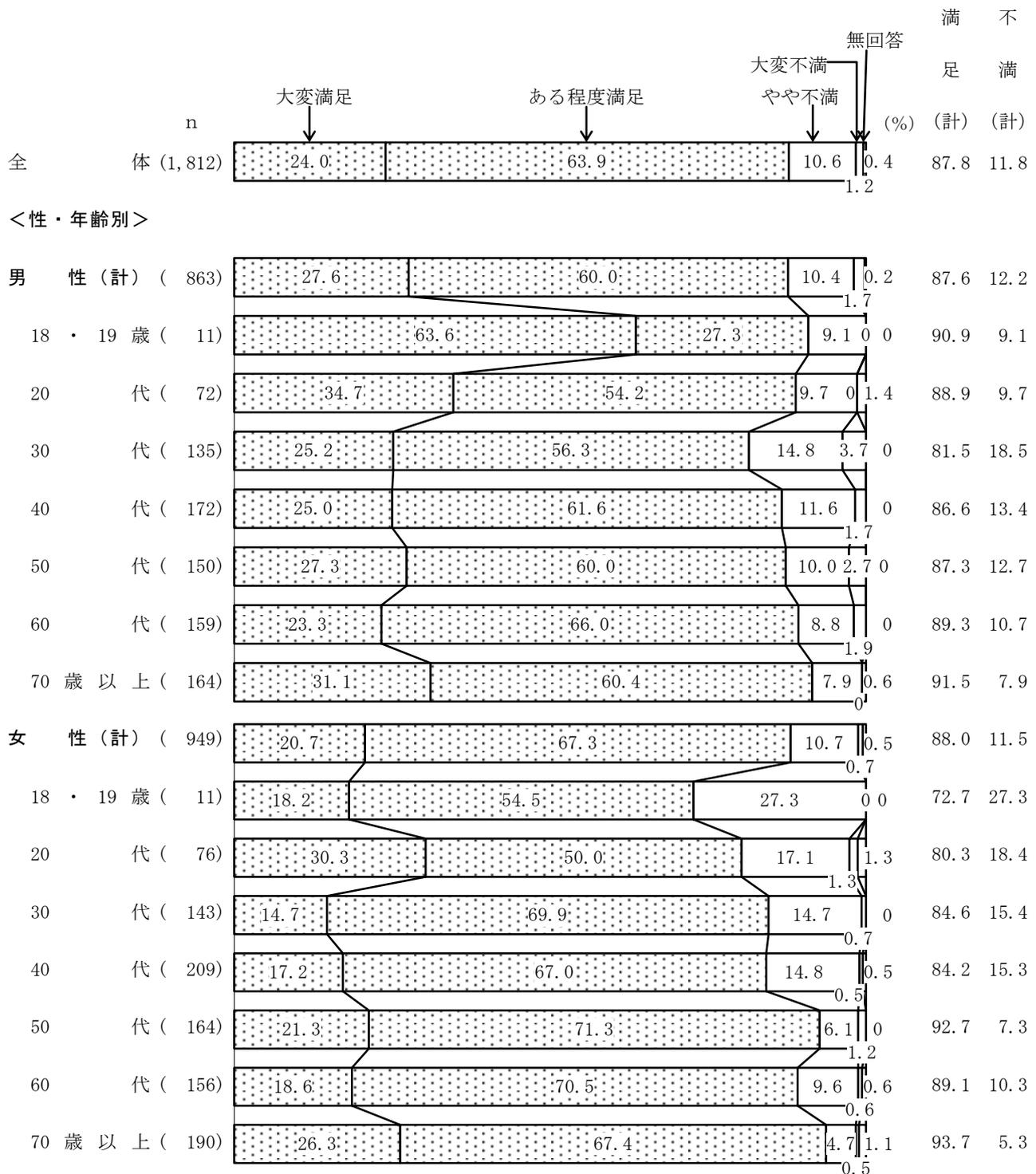
図1-24-2 食生活の満足度—過去との比較



(注) 『満足 (計)』は「大変満足」と「ある程度満足」との合計  
『不満 (計)』は「やや不満」と「大変不満」との合計

性・年齢別にみると、『満足（計）』は女性70歳以上で9割半ばと多くなっている。一方、『不満（計）』は男性30代と女性20代で2割近くとなっている。（図1-24-3）

図1-24-3 食生活の満足度－性・年齢別

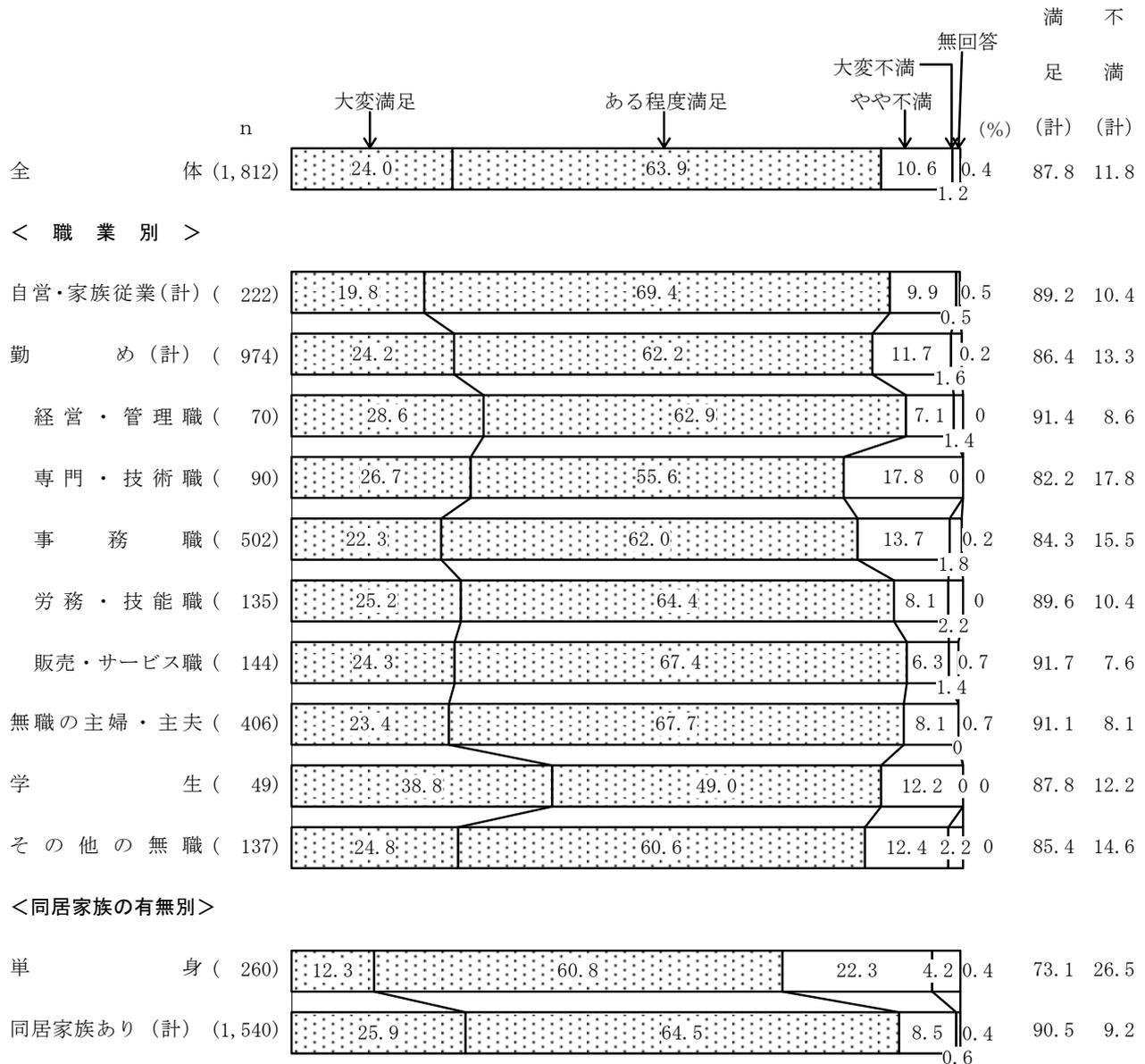


(注) 『満足 (計)』は「大変満足」と「ある程度満足」との合計  
『不満 (計)』は「やや不満」と「大変不満」との合計

職業別にみると、『満足（計）』は無職の主婦・主夫で9割を超えて多くなっている。一方、『不満（計）』は事務職と専門・技術職で1割半ばとなっている。

同居家族の有無別にみると、“単身”で『不満（計）』は2割半ばとなっている。（図1-24-4）

図1-24-4 食生活の満足度－職業別、同居家族の有無別



(注) 『満足（計）』は「大変満足」と「ある程度満足」との合計  
『不満（計）』は「やや不満」と「大変不満」との合計

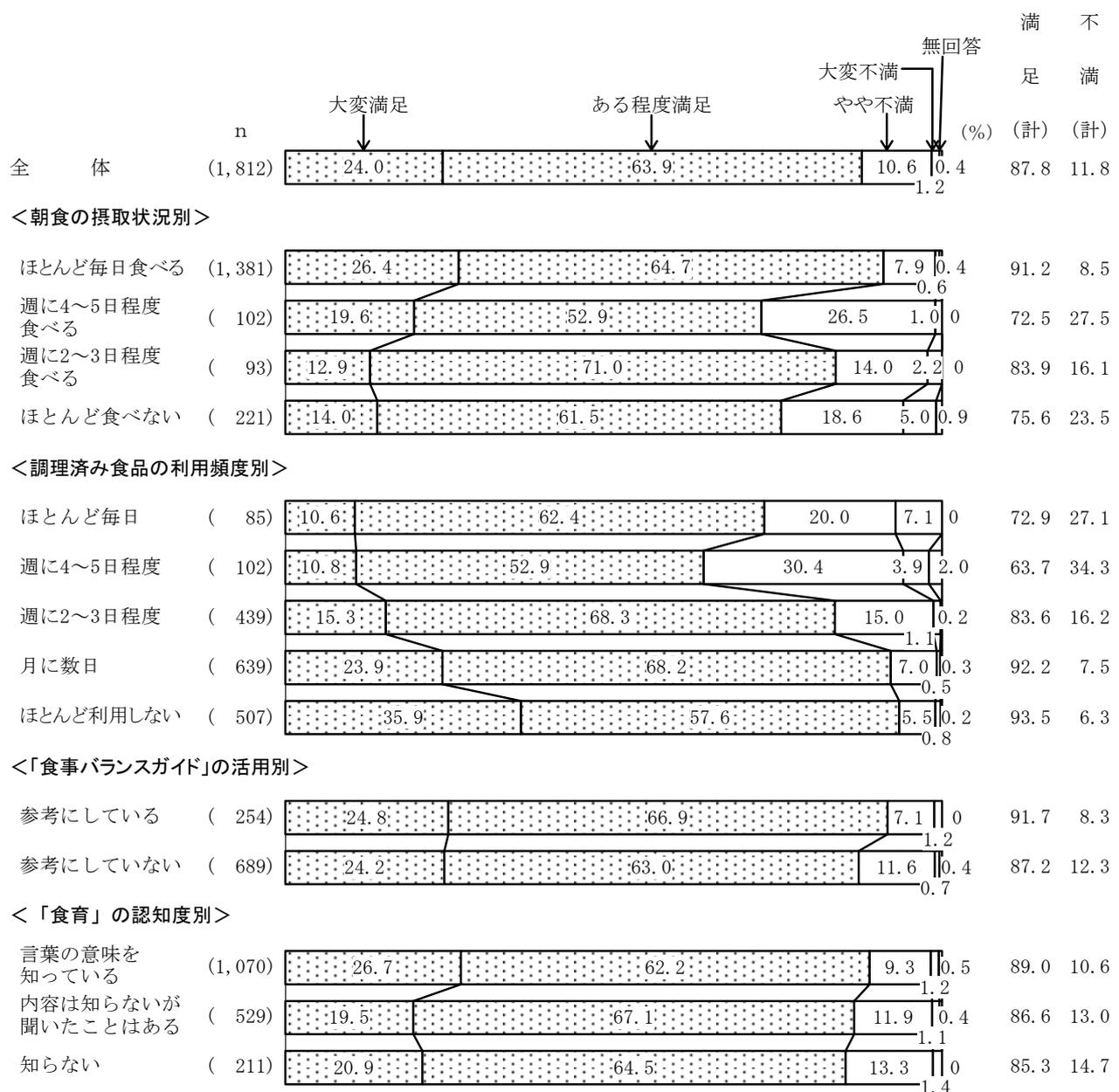
朝食の摂取状況別（Q1 P3）にみると、『満足（計）』は“ほとんど毎日食べる”で9割を超えて多くなっている。一方、『不満（計）』は“週に4～5日程度食べる”と“ほとんど食べない”で2割台と多くなっている。

調理済み食品の利用頻度別（Q4 P43）にみると、『満足（計）』は“ほとんど利用しない”と“月に数日”で9割台と多くなっている。一方、『不満（計）』は“週に4～5日程度”で3割半ばと多くなっている。

「食事バランスガイド」の活用別（Q10 SQ P82）にみると、大きな違いはみられない。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「大変満足」は“言葉の意味を知っている”で3割近くと多くなっている。（図1-24-5）

図1-24-5 食生活の満足度－朝食の摂取状況別、調理済み食品の利用頻度別、「食事バランスガイド」の活用別、「食育」の認知度別



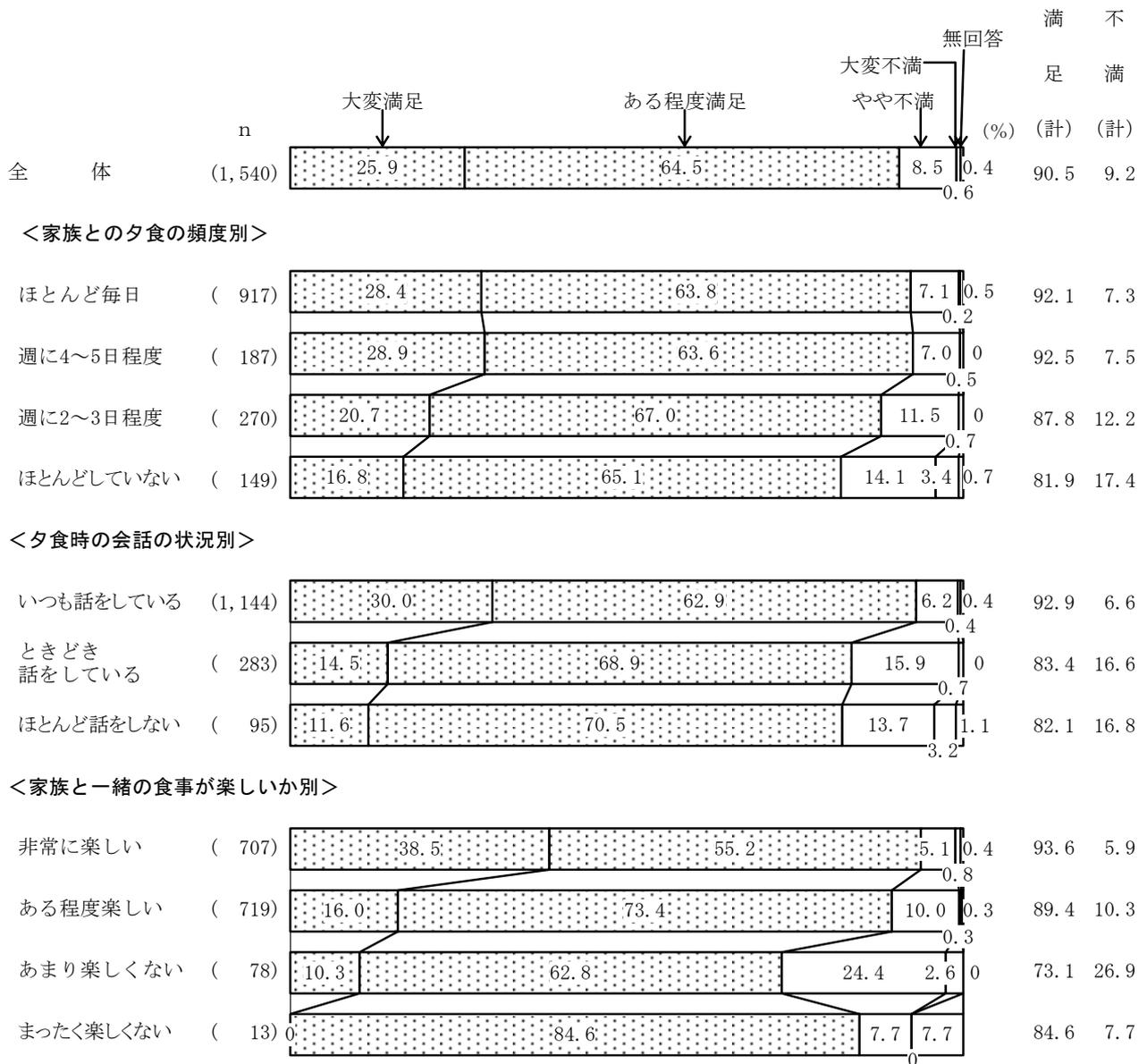
(注)『満足（計）』は「大変満足」と「ある程度満足」との合計  
『不満（計）』は「やや不満」と「大変不満」との合計

家族との夕食の頻度別 (Q2 SQ1 (イ) P16) にみると、『不満 (計)』は“ほとんどしていない”で2割近くとなっている。

夕食時の会話の状況別 (Q2 SQ3 P27) にみると、「大変満足」は会話の頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

家族と一緒にの食事が楽しいか別 (Q2 SQ4 P31) にみると、「大変満足」は食事の楽しさの程度が高くなるほど割合が高くなっている。一方、『不満 (計)』は“あまり楽しくない”で3割近くと多くなっている。(図1-24-6)

図1-24-6 食生活の満足度—家族との夕食の頻度別、夕食時の会話の状況別、家族と一緒にの食事が楽しいか別



(注) 『満足 (計)』は「大満足」と「ある程度満足」との合計

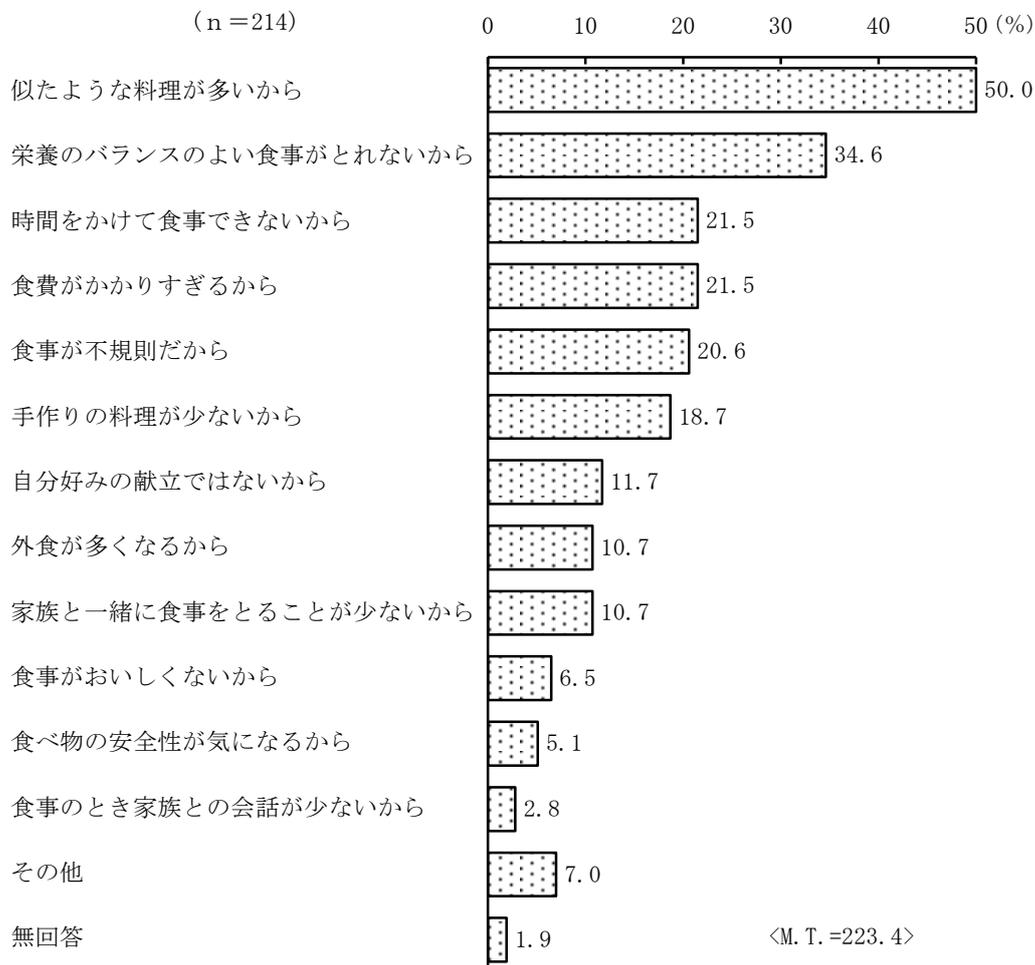
『不満 (計)』は「やや不満」と「大変不満」との合計

※1-25 不満の理由

図1-25-1

(Q13で「やや不満」「大変不満」と答えた方に)

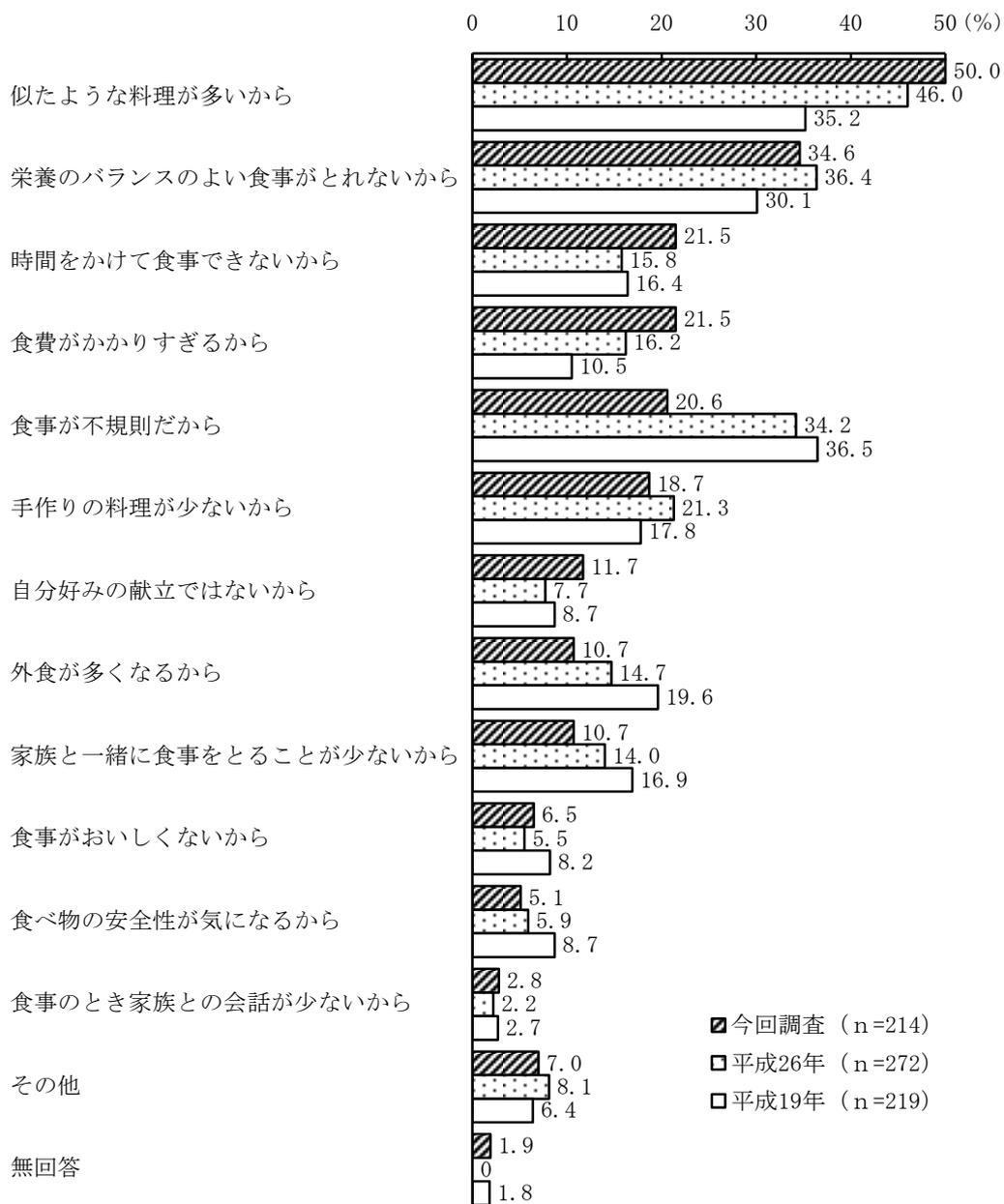
S Q 不満な理由は何ですか。次の中から3つまでお選びください。(3M. A.)



日頃の食生活が『不満 (計)』と答えた人 (214人) に、その理由を聞いたところ、「似たような料理が多いから」が50%で最も多く、次いで「栄養のバランスのよい食事がとれないから」35%、「時間をかけて食事できないから」と「食費がかかりすぎるから」22%などの順となっている。(図1-25-1)

不満の理由を過去との比較で見ると、「時間をかけて食事できないから」は6ポイント、「食費がかかりすぎるから」は5ポイント、「似たような料理が多いから」は4ポイント、それぞれ平成26年より増加している。一方、「食事が不規則だから」は14ポイント、「外食が多くなるから」は4ポイント、それぞれ平成26年より減少している（図1-25-2）

図1-25-2 不満の理由—過去との比較



性別にみると、「外食が多くなるから」は男性が女性より16ポイント高くなっている。

年齢別、職業別とも大きな差はみられない。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「時間をかけて食事できないから」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、「言葉の意味を知っている」で3割近くとなっている。「外食が多くなるから」は「食育」の認知度が低くなるほど割合が高く、「知らない」で2割半ばとなっている。

(表1-25-1)

表1-25-1 不満の理由—性別、年齢別、職業別、「食育」の認知度別

(%)

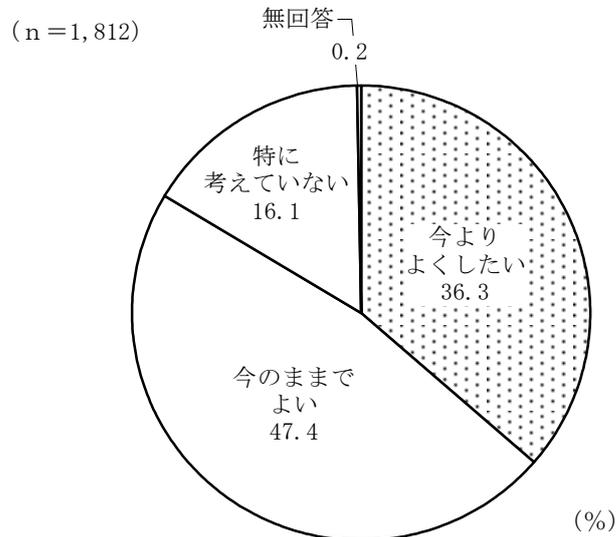
	n	似たような料理が多いから	栄養のバランスのよい食事がとれないから	時間をかけて食事できないから	食費がかかりすぎるから	食事が不規則だから	手作りの料理が少ないから	自分好みの献立ではないから	外食が多くなるから	家族と一緒に食事をとることが少ないから	食事がおいしくないから	食べ物の安全性が気になるから	食事のとき家族との会話が少ないから	その他	無回答
全体	214	50.0	34.6	21.5	21.5	20.6	18.7	11.7	10.7	10.7	6.5	5.1	2.8	7.0	1.9
<性別>															
男性	105	51.4	34.3	16.2	16.2	22.9	19.0	14.3	19.0	11.4	8.6	2.9	3.8	3.8	1.9
女性	109	48.6	34.9	26.6	26.6	18.3	18.3	9.2	2.8	10.1	4.6	7.3	1.8	10.1	1.8
<年齢別>															
18・19歳	4	50.0	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-
20代	21	42.9	57.1	9.5	23.8	28.6	33.3	9.5	14.3	4.8	14.3	4.8	-	-	4.8
30代	47	51.1	42.6	21.3	23.4	23.4	10.6	14.9	17.0	12.8	4.3	-	2.1	10.6	-
40代	55	50.9	34.5	30.9	25.5	23.6	14.5	9.1	9.1	12.7	7.3	10.9	3.6	9.1	-
50代	31	54.8	38.7	29.0	9.7	25.8	35.5	3.2	16.1	16.1	3.2	-	3.2	3.2	-
60代	33	39.4	15.2	18.2	33.3	15.2	18.2	12.1	3.0	9.1	9.1	6.1	6.1	-	3.0
70歳以上	23	60.9	21.7	8.7	4.3	4.3	8.7	26.1	4.3	4.3	4.3	8.7	-	13.0	8.7
<職業別>															
自営・家族従業(計)	23	60.9	43.5	17.4	4.3	26.1	21.7	4.3	26.1	-	4.3	8.7	-	-	-
勤め(計)	130	47.7	39.2	24.6	25.4	22.3	20.0	10.0	12.3	14.6	5.4	3.1	3.1	4.6	1.5
無職の主婦・主夫	33	48.5	24.2	27.3	27.3	12.1	9.1	15.2	-	3.0	-	9.1	3.0	15.2	3.0
学生	6	50.0	33.3	-	-	33.3	33.3	16.7	-	-	33.3	-	-	16.7	-
その他の無職	20	60.0	15.0	-	15.0	10.0	15.0	25.0	-	10.0	20.0	10.0	5.0	15.0	5.0
<「食育」の認知度別>															
言葉の意味を知っている	113	49.6	39.8	29.2	23.9	20.4	16.8	8.0	7.1	14.2	4.4	7.1	3.5	9.7	0.9
聞いたことはある	69	56.5	33.3	11.6	15.9	21.7	18.8	20.3	10.1	7.2	5.8	2.9	1.4	4.3	4.3
知らない	31	35.5	19.4	16.1	25.8	19.4	25.8	6.5	25.8	6.5	16.1	3.2	3.2	3.2	-

※1-26 食生活の改善意欲

図1-26-1

(全員に)

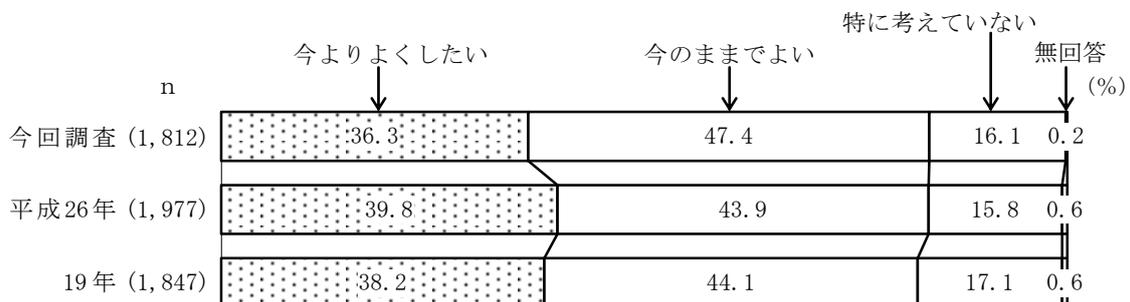
Q14 あなたは、自分の食生活を、今後どのようにしたいと思っていますか。次の中から1つだけお答えください。



食生活を今後どのようにしたいと思っているか聞いたところ、「今よりよくしたい」は36%、「今のままでよい」は47%、「特に考えていない」は16%となっている。(図1-26-1)

食生活の改善意欲を過去との比較でみると、「今よりよくしたい」は平成26年より4ポイント減少し、「今のままでよい」は4ポイント増加している。(図1-26-2)

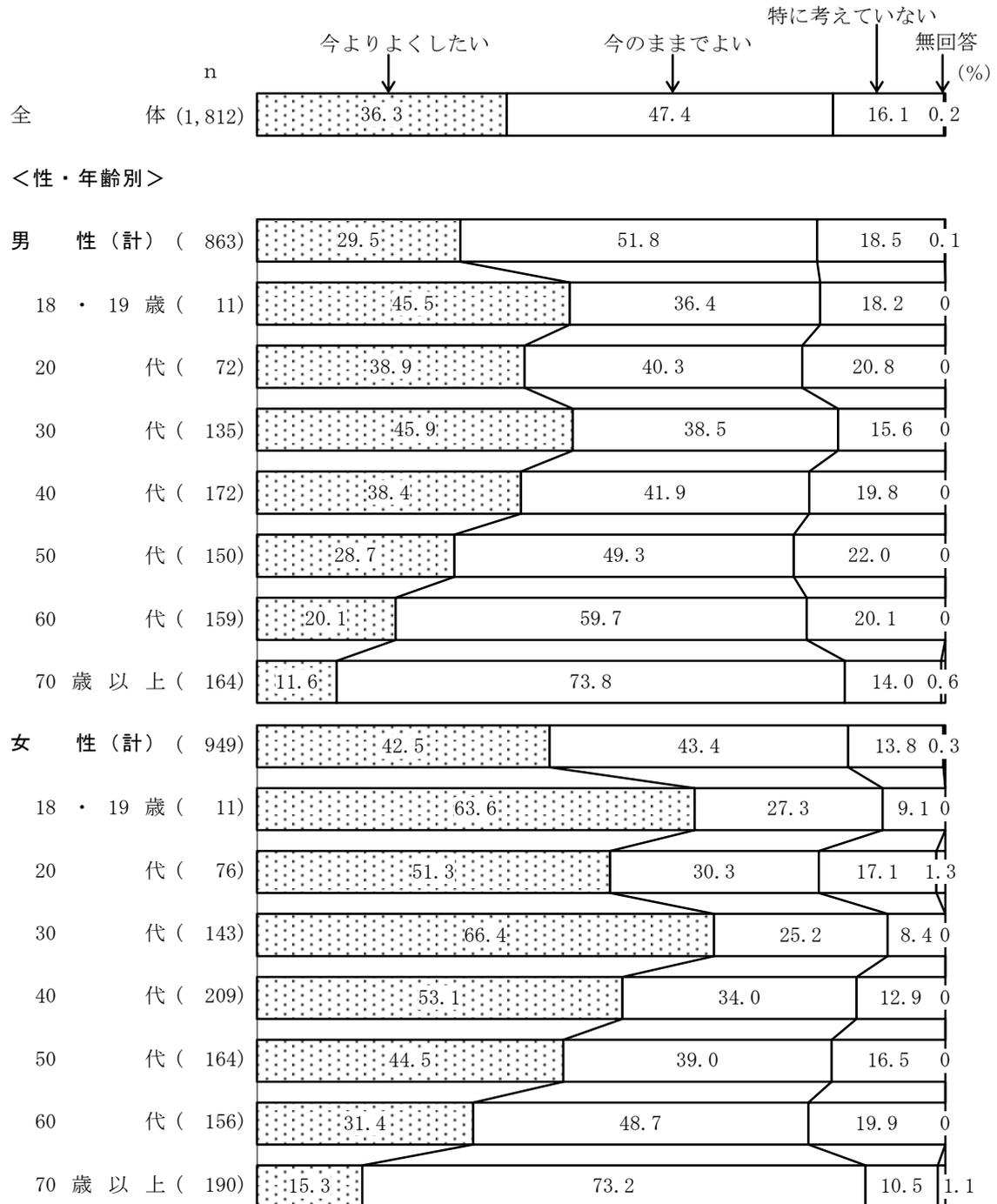
図1-26-2 食生活の改善意欲—過去との比較



性・年齢別にみると、「今よりよくしたい」は女性が男性より13ポイント高くなっており、女性30代で6割半ば、女性の20代と40代で5割を超えて多くなっている。「今のままでよい」は男性が女性より8ポイント高くなっており、男女ともに70歳以上で7割台、男性60代で約6割と多くなっている。

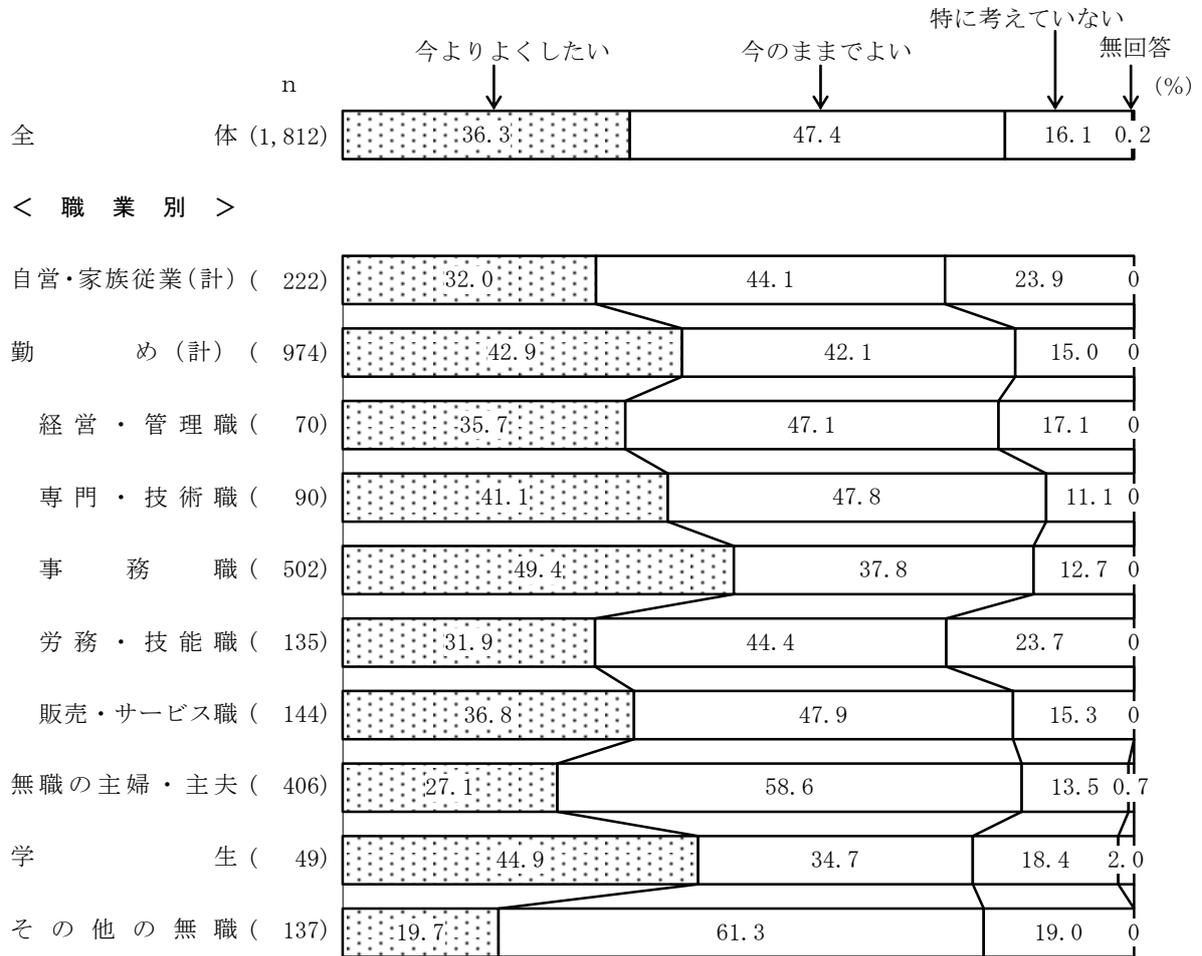
(図1-26-3)

図1-26-3 食生活の改善意欲－性・年齢別



職業別にみると、「今よりよくしたい」は事務職で約5割と多くなっている。「今のままでよい」はその他の無職で6割を超え、無職の主婦・主夫で6割近くと多くなっている。(図1-26-4)

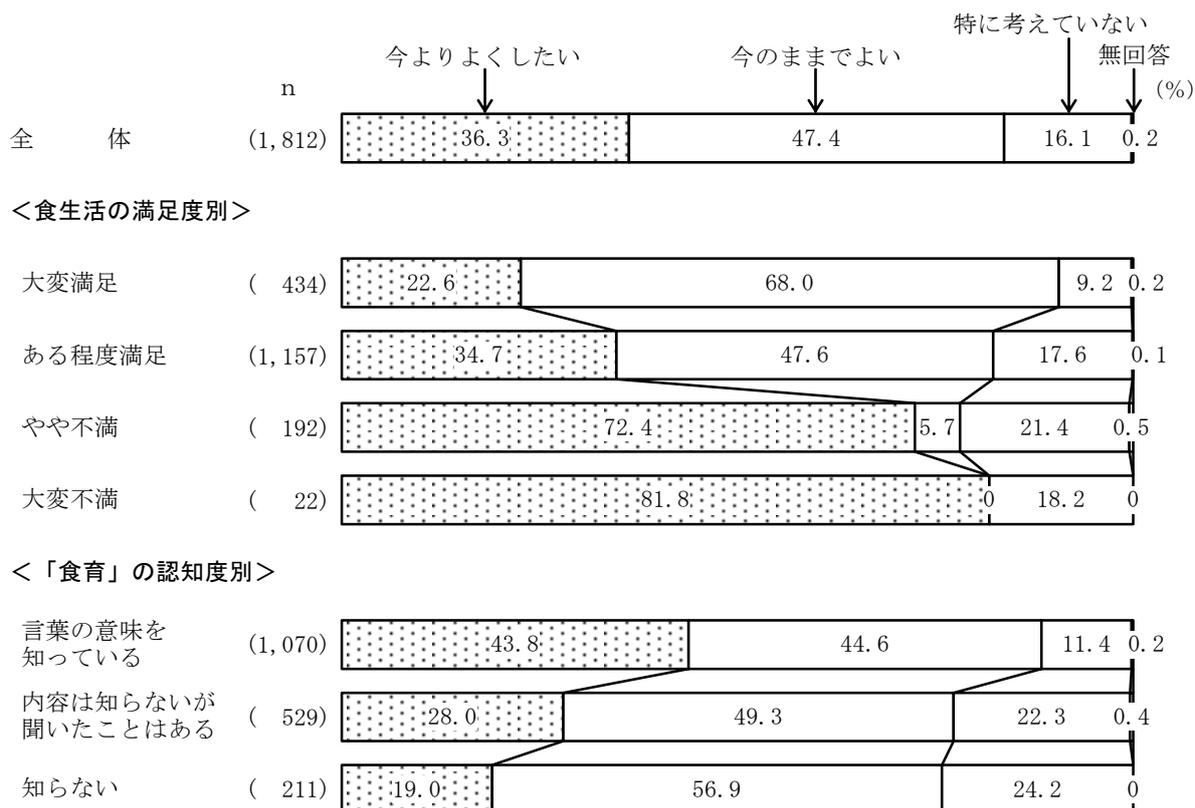
図1-26-4 食生活の改善意欲－職業別



食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「今よりよくしたい」は食生活の満足度が低くなるほど割合が高く、“やや不満”で7割を超えている。「今のままでよい」は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で7割近くとなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「今よりよくしたい」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で4割半ばとなっている。一方、「今のままでよい」と「特に考えていない」は「食育」の認知度が低くなるほど割合が高くなっている。（図1-26-5）

図1-26-5 食生活の改善意欲－食生活の満足度別、「食育」の認知度別

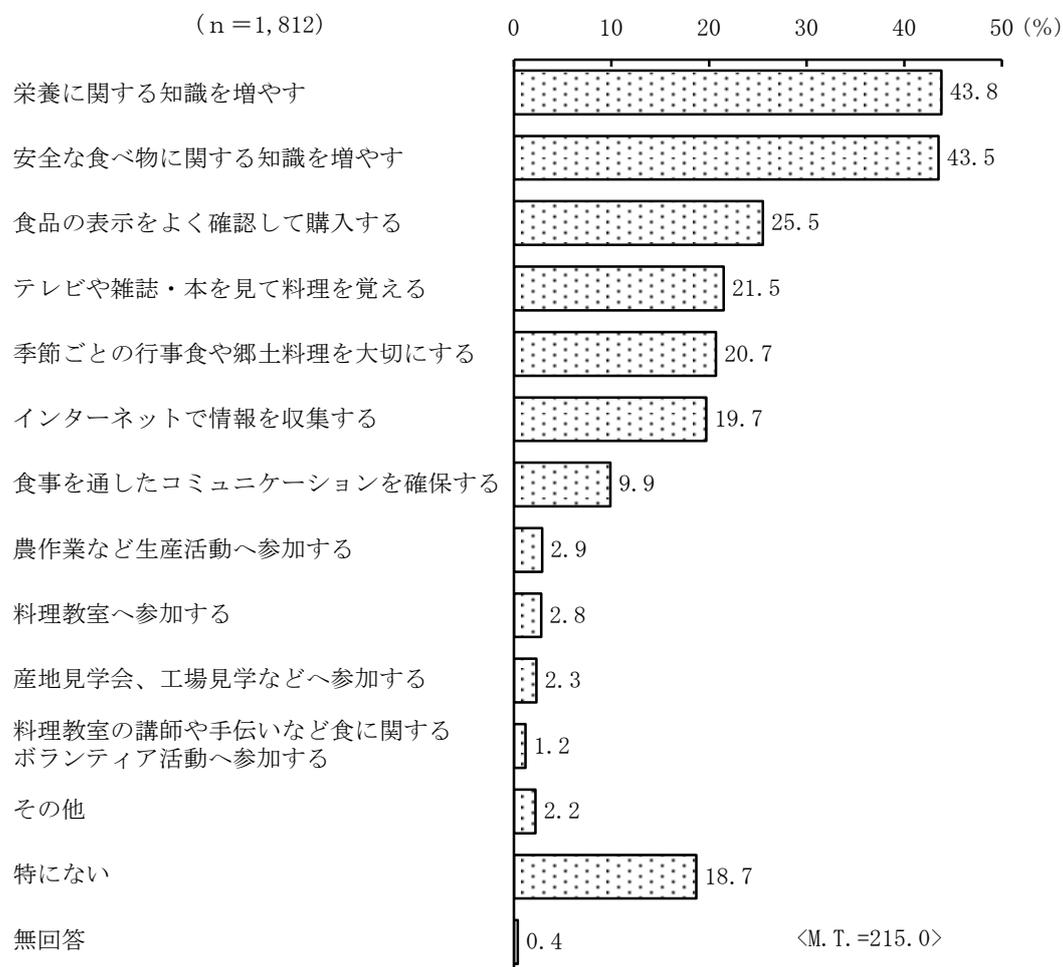


※1-27 健全で豊かな食生活のための取組意向

図1-27-1

(全員に)

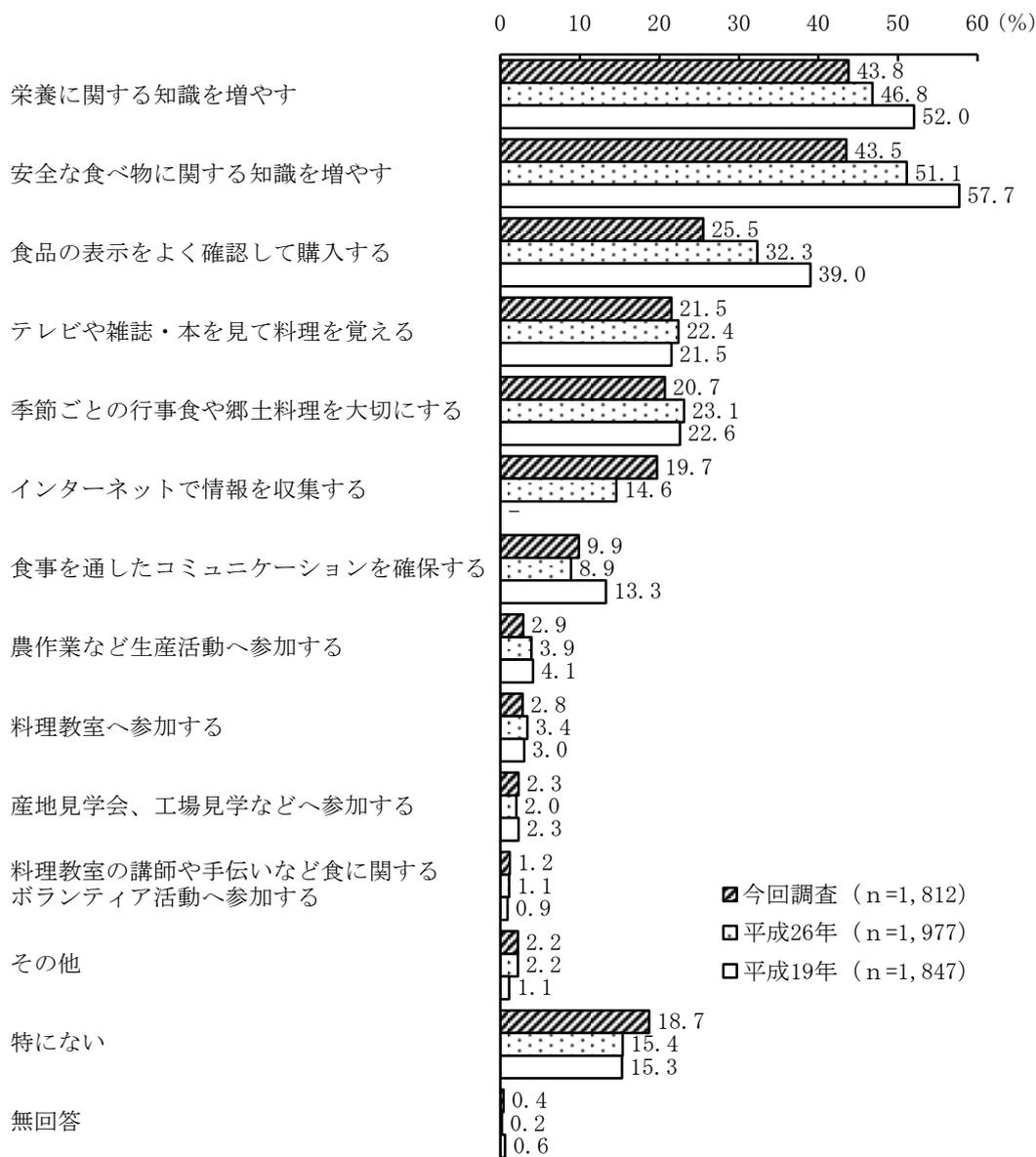
Q15 あなたは、食生活を健全で豊かなものにするために、今後どのようなことをしていきたいですか。次の中からあてはまるもの3つまでお選びください。(3M. A.)



食生活を健全で豊かなものにするために、今後どのようなことをしていきたいか聞いたところ、「栄養に関する知識を増やす」と「安全な食べ物に関する知識を増やす」が44%で多く、次いで「食品の表示をよく確認して購入する」26%、「テレビや雑誌・本を見て料理を覚える」22%、「季節ごとの行事食や郷土料理を大切にする」21%などの順となっている。(図1-27-1)

健全で豊かな食生活のための取組意向を過去との比較でみると、「インターネットで情報を収集する」は平成26年より5ポイント増加している。一方、「安全な食べ物に関する知識を増やす」は8ポイント、「食品の表示をよく確認して購入する」は7ポイント、それぞれ平成26年より減少している。(図1-27-2)

図1-27-2 健全で豊かな食生活のための取組意向—過去との比較



(注)「インターネットで情報を収集する」は平成26年から追加した。

性・年齢別にみると、「栄養に関する知識を増やす」は女性が男性より9ポイント高くなっており、女性の30代から50代で5割半ばと多くなっている。「安全な食べ物に関する知識を増やす」は女性が男性より11ポイント高くなっており、女性の50代と60代で6割前後と多くなっている。

職業別にみると、「安全な食べ物に関する知識を増やす」は無職の主婦・主夫で5割を超えて多くなっている。「テレビや雑誌・本を見て料理を覚える」は学生で4割近くと多くなっている。(表1-27-1)

表1-27-1 健全で豊かな食生活のための取組意向－性・年齢別、職業別

		(%)													
	n	栄養に関する知識を増やす	安全な食べ物に関する知識を増やす	食品の表示をよく確認して購入する	テレビや雑誌・本を見て料理を覚える	季節ごとの行事食や郷土料理を大切にす	インターネットで情報を収集する	食事を通したコミュニケーションを確保する	農作業など生産活動へ参加する	料理教室へ参加する	産地見学会、工場見学などへ参加する	料理教室の講師や手伝いなど食に関するボランティア活動へ参加する	その他	特にな	無回答
全 体	1,812	43.8	43.5	25.5	21.5	20.7	19.7	9.9	2.9	2.8	2.3	1.2	2.2	18.7	0.4
＜性・年齢別＞															
男 性 (計)	863	39.3	37.7	21.9	14.8	15.4	20.7	11.4	3.0	1.5	2.3	0.5	2.2	26.5	0.5
18・19 歳	11	54.5	45.5	9.1	36.4	9.1	18.2	-	9.1	-	9.1	-	-	9.1	-
20 代	72	40.3	29.2	19.4	22.2	9.7	29.2	11.1	2.8	2.8	1.4	-	1.4	29.2	-
30 代	135	47.4	40.0	20.0	13.3	19.3	25.9	13.3	1.5	3.0	2.2	0.7	2.2	23.0	-
40 代	172	45.9	33.7	16.9	14.5	17.4	27.3	15.1	3.5	1.7	4.7	0.6	1.7	23.8	-
50 代	150	39.3	44.7	26.0	12.0	19.3	23.3	12.7	2.0	1.3	1.3	0.7	0.7	24.0	-
60 代	159	35.8	40.3	23.9	11.9	13.2	18.9	6.9	5.0	-	2.5	-	3.8	23.9	1.3
70 歳以上	164	27.4	34.1	25.0	17.1	11.6	5.5	9.8	2.4	1.2	0.6	0.6	3.0	37.2	1.2
女 性 (計)	949	47.8	48.9	28.8	27.6	25.5	18.8	8.5	2.7	3.9	2.2	1.8	2.1	11.6	0.4
18・19 歳	11	72.7	18.2	27.3	36.4	18.2	36.4	-	-	18.2	-	-	-	9.1	-
20 代	76	53.9	28.9	17.1	38.2	30.3	22.4	5.3	3.9	14.5	1.3	-	3.9	7.9	-
30 代	143	54.5	44.8	22.4	33.6	29.4	27.3	6.3	4.2	7.7	4.2	0.7	3.5	4.9	-
40 代	209	55.5	48.8	25.8	28.2	31.1	22.5	11.5	1.9	1.9	1.0	3.3	1.9	7.7	0.5
50 代	164	54.3	57.3	27.4	20.7	27.4	23.8	7.9	4.3	3.0	4.3	2.4	1.2	7.9	-
60 代	156	41.0	62.2	41.0	27.6	18.6	13.5	7.1	1.9	1.9	2.6	1.3	2.6	10.3	-
70 歳以上	190	30.5	43.7	32.6	23.7	18.9	5.8	10.5	1.6	0.5	0.5	1.6	1.1	26.8	1.6
＜職業別＞															
自営・家族従業(計)	222	42.3	46.8	19.8	19.8	17.1	20.3	9.9	1.8	0.9	1.4	0.9	0.9	22.5	1.4
勤 め (計)	974	46.0	41.5	23.5	21.3	22.9	23.6	10.7	3.2	3.6	3.1	1.6	2.4	16.7	0.1
経営・管理職	70	45.7	44.3	22.9	14.3	24.3	21.4	18.6	4.3	1.4	1.4	-	1.4	18.6	-
専門・技術職	90	43.3	41.1	22.2	22.2	20.0	34.4	12.2	3.3	4.4	2.2	3.3	1.1	17.8	-
事務職	502	49.2	43.0	23.7	23.1	24.5	24.7	10.4	2.8	4.6	3.2	1.6	2.4	13.1	0.2
労務・技能職	135	36.3	31.9	23.7	16.3	20.0	21.5	8.1	2.2	1.5	4.4	2.2	2.2	27.4	-
販売・サービス職	144	43.8	43.1	22.9	26.4	22.9	19.4	9.7	5.6	2.8	3.5	1.4	3.5	13.9	-
無職の主婦・主夫	406	41.1	50.5	32.3	23.6	20.0	11.6	9.1	2.7	1.2	1.2	0.2	2.0	18.2	0.5
学 生	49	51.0	32.7	24.5	36.7	20.4	30.6	6.1	2.0	14.3	4.1	-	-	8.2	-
その他の無職	137	32.1	36.5	27.7	15.3	11.7	12.4	7.3	3.6	0.7	0.7	1.5	3.6	32.1	1.5

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「栄養に関する知識を増やす」と「食品の表示をよく確認して購入する」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高くなっている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「季節ごとの行事食や郷土料理を大切にする」は“大変満足”で2割半ばとなっている。

食生活の改善意欲別（Q14 P102）にみると、「栄養に関する知識を増やす」と「安全な食べ物に関する知識を増やす」は食生活の改善意欲が高くなるほど割合が高くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「栄養に関する知識を増やす」と「安全な食べ物に関する知識を増やす」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”でそれぞれ5割近くとなっている。（表1-27-2）

表1-27-2 健全で豊かな食生活のための取組意向－栄養成分表示の活用別、食生活の満足度別、食生活の改善意欲別、「食育」の認知度別

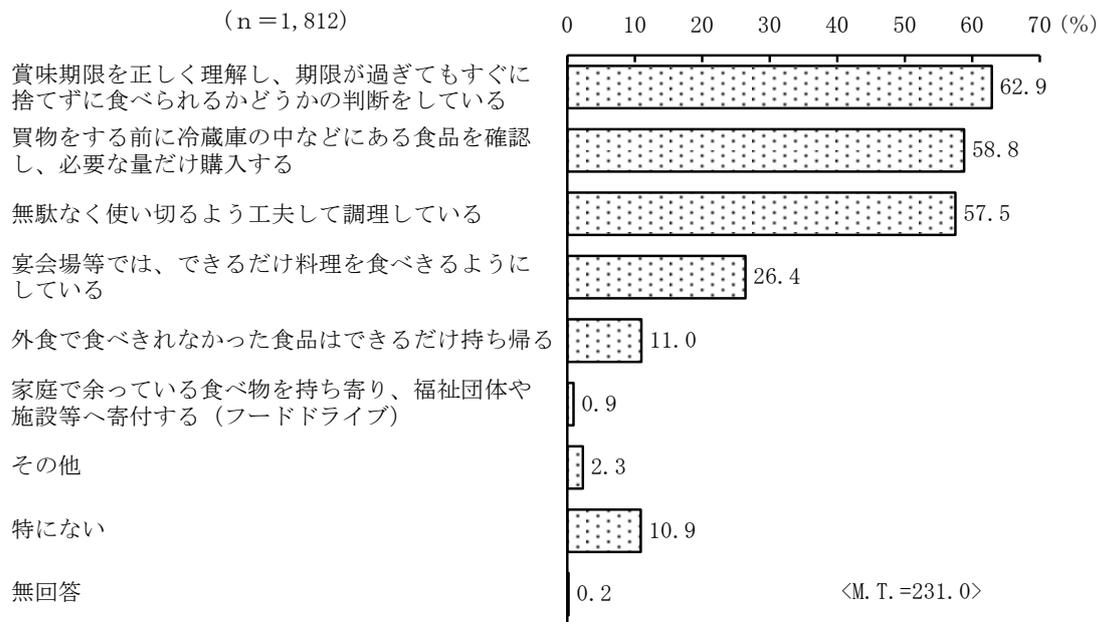
		(%)														
	n	栄養に関する知識を増やす	安全な食べ物に関する知識を増やす	購入する食品の表示をよく確認して	テレビや雑誌・本を見て料理を覚える	季節ごとの行事食や郷土料理を大切にする	インターネットで情報を収集する	シヨンを確保する	食事を通したコミュニケーション	農作業など生産活動へ参加する	料理教室へ参加する	産地見学会、工場見学などへ参加する	料理教室の講師や手伝いなど食に関するボランティア活動へ参加する	その他	特にな	無回答
全 体	1,812	43.8	43.5	25.5	21.5	20.7	19.7	9.9	2.9	2.8	2.3	1.2	2.2	18.7	0.4	
<b>&lt;栄養成分表示の活用別&gt;</b>																
よく参考にしてている	294	54.8	50.7	36.7	24.1	24.1	24.1	7.8	3.7	3.1	2.0	2.0	3.4	7.8	0.3	
ときどき参考にしてている	529	53.7	50.9	30.6	23.1	22.7	22.1	10.4	2.6	3.8	2.3	1.3	2.3	10.2	0.2	
あまり参考にしていない	505	42.2	45.5	24.6	22.0	24.0	17.8	9.1	3.0	1.8	2.4	1.0	1.2	19.0	0.4	
まったく参考にしていない	445	27.4	28.5	13.7	18.0	12.8	16.4	11.9	2.5	2.5	2.2	0.7	2.5	33.7	0.7	
表示があることを知らなかった	30	30.0	26.7	10.0	13.3	16.7	13.3	6.7	3.3	-	3.3	-	-	50.0	3.3	
<b>&lt;食生活の満足度別&gt;</b>																
大変満足	434	44.0	45.2	26.3	19.6	25.6	18.0	10.8	5.3	2.5	2.8	1.6	1.8	18.0	0.7	
ある程度満足	1,157	44.0	44.7	26.2	22.6	19.2	19.8	10.0	2.2	2.5	2.2	1.1	1.8	18.1	0.3	
やや不満	192	45.3	35.9	20.8	21.4	19.8	25.0	7.3	1.6	4.7	1.0	0.5	4.2	20.8	-	
大変不満	22	18.2	18.2	9.1	4.5	13.6	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	-	9.1	50.0	-	
<b>&lt;食生活の改善意欲別&gt;</b>																
今よりよきたい	658	60.8	48.6	25.8	28.0	25.2	26.0	9.7	3.3	4.4	2.6	1.7	3.8	4.9	0.2	
今のままでよい	859	37.1	43.4	26.9	18.0	20.8	16.9	10.8	3.0	2.3	2.4	1.0	0.9	22.6	0.6	
特に考えていない	291	24.4	32.3	20.3	17.2	10.3	14.1	7.6	1.4	0.3	1.0	0.3	2.1	38.8	0.3	
<b>&lt;「食育」の認知度別&gt;</b>																
言葉の意味を知っている	1,070	48.9	49.3	26.7	23.5	26.4	20.9	11.1	3.8	3.6	3.0	1.3	2.2	11.4	0.3	
聞いたことはある	529	39.9	38.0	26.7	20.6	13.2	19.3	8.5	1.9	1.9	1.5	1.3	1.9	24.8	0.6	
知らない	211	28.0	28.0	16.6	14.2	10.9	14.2	7.1	0.5	0.9	0.5	-	2.4	40.3	0.9	

1-28 食品ロス削減につながる行動

図1-28-1

(全員に)

Q16 家庭やお店でまだ食べられるのに残った食べ物が大量に廃棄されることが「食品ロス」として先ごろ問題になっています。あなたは、以下のような食品ロス削減につながる行動をしていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(M. A.)



食品ロス削減につながる行動をしているか聞いたところ、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」が63%で最も多く、次いで「買物をする前に冷蔵庫の中などにある食品を確認し、必要な量だけ購入する」59%、「無駄なく使い切るよう工夫して調理している」58%、「宴会場等では、できるだけ料理を食べきるようにしている」26%などの順となっている。(図1-28-1)

性・年齢別にみると、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」は女性が男性より18ポイント高くなっており、女性40代で8割を超え、女性の50代と60代で7割半ばと多くなっている。「買物をする前に冷蔵庫の中などにある食品を確認し、必要な量だけ購入する」は女性が男性より18ポイント高くなっており、女性の30代から60代で7割前後と多くなっている。

職業別にみると、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」と「無駄なく使い切るよう工夫して調理している」は無職の主婦・主夫で7割を超えて多くなっている。(表1-28-1)

表1-28-1 食品ロス削減につながる行動－性・年齢別、職業別

		(%)									
	n	賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている	購入する食品を確認し、必要な量だけに	買物をする前に冷蔵庫の中などに	無駄なく使い切るよう工夫して調理している	宴会場等では、できるだけ料理を	外食で食べきれなかった食品はできるだけ持ち帰る	（フリドドライブ）家庭で余っている食べ物を持ち寄り、福祉団体や施設等へ寄付する	その他	特にな	無回答
全 体	1,812	62.9	58.8	57.5	26.4	11.0	0.9	2.3	10.9	0.2	
< 性・年齢別 >											
男 性（計）	863	53.3	49.6	44.7	26.7	9.7	0.5	1.2	16.5	0.2	
18・19 歳	11	63.6	27.3	45.5	18.2	9.1	-	-	18.2	-	
20 代	72	41.7	44.4	38.9	41.7	9.7	-	-	23.6	-	
30 代	135	45.9	44.4	36.3	36.3	5.9	-	3.7	20.0	-	
40 代	172	52.3	52.3	48.8	25.6	8.1	-	1.2	14.0	-	
50 代	150	60.0	54.0	40.0	30.0	16.7	1.3	-	15.3	-	
60 代	159	61.0	52.2	49.7	17.0	11.3	0.6	-	11.9	0.6	
70 歳以上	164	51.2	48.2	49.4	20.1	6.7	0.6	1.8	18.3	0.6	
女 性（計）	949	71.7	67.2	69.0	26.2	12.2	1.4	3.3	5.9	0.1	
18・19 歳	11	63.6	54.5	18.2	45.5	-	-	-	9.1	-	
20 代	76	63.2	48.7	38.2	35.5	11.8	-	2.6	19.7	-	
30 代	143	67.1	69.9	69.9	28.7	11.9	0.7	2.1	6.3	-	
40 代	209	80.9	70.8	74.2	26.3	15.3	1.0	1.9	2.4	-	
50 代	164	74.4	68.9	77.4	26.2	13.4	2.4	4.3	2.4	-	
60 代	156	76.3	72.4	73.1	28.2	8.3	1.9	4.5	3.8	-	
70 歳以上	190	62.6	63.7	67.4	17.9	12.1	1.6	4.2	8.4	0.5	
< 職業別 >											
自営・家族従業(計)	222	63.1	51.8	50.5	22.1	15.3	-	0.9	14.4	0.5	
勤 め(計)	974	62.5	57.4	56.0	29.4	10.4	0.6	2.3	10.7	-	
経営・管理職	70	64.3	48.6	45.7	34.3	15.7	-	1.4	8.6	-	
専門・技術職	90	65.6	50.0	50.0	33.3	8.9	-	2.2	13.3	-	
事務職	502	65.5	61.6	60.4	29.7	11.0	0.6	2.2	7.6	-	
労務・技能職	135	57.8	54.1	45.9	31.1	10.4	0.7	0.7	16.3	-	
販売・サービス職	144	58.3	59.7	62.5	25.0	7.6	1.4	4.9	9.7	-	
無職の主婦・主夫	406	70.2	69.7	71.4	22.4	9.6	2.7	3.0	5.4	0.5	
学 生	49	67.3	40.8	30.6	42.9	12.2	-	2.0	8.2	-	
その他の無職	137	43.1	51.1	47.4	19.7	13.1	-	2.2	24.1	-	

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」と「無駄なく使い切るよう工夫して調理している」は調理の頻度が高くなるほど割合が高く、“ほとんど毎日”でいずれも7割台となっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」と「無駄なく使い切るよう工夫して調理している」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”でいずれも7割台となっている。（表1-28-2）

表1-28-2 食品ロス削減につながる行動－調理の頻度別、栄養成分表示の活用別

		(%)										
	n	賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎても食べられるかどうかの判断をしている	購入する食品を確認し、必要な量だけに	買物を前に冷蔵庫の中などに	無駄なく使い切るよう工夫して調理している	宴会場等では、できるだけ料理を	外食で食べきれなかった食品は	（フードドライブ）	家庭で余っている食べ物を持ち寄り、福祉団体や施設等へ寄付する	その他	特にな	無回答
全 体	1,812	62.9	58.8	57.5	26.4	11.0	0.9	2.3	10.9	0.2		
<b>&lt;調理の頻度別&gt;</b>												
ほとんど毎日	768	72.4	70.3	77.6	24.0	11.2	1.4	3.1	3.6	0.1		
週に4～5日程度	156	71.8	69.9	67.3	27.6	14.1	-	1.3	5.1	-		
週に2～3日程度	192	60.9	54.7	53.1	26.0	11.5	1.0	2.6	13.0	-		
月に数日（休日など）	200	58.0	53.0	46.5	32.0	13.5	1.0	0.5	13.0	-		
ほとんどつづらない	493	47.9	41.2	29.0	27.8	8.7	0.4	1.8	22.5	0.4		
<b>&lt;栄養成分表示の活用別&gt;</b>												
よく参考にしている	294	74.5	71.1	71.8	30.3	14.6	1.7	4.1	3.7	0.3		
ときどき参考にしている	529	72.4	66.4	62.9	29.3	10.8	1.3	1.5	6.0	0.2		
あまり参考にしていない	505	64.0	55.2	57.0	26.1	11.9	0.4	1.6	9.3	-		
まったく参考にしていない	445	45.4	47.4	43.4	21.3	8.8	0.7	2.7	21.1	0.2		
表示があることを知らなかった	30	26.7	36.7	36.7	20.0	3.3	-	-	40.0	-		

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「無駄なく使い切るよう工夫して調理している」は“ある程度満足”で6割を超えて多くなっている。「宴会場等では、できるだけ料理を食べるようにしている」は“大変満足”で3割を超えて多くなっている。

食生活の改善意欲別（Q14 P102）にみると、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」と「買物をする前に冷蔵庫の中などにある食品を確認し、必要な量だけ購入する」は食生活の改善意欲が高いほど割合が高くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」と「無駄なく使い切るよう工夫して調理している」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高くなっている。一方、「特にない」は“知らない”で3割と多くなっている。（表1-28-3）

表1-28-3 食品ロス削減につながる行動－食生活の満足度別、食生活の改善意欲別、「食育」の認知度別

	n	賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもかどすの判断をす									
全 体	1,812	62.9	58.8	57.5	26.4	11.0	0.9	2.3	10.9	0.2	
＜食生活の満足度別＞											
大変満足	434	61.5	60.4	57.6	30.6	13.4	1.2	3.5	8.8	0.2	
ある程度満足	1,157	64.0	60.8	60.8	25.0	10.3	1.0	1.7	10.3	-	
やや不満	192	62.5	46.4	40.1	24.5	10.4	-	2.6	17.7	-	
大変不満	22	50.0	36.4	31.8	36.4	13.6	-	4.5	27.3	-	
＜食生活の改善意欲別＞											
今よりよくしたい	658	72.2	64.6	62.8	31.2	13.4	1.1	2.3	6.2	-	
今のままでよい	859	58.8	59.1	58.1	24.9	10.2	1.0	2.8	11.4	0.2	
特に考えていない	291	54.3	45.0	43.6	20.6	8.2	0.3	0.7	19.9	-	
＜「食育」の認知度別＞											
言葉の意味を知っている	1,070	71.4	63.5	64.9	29.9	13.9	1.2	2.5	5.1	0.1	
聞いたことはある	529	55.8	56.7	52.6	22.7	6.8	0.4	1.7	14.9	0.4	
知らない	211	37.9	40.3	32.7	18.5	7.1	0.9	2.4	30.3	-	

## 1-29 「GAP」の認知度

図1-29-1

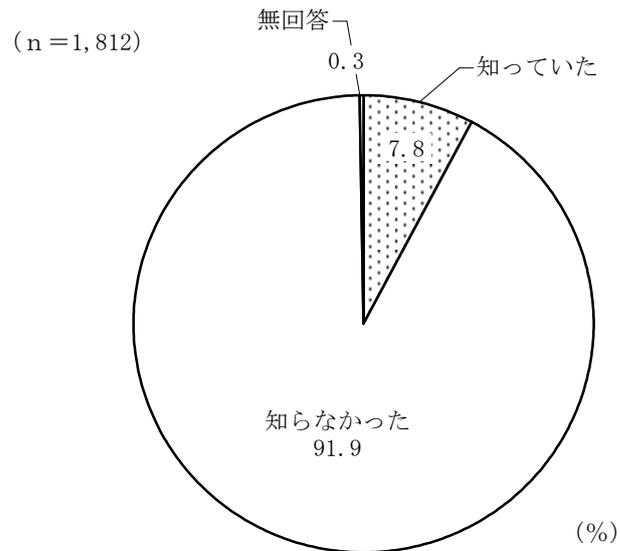
(全員に)

<GAPとは>

Good (良い) Agricultural (農業の) Practice (実践) の略

農業における食品安全、環境保全、労働安全、農場経営管理等に関する取組のことで、持続可能な農業生産につながります。

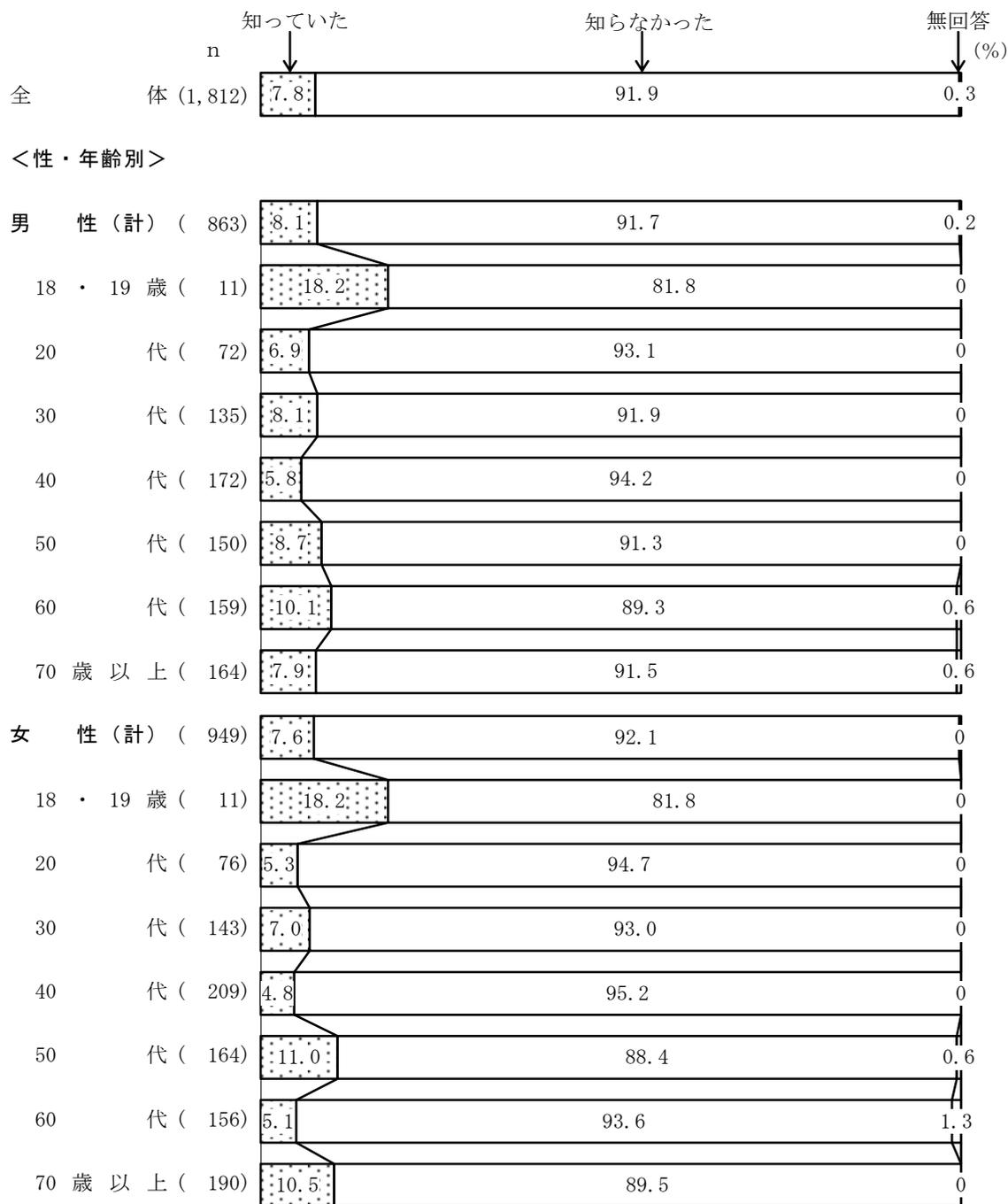
Q17 あなたは、「GAP」を知っていましたか。次の中から1つだけお選びください。



「GAP」を知っているか聞いたところ、「知っていた」は8%、「知らなかった」は92%となっている。(図1-29-1)

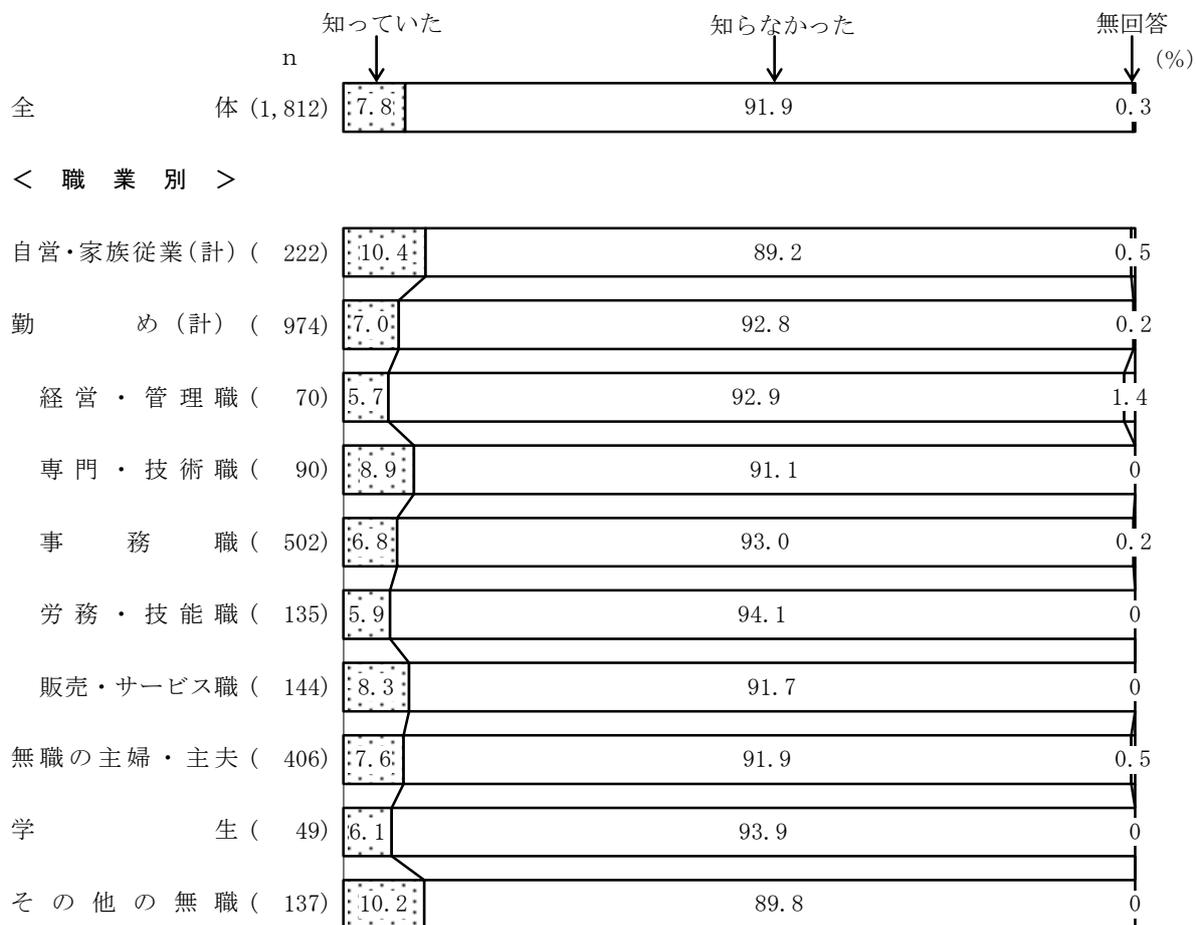
性・年齢別にみると、大きな違いはみられない。(図1-29-2)

図1-29-2 「GAP」の認知度－性・年齢別



職業別にみると、大きな違いはみられない。(図1-29-3)

図1-29-3 「GAP」の認知度—職業別

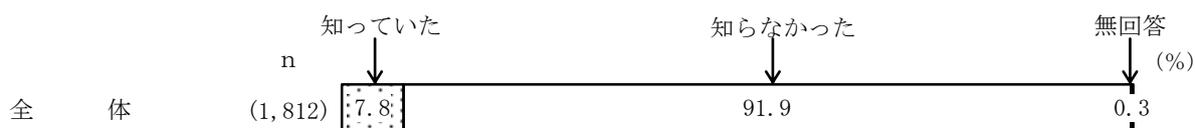


栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「知っていた」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で1割を超えている。

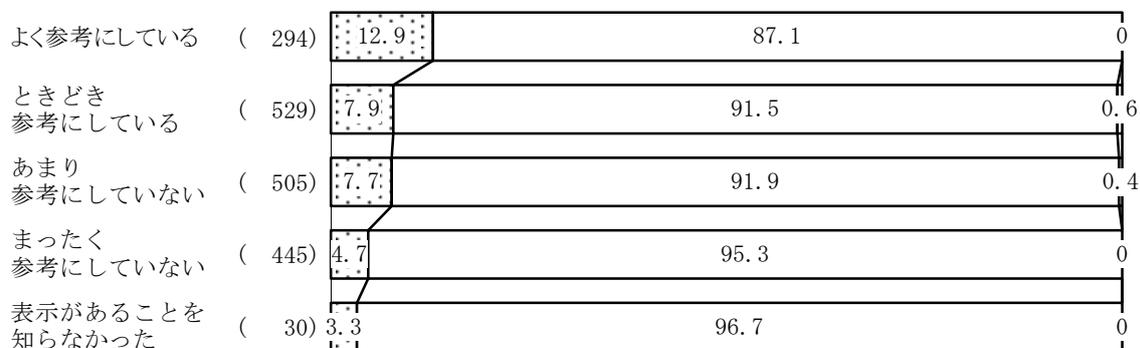
東京産の食材の優先的な購入有無別（Q7 S Q1 P64）にみると、「知っていた」は“購入している”で1割半ばとなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「知っていた」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で1割を超えている。（図1-29-4）

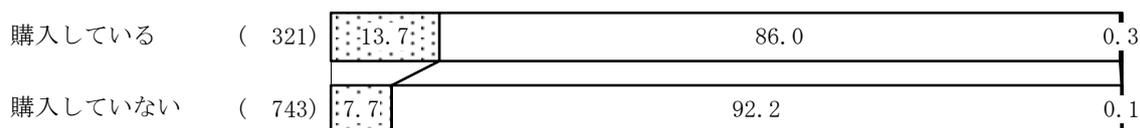
図1-29-4 「GAP」の認知度—栄養成分表示の活用別、東京産の食材の優先的な購入有無別、「食育」の認知度別



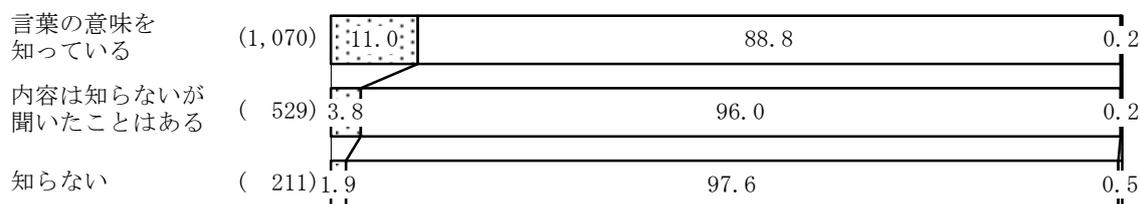
<栄養成分表示の活用別>



<東京産の食材の優先的な購入有無別>



<「食育」の認知度別>

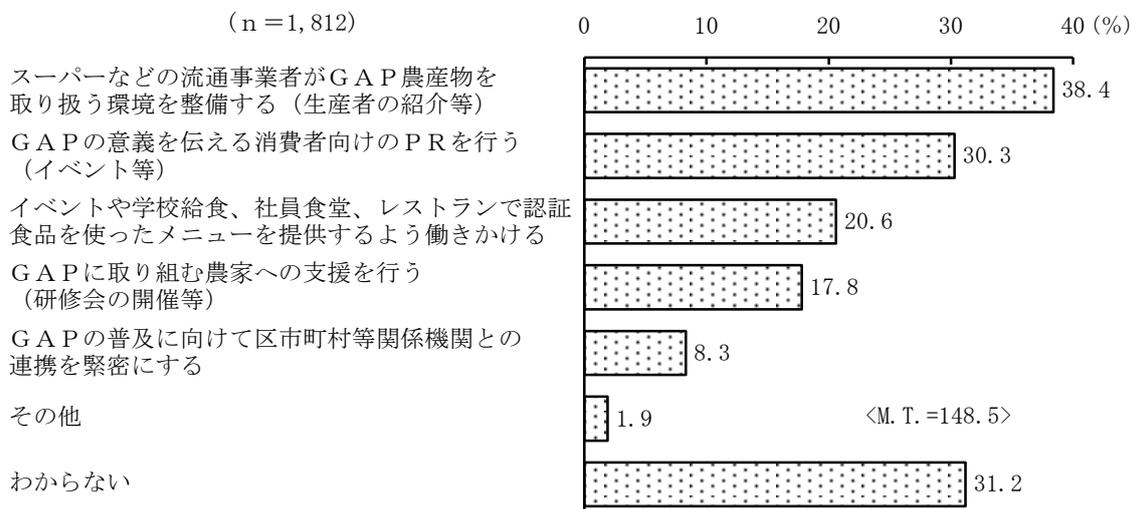


1-30 GAPを普及していくために重要と思うこと

図1-30-1

(全員に)

Q18 今後、GAPを普及していくためにはどうすればよいと思いますか。次の中から特に重要であると思うものを2つまでお選びください。(2M. A.)



GAPを普及していくためにはどうすればよいか聞いたところ、「スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する (生産者の紹介等)」が38%で最も多く、次いで「GAPの意義を伝える消費者向けのPRを行う (イベント等)」30%、「イベントや学校給食、社員食堂、レストランで認証食品を使ったメニューを提供するよう働きかける」21%、「GAPに取り組む農家への支援を行う (研修会の開催等)」18%などの順となっている。

なお、「わからない」は31%となっている。(図1-30-1)

性・年齢別にみると、「スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する（生産者の紹介等）」は女性が男性より7ポイント高くなっており、女性40代で5割半ば、女性50代で5割近くと多くなっている。「イベントや学校給食、社員食堂、レストランで認証食品を使ったメニューを提供するよう働きかける」は女性の20代と40代で3割半ばと多くなっている。一方、「わからない」は男性70歳以上で5割半ば、女性70歳以上で5割近くと多くなっている。

職業別にみると、「スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する（生産者の紹介等）」は勤め（計）で4割を超えて多くなっている。（表1-30-1）

表1-30-1 GAPを普及していくために重要と思うこと－性・年齢別、職業別

		(%)							
	n	備Aス するPー （農産 生物な 生産者 の取り 紹介等 ）	けG のA P P Rの を意 行を う（ イベ ント 等）	働使 きつ かけ たメ ニュー を提 供す るよ う	堂、イ ベン トや 学校 給食、 社員 食	をG 行A うP （に 研修 会の 開農 催家 等）	る等G 関A 係P 機 関の 普 及 の 向 け を 区 市 に 町 村	そ の 他	わ か ら な い
全 体	1,812	38.4	30.3	20.6	17.8	8.3	1.9	31.2	
< 性・年齢別 >									
男 性（計）	863	34.9	29.3	17.8	16.9	9.0	2.0	35.9	
18・19 歳	11	9.1	18.2	63.6	18.2	18.2	-	27.3	
20 代	72	36.1	33.3	20.8	19.4	12.5	4.2	26.4	
30 代	135	35.6	40.0	22.2	16.3	9.6	4.4	25.9	
40 代	172	39.5	31.4	26.7	14.5	7.0	1.7	30.8	
50 代	150	41.3	29.3	19.3	20.0	9.3	-	30.0	
60 代	159	35.2	28.3	9.4	20.8	8.2	1.9	40.3	
70 歳 以 上	164	24.4	18.3	7.3	12.2	9.1	1.2	55.5	
女 性（計）	949	41.5	31.2	23.2	18.7	7.6	1.9	26.9	
18・19 歳	11	36.4	9.1	54.5	18.2	9.1	-	27.3	
20 代	76	28.9	23.7	35.5	26.3	7.9	3.9	25.0	
30 代	143	42.0	34.3	29.4	19.6	9.8	0.7	20.3	
40 代	209	53.6	30.6	33.5	20.6	7.2	1.9	14.8	
50 代	164	47.6	38.4	22.6	20.1	7.9	1.8	20.1	
60 代	156	37.2	35.3	15.4	17.3	7.7	3.2	31.4	
70 歳 以 上	190	31.6	24.2	7.4	12.6	5.8	1.1	47.9	
< 職業別 >									
自営・家族従業(計)	222	31.5	22.1	16.2	17.1	8.1	1.4	43.2	
勤 め（計）	974	43.0	34.3	25.8	19.0	8.2	1.8	23.6	
経 営・管 理 職	70	42.9	41.4	14.3	20.0	11.4	2.9	20.0	
専 門・技 術 職	90	42.2	33.3	31.1	18.9	4.4	1.1	25.6	
事 務 職	502	42.6	34.9	28.9	19.5	7.8	2.2	22.1	
労 務・技 能 職	135	42.2	34.1	17.8	16.3	11.9	2.2	28.1	
販 売・サ ー ビ ス 職	144	46.5	32.6	27.1	17.4	7.6	0.7	22.2	
無職の主婦・主夫	406	34.7	28.8	12.1	14.3	7.4	1.7	39.7	
学 生	49	32.7	28.6	42.9	20.4	12.2	8.2	14.3	
そ の 他 の 無 職	137	29.9	21.2	10.9	19.7	8.8	2.2	46.0	

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する（生産者の紹介等）」は“やや不満”で4割半ばと多くなっている。

「GAP」の認知度別（Q17 P114）にみると、「スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する（生産者の紹介等）」は“知っていた”で5割近くと多くなっている。「GAPに取り組む農家への支援を行う（研修会の開催等）」は“知っていた”で約3割と多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する（生産者の紹介等）」と「GAPの意義を伝える消費者向けのPRを行う（イベント等）」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高くなっている。一方、「わからない」は“知らない”で6割を超えて多くなっている。（表1-30-2）

表1-30-2 GAPを普及していくために重要と思うこと－食生活の満足度別、  
「GAP」の認知度別、「食育」の認知度別

	n	備Aス するP る農 （産 生物 生産 者取 のり 紹介 等）	けG のA P Rの を意 行義 うを （伝 イベ ント 等）	働使堂イ きつべン かたレト けるメス ニューや をラン学 提供校給 する食、 よう社員 食	をG 行A うP （に 研取 修会 の組 開む 催農 等家 ）への 支 援	る等G 関A 係P 機普 関及 のの 連向 携携 をを 緊区 密市 に町 す村	その他	わ か ら な い
全 体	1,812	38.4	30.3	20.6	17.8	8.3	1.9	31.2
<b>&lt;食生活の満足度別&gt;</b>								
大変満足	434	39.6	30.2	21.9	17.5	8.1	2.3	30.4
ある程度満足	1,157	37.3	31.3	20.6	18.2	8.6	1.8	30.9
やや不満	192	45.3	25.0	18.2	16.7	7.3	2.1	33.3
大変不満	22	18.2	22.7	22.7	9.1	-	-	40.9
<b>&lt;「GAP」の認知度別&gt;</b>								
知っていた	142	48.6	33.8	25.4	29.6	9.2	2.1	17.6
知らなかった	1,665	37.5	30.0	20.3	16.9	8.2	1.9	32.3
<b>&lt;「食育」の認知度別&gt;</b>								
言葉の意味を知っている	1,070	44.4	35.6	25.6	21.0	8.8	2.3	19.7
聞いたことはある	529	34.0	25.3	15.3	15.5	8.7	0.9	41.8
知らない	211	19.0	16.1	8.5	7.6	4.7	2.4	62.6

※1-31 「食育」の認知度

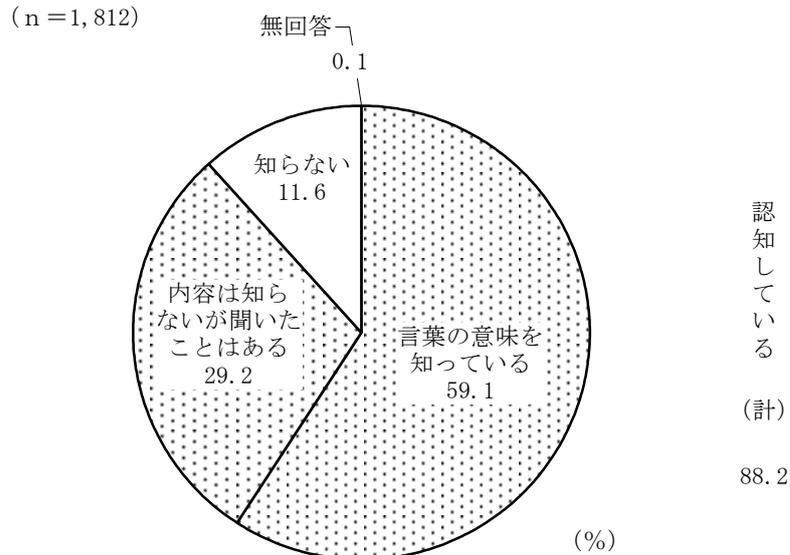
図1-31-1

(全員に)

「食育」とは、心身の健康の基本となる、食生活に関するさまざまな教育を行うことです。

栄養のバランス、調理法、食べ物の安全性に関する知識などを身に付けることや、豊かな食生活を楽しむ力を育むことなどを目指します。

Q19 あなたは「食育」という言葉を知っていますか。次の中から1つだけお選びください。

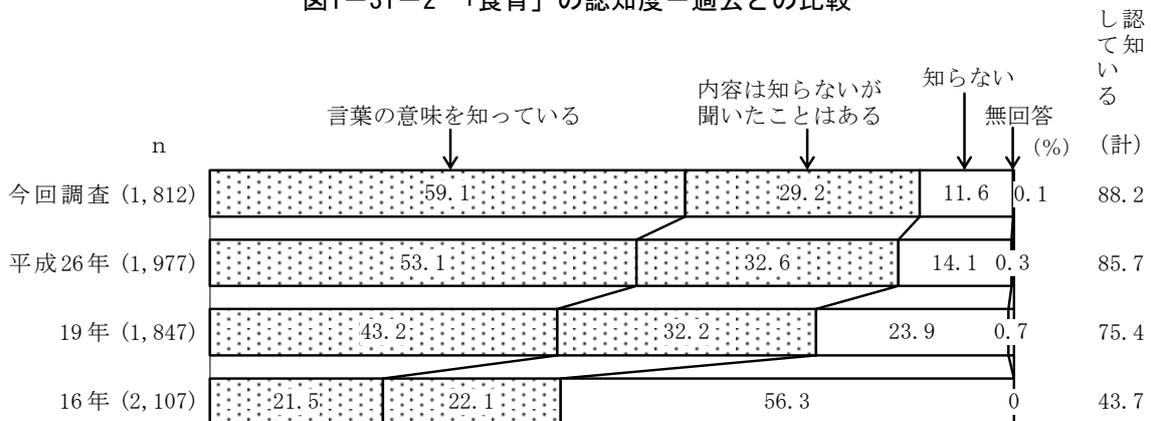


(注) 『認知している (計)』は「言葉の意味を知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」との合計

「食育」という言葉を知っているか聞いたところ、『認知している (計)』は88%、「知らない」は12%となっている。(図1-31-1)

「食育」の認知度を過去との比較で見ると、『認知している (計)』は平成16年以降増加傾向にあり、平成26年より3ポイント増加している。(図1-31-2)

図1-31-2 「食育」の認知度—過去との比較

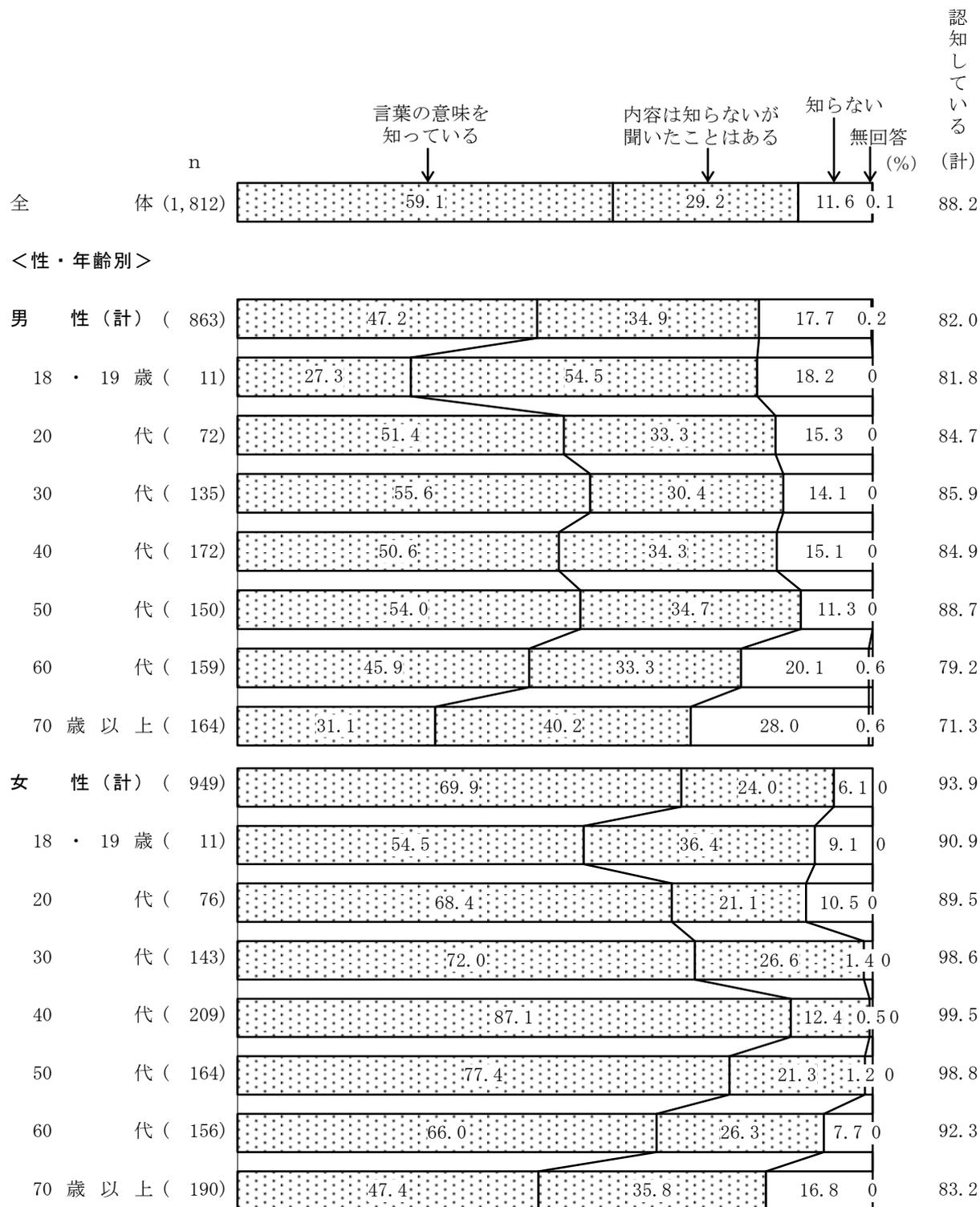


(注1) 『認知している (計)』は「言葉の意味を知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」との合計

(注2) 平成16年は「食品の購買意識に関する世論調査」

性・年齢別にみると、『認知している（計）』は女性が男性より12ポイント高くなっており、女性の30代から50代で10割近くと多くなっている。一方、「知らない」は男性が女性より12ポイント高くなっており、男性の60代と70歳以上で2割台となっている。（図1-31-3）

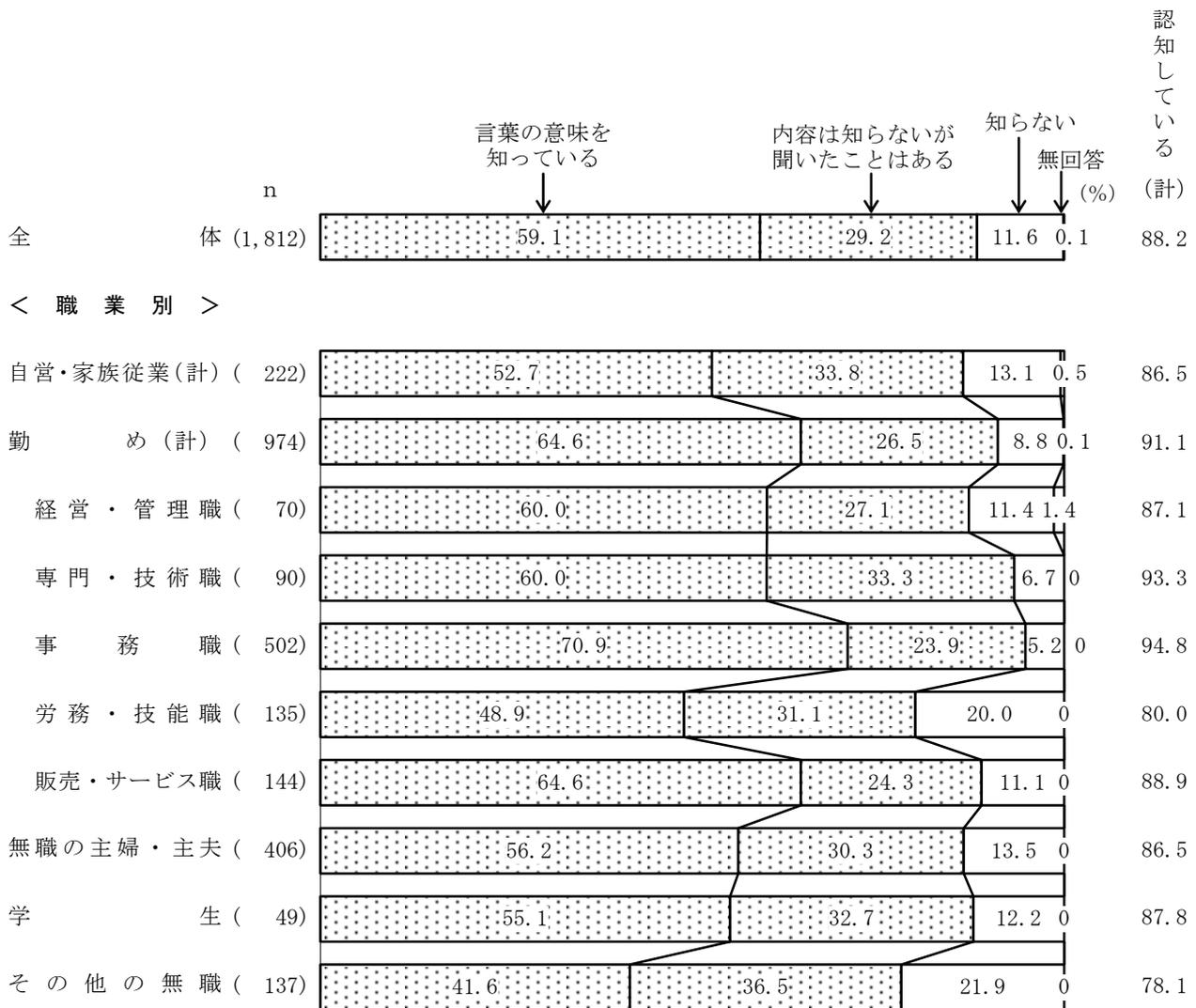
図1-31-3 「食育」の認知度－性・年齢別



（注）『認知している（計）』は「言葉の意味を知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」との合計

職業別にみると、『認知している（計）』は事務職で9割半ばと多くなっている。一方、「知らない」はその他の無職と労務・技能職で2割台となっている。（図1-31-4）

図1-31-4 「食育」の認知度—職業別



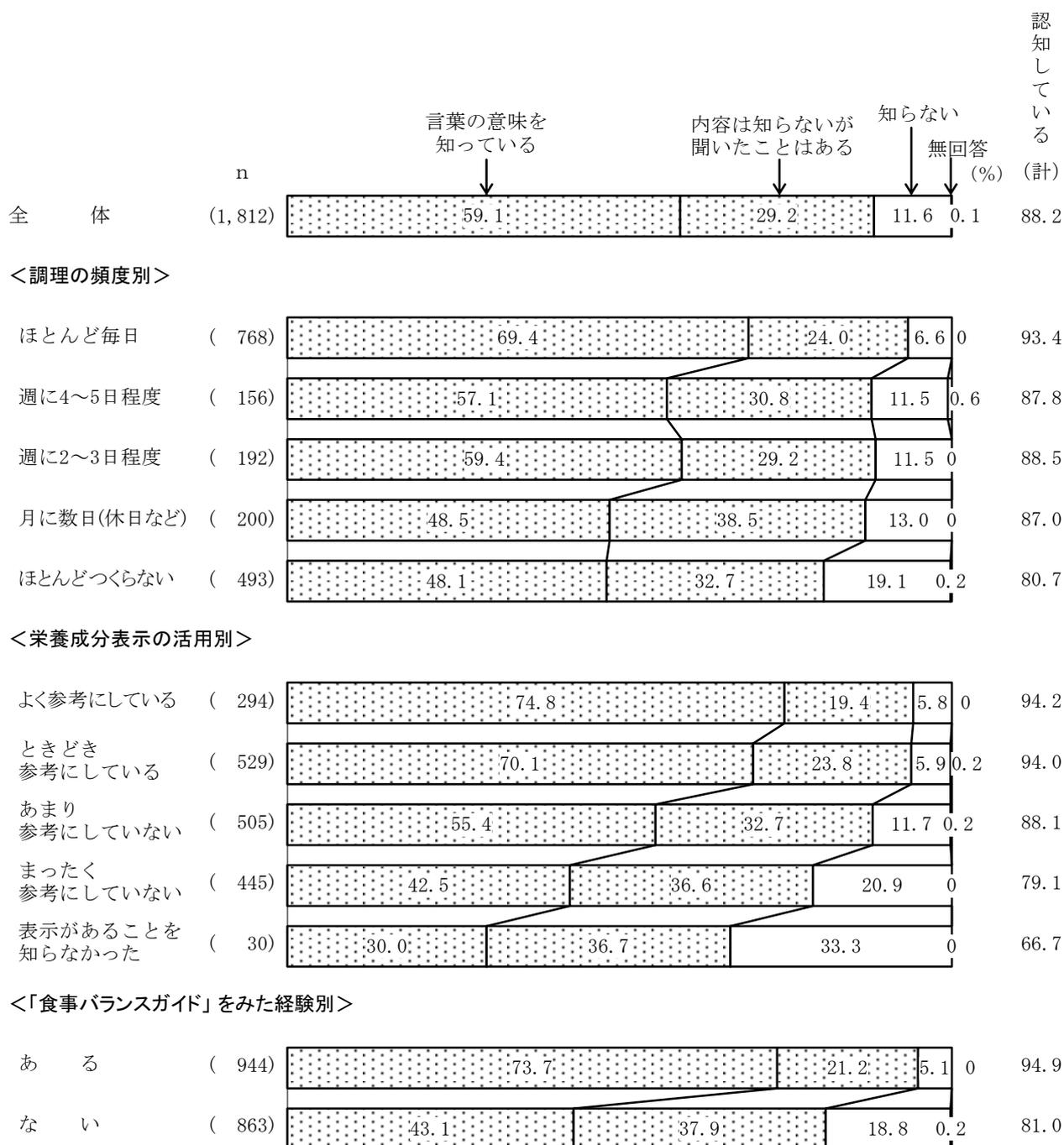
(注) 『認知している (計)』は「言葉の意味を知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」との合計

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、『認知している（計）』は“ほとんど毎日”で9割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は“ほとんどつぐらない”で2割近くとなっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、『認知している（計）』は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、「よく参考にしている」は9割半ばとなっている。一方、「知らない」は栄養成分表示の活用頻度が低くなるほど割合が高く、“まったく参考にしていない”で2割を超えている。

「食事バランスガイド」をみた経験別（Q10 P78）にみると、『認知している（計）』はみたことが“ある”で9割半ばと多くなっている。一方、「知らない」はみたことが“ない”で2割近くとなっている。（図1-31-5）

図1-31-5 「食育」の認知度－調理の頻度別、栄養成分表示の活用別、「食事バランスガイド」をみた経験別



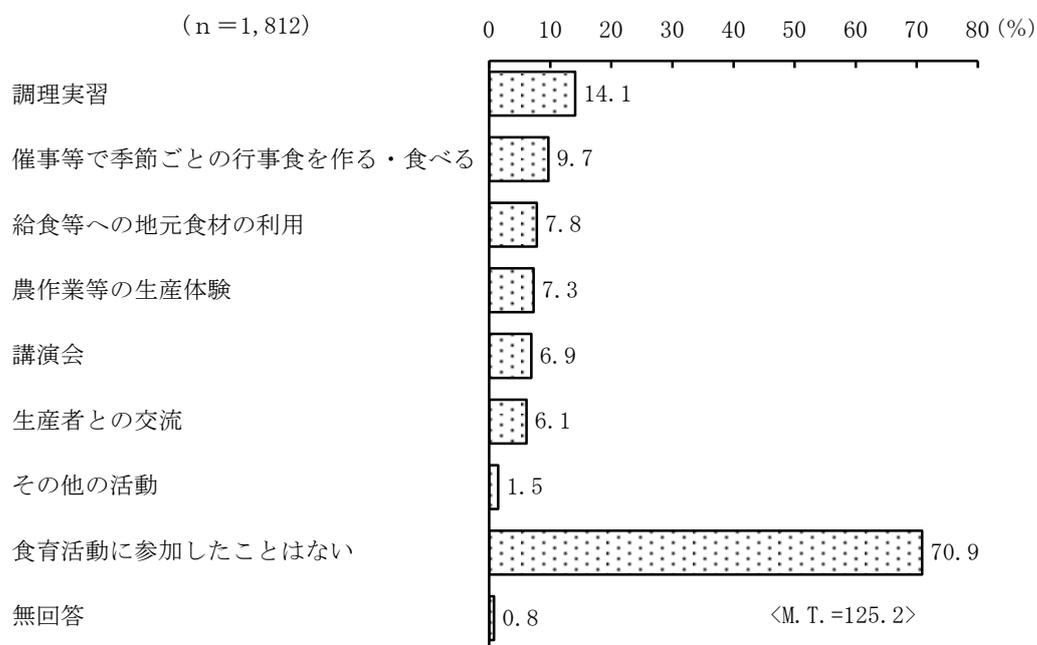
(注)『認知している（計）』は「言葉の意味を知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」との合計

※1-32 食育活動への参加経験

図1-32-1

(全員に)

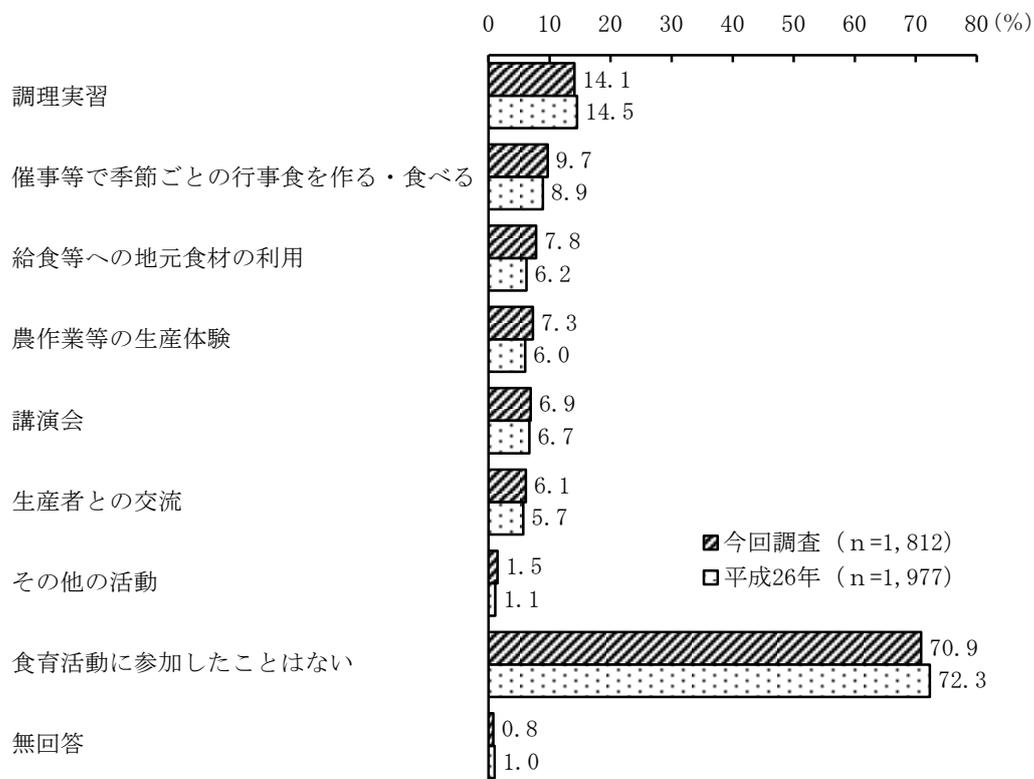
Q20 あなたは、次のような食育活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。(M. A.)



食育活動に参加したことがあるか聞いたところ、「食育活動に参加したことはない」が71%で最も多くなっている。参加したことがある食育活動の中では、「調理実習」が14%で最も多く、次いで「催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる」10%、「給食等への地元食材の利用」8%などの順となっている。なお、「食育活動に参加したことはない」は71%となっている。(図1-32-1)

食育活動への参加経験を過去との比較でみると、「給食等への地元食材の利用」は平成26年より2ポイント増加している。(図1-32-2)

図1-32-2 食育活動への参加経験－過去との比較



性・年齢別にみると、「調理実習」は女性が男性より11ポイント高くなっており、女性20代で5割半ばと多くなっている。「催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる」は女性が男性より9ポイント高くなっており、女性の20代と40代で2割台となっている。「食育活動に参加したことはない」は男性が女性より17ポイント高くなっており、男性の50代以上の年代で8割台と多くなっている。

職業別にみると、「調理実習」は学生で6割を超え、事務職で2割近くとなっている。「農作業等の生産体験」は学生で3割を超えて多くなっている。(表1-32-1)

表1-32-1 食育活動への参加経験—性・年齢別、職業別

(%)										
	n	調理実習	催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる	給食等への地元食材の利用	農作業等の生産体験	講演会	生産者との交流	その他の活動	食育活動に参加したことはない	無回答
全 体	1,812	14.1	9.7	7.8	7.3	6.9	6.1	1.5	70.9	0.8
< 性・年齢別 >										
男 性 (計)	863	8.3	5.1	4.9	5.9	4.1	4.8	1.3	79.6	0.9
18・19 歳	11	63.6	27.3	18.2	45.5	-	18.2	-	27.3	-
20 代	72	25.0	6.9	12.5	13.9	2.8	2.8	-	63.9	-
30 代	135	8.9	3.7	7.4	5.9	5.2	7.4	2.2	77.0	-
40 代	172	8.1	6.4	4.1	4.7	2.9	4.1	0.6	79.1	1.2
50 代	150	5.3	7.3	4.7	4.7	4.0	4.7	1.3	82.0	0.7
60 代	159	3.1	3.1	2.5	5.0	4.4	3.1	1.3	84.9	1.9
70 歳 以 上	164	4.9	2.4	1.8	3.0	4.9	4.9	1.8	85.4	1.2
女 性 (計)	949	19.4	13.9	10.4	8.6	9.5	7.3	1.8	63.0	0.6
18・19 歳	11	81.8	27.3	45.5	36.4	9.1	18.2	-	18.2	-
20 代	76	53.9	26.3	18.4	21.1	11.8	11.8	-	39.5	-
30 代	143	18.9	15.4	11.2	8.4	7.0	3.5	0.7	63.6	-
40 代	209	17.2	20.6	15.3	12.0	12.4	6.7	2.9	58.9	0.5
50 代	164	18.3	11.6	11.0	5.5	9.8	9.8	3.0	59.1	1.2
60 代	156	12.8	10.9	5.8	5.1	9.0	5.1	1.9	71.2	-
70 歳 以 上	190	11.1	4.2	2.6	4.2	7.4	7.9	1.1	75.8	1.6
< 職 業 別 >										
自営・家族従業(計)	222	6.8	4.5	4.1	6.3	6.3	6.8	0.9	77.0	1.8
勤 め (計)	974	15.4	12.1	9.4	7.5	7.3	5.3	1.7	69.2	0.3
経営・管理職	70	2.9	5.7	1.4	1.4	7.1	1.4	-	81.4	1.4
専門・技術職	90	12.2	10.0	8.9	3.3	11.1	3.3	-	73.3	-
事務職	502	18.3	13.9	10.6	9.2	6.4	6.8	2.4	65.9	0.2
労務・技能職	135	14.1	11.9	10.4	8.1	8.9	5.2	0.7	74.1	0.7
販売・サービス職	144	16.0	11.8	11.1	7.6	7.6	4.9	2.8	65.3	-
無職の主婦・主夫	406	11.1	7.1	5.2	5.9	6.2	7.6	1.5	73.2	0.7
学 生	49	61.2	18.4	26.5	32.7	12.2	10.2	-	32.7	-
そ の 他 の 無 職	137	9.5	6.6	3.6	3.6	4.4	3.6	2.2	80.3	1.5

調理の頻度別（Q3 P39）にみると、「催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる」は“ほとんど毎日”と“週に4～5日程度”で1割を超えている。「食育活動に参加したことはない」は“ほとんどつからない”で約8割と多くなっている。

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「調理実習」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考になっている”で2割を超えている。「食育活動に参加したことはない」は栄養成分表示の活用頻度が低くなるほど割合が高く、“まったく参考にしていない”で8割を超えている。

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「農作業等の生産体験」は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、“大変満足”で1割を超えている。「講演会」は“大変満足”で1割を超えている。

(表1-32-2)

表1-32-2 食育活動への参加経験－調理の頻度別、栄養成分表示の活用別、食生活の満足度別

(%)										
	n	調理実習	催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる	給食等への地元食材の利用	農作業等の生産体験	講演会	生産者との交流	その他の活動	食育活動に参加したことはない	無回答
全 体	1,812	14.1	9.7	7.8	7.3	6.9	6.1	1.5	70.9	0.8
<b>&lt;調理の頻度別&gt;</b>										
ほとんど毎日	768	15.5	13.0	9.9	8.7	10.0	7.9	2.2	64.6	0.4
週に4～5日程度	156	15.4	13.5	5.8	10.3	5.8	3.8	1.3	67.9	2.6
週に2～3日程度	192	15.1	5.7	6.8	4.2	4.2	4.7	1.6	75.5	1.0
月に数日（休日など）	200	16.0	8.5	6.0	8.0	4.5	7.0	0.5	71.0	0.5
ほとんどつからない	493	10.3	5.3	6.3	5.1	4.5	4.1	1.0	80.1	0.6
<b>&lt;栄養成分表示の活用別&gt;</b>										
よく参考になっている	294	20.7	15.6	11.9	8.2	10.9	11.6	3.4	57.1	1.7
ときどき参考になっている	529	18.3	14.4	10.4	10.4	9.1	6.8	1.3	63.9	0.6
あまり参考にしていない	505	11.3	6.3	5.1	7.1	5.1	5.1	0.8	75.2	1.0
まったく参考にしていない	445	9.0	4.3	5.4	3.8	4.3	2.9	1.6	82.0	0.2
表示があることを知らなかった	30	-	3.3	3.3	-	-	3.3	-	90.0	-
<b>&lt;食生活の満足度別&gt;</b>										
大変満足	434	17.3	12.9	9.2	10.6	10.6	8.1	1.6	65.7	0.5
ある程度満足	1,157	13.4	8.8	7.3	6.4	5.8	5.6	1.6	72.1	0.8
やや不満	192	12.0	8.9	7.8	5.7	4.7	3.6	1.6	74.5	1.6
大変不満	22	4.5	-	-	4.5	9.1	9.1	-	86.4	-

食生活の改善意欲別（Q14 P102）にみると、ほとんどの項目で改善意欲が高いほど割合が高くなっており、「調理実習」は“今よりよくしたい”で2割を超えている。「食育活動に参加したことはない」は“特に考えていない”で8割半ばと多くなっている。

「GAP」の認知度別（Q17 P114）にみると、ほとんどの項目で認知度が高いほど割合が高くなっており、“知っていた”で「調理実習」は2割半ば、「生産者との交流」は2割近くとなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、ほとんどの項目で「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、「調理実習」は“言葉の意味を知っている”で2割近くとなっている。「食育活動に参加したことはない」は「食育」の認知度が低くなるほど割合が高く、“知らない”で9割を超えている。

（表1-32-3）

表1-32-3 食育活動への参加経験－食生活の改善意欲別、「GAP」の認知度別、「食育」の認知度別

(%)										
	n	調理実習	食事等を作る・季節・節ごとの行	給食等への地元食材の	農作業等の生産体験	講演会	生産者との交流	その他の活動	食育活動に参加したことはない	無回答
全 体	1,812	14.1	9.7	7.8	7.3	6.9	6.1	1.5	70.9	0.8
<食生活の改善意欲別>										
今よりよくしたい	658	20.7	13.7	11.2	10.8	9.6	7.6	1.8	61.9	0.8
今のままでよい	859	11.9	8.6	6.6	5.9	6.2	6.1	1.4	73.6	0.7
特に考えていない	291	5.8	4.1	3.4	3.8	3.1	2.7	1.4	83.5	1.0
<「GAP」の認知度別>										
知っていた	142	23.9	11.3	13.4	16.2	16.9	18.3	2.1	54.2	0.7
知らなかった	1,665	13.2	9.5	7.3	6.6	6.0	5.0	1.4	72.6	0.7
<「食育」の認知度別>										
言葉の意味を知っている	1,070	18.8	13.9	11.9	10.5	10.9	8.8	2.4	60.3	0.6
聞いたことはある	529	8.3	4.7	2.5	3.4	1.1	2.6	0.4	83.7	0.8
知らない	211	5.2	0.9	0.5	1.4	0.9	0.9	-	92.9	1.4

食に関する取組別（Q22 P135）にみると、【学校や保育園などでの食育活動】では、「調理実習」が“大いに進めたほうがよい”で2割近くとなっている。

【学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進】では、「催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる」が“大いに進めたほうがよい”で1割を超えている。（表1-32-4）

表1-32-4 食育活動への参加経験－食に関する取組別

(%)

	n	調理実習	催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる	給食等への地元食材の利用	農作業等の生産体験	講演会	生産者との交流	その他の活動	食育活動に参加したことはない	無回答
全 体	1,812	14.1	9.7	7.8	7.3	6.9	6.1	1.5	70.9	0.8
<食に関する取組別>										
(ア)学校や保育園などでの食育活動										
大いに進めたほうがよい	888	17.2	13.2	10.9	9.9	10.4	7.8	2.4	63.2	0.6
ある程度進めたほうがよい	676	12.6	7.1	5.3	5.6	4.0	5.0	1.0	75.7	0.3
あまり進めなくてよい	38	18.4	13.2	13.2	10.5	10.5	7.9	-	63.2	-
まったく進めなくてよい	5	-	20.0	-	-	-	-	-	80.0	-
わからない	205	5.4	2.4	1.5	1.5	1.0	2.0	-	89.8	3.4
(イ)学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進										
大いに進めたほうがよい	833	16.4	13.2	11.0	9.2	9.7	8.0	2.3	63.3	0.8
ある程度進めたほうがよい	701	13.3	8.0	5.6	6.0	5.6	4.6	0.9	75.0	0.3
あまり進めなくてよい	75	14.7	9.3	5.3	13.3	2.7	10.7	4.0	73.3	-
まったく進めなくてよい	4	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	-	75.0	-
わからない	199	7.0	1.5	3.0	1.5	1.0	1.0	-	87.4	2.5

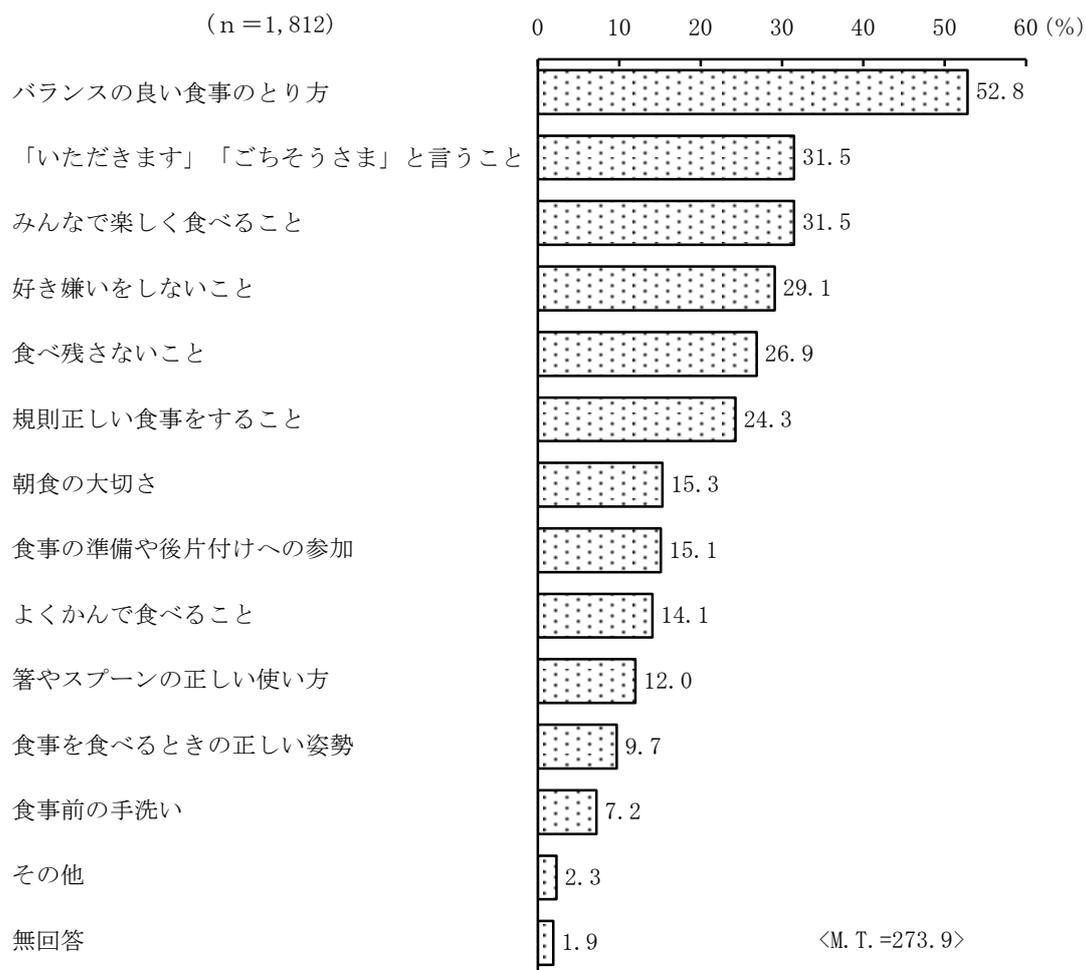
## 2 学校、地域での食育

### ※2-1 保育園・幼稚園・小学校及び地域に望む取組

図2-1-1

(全員に)

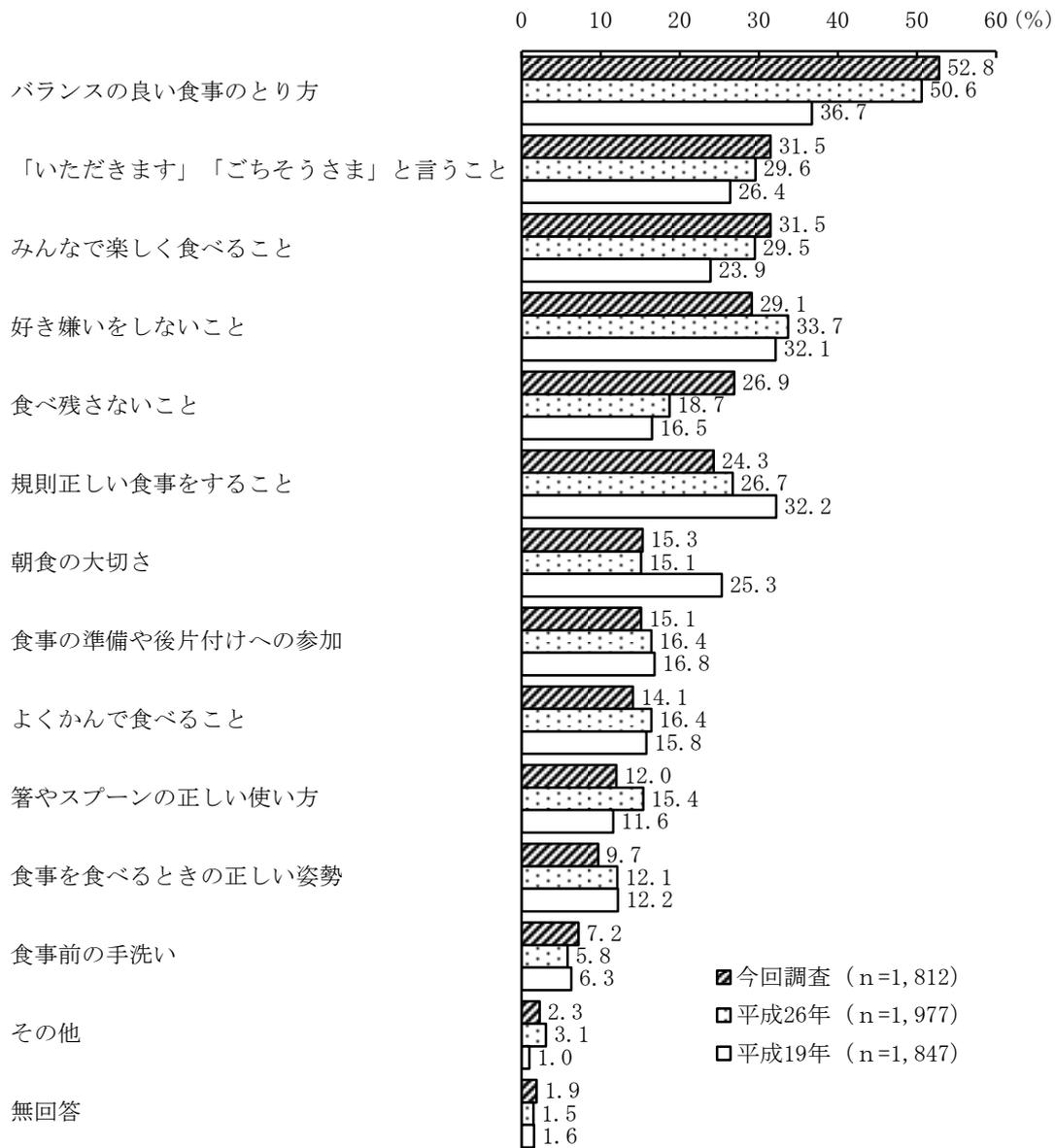
Q21 家庭での食育を支えるためには、保育園、幼稚園、小学校の給食や地域で行う食育において、あなたが力を入れてほしいと思うことはなんですか。次の中から3つまでお選びください。(3M. A.)



保育園・幼稚園・小学校の給食や地域で行う食育に望む取組を聞いたところ、「バランスの良い食事のとり方」が53%で最も多く、次いで『「いただきます』『ごちそうさま』と言うこと』と『みんなで楽しく食べること』32%、「好き嫌いをしないこと」29%、「食べ残さないこと」27%などの順となっている。(図2-1-1)

保育園・幼稚園・小学校及び地域に望む取組を過去との比較でみると、「食べ残さないこと」は平成26年より8ポイント増加している。一方、「好き嫌いをしないこと」は5ポイント、「箸やスプーンの正しい使い方」は3ポイント、それぞれ平成26年より減少している。(図2-1-2)

図2-1-2 保育園・幼稚園・小学校及び地域に望む取組—過去との比較



(注) 平成19年では「特になし」があったが、平成26年以降削除した。

性・年齢別にみると、「食べ残さないこと」は男性20代で5割を超えて多くなっている。「規則正しい食事をする事」は男性50代で3割半ばと多くなっている。

職業別にみると、「みんなで楽しく食べる事」は勤め（計）で3割半ばと多くなっている。「箸やスプーンの正しい使い方」は学生で3割近くと多くなっている。（表2-1-1）

表2-1-1 保育園・幼稚園・小学校及び地域に望む取組－性・年齢別、職業別

		(%)														
	n	バランスの良い食事のとり方	「いただきます」「ごちそうさま」と言うこと	「いただきます」「ごちそうさま」と言うこと	みんなで楽しく食べること	好き嫌いをしないこと	食べ残さないこと	規則正しい食事をする事	朝食の大切さ	食事の準備や後片付けへの参加	よくかんで食べる事	箸やスプーンの正しい使い方	食事を食べるときの正しい姿勢	食事前の手洗い	その他	無回答
全体	1,812	52.8	31.5	31.5	29.1	26.9	24.3	15.3	15.1	14.1	12.0	9.7	7.2	2.3	1.9	
<b>&lt; 性・年齢別 &gt;</b>																
男性（計）	863	48.8	32.2	27.7	29.8	28.7	25.4	13.4	14.9	13.3	12.4	8.7	7.6	1.9	2.7	
18・19歳	11	36.4	9.1	9.1	63.6	45.5	18.2	18.2	-	9.1	27.3	9.1	9.1	-	-	
20代	72	48.6	33.3	33.3	25.0	51.4	16.7	12.5	6.9	9.7	18.1	5.6	6.9	2.8	1.4	
30代	135	43.7	35.6	33.3	28.9	32.6	20.7	9.6	23.0	13.3	13.3	11.1	5.9	2.2	-	
40代	172	52.9	36.6	33.1	29.1	29.1	22.1	9.9	18.0	8.7	12.8	7.6	7.6	2.3	1.7	
50代	150	52.7	33.3	29.3	26.7	26.0	34.7	18.0	12.7	15.3	13.3	7.3	7.3	-	-	
60代	159	49.7	28.3	25.8	31.4	28.9	23.3	14.5	17.0	15.1	13.2	11.3	10.1	1.3	3.1	
70歳以上	164	45.1	28.7	16.5	32.3	16.5	30.5	15.2	9.8	16.5	6.1	7.9	7.3	3.0	8.5	
女性（計）	949	56.4	30.9	35.0	28.5	25.3	23.4	17.1	15.3	14.9	11.7	10.5	6.8	2.7	1.3	
18・19歳	11	45.5	54.5	18.2	9.1	27.3	9.1	27.3	9.1	18.2	9.1	18.2	-	-	-	
20代	76	47.4	38.2	44.7	23.7	23.7	21.1	10.5	14.5	11.8	17.1	7.9	5.3	2.6	-	
30代	143	54.5	39.9	34.3	30.1	29.4	18.2	10.5	13.3	14.7	18.2	7.7	7.7	3.5	0.7	
40代	209	60.3	29.7	38.8	31.6	28.2	20.6	9.6	15.3	15.8	12.9	18.7	5.7	1.4	-	
50代	164	59.8	32.9	36.0	28.0	23.8	25.6	15.9	21.3	13.4	10.4	10.4	4.9	1.2	0.6	
60代	156	58.3	25.0	36.5	25.0	23.1	23.7	29.5	17.3	14.1	9.6	7.1	9.0	1.3	1.3	
70歳以上	190	53.2	24.2	26.3	30.0	22.6	30.0	23.2	10.5	16.8	6.3	7.4	8.4	6.3	4.2	
<b>&lt; 職業別 &gt;</b>																
自営・家族従業(計)	222	55.9	33.3	28.4	32.9	23.9	24.8	13.1	14.0	13.1	14.9	7.7	9.0	0.5	2.7	
勤め(計)	974	52.8	32.6	35.6	28.9	29.4	23.4	13.4	17.5	13.4	12.6	10.6	6.1	2.0	0.7	
経営・管理職	70	51.4	25.7	35.7	28.6	40.0	28.6	7.1	11.4	11.4	11.4	12.9	5.7	2.9	2.9	
専門・技術職	90	53.3	30.0	36.7	26.7	25.6	32.2	10.0	18.9	16.7	8.9	10.0	5.6	2.2	-	
事務職	502	51.6	35.7	36.5	29.5	29.5	20.5	12.4	19.7	11.8	14.9	12.0	5.0	1.4	0.4	
労務・技能職	135	48.9	32.6	33.3	30.4	30.4	25.2	16.3	14.8	15.6	11.1	6.7	8.9	1.5	0.7	
販売・サービス職	144	58.3	28.5	34.7	27.1	25.0	20.8	20.1	14.6	18.1	10.4	9.0	7.6	3.5	1.4	
無職の主婦・主夫	406	56.4	27.8	26.1	28.3	23.2	27.8	20.0	11.1	15.0	7.9	9.4	8.4	3.9	3.0	
学生	49	44.9	42.9	30.6	26.5	38.8	16.3	14.3	8.2	8.2	28.6	10.2	4.1	4.1	-	
その他の無職	137	41.6	25.5	24.8	29.2	24.8	21.9	19.7	12.4	19.0	10.2	8.0	9.5	2.9	5.8	

食生活の満足度別（Q13 P94）にみると、「規則正しい食事をするこゝ」は食生活の満足度が高くなるほど割合が高く、「大変満足」で3割近くとなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「バランスの良い食事のとり方」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、「言葉の意味を知っている」で6割近くとなっている。（表2-1-2）

表2-1-2 保育園・幼稚園・小学校及び地域に望む取組－食生活の満足度別、「食育」の認知度別

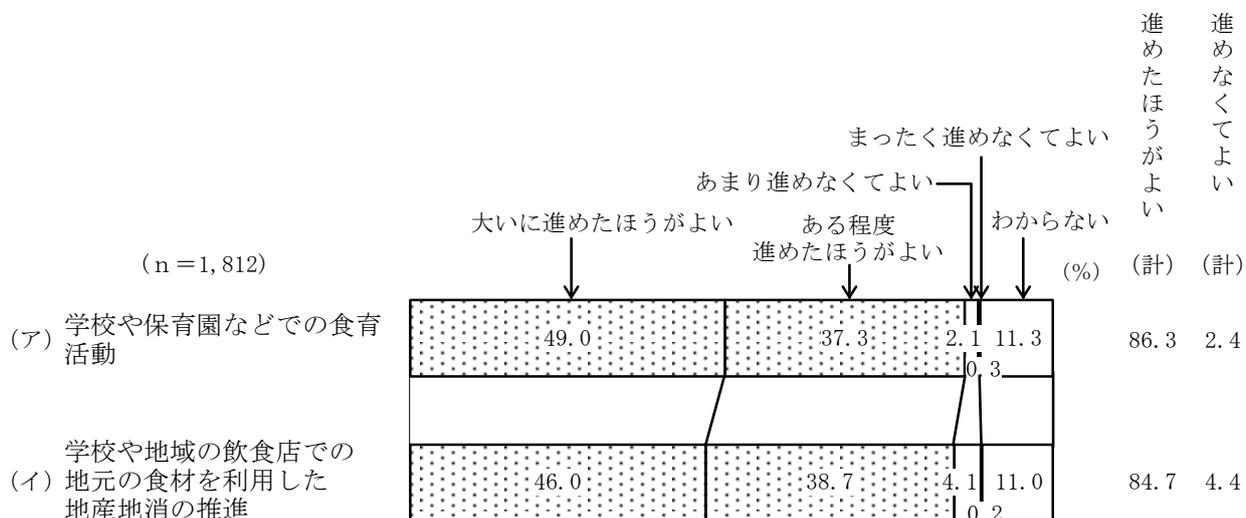
	n	バランスの良い食事のとり方	「いただきます」「ごちそうさま」と言うこと	「みんなで楽しく食べる」と	好き嫌いをしないこと	食べ残さないこと	規則正しい食事をするこゝ	朝食の大切さ	食事の準備や後片付けへの参加	よくかんで食べるこゝ	箸やスプーンの正しい使い方	食事を食べるときの正しい姿勢	食事前の手洗い	その他	無回答
全 体	1,812	52.8	31.5	31.5	29.1	26.9	24.3	15.3	15.1	14.1	12.0	9.7	7.2	2.3	1.9
＜食生活の満足度別＞															
大変満足	434	52.1	33.6	34.1	29.0	28.6	29.3	13.8	13.6	10.8	9.4	9.4	5.1	3.7	2.5
ある程度満足	1,157	53.7	31.1	30.9	29.0	26.0	23.1	16.2	15.6	15.3	12.4	10.5	7.9	1.7	1.8
やや不満	192	51.0	28.6	28.1	28.1	25.0	21.9	14.1	16.7	15.6	16.1	6.3	7.8	3.1	1.0
大変不満	22	27.3	40.9	31.8	45.5	59.1	18.2	9.1	9.1	9.1	13.6	4.5	9.1	-	-
＜「食育」の認知度別＞															
言葉の意味を知っている	1,070	57.4	32.3	35.1	27.4	25.6	24.8	17.0	17.5	13.3	12.9	11.3	5.5	1.8	0.7
聞いたことはある	529	51.2	33.3	27.8	32.7	26.7	24.6	14.6	11.2	14.7	11.5	7.8	8.9	2.3	3.0
知らない	211	33.6	22.7	22.7	28.4	34.1	21.8	9.0	13.3	17.1	9.0	6.2	11.8	5.2	4.7

2-2 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組

図2-2-1

(全員に)

Q22 あなたは、次のような食に関する取組について、どう思いますか。(ア)～(イ)について、それぞれ1つだけお選びください。



(注1) 『進めたほうがよい (計)』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計

『進めなくてよい (計)』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

(注2) (ア) (イ) については表現を簡略化している。調査票の表現は以下のとおり。

(ア) 学校や保育園などで、ごはん食を中心とした給食の提供、調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流等の食育活動に積極的に取り組むことについて

(イ) 学校や地域の飲食店で地元の食材を利用した地産地消を進めることについて

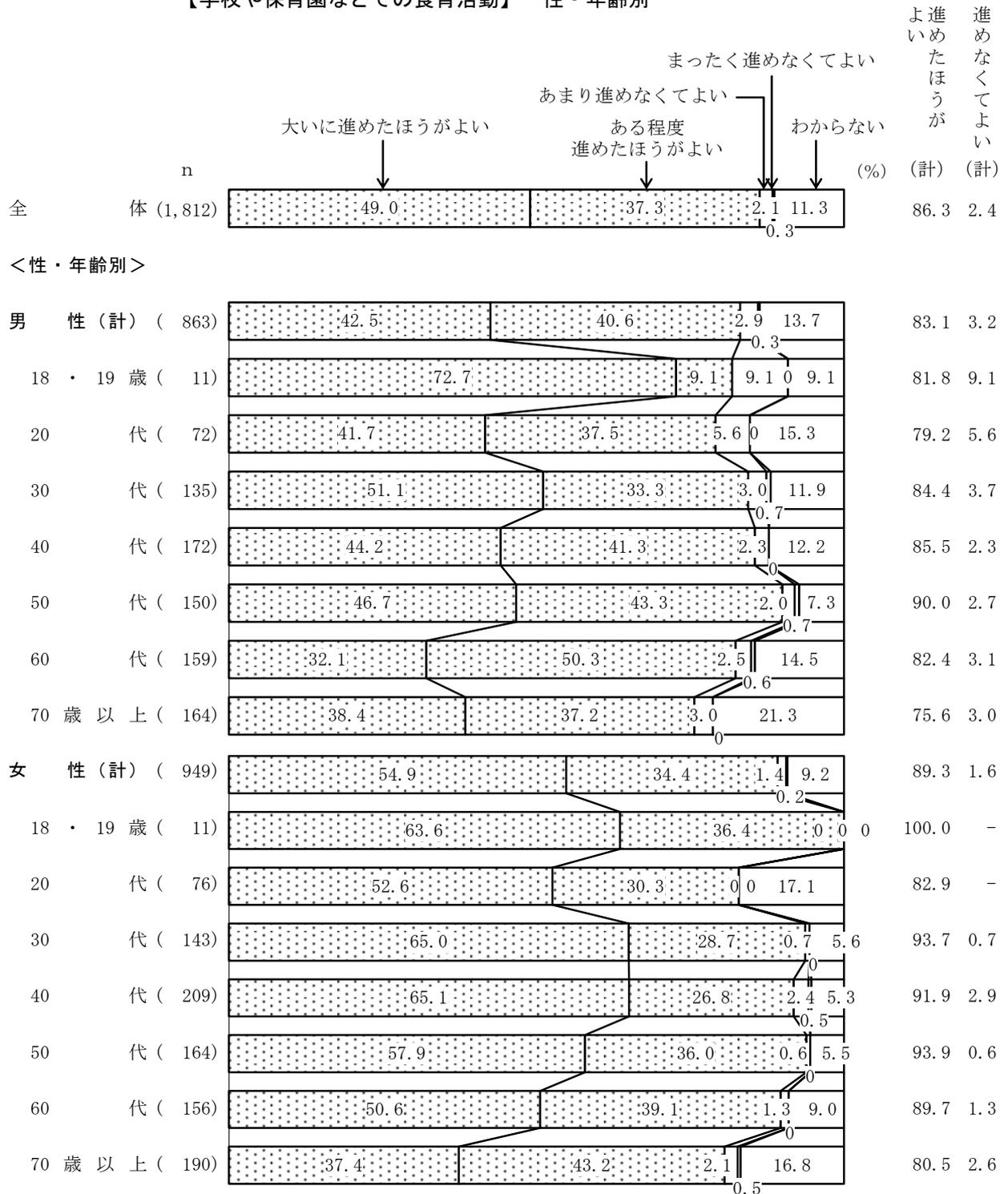
食に関する2つの取組について聞いたところ、【学校や保育園などでの食育活動】では、「大いに進めたほうがよい」が49%、「ある程度進めたほうがよい」が37%で、この2つを合わせた『進めたほうがよい (計)』は86%となっている。

【学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進】では、「大いに進めたほうがよい」が46%、「ある程度進めたほうがよい」が39%で、この2つを合わせた『進めたほうがよい (計)』は85%となっている。(図2-2-1)

(ア) 学校や保育園などでの食育活動

性・年齢別にみると、『進めたほうがよい(計)』は女性が男性より6ポイント高くなっており、女性の30代から50代で9割台と多くなっている。(図2-2-2)

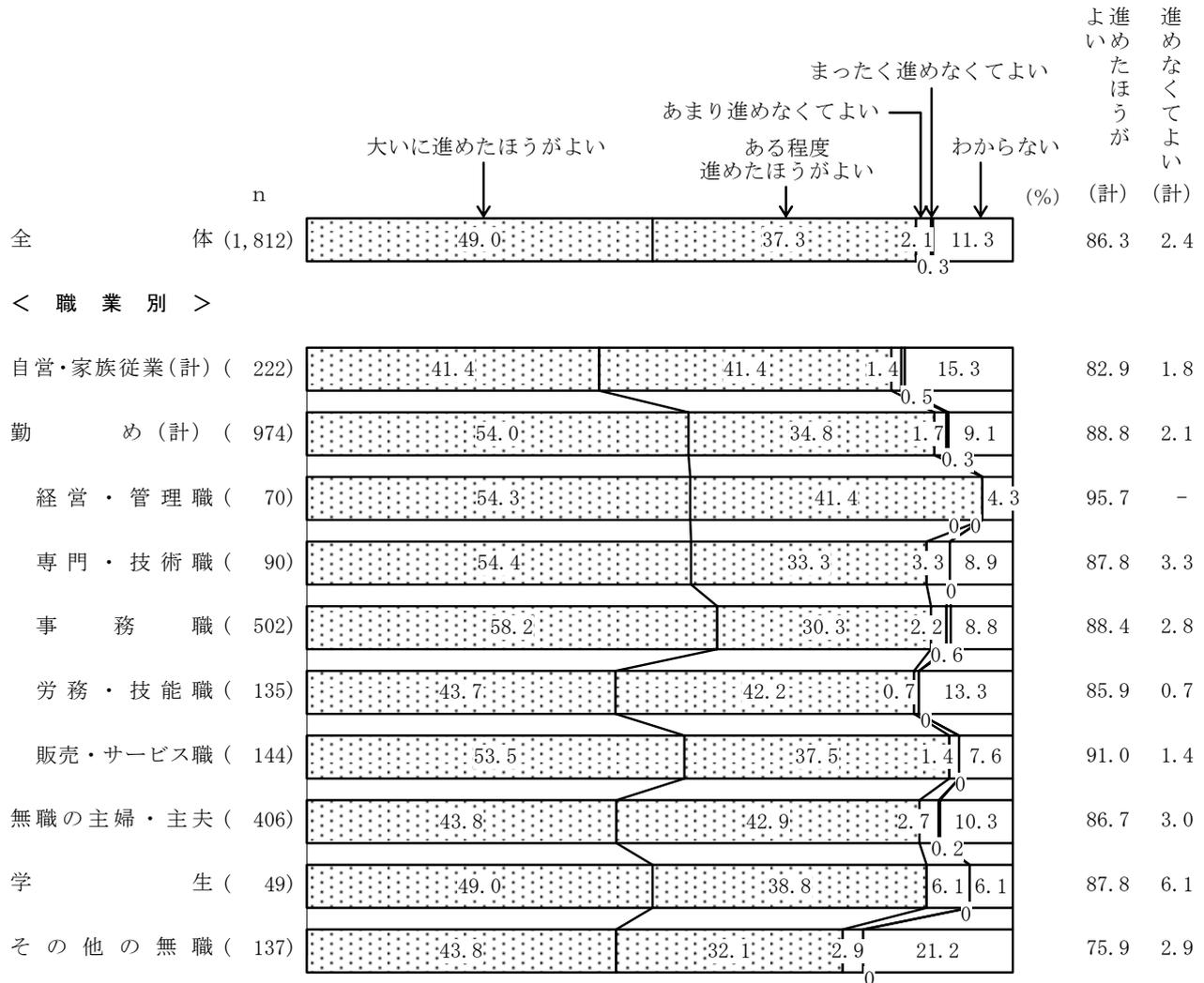
図2-2-2 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組  
【学校や保育園などでの食育活動】－性・年齢別



(注) 『進めたほうがよい(計)』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計  
『進めなくてよい(計)』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

職業別にみると、『進めたほうがよい (計)』は経営・管理職で9割半ばと多くなっている。「大いに進めたほうがよい」は事務職で6割近くと多くなっている。(図2-2-3)

図2-2-3 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組  
【学校や保育園などでの食育活動】－職業別



(注) 『進めたほうがよい (計)』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計  
『進めなくてよい (計)』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

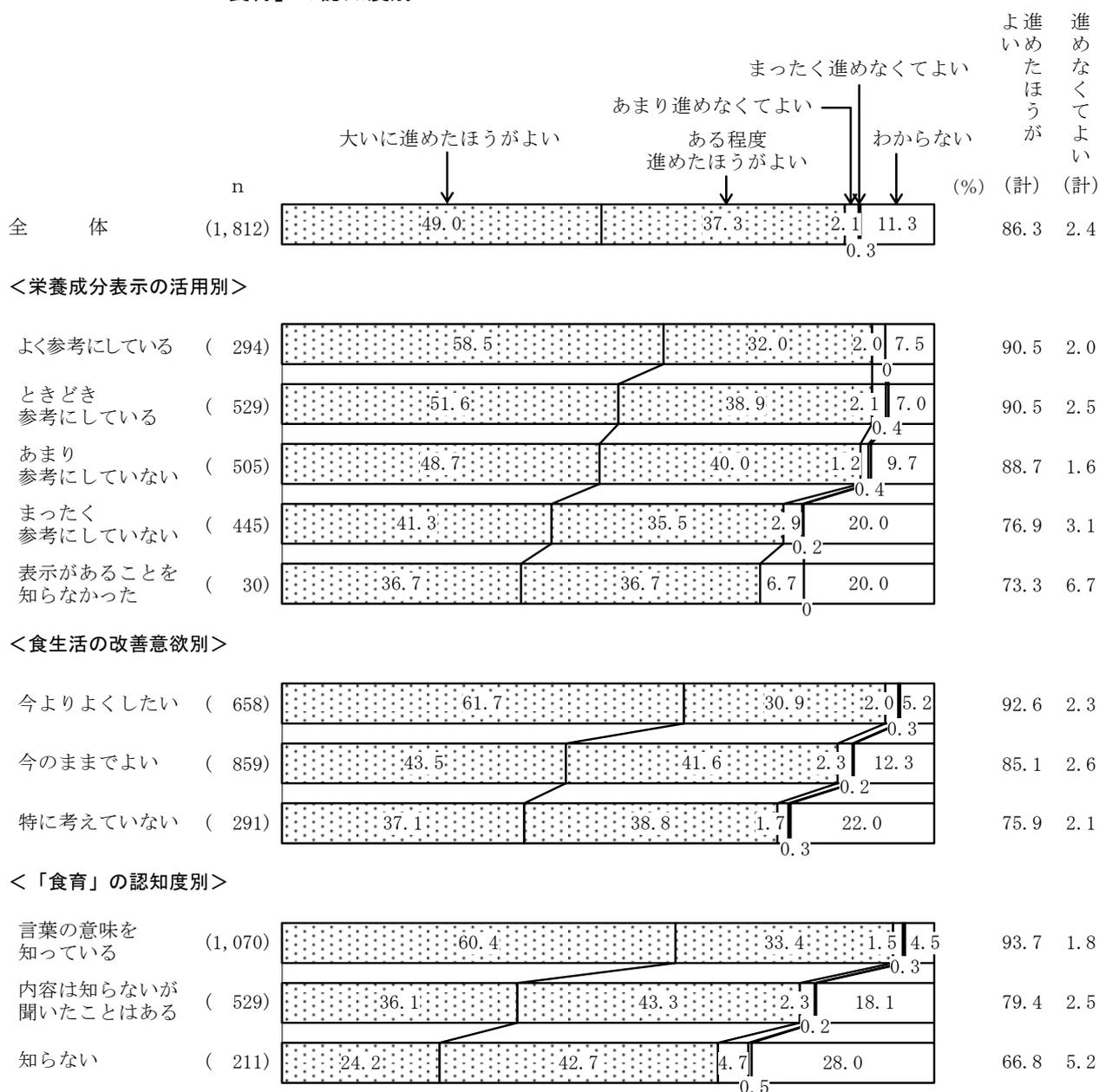
栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、『進めたほうがよい（計）』は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”と“ときどき参考にしている”で9割を超えて多くなっている。

食生活の改善意欲別（Q14 P102）にみると、『進めたほうがよい（計）』は改善意欲が高くなるほど割合が高く、“今よりよくしたい”で9割を超えて多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『進めたほうがよい（計）』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で9割半ばとなっている。（図2-2-4）

図2-2-4 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組

【学校や保育園などでの食育活動】－栄養成分表示の活用別、食生活の改善意欲別、「食育」の認知度別



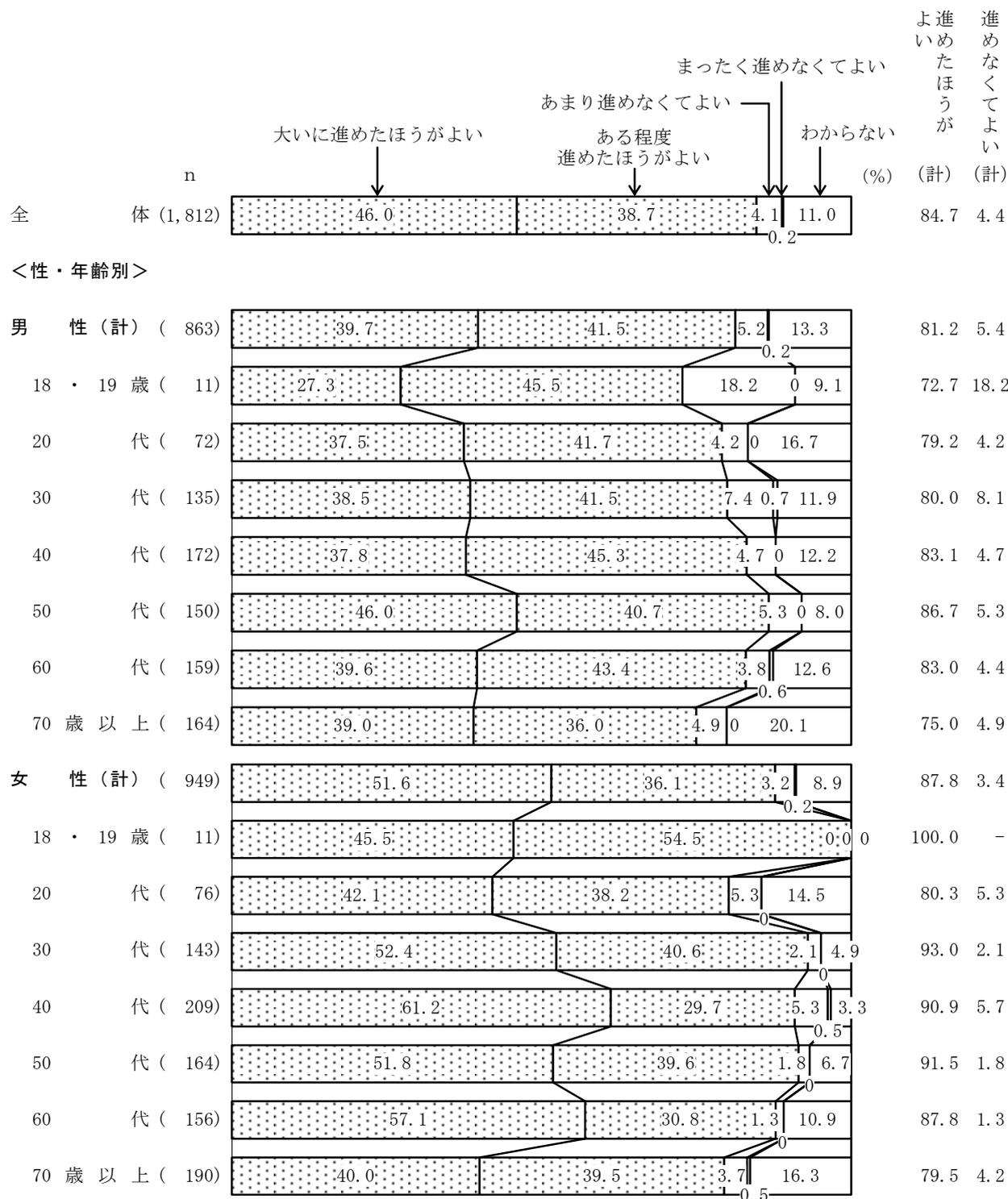
(注) 『進めたほうがよい（計）』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計  
『進めなくてよい（計）』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

(イ) 学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進

性・年齢別にみると、『進めたほうがよい (計)』は女性が男性より7ポイント高くなっており、女性の30代から50代で9割を超えて多くなっている。(図2-2-5)

図2-2-5 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組

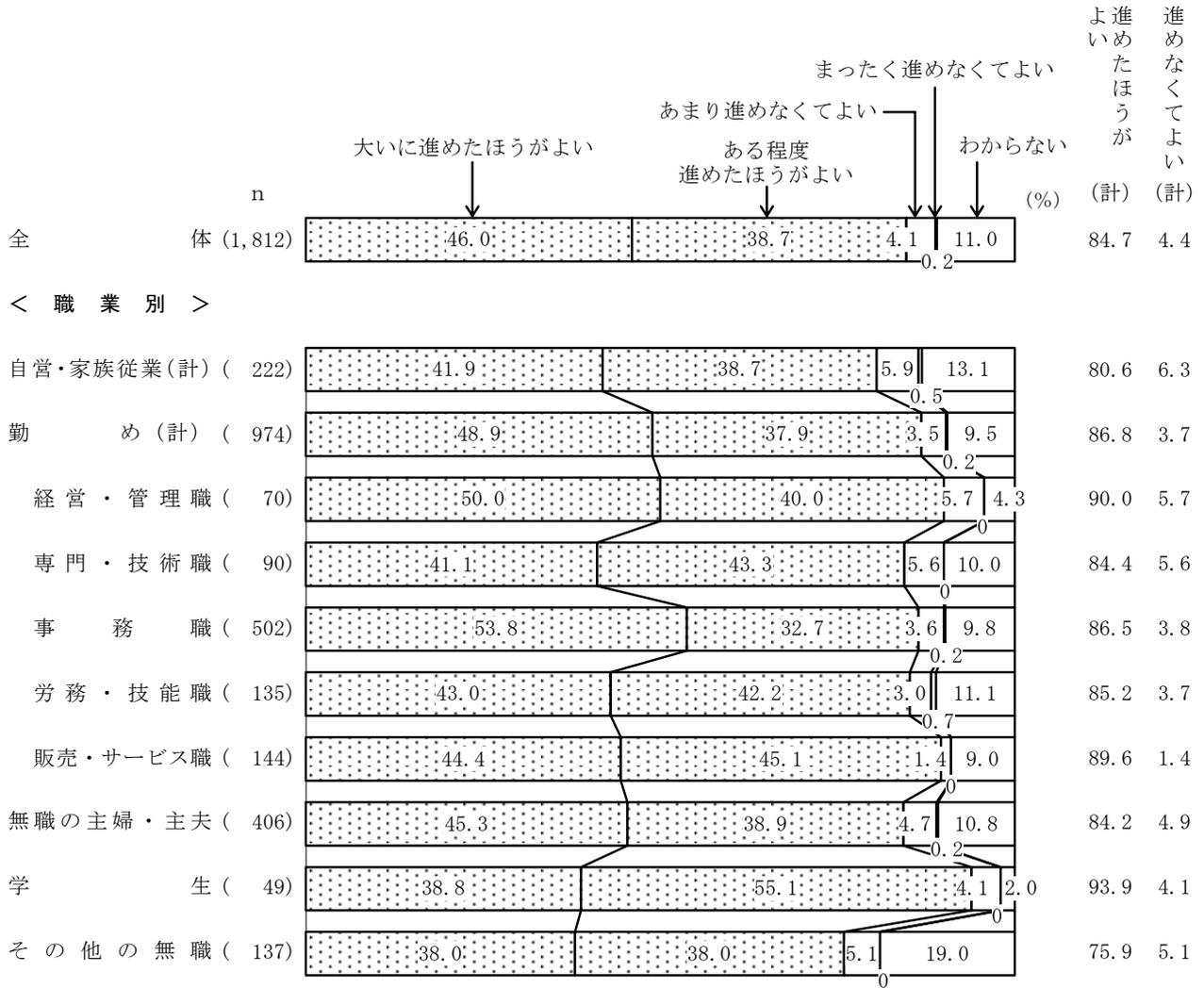
【学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進】一性・年齢別



(注) 『進めたほうがよい (計)』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計  
『進めなくてよい (計)』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

職業別にみると、「大いに進めたほうがよい」は事務職で5割半ばと多くなっている。(図2-2-6)

図2-2-6 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組  
【学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進】-職業別



(注)『進めたほうがよい(計)』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計  
『進めなくてよい(計)』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

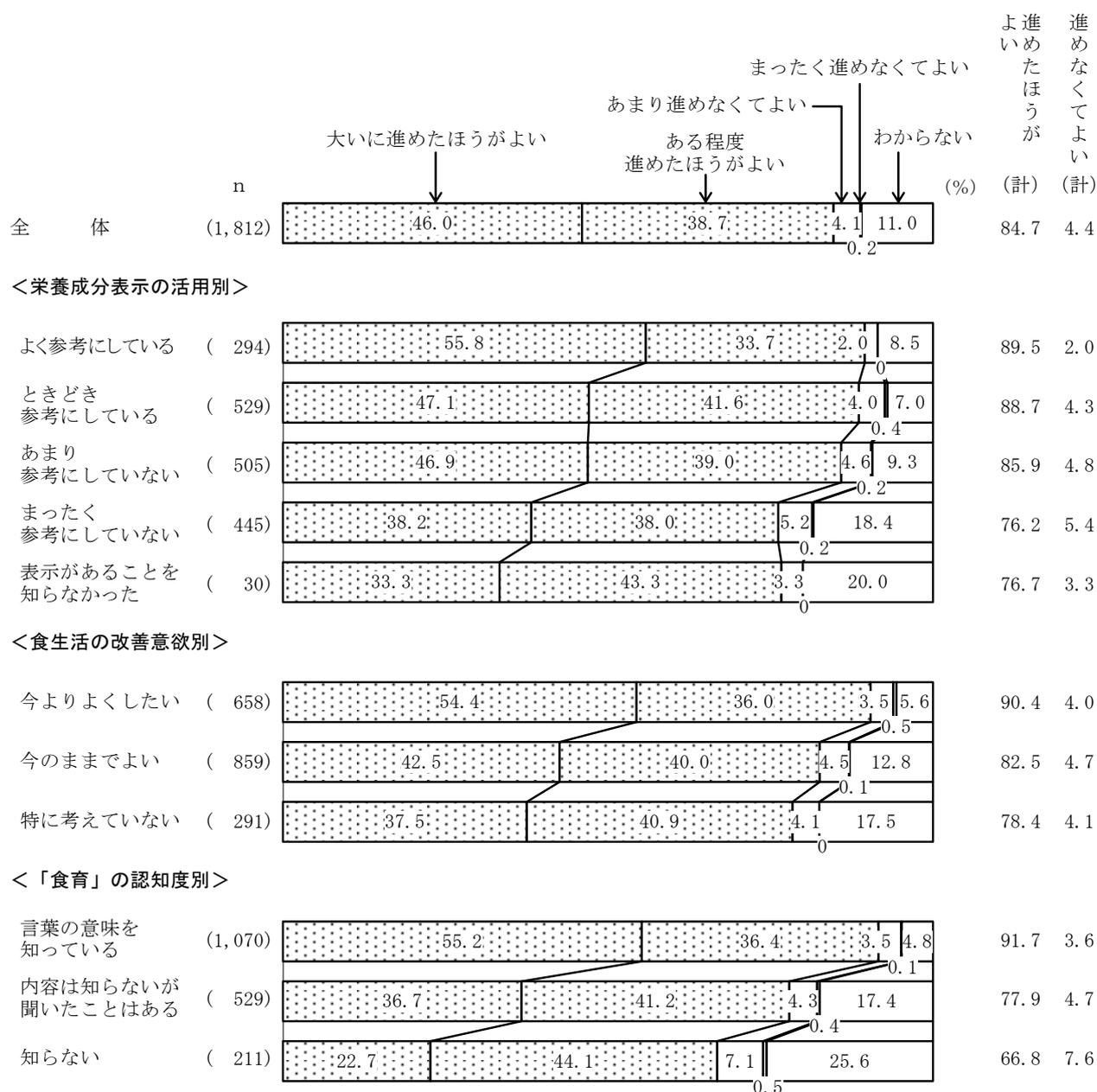
栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、『進めたほうがよい（計）』は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で約9割となっている。

食生活の改善意欲別（Q14 P102）にみると、『進めたほうがよい（計）』は“今よりよくしたい”で約9割と多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、『進めたほうがよい（計）』は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で9割を超えている。（図2-2-7）

図2-2-7 調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流、地産地消などの取組

【学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進】－栄養成分表示の活用別、食生活の改善意欲別、「食育」の認知度別



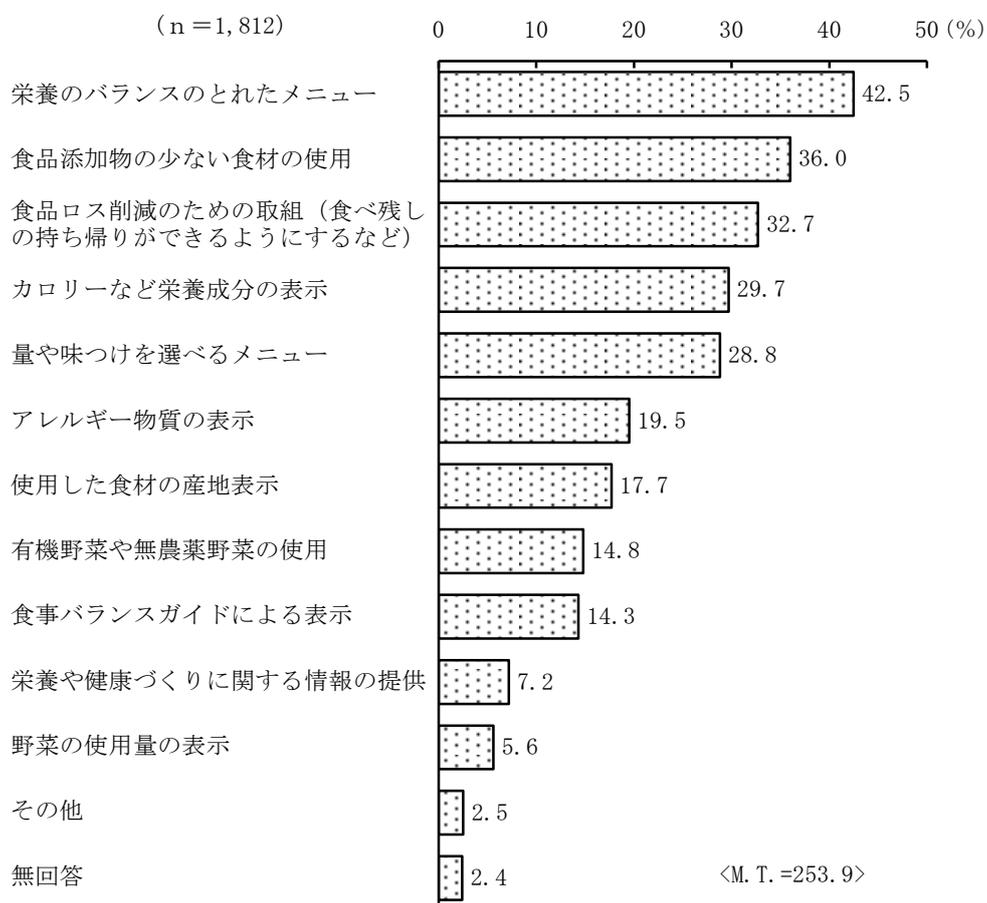
(注) 『進めたほうがよい（計）』は「大いに進めたほうがよい」と「ある程度進めたほうがよい」との合計  
『進めなくてよい（計）』は「あまり進めなくてよい」と「まったく進めなくてよい」との合計

※2-3 外食産業に望むこと

図2-3-1

(全員に)

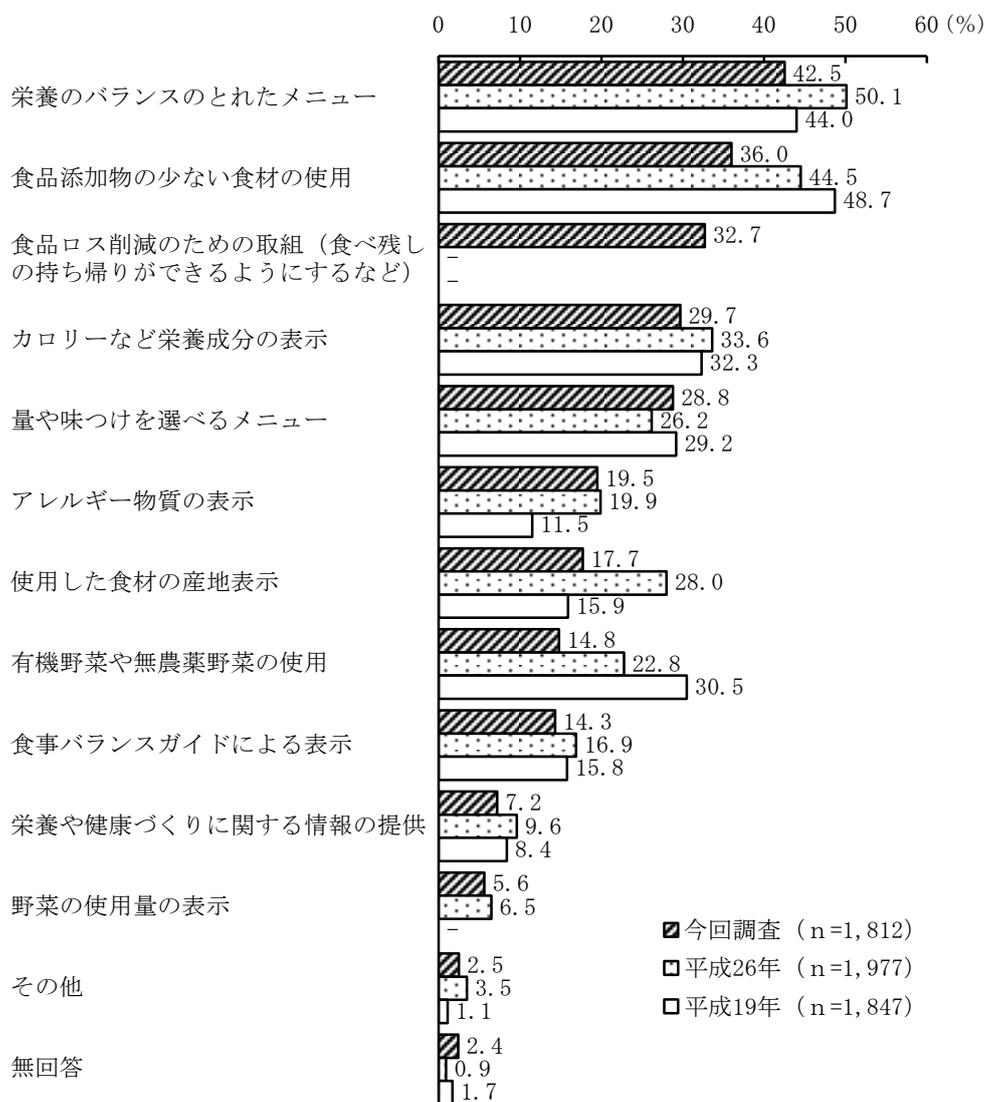
Q23 あなたは、飲食店やレストラン、職場の給食施設や食堂などに、食生活の改善や食育推進のため、どのようなことを望みますか。次の中から3つまでお選びください。(3M. A.)



食生活の改善や食育推進のため、外食産業に望むことを聞いたところ、「栄養のバランスのとれたメニュー」が43%で最も多く、次いで「食品添加物の少ない食材の使用」36%、「食品ロス削減のための取組 (食べ残しの持ち帰りができるようにするなど)」33%、「カロリーなど栄養成分の表示」30%などの順となっている。(図2-3-1)

外食産業に望むことを過去との比較で見ると、選択肢を追加・変更しているため、単純に比較はできないが、「量や味つけを選べるメニュー」などは平成26年より増加し、「使用した食材の産地表示」、「食品添加物の少ない食材の使用」、「栄養のバランスのとれたメニュー」、「有機野菜や無農薬野菜の使用」などは平成26年より減少している。(図2-3-2)

図2-3-2 外食産業に望むことー過去との比較



(注1) 「食品ロス削減のための取組 (食べ残しの持ち帰りができるようにするなど)」は今回調査で追加した。

(注2) 「野菜の使用量の表示」は平成26年から追加した。

(注3) 平成19年では「特になし」があったが、平成26年以降削除した。

性・年齢別にみると、「栄養のバランスのとれたメニュー」は女性が男性より9ポイント高くなっており、男性20代と女性30代で5割台と多くなっている。「食品添加物の少ない食材の使用」は女性が男性より12ポイント高くなっており、女性の40代、60代、70歳以上で4割半ば以上と多くなっている。

職業別にみると、「食品添加物の少ない食材の使用」は無職の主婦・主夫で5割近くと多くなっている。「食品ロス削減のための取組（食べ残しの持ち帰りができるようにするなど）」は事務職で約4割と多くなっている。（表2-3-1）

表2-3-1 外食産業に望むこと一性・年齢別、職業別

	n	栄養の バランスの とれたメ ニュー	食品 添加物の 少ない食 材の使 用	食品ロス削減の ための取組 （食べ残しの 持ち帰り ができる ようにする など）	カロ リーな ど栄養 成分の 表示	量や 味つけ を選 べるメ ニュー	アレ ルギ― 物質の 表示	使用 した食 材の産 地表示	有機 野菜や 無農薬 野菜の 使用	食事 バラ ンスガ イドに よる表 示	報 養や健 康づく りに関 する情 報の提 供	野菜 の使 用量 の表 示	そ の他	無 回 答
全 体	1,812	42.5	36.0	32.7	29.7	28.8	19.5	17.7	14.8	14.3	7.2	5.6	2.5	2.4
＜性・年齢別＞														
男 性（計）	863	37.8	29.8	31.9	29.9	29.2	21.2	18.0	13.0	15.2	7.6	5.7	2.9	3.0
18・19歳	11	18.2	-	45.5	18.2	27.3	36.4	27.3	9.1	27.3	-	-	-	9.1
20代	72	54.2	23.6	31.9	26.4	43.1	15.3	13.9	6.9	15.3	5.6	5.6	4.2	4.2
30代	135	37.8	28.9	35.6	35.6	25.9	23.0	17.0	10.4	15.6	6.7	6.7	3.7	1.5
40代	172	33.1	26.7	40.1	32.0	32.0	17.4	19.2	9.9	20.9	8.7	7.6	0.6	1.2
50代	150	40.7	30.7	31.3	32.7	27.3	26.7	22.0	11.3	16.0	8.0	5.3	2.0	0.7
60代	159	39.6	37.1	30.8	30.2	27.0	25.2	17.6	17.0	11.3	6.9	3.8	1.3	3.8
70歳以上	164	32.3	30.5	20.7	22.6	26.8	16.5	15.2	18.9	11.0	9.1	5.5	6.7	6.7
女 性（計）	949	46.9	41.7	33.5	29.5	28.3	18.0	17.5	16.5	13.5	6.7	5.6	2.2	1.8
18・19歳	11	54.5	9.1	36.4	9.1	45.5	9.1	9.1	9.1	45.5	-	9.1	-	-
20代	76	44.7	21.1	42.1	38.2	35.5	17.1	9.2	6.6	21.1	5.3	13.2	1.3	-
30代	143	51.7	35.7	39.2	26.6	28.7	25.9	16.8	16.1	12.6	5.6	9.1	3.5	0.7
40代	209	47.4	47.4	40.7	31.1	27.8	19.1	19.1	18.2	14.4	7.2	6.7	-	1.0
50代	164	46.3	39.6	36.0	33.5	28.7	15.2	22.6	12.2	11.0	7.9	3.7	1.2	-
60代	156	49.4	49.4	25.0	25.0	30.8	22.4	17.9	19.2	13.5	10.3	2.6	1.9	1.3
70歳以上	190	41.6	45.8	22.6	27.9	22.6	10.5	15.3	21.1	10.5	4.2	2.6	5.3	6.3
＜職業別＞														
自営・家族従業(計)	222	41.4	38.3	31.1	26.6	29.7	21.6	19.4	13.1	15.3	7.2	5.4	2.3	2.3
勤 め(計)	974	43.0	33.1	36.3	32.3	28.7	21.3	17.5	14.1	15.4	7.1	6.6	1.5	1.4
経営・管理職	70	41.4	35.7	41.4	25.7	30.0	25.7	10.0	21.4	10.0	2.9	4.3	1.4	5.7
専門・技術職	90	45.6	31.1	31.1	27.8	33.3	18.9	15.6	15.6	20.0	7.8	11.1	3.3	-
事務職	502	42.6	32.5	40.2	31.5	27.5	20.9	18.7	14.3	14.9	8.0	6.4	1.2	1.4
労務・技能職	135	39.3	35.6	32.6	37.0	30.4	21.5	15.6	11.9	16.3	10.4	5.9	1.5	0.7
販売・サービス職	144	49.3	34.0	27.8	33.3	27.8	23.6	17.4	11.1	16.7	3.5	7.6	1.4	0.7
無職の主婦・主夫	406	43.6	46.8	26.6	27.6	28.3	15.3	18.5	17.0	11.1	6.9	4.7	3.7	2.5
学 生	49	51.0	22.4	40.8	24.5	44.9	16.3	14.3	8.2	18.4	2.0	4.1	-	4.1
その他の無職	137	37.2	29.2	26.3	22.6	23.4	17.5	16.1	20.4	12.4	9.5	3.6	7.3	6.6

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「食品添加物の少ない食材の使用」は“ときどき参考にしている”で4割を超えて多くなっている。「カロリーなど栄養成分の表示」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で5割近くとなっている。

「食事バランスガイド」をみた経験別（Q10 P78）にみると、「栄養のバランスのとれたメニュー」はみたことが“ある”で5割近くと多くなっている。「食品添加物の少ない食材の使用」はみたことが“ある”で約4割と多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「食品添加物の少ない食材の使用」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で4割を超えている。「食品ロス削減のための取組（食べ残しの持ち帰りができるようにするなど）」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で3割半ばとなっている。（表2-3-2）

表2-3-2 外食産業に望むことー栄養成分表示の活用別、  
「食事バランスガイド」をみた経験別、「食育」の認知度別

	n	栄養のバランスのとれたメニュー	食品添加物の少ない食材の使用	食品ロス削減のための取組（食べ残しの持ち帰りができるようにするなど）	カロリーなど栄養成分の表示	量や味つけを選べるメニュー	アレルギー物質の表示	使用した食材の産地表示	有機野菜や無農薬野菜の使用	食事バランスガイドによる表示	栄養や健康づくりに関する情報の提供	野菜の使用量の表示	その他	無回答
全 体	1,812	42.5	36.0	32.7	29.7	28.8	19.5	17.7	14.8	14.3	7.2	5.6	2.5	2.4
<b>&lt;栄養成分表示の活用別&gt;</b>														
よく参考にしている	294	48.0	38.8	30.3	46.9	25.5	18.4	19.0	16.3	15.0	6.1	6.1	3.1	0.7
ときどき参考にしている	529	44.6	41.8	35.2	31.8	27.4	20.0	18.5	17.0	15.3	7.6	6.4	1.3	1.1
あまり参考にしていない	505	44.8	36.8	35.2	24.4	32.3	20.8	17.6	15.0	13.3	7.3	5.5	1.0	1.4
まったく参考にしていない	445	34.8	28.3	30.1	21.8	29.4	19.1	16.6	10.8	13.0	7.4	4.7	5.2	5.6
表示があることを知らなかった	30	30.0	13.3	10.0	23.3	16.7	13.3	10.0	10.0	23.3	6.7	3.3	6.7	10.0
<b>&lt;「食事バランスガイド」をみた経験別&gt;</b>														
あ る	944	46.7	40.1	33.2	30.5	29.0	19.9	17.7	15.3	14.7	7.4	6.3	2.3	1.6
な い	863	37.9	31.4	32.4	28.9	28.5	19.1	17.7	14.4	13.9	6.8	5.0	2.8	3.2
<b>&lt;「食育」の認知度別&gt;</b>														
言葉の意味を知っている	1,070	44.5	41.4	36.1	31.3	27.6	21.4	19.2	16.4	13.4	7.9	5.9	1.7	1.0
聞いたことはある	529	41.0	31.4	29.5	27.4	31.2	18.0	17.4	13.6	14.6	6.6	5.3	2.1	4.7
知らない	211	37.0	19.9	24.2	27.5	28.9	14.2	10.9	9.5	18.5	5.2	5.2	8.1	3.3

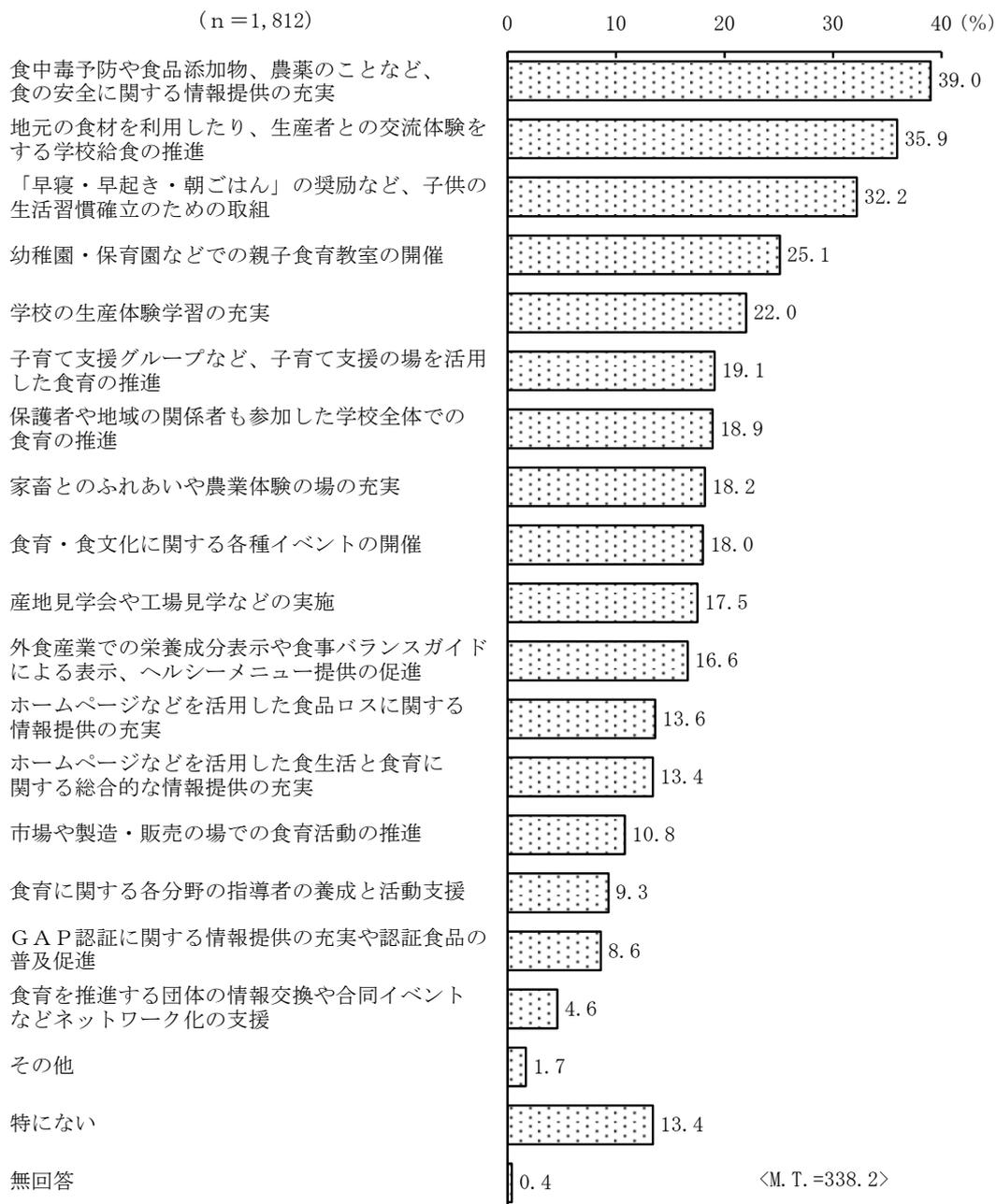
### 3 行政への要望

#### ※3-1 都や区市町村が重点的に推進すべき取組

図3-1-1

(全員に)

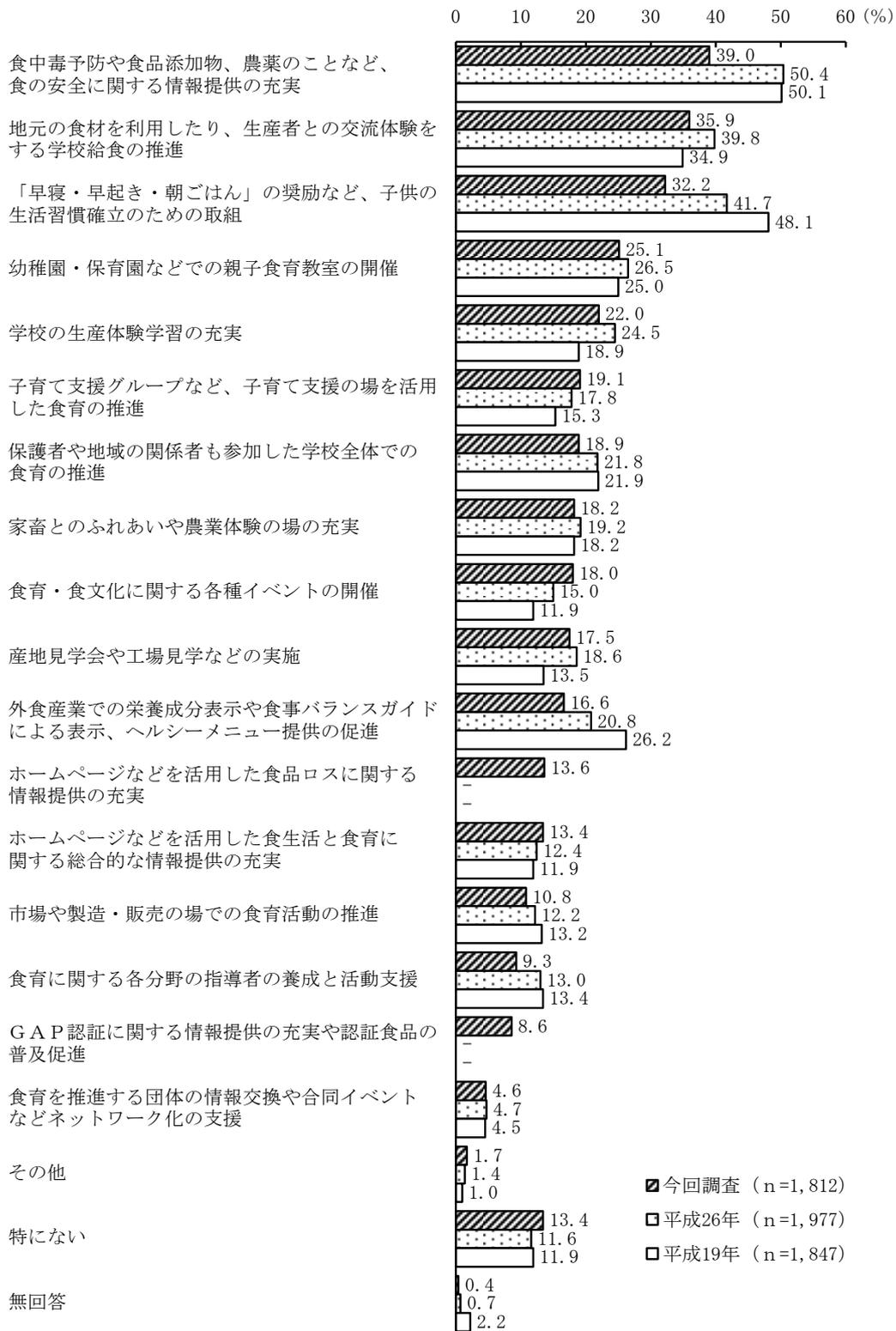
Q24 あなたは、健全で豊かな食生活の実現に向けて、食育を推進するために、都や区市町村にどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか。次の中から5つまでお選びください。(5M. A.)



食育を推進するために、都や区市町村にどのようなことに重点的に取り組んでほしいか聞いたところ、「食中毒予防や食品添加物、農薬のことなど、食の安全に関する情報提供の充実」が39%で最も多く、次いで「地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」36%、「『早寝・早起き・朝ごはん』の奨励など、子供の生活習慣確立のための取組」32%、「幼稚園・保育園などでの親子食育教室の開催」25%などの順となっている。(図3-1-1)

都や区市町村が重点的に推進すべき取組を過去との比較でみると、選択肢を追加しているため、単純に比較はできないが、「食育・食文化に関する各種イベントの開催」などは平成26年より増加し、「食中毒予防や食品添加物、農薬のことなど、食の安全に関する情報提供の充実」などは平成26年より減少している。(図3-1-2)

図3-1-2 都や区市町村が重点的に推進すべき取組—過去との比較



(注)「ホームページなどを活用した食品ロスに関する情報提供の充実」と「GAP認証に関する情報提供の充実や認証食品の普及促進」は今回調査で追加した。

性・年齢別にみると、「食中毒予防や食品添加物、農薬のことなど、食の安全に関する情報提供の充実」は女性が男性より7ポイント高くなっており、女性の30代と60代で5割近くと多くなっている。「地域の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」は女性が男性より11ポイント高くなっており、女性40代で5割近くと多くなっている。

職業別にみると、「食中毒予防や食品添加物、農薬のことなど、食の安全に関する情報提供の充実」は無職の主婦・主夫で5割近くと多くなっている。「学校の生産体験学習の充実」は事務職と学生で3割前後となっている。(表3-1-1)

表3-1-1 都や区市町村が重点的に推進すべき取組－性・年齢別、職業別

	n	食中毒予防や食品添加物、農薬のことなど、食の安全に関する情報提供の充実	地域の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進	「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励など、子供の生活習慣確立のための取組	幼稚園・保育園などでの親子食育教室の開催	学校の生産体験学習の充実	子育て支援グループなど、子育て支援の場を活用した食育の推進	保護者や地域の関係者も参加した学校全体での食育の推進	家畜とのふれあいや農業体験の場の充実	食育・食文化に関する各種イベントの開催	産地見学会や工場見学などの実施	外食産業での栄養成分表示や食事バランスガイドによる表示、ヘルシーメニュー提供の促進	ホームページなどを活用した食品ロスに関する情報提供の充実	ホームページなどを活用した食生活と食育に関する総合的な情報提供の充実	市場や製造・販売の場での食育活動の推進	食育に関する各分野の指導者の養成と活動支援	GAP認証に関する情報提供の充実や認証食品の普及促進	食育を推進する団体の情報交換や合同イベントなどネットワーク化の支援	その他	特になし	無回答
全体	1,812	39.0	35.9	32.2	25.1	22.0	19.1	18.9	18.2	18.0	17.5	16.6	13.6	13.4	10.8	9.3	8.6	4.6	1.7	13.4	0.4
<性・年齢別>																					
男性(計)	863	35.3	30.4	31.3	23.4	20.0	18.1	19.0	17.4	17.0	17.6	15.1	13.9	14.9	12.1	8.0	7.5	4.6	1.5	16.7	0.2
18・19歳	11	9.1	9.1	27.3	27.3	18.2	27.3	18.2	18.2	9.1	9.1	-	27.3	18.2	27.3	-	9.1	9.1	9.1	27.3	-
20代	72	26.4	29.2	27.8	22.2	22.2	22.2	16.7	23.6	20.8	11.1	13.9	16.7	20.8	9.7	8.3	6.9	9.7	1.4	22.2	-
30代	135	26.7	25.2	29.6	34.1	23.7	17.8	17.0	27.4	17.8	23.7	12.6	14.8	19.3	14.8	7.4	8.1	5.9	1.5	12.6	0.7
40代	172	36.0	36.6	22.7	20.9	32.0	12.8	17.4	21.5	19.2	23.3	18.6	14.0	9.3	14.0	7.6	8.1	2.9	1.7	10.5	-
50代	150	34.0	30.7	32.0	23.3	16.7	18.0	24.0	13.3	22.7	16.0	16.0	20.0	20.7	10.7	7.3	9.3	7.3	-	13.3	-
60代	159	43.4	32.7	36.5	20.8	13.2	20.1	20.1	12.6	13.2	18.2	13.8	11.9	15.7	12.6	10.1	6.3	3.8	1.3	17.0	-
70歳以上	164	40.9	27.4	37.8	20.1	13.4	19.5	17.7	10.4	11.6	11.0	15.2	7.3	8.5	8.5	7.9	6.1	1.2	2.4	26.2	0.6
女性(計)	949	42.3	41.0	33.1	26.7	23.8	20.0	18.8	19.0	18.9	17.5	17.9	13.3	12.0	9.6	10.4	9.6	4.6	1.8	10.3	0.5
18・19歳	11	27.3	36.4	18.2	36.4	36.4	18.2	27.3	54.5	9.1	27.3	18.2	9.1	-	9.1	-	-	9.1	-	9.1	-
20代	76	30.3	36.8	23.7	30.3	32.9	22.4	15.8	14.5	13.2	11.8	11.8	18.4	18.4	7.9	9.2	13.2	1.3	1.3	14.5	-
30代	143	47.6	38.5	30.1	36.4	32.9	25.2	16.1	29.4	25.9	22.4	18.9	14.0	13.3	10.5	9.1	9.1	3.5	1.4	7.0	-
40代	209	44.0	48.8	28.2	23.0	30.1	16.7	19.6	27.3	19.1	21.5	25.8	16.3	12.9	13.4	12.0	7.7	4.3	1.9	5.3	0.5
50代	164	40.9	43.3	32.9	26.2	23.2	20.7	22.0	18.3	24.4	20.1	17.1	16.5	12.8	6.7	7.9	12.2	6.7	1.8	6.1	0.6
60代	156	49.4	41.7	38.5	25.0	17.9	24.4	24.4	13.5	17.9	14.7	19.2	9.6	11.5	8.3	14.1	8.3	8.3	2.6	7.7	-
70歳以上	190	37.4	33.7	41.1	23.2	11.1	14.7	13.2	6.8	12.1	11.1	10.5	7.9	7.9	8.9	10.0	10.0	2.1	1.6	22.6	1.6
<職業別>																					
自営・家族従業(計)	222	38.7	31.1	33.3	31.5	22.5	18.5	19.4	18.5	19.4	16.2	16.2	8.6	13.1	8.1	8.6	4.5	4.1	0.5	17.1	-
勤め(計)	974	36.7	36.9	29.7	25.7	24.7	19.2	20.0	20.6	20.2	20.7	18.8	17.0	15.1	13.4	8.8	8.9	4.9	1.4	10.0	0.1
経営・管理職	70	32.9	32.9	22.9	18.6	24.3	22.9	15.7	12.9	17.1	18.6	21.4	25.7	18.6	15.7	8.6	17.1	2.9	2.9	14.3	-
専門・技術職	90	38.9	31.1	34.4	16.7	25.6	18.9	16.7	24.4	20.0	20.0	22.2	14.4	20.0	18.9	15.6	8.9	6.7	2.2	10.0	-
事務職	502	34.5	40.0	31.3	26.9	27.1	18.1	20.7	21.9	21.5	19.1	21.1	17.5	15.1	12.5	8.4	9.6	5.2	1.8	7.6	-
労務・技能職	135	46.7	31.9	28.1	28.1	24.4	14.8	21.5	19.3	17.8	24.4	14.1	14.1	10.4	11.9	8.9	3.7	2.2	-	14.8	-
販売・サービス職	144	36.1	36.1	27.1	29.9	21.5	23.6	21.5	20.8	20.1	24.3	13.9	14.6	15.3	13.2	7.6	9.0	5.6	0.7	7.6	0.7
無職の主婦・主夫	406	46.6	39.7	37.2	22.4	17.0	20.0	17.0	11.8	15.8	13.8	14.0	10.6	11.6	7.6	11.6	10.1	4.7	1.7	14.5	0.2
学生	49	28.6	34.7	26.5	28.6	32.7	18.4	18.4	28.6	8.2	16.3	12.2	16.3	12.2	8.2	6.1	14.3	6.1	4.1	12.2	-
その他の無職	137	37.2	27.7	35.8	19.0	13.9	18.2	17.5	16.8	11.7	10.2	12.4	5.8	8.0	5.8	8.8	5.8	2.9	4.4	27.0	0.7

栄養成分表示の活用別（Q5 P50）にみると、「地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」は栄養成分表示の活用頻度が高くなるほど割合が高く、“よく参考にしている”で4割半ばとなっている。

「食事バランスガイド」をみた経験別（Q10 P78）にみると、「地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」はみたことが“ある”で約4割と多くなっている。

食生活の改善意欲別（Q14 P102）にみると、「地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」は“今よりよくしたい”で4割を超えて多くなっている。

「食育」の認知度別（Q19 P121）にみると、「地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」は「食育」の認知度が高くなるほど割合が高く、“言葉の意味を知っている”で4割を超えている。（表3-1-2）

表3-1-2 都や区市町村が重点的に推進すべき取組－栄養成分表示の活用別、  
「食事バランスガイド」をみた経験別、食生活の改善意欲別、「食育」の認知度別

	n	食中毒予防や食品添加物、農薬のことで、食の安全に関する情報提供の充実	地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進	「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励など、子供の生活習慣確立のための取組	幼稚園・保育園などでの親子食育教室の開催	学校の生産体験学習の充実	子育て支援グループなど、子育て支援の場を活用した食育の推進	保護者や地域の関係者も参加した学校全体での食育の推進	家畜とのふれあいや農業体験の場の充実	食育・食文化に関する各種イベントの開催	産地見学会や工場見学などの実施	外食産業での栄養成分表示や食事バランスガイドによる表示、ヘルシーメニュー提供の促進	ホームページなどを活用した食品ロスに関する情報提供の充実	ホームページなどを活用した食生活と食育に関する総合的な情報提供の充実	市場や製造・販売の場での食育活動の推進	食育に関する各分野の指導者の養成と活動支援	食食品の普及促進	GAP認証に関する情報提供の充実や認証食品の普及促進	食育を推進する団体の情報交換や合同イベントなどネットワーク化の支援	その他	特になし	無回答
全 体	1,812	39.0	35.9	32.2	25.1	22.0	19.1	18.9	18.2	18.0	17.5	16.6	13.6	13.4	10.8	9.3	8.6	4.6	1.7	13.4	0.4	
＜栄養成分表示の活用別＞																						
よく参考にしている	294	45.6	44.9	36.4	26.9	19.7	18.0	21.8	16.3	22.1	12.9	26.9	12.9	11.9	11.6	13.3	14.6	5.4	2.4	8.2	0.3	
ときどき参考にしている	529	44.2	40.5	31.2	26.3	25.5	22.7	22.5	20.2	18.1	18.3	17.0	15.3	17.0	11.7	9.6	9.1	5.9	1.5	7.6	0.6	
あまり参考にしていない	505	39.6	34.9	33.7	25.9	23.4	19.2	19.2	19.4	20.2	18.6	17.2	13.7	11.7	11.7	7.9	7.3	4.6	1.4	11.7	0.4	
まったく参考にしていない	445	28.3	27.0	29.9	21.6	18.2	15.3	12.6	15.7	13.5	18.9	9.4	12.4	12.4	8.3	8.1	6.1	3.1	1.8	24.0	0.2	
表示があることを知らなかった	30	26.7	20.0	20.0	23.3	13.3	20.0	13.3	16.7	6.7	10.0	6.7	6.7	10.0	6.7	3.3	3.3	-	-	36.7	-	
＜「食事バランスガイド」をみた経験別＞																						
あ る	944	40.6	40.0	34.3	29.0	26.4	22.1	21.1	21.9	19.6	19.3	17.7	13.5	12.8	11.0	10.0	9.3	4.3	2.1	8.6	0.3	
な い	863	37.1	31.6	30.1	21.0	17.4	15.8	16.6	14.1	16.3	15.8	15.4	13.8	14.0	10.5	8.6	7.8	5.0	1.2	18.5	0.5	
＜食生活の改善意欲別＞																						
今よりよくしたい	658	42.6	41.9	35.1	29.5	26.3	21.3	19.9	21.9	22.5	17.3	20.7	16.1	15.5	13.2	11.4	9.4	4.9	1.7	5.8	0.6	
今のままでよい	859	37.0	34.9	31.9	24.1	19.9	20.1	20.5	17.1	16.9	17.8	14.7	12.0	12.8	10.2	9.4	8.6	4.8	1.9	15.3	0.2	
特に考えていない	291	36.4	25.4	26.8	18.2	18.9	11.0	11.7	13.4	11.3	17.5	12.7	12.4	10.7	6.9	4.1	6.5	3.8	1.0	25.1	0.3	
＜「食育」の認知度別＞																						
言葉の意味を知っている	1,070	41.2	42.9	35.3	29.3	26.7	20.7	20.6	20.9	21.5	20.0	18.2	13.9	13.7	11.4	11.0	10.2	4.6	1.9	6.7	0.3	
聞いたことはある	529	35.5	28.7	28.0	19.8	17.8	18.7	17.8	16.3	14.4	16.4	14.9	12.9	13.0	10.0	7.2	6.2	6.0	1.7	19.7	0.8	
知らない	211	36.0	18.5	27.5	17.5	9.0	11.8	13.3	9.5	9.5	8.1	12.3	13.7	12.3	9.5	5.7	6.6	1.4	0.5	30.8	-	

集 計 表  
(調査結果の一覧表)



Q20 あなたは、次のような食育活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。(M.A.)

	n	調理実習	講演会	農作業等の生産体験	生産者との交流	給食等への地元食材の利用	催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる	その他の活動	い食育活動に参加したことはない	無回答
全 体	1,812	14.1	6.9	7.3	6.1	7.8	9.7	1.5	70.9	0.8
<「GAP」の認知度別>										
知っていた	142	23.9	16.9	16.2	18.3	13.4	11.3	2.1	54.2	0.7
知らなかった	1,665	13.2	6.0	6.6	5.0	7.3	9.5	1.4	72.6	0.7
<「食育」の認知度別>										
言葉の意味を知っている	1,070	18.8	10.9	10.5	8.8	11.9	13.9	2.4	60.3	0.6
内容は知らないが聞いたことはある	529	8.3	1.1	3.4	2.6	2.5	4.7	0.4	83.7	0.8
知らない	211	5.2	0.9	1.4	0.9	0.5	0.9	-	92.9	1.4
<食に関する取組別>										
(ア) 学校や保育園などでの食育活動										
大いに進めたほうがよい	888	17.2	10.4	9.9	7.8	10.9	13.2	2.4	63.2	0.6
ある程度進めたほうがよい	676	12.6	4.0	5.6	5.0	5.3	7.1	1.0	75.7	0.3
あまり進めなくてよい	38	18.4	10.5	10.5	7.9	13.2	13.2	-	63.2	-
まったく進めなくてよい	5	-	-	-	-	-	20.0	-	80.0	-
わからない	205	5.4	1.0	1.5	2.0	1.5	2.4	-	89.8	3.4
<食に関する取組別>										
(イ) 学校や地域の飲食店での地元の食材を利用した地産地消の推進										
大いに進めたほうがよい	833	16.4	9.7	9.2	8.0	11.0	13.2	2.3	63.3	0.8
ある程度進めたほうがよい	701	13.3	5.6	6.0	4.6	5.6	8.0	0.9	75.0	0.3
あまり進めなくてよい	75	14.7	2.7	13.3	10.7	5.3	9.3	4.0	73.3	-
まったく進めなくてよい	4	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	75.0	-
わからない	199	7.0	1.0	1.5	1.0	3.0	1.5	-	87.4	2.5

## 調査票及び単純集計結果



# 食生活と食育に関する世論調査

(回答の数字は%)

(※は過去の調査結果との比較のある質問事項)

(選択肢に1、2…等の番号がないものは、回答者に当初は示さなかった選択肢であるが、回答者が実際に回答した項目である)

## 1 食生活と食育（家庭を中心に）

(全員に)

※Q1〔回答票1〕あなたはふだん朝食を食べていますか。次の中から1つだけお選びください。

<n=1,812>

- |      |    |             |   |          |
|------|----|-------------|---|----------|
| 76.2 | 1. | ほとんど毎日食べる   | → | SQ1へ     |
| 5.6  | 2. | 週に4～5日程度食べる | → | SQ1、SQ2へ |
| 5.1  | 3. | 週に2～3日程度食べる | → | SQ1、SQ2へ |
| 12.2 | 4. | ほとんど食べない    | → | SQ2へ     |
| 0.8  |    | 無回答         |   |          |

(Q1で「1」～「3」と答えた方に)

※SQ1〔回答票1-1〕ふだん朝食で何を食えることが多いですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。<n=1,576>

- |      |    |                 |      |     |              |
|------|----|-----------------|------|-----|--------------|
| 53.5 | 1. | ごはん             | 28.2 | 10. | 牛乳           |
| 67.1 | 2. | パン              | 40.0 | 11. | ヨーグルトなど乳製品   |
| 8.5  | 3. | シリアル（コーンフレークなど） | 27.6 | 12. | 果物           |
| 5.2  | 4. | 麺類              | 28.9 | 13. | みそ汁          |
| 11.9 | 5. | 肉料理             | 7.7  | 14. | ジュース         |
| 12.0 | 6. | 魚料理             | 56.2 | 15. | コーヒー、紅茶、緑茶   |
| 37.2 | 7. | 卵料理             | 1.7  | 16. | 携帯型バランス栄養食品  |
| 28.4 | 8. | 納豆、豆腐料理         | 6.3  |     | その他（具体的に）    |
| 33.5 | 9. | 野菜料理（サラダ、煮物など）  | 0.1  |     | 無回答          |
|      |    |                 |      |     | M. T. =453.9 |

(Q1で「2」～「4」と答えた方に)

※SQ2〔回答票1-2〕朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。次の中から1つだけお選びください。<n=416>

- |      |    |                |      |    |                |
|------|----|----------------|------|----|----------------|
| 35.1 | 1. | 時間がないから        | 4.1  | 5. | 準備するのが面倒だから    |
| 21.9 | 2. | 食欲がわかないから      | 17.8 | 6. | 以前から食べる習慣がないから |
| 1.2  | 3. | 減量（ダイエット）したいから | 6.7  |    | その他（具体的に）      |
| 0.7  | 4. | 朝食が用意されていないから  | 12.5 |    | 無回答            |

(全員に)

※Q2〔回答票2〕ところで、今一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。〈n=1,812〉

14.3	1. 1人	32.2	2. 2人	19.3	4. 4人	2.2	6. 6人	→ SQ1 ~SQ5へ
	↳ Q3へ	25.2	3. 3人	5.4	5. 5人	0.8	7. 7人以上	
						0.7	無回答	

(Q2で「2. 2人」～「7. 7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

※SQ1〔回答票2-1〕あなたは、1週間のうち、どのくらい家族と一緒に食事をしていますか。  
次の中からそれぞれ1つだけお選びください。〈n=1,540〉

(ア) 朝食

47.5	1. ほとんど毎日	12.9	3. 週に2～3日程度
4.7	2. 週に4～5日程度	34.0	4. ほとんどしていない
		1.0	無回答

(イ) 夕食

59.5	1. ほとんど毎日	17.5	3. 週に2～3日程度
12.1	2. 週に4～5日程度	9.7	4. ほとんどしていない
		1.1	無回答

(Q2で「2. 2人」～「7. 7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

※SQ2〔回答票2-2〕あなたは、ふだん夕食などの食事の際に、家族と同じものを食べていますか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,540〉

73.2	1. いつも同じものを食べている
19.7	2. ときどき別のものを食べる時がある
5.6	3. ほとんど一人ひとり違ったものを食べている
1.4	無回答

(Q2で「2. 2人」～「7. 7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

※SQ3〔回答票2-3〕あなたは、ふだん夕食などの食事の際に、家族と会話をしていますか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,540〉

74.3	1. いつも話をしている	6.2	3. ほとんど話をしない
18.4	2. ときどき話をしている	1.2	無回答

(Q2で「2. 2人」～「7. 7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

※SQ4〔回答票2-4〕あなたは、家族と一緒に食事をするのが楽しいですか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,540〉

45.9	1. 非常に楽しい	5.1	3. あまり楽しくない
46.7	2. ある程度楽しい	0.8	4. まったく楽しくない
		1.5	無回答

(Q2で「2. 2人」～「7. 7人以上」と答えた方＝同居家族のある方に)

※SQ5〔回答票2-5〕あなたは、家族と一緒に夕食の際に、どのくらいの頻度でレストランや食堂など外で食事をしていますか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,540〉

0.3	1. ほとんど毎日	7.9	3. 週に2～3日程度	28.5	5. 年に数日
0.4	2. 週に4～5日程度	49.1	4. 月に数日	12.7	6. 利用しない
				1.1	無回答

(全員に)

※Q3〔回答票3〕あなたは、ふだん、どのくらい自分で料理をつくりですか。目玉焼きなどの簡単な料理を含めて、次の中から1つだけお答えください。〈n=1,812〉

42.4	1. ほとんど毎日	10.6	3. 週に2～3日程度	27.2	5. ほとんどつからない
8.6	2. 週に4～5日程度	11.0	4. 月に数日(休日など)	0.2	無回答

(全員に)

※Q4〔回答票4〕あなたは、夕食で調理済み(できあい)の惣菜や弁当をどのくらいの頻度で利用していますか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,812〉

4.7	1. ほとんど毎日	24.2	3. 週に2～3日程度	28.0	5. ほとんど利用しない
5.6	2. 週に4～5日程度	35.3	4. 月に数日	2.2	わからない



Q5へ

(Q4で「1」～「4」と答えた方に)

※SQ〔回答票4-1〕あなたが調理済みの食品を利用する理由は何ですか。次の中から2つまでお選びください。〈n=1,265〉

67.6	1. 便利だから	45.8	5. 作る時間がないから
7.1	2. 安くつくから	4.3	6. 有名店・プロの味が楽しめるから
14.5	3. 無駄がないから	6.6	その他(具体的に)
10.6	4. おいしいから	0.6	無回答
			M. T. =157.1

(全員に)

※Q5〔回答票5〕あなたは外食したり、食品を購入するときに、栄養成分表示を参考にしていますか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,812〉

栄養成分表示(例)

<食品の場合> △△当たり エネルギー ○○kcal たんぱく質 ○○g 脂質 ○○g 炭水化物 ○○g ナトリウム ○○mg など	<外食時のメニューの場合> △△定食 ○○kcal
--	------------------------------

16.2	1. よく参考にしている	24.6	4. まったく参考にしていない
29.2	2. ときどき参考にしている	1.7	5. 表示があることを知らなかった
27.9	3. あまり参考にしていない	0.5	無回答

(全員に)

※Q6〔回答票6〕あなたは、食品を選ぶとき、何を重視しますか。次の中から5つまでお選びください。<n=1,812>

72.8	1. 価格	12.3	8. 農薬の使用が少ないこと
41.0	2. 栄養	23.6	9. 信用できるメーカー・銘柄
24.3	3. 見た目	4.4	10. アレルギー物質の有無
36.7	4. 量や大きさ	31.3	11. 産地
51.2	5. 味	2.5	12. 生産・流通の履歴情報 (トレーサビリティ)
65.7	6. 鮮度や賞味期限	2.1	その他 (具体的に )
26.6	7. 食品添加物が少ないこと	3.5	何も気にしない
		0.2	無回答

M. T. =398.1

(全員に)

※Q7〔回答票7〕あなたは、地元や東京の産物とわかる食材であれば、購入したいと思いますか。次の中から1つだけお選びください。<n=1,812>

15.1	1. 多少割高でも購入したい	32.1	3. 産地のことは気にしない
44.0	2. 同じくらいの価格であれば購入したい	8.8	わからない



Q8へ

(Q7で「1」～「2」と答えた方に)

SQ1〔回答票7-1〕あなたは、実際に東京産の食材を優先的に購入していますか。次の中から1つだけお選びください。<n=1,071>

30.0	1. 購入している	→ Q8へ	69.4	2. 購入していない	0.7	無回答
------	-----------	-------	------	------------	-----	-----



(Q7 SQ1で「2. 購入していない」と答えた方に)

SQ2〔回答票7-2〕あなたが東京産の食材を購入していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。<n=743>

42.7	1. 東京産の食材が見当たらないため
49.8	2. 店頭で並ぶ東京産の食材が少ないため
7.4	3. 東京産の食材が東京産以外の食材と比べてかなり高かったため
29.3	4. 正式な表示がなく、東京産の食材かどうか分からないため
7.9	その他 (具体的に )
0.9	無回答

M. T. =138.1

(全員に)

※Q8〔回答票8〕あなたは、日常の食事とは別に、栄養を補うため、ビタミンやカルシウムなどの錠剤やカプセル、栄養ドリンクなどを利用していますか。次の中から1つだけお選びください。

<n=1,812>

19.8	1. よく利用している	17.7	3. あまり利用していない
21.2	2. ときどき利用している	41.0	4. まったく利用していない
		0.3	無回答

(全員に)

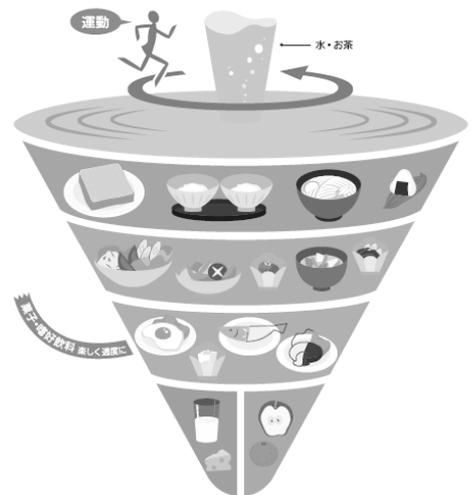
※Q9〔回答票9〕あなたは、食事のとり方でどのようなことに気をつけていますか。あてはまるものすべてお選びください。<n=1,812>

47.4	1. 1日3回、規則正しく食べる	
49.1	2. 食べ過ぎない(カロリーのとり過ぎに気をつける)	
47.6	3. 栄養のバランスを考えて、いろいろな食品をとる	
12.7	4. ごはんなどの穀類を意識して食べる	
33.7	5. 間食や夜食をひかえる	
10.5	6. カルシウムを多く含む食品を食べる	
22.8	7. 脂肪をひかえめにする	
37.5	8. 塩分をひかえめにする	
60.8	9. 野菜をしっかり食べる	
3.0	その他(具体的に )	
8.2	特になし	
0.1	無回答	M. T. = 333.6

(全員に)

※Q10〔回答票10〕「食事バランスガイド」をみたことがありますか。次の中から1つだけお選びください。<n=1,812>

※「食事バランスガイド」とは、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかなど、「食事の基本」を身に付けるために望ましい食事のとり方(主食、主菜、副菜をバランス良く食べる)や、おおよその量をわかりやすくコマ型のイラストで示したものです。



〈食事バランスガイド〉

52.1	1. ある	47.6	2. ない → Q11へ
		0.3	無回答

(Q10で「1. ある」と答えた方に)

※SQ〔回答票10-1〕食事のメニューを考えたり、選んだりするとき、食事バランスガイドを参考にしていますか。次の中から1つだけお選びください。<n=944>

26.9	1. 参考にしている	73.0	2. 参考にしていない	0.1	無回答
------	------------	------	-------------	-----	-----

(全員に)

※Q11〔回答票11〕あなたは、食事の際に、守るように気をつけているマナーがありますか。あてはまるものすべてお選びください。〈n=1,812〉

65.0	1.	「いただきます」「ごちそうさま」と言う	10.4	7.	食事中にテレビをつけない
65.0	2.	食べ残さない	32.1	8.	新聞、雑誌などをみない
65.0	3.	茶わんやおわんを持って食べる	39.1	9.	携帯電話やスマートフォンを使わない
48.3	4.	箸の持ち方に気をつける	57.4	10.	配膳や後片付けをする
60.0	5.	ひじをつかない	2.2		その他（具体的に）
52.2	6.	音をたてないように食べる	0.9		無回答
M. T. =497.6					

(全員に)

※Q12〔回答票12〕あなたは、季節ごとに、次のような行事食を食べる習慣がありますか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。〈n=1,812〉

83.9	1.	雑煮やおせち料理など正月料理	28.3	8.	秋のお彼岸のおはぎ
33.2	2.	七草がゆ	11.0	9.	十五夜の月見団子
45.8	3.	節分のいり豆や恵方巻	32.7	10.	冬至のかぼちゃ
34.3	4.	ひな祭りのあられや桜もち	64.6	11.	クリスマスケーキ
31.1	5.	春のお彼岸のぼたもち（おはぎ）	83.8	12.	年越しそば
35.8	6.	端午の節句のかしわもち	1.6		その他（具体的に）
42.6	7.	土用の丑の日のうなぎ	6.0		ほとんどない
0.1 無回答 M. T. =534.8					

(全員に)

※Q13〔回答票13〕あなたは、日頃の食生活に満足していますか。次の中から1つだけお選びください。〈n=1,812〉

24.0	1.	大変満足	10.6	3.	やや不満	0.4	無回答
63.9	2.	ある程度満足	1.2	4.	大変不満		

↓  
Q14へ

↓

(Q13で「3. やや不満」「4. 大変不満」と答えた方に)

※SQ〔回答票13-1〕不満な理由は何ですか。次の中から3つまでお選びください。〈n=214〉

6.5	1.	食事がおいしくないから	21.5	8.	時間をかけて食事できないから
50.0	2.	似たような料理が多いから	10.7	9.	外食が多くなるから
11.7	3.	自分好みの献立ではないから	21.5	10.	食費がかかりすぎるから
18.7	4.	手作りの料理が少ないから	10.7	11.	家族と一緒に食事をとることが少ないから
34.6	5.	栄養のバランスのよい食事がとれないから	2.8	12.	食事のとき家族との会話が少ないから
5.1	6.	食べ物の安全性が気になるから	7.0		その他（具体的に）
20.6	7.	食事が不規則だから	1.9		無回答
M. T. =223.4					

(全員に)

※Q14 [回答票14] あなたは、自分の食生活を、今後どのようにしたいと思っていますか。次の中から1つだけお選びください。<n=1,812>

36.3	1. 今よりよくしたい	47.4	2. 今のままでよい	16.1	3. 特に考えていない
				0.2	無回答

(全員に)

※Q15 [回答票15] あなたは、食生活を健全で豊かなものにするために、今後どのようなことをしていきたいですか。次の中からあてはまるもの3つまでお選びください。<n=1,812>

43.8	1. 栄養に関する知識を増やす	
43.5	2. 安全な食べ物に関する知識を増やす	
25.5	3. 食品の表示をよく確認して購入する	
21.5	4. テレビや雑誌・本を見て料理を覚える	
2.8	5. 料理教室へ参加する	
9.9	6. 食事を通じたコミュニケーションを確保する	
2.9	7. 農作業など生産活動へ参加する	
2.3	8. 産地見学会、工場見学などへ参加する	
20.7	9. 季節ごとの行事食や郷土料理を大切にする	
1.2	10. 料理教室の講師や手伝いなど食に関するボランティア活動へ参加する	
19.7	11. インターネットで情報を収集する	
2.2	その他 (具体的に )	
18.7	特にない	
0.4	無回答	M. T. =215.0

(全員に)

Q16 [回答票16] 家庭やお店でまだ食べられるのに残った食べ物が大量に廃棄されることが「食品ロス」として先ごろ問題になっています。

あなたは、以下のような食品ロス削減につながる行動をしていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。<n=1,812>

58.8	1. 買物をする前に冷蔵庫の中などにある食品を確認し、必要な量だけ購入する	
62.9	2. 賞味期限を正しく理解し、期限が過ぎてもすぐに捨てずに食べられるかどうかの判断をしている	
57.5	3. 無駄なく使い切るよう工夫して調理している	
26.4	4. 宴会場等では、できるだけ料理を食べきるようにしている	
11.0	5. 外食で食べきれなかった食品はできるだけ持ち帰る	
0.9	6. 家庭で余っている食べ物を持ち寄り、福祉団体や施設等へ寄付する (フードドライブ)	
2.3	その他 (具体的に )	
10.9	特にない	
0.2	無回答	M. T. =231.0

次に、農業生産に関する新しい取組（GAP）について、お聞きします。

<GAPとは>

Good（良い）Agricultural（農業の）Practice（実践）の略

農業における食品安全、環境保全、労働安全、農場経営管理等に関する取組のことで、持続可能な農業生産につながります。

※GAPの取組（認証）のメリット

- |             |                         |
|-------------|-------------------------|
| ・食品の安全や品質向上 | ○消費者の安心や販売先の信頼性向上       |
| ・経営の改善      | ○東京2020オリンピック・パラリンピック競技 |
| ・環境保全       | 大会の食材供給要件（調達基準）をクリア     |
| ・農作業事故を低減   |                         |

（全員に）

Q17〔回答票17〕あなたは、「GAP」を知っていましたか。次の中から1つだけお選びください。

<n=1,812>

7.8	1. 知っていた	91.9	2. 知らなかった	0.3	無回答
-----	----------	------	-----------	-----	-----

（全員に）

Q18〔回答票18〕今後、GAPを普及していくためにはどうすればよいと思いますか。次の中から特に重要であると思うものを2つまでお選びください。<n=1,812>

- |      |  |              |
|------|--|--------------|
| 17.8 | 1. GAPに取り組む農家への支援を行う（研修会の開催等）                    |              |
| 38.4 | 2. スーパーなどの流通事業者がGAP農産物を取り扱う環境を整備する（生産者の紹介等）      |              |
| 20.6 | 3. イベントや学校給食、社員食堂、レストランで認証食品を使ったメニューを提供するよう働きかける |              |
| 30.3 | 4. GAPの意義を伝える消費者向けのPRを行う（イベント等）                  |              |
| 8.3  | 5. GAPの普及に向けて区市町村等関係機関との連携を緊密にする                 |              |
| 1.9  | 6. その他（具体的に                                      | ）            |
| 31.2 | 7. わからない   | M. T. =148.5 |

次に「食育」について、お聞きします。

「食育」とは、心身の健康の基本となる、食生活に関するさまざまな教育を行うことです。

栄養のバランス、調理法、食べ物の安全性に関する知識などを身に付けることや、豊かな食生活を楽しむ力を育むことなどを目指します。

（全員に）

※Q19〔回答票19〕あなたは「食育」という言葉を知っていますか。次の中から1つだけお選びください。

<n=1,812>

59.1	1. 言葉の意味を知っている	11.6	3. 知らない
29.2	2. 内容は知らないが聞いたことはある	0.1	無回答

(全員に)

※Q20〔回答票20〕あなたは、次のような食育活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものすべてお選びください。〈n=1,812〉

14.1	1. 調理実習	7.8	5. 給食等への地元食材の利用
6.9	2. 講演会	9.7	6. 催事等で季節ごとの行事食を作る・食べる
7.3	3. 農作業等の生産体験	1.5	7. その他の活動(具体的に )
6.1	4. 生産者との交流	70.9	8. 食育活動に参加したことはない
		0.8	無回答
M. T. =125.2			

## 2 学校、地域での食育

(全員に)

※Q21〔回答票21〕家庭での食育を支えるためには、保育園、幼稚園、小学校の給食や地域で行う食育において、あなたが力を入れてほしいと思うことはなんですか。次の中から3つまでお選びください。〈n=1,812〉

52.8	1. バランスの良い食事のとり方	26.9	8. 食べ残さないこと
24.3	2. 規則正しい食事をする	14.1	9. よくかんで食べる
29.1	3. 好き嫌いをしない	9.7	10. 食事を食べるときの正しい姿勢
31.5	4. 「いただきます」「ごちそうさま」と言う	12.0	11. 箸やスプーンの正しい使い方
15.3	5. 朝食の大切さ	7.2	12. 食事前の手洗い
31.5	6. みんなで楽しく食べる	2.3	その他(具体的に )
15.1	7. 食事の準備や後片付けへの参加	1.9	無回答
M. T. =273.9			

(全員に)

Q22〔回答票22〕あなたは、次のような食に関する取組について、どう思いますか。(ア)～(イ)について、それぞれ1つだけお選びください。〈n=1,812〉

(ア) 学校や保育園などで、ごはん食を中心とした給食の提供、調理実習、農作業体験、食育ボランティアとの交流等の食育活動に積極的に取り組むことについて

49.0	1. 大いに進めたほうがよい	0.3	4. まったく進めなくてよい
37.3	2. ある程度進めたほうがよい	11.3	わからない
2.1	3. あまり進めなくてよい		

(イ) 学校や地域の飲食店で地元の食材を利用した地産地消を進めることについて

46.0	1. 大いに進めたほうがよい	0.2	4. まったく進めなくてよい
38.7	2. ある程度進めたほうがよい	11.0	わからない
4.1	3. あまり進めなくてよい		

(全員に)

※Q23〔回答票23〕あなたは、飲食店やレストラン、職場の給食施設や食堂などに、食生活の改善や食育推進のため、どのようなことを望みますか。次の中から3つまでお選びください。〈n=1,812〉

29.7	1. カロリーなど栄養成分の表示	5.6	8. 野菜の使用量の表示
14.3	2. 食事バランスガイドによる表示	19.5	9. アレルギー物質の表示
42.5	3. 栄養のバランスのとれたメニュー	7.2	10. 栄養や健康づくりに関する情報の提供
28.8	4. 量や味つけを選べるメニュー	32.7	11. 食品ロス削減のための取組(食べ残しの持ち帰りができるようにするなど)
17.7	5. 使用した食材の産地表示		
36.0	6. 食品添加物の少ない食材の使用	2.5	その他(具体的に )
14.8	7. 有機野菜や無農薬野菜の使用	2.4	無回答
			M. T. =253.9

### 3 行政への要望

(全員に)

※Q24〔回答票24〕あなたは、健全で豊かな食生活の実現に向けて、食育を推進するために、都や区市町村にどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか。次の中から5つまでお選びください。

〈n=1,812〉

25.1	1. 幼稚園・保育園などでの親子食育教室の開催		
19.1	2. 子育て支援グループなど、子育て支援の場を活用した食育の推進		
32.2	3. 「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励など、子供の生活習慣確立のための取組		
18.9	4. 保護者や地域の関係者も参加した学校全体での食育の推進		
35.9	5. 地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進		
13.4	6. ホームページなどを活用した食生活と食育に関する総合的な情報提供の充実		
39.0	7. 食中毒予防や食品添加物、農薬のことなど、食の安全に関する情報提供の充実		
16.6	8. 外食産業での栄養成分表示や食事バランスガイドによる表示、ヘルシーメニュー提供の促進		
17.5	9. 産地見学会や工場見学などの実施		
18.2	10. 家畜とのふれあいや農業体験の場の充実		
22.0	11. 学校の生産体験学習の充実		
10.8	12. 市場や製造・販売の場での食育活動の推進		
18.0	13. 食育・食文化に関する各種イベントの開催		
4.6	14. 食育を推進する団体の情報交換や合同イベントなどネットワーク化の支援		
9.3	15. 食育に関する各分野の指導者の養成と活動支援		
13.6	16. ホームページなどを活用した食品ロスに関する情報提供の充実		
8.6	17. G A P 認証に関する情報提供の充実や認証食品の普及促進		
1.7	その他(具体的に )		
13.4	特になし		
0.4	無回答		M. T. =338.2

## 【フェースシート】

ご意見をお伺いすることは以上で終わりですが、お答えを統計的に分析するために必要なことを、少し伺わせてください。

### F 1 <性別> <n=1,812>

47.6	1. 男性	52.4	2. 女性
------	-------	------	-------

### F 2 <年齢> あなたの年齢はおいくつですか。 <n=1,812>

1.2	1. 18・19歳	9.3	6. 40～44歳	8.9	11. 65～69歳
3.9	2. 20～24歳	11.8	7. 45～49歳	8.6	12. 70～74歳
4.2	3. 25～29歳	8.8	8. 50～54歳	11.0	13. 75歳以上
6.6	4. 30～34歳	8.6	9. 55～59歳		
8.7	5. 35～39歳	8.5	10. 60～64歳		

### F 3 <職業> [回答票 F 3] あなたのお仕事はこの中のどれですか。 <n=1,812>

9.8	1. 自営業主	42.1	3. 勤め（全日）	22.4	5. 無職の主婦・主夫
2.4	2. 家族従業（家業手伝い）	11.6	4. 勤め（短時間）	2.7	6. 学生
				7.6	7. その他の無職
				1.3	無回答

↓

↓ F 4へ

（F 3で「3. 勤め（全日）」又は「4. 勤め（短時間）」と答えた方に）

SQ お勤めの方にお聞きします。あなたの仕事の内容を具体的にお聞かせください。役職などございますか。（経理事務、運転手などのように、している仕事を具体的に記入する。） <n=974>

仕事内容  (業種)	役職名
------------------	-----

[調査員分類記入]

7.2	1. 経営・管理職	51.5	3. 事務職	14.8	5. 販売・サービス職
9.2	2. 専門・技術職	13.9	4. 労務・技能職	3.4	無回答

### F 4 <住居形態> [回答票 F 4] 現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。 <n=1,812>

51.0	1. 一戸建て	49.0	2. 集合住宅	-	その他（具体的に）
------	---------	------	---------	---	-----------

F 5 <未・既婚>〔回答票 F 5〕あなたは、結婚していらっしゃいますか。この中のどれにあたりますか。  
<n=1,812>

21.5	1. 未婚	→ F 6 へ	66.4	2. 既婚 (有配偶)	11.3	3. 既婚 (離・死別)	→ F 6 へ
					0.8	無回答	

(F 5で「2. 既婚 (有配偶)」と答えた方に)

S Q <共働き有無>〔回答票 F 5-1〕ご夫婦とも働いていますか。<n=1,204>

52.9	1. はい	45.9	2. いいえ	1.2	無回答
------	-------	------	--------	-----	-----

F 6 <子供の数>〔回答票 F 6〕お子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。亡くなった方は除いてお答えください。<n=1,812>

32.8	1. いない	18.8	2. 1人	9.9	4. 3人	0.4	6. 5人以上
		34.1	3. 2人	1.4	5. 4人	2.6	無回答

(F 6で「2. 1人」～「6. 5人以上」と答えた方に)

S Q <子供の成長段階>〔回答票 F 6-1〕それぞれどんな段階の方ですか。すべてのお子様についてお答えください。<n=1,171>

2.3	1. 乳児 (0歳)	10.1	7. 大学生・大学院生
9.4	2. 1～3歳	21.2	8. 学校教育終了・未婚・同居
8.1	3. 4歳以上で小学校入学前	13.2	9. 学校教育終了・未婚・別居
17.0	4. 小学生	6.1	10. 学校教育終了・既婚・同居
9.6	5. 中学生	37.2	11. 学校教育終了・既婚・別居
10.2	6. 高校生	0.8	その他 (具体的に )
		1.7	無回答
			M. T. =147.0

F 7 <地域居住年数>〔回答票 F 7〕あなたは、この地域にお住みになってから何年になりますか。  
<n=1,812>

3.4	1. 1年未満	15.0	4. 5～10年未満	14.1	7. 20～30年未満
7.4	2. 1～3年未満	11.9	5. 10～15年未満	32.3	8. 30年以上
6.2	3. 3～5年未満	8.7	6. 15～20年未満	1.2	わからない

ご協力ありがとうございました。

「食生活と食育に関する世論調査」

登録番号(31)63

令和2年1月発行

編集・発行 東京都生活文化局広報広聴部都民の声課  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03(5388)3133

印刷 株式会社 三交社  
東京都新宿区市谷砂土原町三丁目四番  
電話 03(3267)3641



< お 願 い >

この報告書の内容を引用される場合、その旨を下記にご連絡ください。なお、印刷物の場合はその掲載部分の写しをお送りくだされば幸いです。

**東 京 都 生 活 文 化 局**  
**広 報 広 聴 部 都 民 の 声 課 調 査 担 当**

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電 話 03 (5388) 3133

F A X 03 (5388) 1222

E-mail : S0000010@section.metro.tokyo.jp